

# 第6章 遺物

## 第1節 土器

### 1. 縄文土器の分類と時期区分

#### (1) 分類の方針

第1次から第5次調査で出土した土器には、縄文時代草創期・早期・前期・中期・後期・晩期および弥生時代から歴史時代にわたるさまざまな型式が含まれている。居家以岩陰がさまざまな時期に繰り返し利用されてきたことを示すものであり、多時期にわたる複合遺跡であることが出土土器から明らかとなっている。出土土器の型式分類と集計は、遺跡形成の考古代を把握するための基礎的分析となるため、正確な型式同定と出土量の客観的把握を行う必要がある。

第5次調査までに出土した土器の分類・集計では縄文時代早期・前期の土器群の出土量が多く、調査を重ねるにつれて早期の土器群が増えてきている状況である。早期前葉の尖底回転縄文土器・表裏縄文土器、早期中葉の押型文土器・沈線文土器、早期後葉の条痕文土器などの多時期のさまざまな土器群を含むことが明らかとなり、それらの詳細な型式分類・同定が課題となるが、縄文時代早期の遺物包含層は発掘に着手したばかりであり、本格的な発掘調査にはまだ何年もかかる見込みである。その点を考慮し、縄文土器の型式分類、とくに早期の土器群の詳細な型式分類は、遺物包含層の発掘調査が進展し、土器群の全体的様相が把握された段階であらためて行う方針としたい。本報告では大別的な分類に留め、詳細な型式同定は今後の検討課題として保留することとする。

詳細な型式分類を当面保留するもう一つの理由は、土器群の様相に強い地域性が認められ、既存の型式編年では分類・同定できない類を含んでいることである。土器群の全体的傾向として、関東地方南部の平野部に共通する型式は比較的少なく、長野県の佐久・上田・長野盆地に共通する土器群や、上信越山地周辺に分布する地域性の強い土器群が目立っている。前期後半の諸磯式土器や後期前葉の堀之内式土器などは関東地方の平野部に共通するが、早期中葉の樋沢式、細久保式、前期初頭の塚田式、前期中葉の有尾式、中期後半の郷土式、晩期前半の佐野式、晩期後半の氷式などのように、中部高地を中心に分布する土器群が多数を占めている。

早期の土器群にも現時点で型式同定の難しいタイプが多い。早期前葉の編年指標は関東地方では燃糸文系土器であるが、本遺跡では燃糸文系の第Ⅰ様式～第Ⅴ様式の諸型式はこれまでのところ出土しておらず、表裏縄文土器・回転縄文土器・無文土器が該期の主体的土器群となるようである。早期中葉の沈線文土器も出土量が比較的多いが、典型的な三戸式・田戸下層式・田戸上層式は少なく、判ノ木山西式・上林中道南式など中部高地系とされる土器群に類似するものを含む。当面は遺物包含層の分層発掘を進め、共時性をもつ土器群を把握し、層位的関係によって土器群の相対年代を確認する作業を進めることとしたい。

このような土器型式の地域性は、本遺跡に活動痕跡を残した人間集団の地域性や行動領域を考える上で重要な情報となるものである。今後さらに詳しく土器群の型式学的検討と現場での層位的検討を進めるとともに、胎土の特徴による土器群の分類と胎土分析などを通じた産地推定も計画的に行っていききたい。

#### (2) 縄文土器の分類と時期区分

本報告では、出土した縄文土器の分類、および縄文時代の時期区分を第9表のように行った。分類・集計結果を説明する前に、時期区分と分類についての基本的な考えを示しておく。

縄文時代の時期区分は、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期区分を用いる。「草創期」については、時代区分と実年代をめぐる複雑な議論があるが、1960年代以降の土器・石器研究で「草創期」の用語と時期区

第9表 縄文土器の分類と時期区分

時 期	分 類	
草創期	2期	隆起線文
	3期	多縄文
早期	前葉	表裏縄文
	前～中葉	回転縄文 / 撚糸文
	中葉	押型文 (樋沢式, 細久保式) / 沈線文 (三戸式, 田戸下層式, 中部高地系) / 無文
	後葉	条痕文 (子母口式, 野島式, 鶴ガ島台式, 茅山下層式)
	末葉	絡条体圧痕文
早期末～前期初 塚田式, 中道式		
前期	前半	羽状縄文 (花積下層式, 関山式, 黒浜式, 有尾式)
	後半	諸磯式 / 十三菩提式
中期	前半	五領ヶ台式 / 新崎式 / 勝坂式 / 阿玉台式 / 焼町土器
	後半	郷土式 / 加曾利E式
後期	前葉	堀之内式
晩期	前半	佐野式
	後半	浮線網状文 (女鳥羽川式, 氷式) / 千網式 / 大洞A'式

分が広く定着している事情を考慮して、その時期呼称を採用する(谷口・朝倉編 2017 参照)。隆起線文系以前を1期、隆起線文系土器を2期、隆起線文系に後続する土器群を3a期、室谷下層式などの多縄文系土器を3b期とする。なお、2000年代以降、草創期の土器群の年代学的研究が進んだ結果、日本列島における土器の起源が16000年前以前にさかのぼること、「草創期」が実年代で4000年以上の

長さをもち地質年代で更新世終末期に位置づけられる事実が判明した。このような年代的事実を受けて筆者は、旧石器時代と縄文時代との時代区分論および縄文文化起源論の見直しを行い、「草創期」を縄文時代から切り離して「旧石器-縄文移行期」という新たな捉え方を提起した(谷口 2011)。土器出現という一つの画期的事象で前後の時代を区分する従来の考え方に代えて、4000年以上をかけた長い文化変化の過程を考察しようとする立場をとるものである。居家以岩陰遺跡の調査研究もその考え方に基づくものであるが、縄文土器の分類上は「草創期」の語を用いる。

早期は実年代で約4000年間にわたる継続期間をもつため、土器型式編年に基づく時期細別を用いる。本報告書では、撚糸文土器第I様式(井草I式)の成立以降を早期とする時期区分(小林 1967)を採り、早期前葉・中葉・後葉・末葉の4時期細分を用いる。早期前葉は関東地方の撚糸文土器の時期、早期中葉は押型文土器・貝殻沈線文土器の時期、早期後葉は関東地方の条痕文土器(茅山式土器)の時期、早期末葉は上ノ山式・入海式以後の東海系条痕文土器に併行する時期とする。

前期は前半・後半に大きく時期区分し、回転縄文施文の羽状縄文土器(繊維土器)が卓越する時期を前期前半、諸磯式土器の時期を前期後半とする。前期前半では黒浜式・有尾式が比較的多く、関山式も少量出土している。関山式以前の土器群として、長野県北信・東信地域に分布する中道式・塚田式に類似する一群が出土しており、早期末～前期初頭として時期区分した。

中期以降の土器群は多時期の多様な型式が出土しているが、出土量は早期・前期に比べて少ない。中期は五領ヶ台式・勝坂式・阿玉台式に併行する前半と、加曾利E式・曾利式・郷土式を含む後半に時期区分する。中期前半の土器群には五領ヶ台式・新崎式類似・阿玉台式・焼町土器などが出土している。十三菩提式と五領ヶ台式の間に位置づけられる土器群が少量出土しているが、破片による分類が難しいため、便宜的に前期末～中期初頭とする。

後期は前葉・中葉・後葉の3期に時期区分するが、同定できる土器群は今のところ堀之内式並行の前葉のみである。晩期は大洞C2式以前の佐野式などを晩期前半、女鳥羽川式・氷式などの浮線網状文土器を晩期後半に時期区分する。無文または縄文のみの破片で型式同定が困難なものは、便宜的に後期・晩期(後晩期)とする。

### (3) 出土土器群の概況

第1次～第5次調査の出土土器の型式分類と集計結果によると(第37図)、縄文時代では早期・前期の出土

量が多く、本遺跡の利用頻度が高かったことを示している。

早期は遺物包含層の本格的調査をまだ行っていない段階だが、早期前葉の表裏縄文土器・回転縄文土器、早期中葉の押型文土器・沈線文土器、早期後葉の条痕文土器、絡条体圧痕文土器など、すでに多様な型式が出土している。早期中葉の押型文土器、沈線文土器、早期後葉の条痕文土器の出土量が第5次調査時点では最も多い。前期の土器群では、前期初頭の塚田式、前期前半の有尾式・黒浜式を含む羽状縄文系の回転縄文土器、前期後半の諸磯式土器の出土量が多い。

中期以降の土器群は全体的に出土量が少ないが、多時期にわたる多様な型式が含まれている。晩期後半の浮線網状文土器が比較的まとまっている。(谷口)

## 2. 第4次・第5次調査出土土器

### (1) 概要 (第36図)

第4次・第5次調査では3,710点(25,405.3g)の土器が出土した(水洗選別から回収した微細破片も含む)。くわえて、47点(405.2g)を表面採集した。前庭部緩斜面で出土した磁器1点を除き、すべてが縄文土器である。縄文土器の時期別の内訳をみると、早期が61.2%と大半で、前期が3.4%とそれに次ぐ。第1次～第3次調査においては早期・前期の土器の出土量が均衡していたが、早期遺物包含層の本格調査に着手した第4次・第5次調査では早期土器が大きく増加した。これまでの調査では一定数みられた中期～晩期の土器はほとんど出土していない。時期不明とした細片が3割以上を占めるが、それらの多くは早期土器の破片とみられる。

早期土器2,261点の分類別の割合は、第36図中段右に示したグラフのとおりである。押型文土器、沈線文土器がそれぞれ3割以上、条痕文土器が約2割となっている。これまで少なかった押型文土器の出土量が増大している。早期前葉～中葉の回転縄文土器や、早期中葉の無文土器あるいは無文部の破片も一定数出土している。

岩陰部と前庭部緩斜面では時期の異なる遺物包含層を調査しているため、両調査区を分けて出土土器を報告・掲載する。出土土器はPEAKIT画像によって図示する。導入の目的と作図の方法については第3章第3節4項に記した。なお、図示した資料の事実記載は観察表に掲載したため、本文中では全体的な傾向や特記事項などの概略を述べる。土器観察表の作成は吉澤、多賀谷が行い、松本がこれを補佐した。

出土土器については、土器付着炭化物の放射性炭素年代測定と、土器圧痕の種実同定を実施した。その成果報告は第7章に掲載する。

### (2) 岩陰部

#### a) 分類・集計 (第36図、第10表～第13表)

縄文土器926点(6,739.2g)が出土した。早期が510点、前期が116点である。早期のうち、条痕文土器が6割以上と過半数で、沈線文土器が約2割、早期前葉～中葉の回転縄文土器が約1割と続く。前庭部緩斜面で多く出土している押型文土器は、第4次・第5次調査時点では1点も確認していない。前期は、前半期の羽状縄文土器が106点と9割以上で、後半の諸磯式土器・十三菩提式土器はごく少数である。

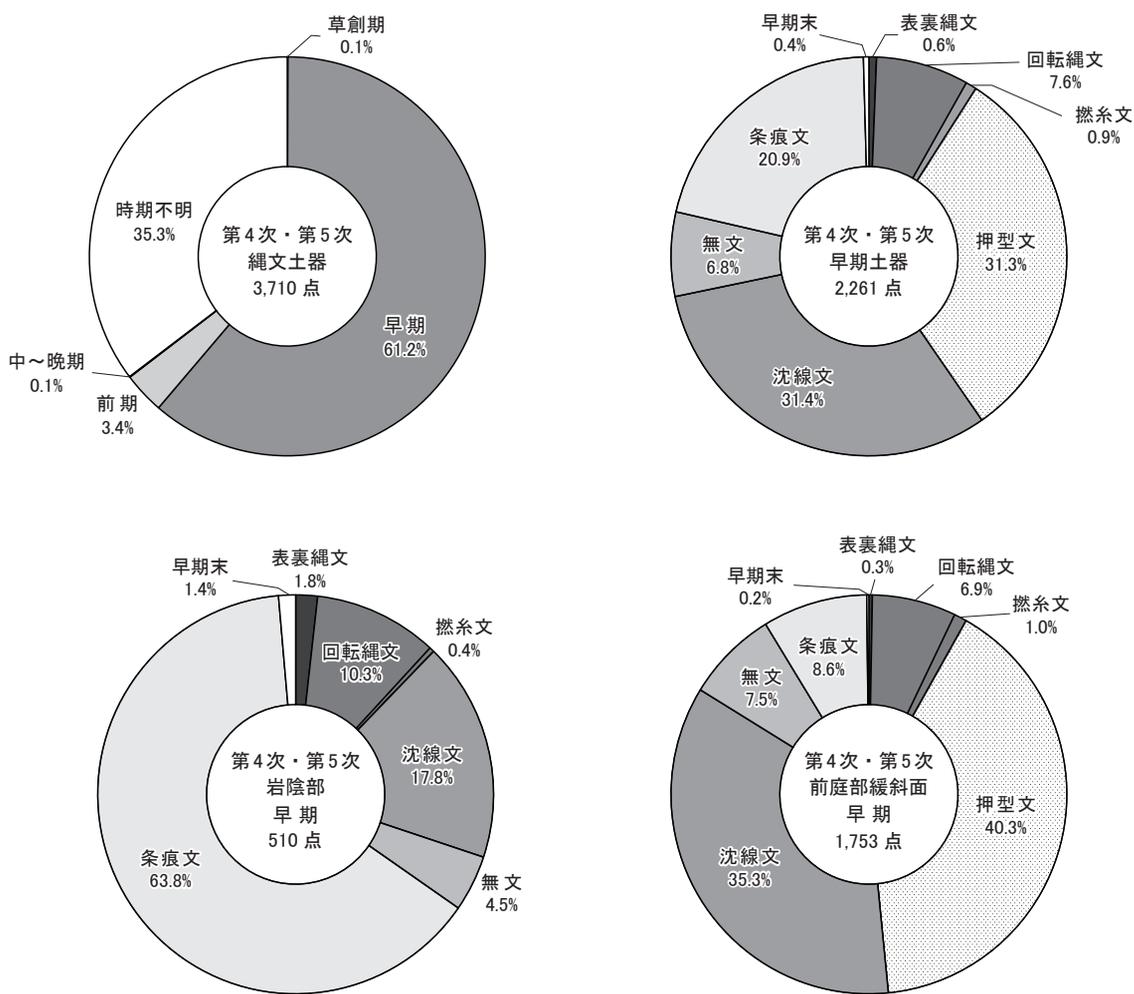
#### b) 出土土器の詳細 (第38図～第45図、第16表～第19表)

草創期の土器は、爪形文土器、多縄文土器が各1点出土している。爪形文土器は微細な破片であるため図示していない。第38図1の多縄文土器も小破片で、早期前葉～中葉期である可能性もあるが、早期の土器と比べ焼成が堅緻で胎土に目立つ鉱物を含まない点から草創期と判断した。

早期前葉の表裏縄文土器は4点を図示した(第38図2・3・5・8)。いずれも小破片で、出土数はまとまっていない。5・8は内面の縄文施文が胴下半、底部付近まで及ぶ。

早期前葉～中葉に位置づけられる回転縄文土器は10点を図示した(第38図4・6・7・9～15)。横位施文による斜縄文が中心で、器面調整は全体に粗い。胎土に黒曜石や黒雲母といった光沢のある鉱物を含むものが目立つ点が押型文土器・沈線文土器の一部と共通する。前期前半の羽状縄文土器との差異は、繊維含有量が少ない、施文方向にまとまりがなく間隔が疎、器壁が薄いとといった点にある。特徴的な事例として、段を有するもの(7)

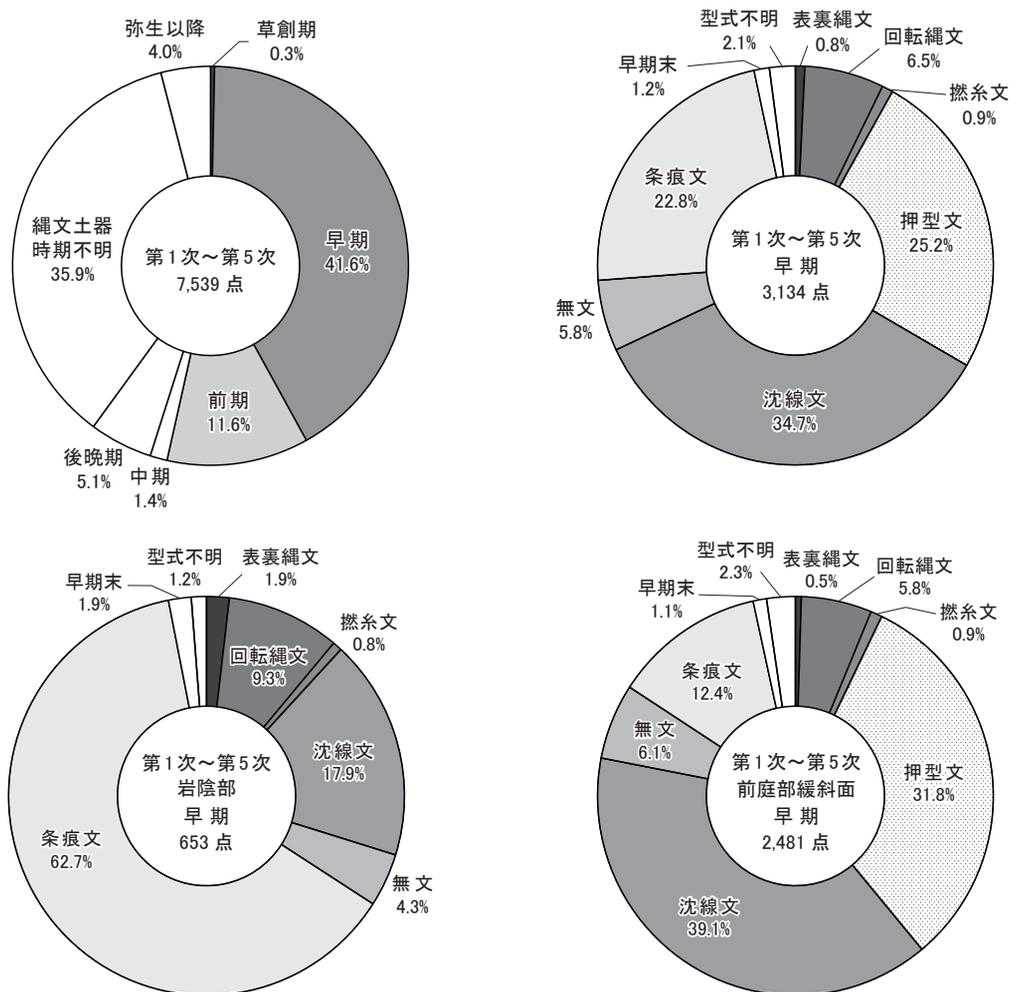
時期 / 分類			岩陰部	前庭部	表採	計	
縄文時代	草創期	3a期	爪形文	1			1
		3b期	多縄文	1			1
	早期	前葉	表裏縄文	9	5		14
			回転縄文	52	120	3	175
		中葉	撚糸文	2	18		20
			押型文		708	3	711
		後葉	沈線文	90	619	3	712
			無文	23	131		154
	後葉	条痕文	327	150	6	483	
	早期末～前期初			7	3		10
	前期	前半	羽状縄文	106	7	1	114
			諸磯式	7	2	2	11
		後半	十三菩提式	3			3
	前期末～中期初					2	2
	中期			1		1	2
	後晚期			1		5	6
	時期不明			296	1,020	21	1,337
	近世以降		磁器			1	1
計			926	2,784	47	3,757	



※ グラフの集計は表面採集の資料を除く。

第36図 第4次・第5次調査出土土器の時期別・分類別集計

時期 / 分類			岩陰部	前庭部	計	
縄文時代	草創期	2期	隆起線文	15	1	16
		3a期	爪形文	1		1
		3b期	多縄文	1	2	3
		型式不明		3	2	5
	早期	前葉	表裏縄文	12	12	24
		前葉 ~ 中葉	回転縄文	61	143	204
			撚糸文	5	23	28
		中葉	押型文	0	791	791
			沈線文	116	969	1,085
			無文	28	152	180
		後葉	条痕文	411	307	718
	型式不明		8	58	66	
	早期末~前期初			12	27	39
	前期	前半	羽状縄文	286	280	566
		後半	諸磯式 / 十三菩提式	116	189	305
	中期			25	80	105
	後晩期			18	369	387
	時期不明			438	2,275	2,713
	弥生時代以降			23	280	303
	計			1,579	5,960	7,539



第37図 第1次~第5次調査出土土器の時期別・分類別集計

や、口唇直下に幅の狭い無文帯を作出するもの(9)、縦位展開の粗い羽状縄文を施すもの(11)がある。

沈線文土器は15点を図示した(第38図・第39図17～31)。17・19は沈線間に貝殻腹縁文を充填するもので、中部の地域型式である貫ノ木式(領塚2005)に類似する。21・23は口唇下、胴部に刺突文列をもち、幅広の施文帯に方向を違えた斜位の沈線を充填する判ノ木山西式(阿部2010)の文様構成である。施文法が多様で、単沈線(24・25)のみでなく、工具の引きずり文(20)、押し引き文(26)、櫛歯状工具によるもの(27)などがみられる。28は付加条の縄文の可能性があり、黒雲母などの鉱物粒を含むものが多く、器面調整は粗い。

子母口式として分類した条痕文系の最古段階の土器群(第40図・第41図)には、微隆起線文を施すもの(33～47)、絡条体圧痕文を施すもの(48～51)、無文のもの(32)がある。39点を確認し、型式分類し得た条痕文土器のなかでは最も多い。全体に薄手で、微隆起線文は細く、条痕文も細密である。繊維の含有量は少なく、鉱物粒の含有も少ない。絡条体圧痕文のタイプはやや厚く、早期末段階の絡条体圧痕文土器との区別が難しい。

次段階の野島式、鶴ガ島台式は、それぞれ4点、7点と出土量は少ない。野島式は3点、鶴ガ島台式は2点を図示した(第41図52～56)。野島式は結晶片岩を顕著に含んでおり、子母口式に比して器壁が厚く隆起線も太い。

大別分類に留めた条痕文土器は22点を図示した(第41図～第43図57～78)。サルボオガイ・ハイガイなど二枚貝の腹縁で施した貝殻条痕(60・62・63など)のみでなく、より細密な条痕(61・73など)や、櫛歯状工具によるとみられる条線(59)がある。器壁は10mm程度の厚いものが多いが、5mm程度と薄手で比較的細密な条痕を施文するものも認められる(58・59・61)。胎土に繊維を多く含み、鉱物はほとんど含有していない。

第43図79・80は早期末の絡条体圧痕文を施した土器である。79は波状口縁で口縁部に段を作出する特徴的な器形をもち、分類に疑問を残す資料である。81は早期末～前期初頭の厚手の土器で、撚糸の側面圧痕を2本1単位で施した土器である。

前期前半の羽状縄文土器とその諸型式は22点を掲載した(第44図・第45図)。確実な型式分類が可能な特徴をもたない回転縄文の土器については大別分類に留めた。撚糸の側面圧痕を蕨手状に施す82と、同一個体破片の83は花積下層式で、上げ底の底部をもつ98や101は関山式に併行するものである。前期中葉の黒浜式(103)と、これに併行する地域型式である有尾式(102)もみられ、各段階の土器群が出土している。

前期後半の土器は、諸磯b式と十三菩提式が出土している(第45図)。図示した3点のうち、諸磯b式土器は低平な浮線文に沿って円形の刺突文列を施すイレギュラーな施文例(104)で、十三菩提式土器は連続爪形文や隆起線上のキザミによって結節浮線文類似の文様を作出するもの(105・106)である。

### (3) 前庭部緩斜面

#### a) 分類・集計(第36図、第14表・第15表)

縄文土器2,783点(18,660.4g)と磁器1点(5.7g)が出土した。早期が1,753点と最多で、それ以外の時期では前期が9点出土しているのみである。第4次調査でA0グリッドの新設により表層から早期遺物包含層までの調査を行ったが、前期以降の土器はほとんど出土しなかった。これは、斜面上方では前期以降の遺物包含層が削平されているため、調査済のA1・A2グリッドでも同様の状況であった。第4次・第5次調査で出土した前期土器および磁器は、表層中ないしはトレンチ壁面の崩落土中に断片的に含まれていたものである。

早期土器の内訳は、押型文土器が約4割と最も多く、沈線文土器が3割半と続く。早期前葉～中葉の回転縄文土器と、早期中葉期の無文土器ないし無文部破片、岩陰部で6割以上を占めた早期後葉の条痕文土器は1割に満たない出土量である。なお、草創期の土器は出土していない。

#### b) 出土土器の詳細(第46図～第72図、第20表～第30表)

第46図107・108は表裏縄文土器である。岩陰部同様に小破片が少量出土するのみである。

早期前葉～中葉の回転縄文土器は27点を図示した(第46図・第47図109～135)。縄文は単節斜縄文が基本で、施文は浅めである。胎土に黒雲母や黒曜石、石英とみられるガラス質の粒子を含むものが多く、押型文土器・沈線文土器の一部に類似する。9層・10層では、灰色～黒色系の色調で繊維を多く含むものが出土している(110・130～132)。これは岩陰部では未確認の土器群で、回転縄文と分類したなかにも複数のタイプがある。口唇部

への施文例(109・113)、縦走縄文となるもの(111)、低い段を有する器形(115・116)もある。

第48図136～140は早期前葉～中葉の燃糸文施文の土器である。少量の出土で、土器群の内容は不明確である。136は斜格子状の構成をとっており、押型文土器に伴出する燃糸文土器である。137は絡条体条痕が施されている土器である。140は厚手で繊維を多く含む。

押型文土器は、129点を図示した(第48図～第59図)。全体の文様構成が不明な小破片が多いため、暫定的に押型文の種別をもとに分類を行った。便宜的な分類ではあるが、文様の種類によっても製作技術や出土傾向の違いが捉えられる。型式に関する所見を簡単に述べれば、帯状施文が指標となる樋沢式、次段階である密接施文の細久保式が出土資料の中心といえる。また、楕円文と平行線文が複合する卯ノ木2式や、型式学的な位置づけが不明確な異方向施文と変形押型文が特徴の塞ノ神式(笹沢・小林1966、中村2001)がある。終末段階にあたる穂谷・相木式、高山寺式の確実な資料は出土していない。

山形文の土器は63点を図示した(第48図～第54図)。帯状施文が中心で(141～156など)、異方向施文するものもある(165・168・170～173)。全体にナデ調整が丁寧で、器面が平滑なものが多い。器壁は5mm前後の薄手のもので中心である。口唇部を一定の形状に成形していて、隅丸の角頭状とするものが多い(141・144～146)。口唇部と口唇直下の調整はとくに入念で、部分的にミガキを施すものもある(141・146・197・199)。142は例外的に粗雑な作りで、口唇部が歪み器面の凹凸が激しく施文も浅い。胎土には黒曜石や角閃石、ガラス質の透明な粒子を含む。繊維を含むものもあるが含有量は少ない。また、器壁が層状に剥落するものが少なくない(156・163・196)。194は外面に層状の亀裂が入り、149・154は剥落した面にナデ調整された器壁が露出している。203は剥落部分に山形文が露出しており、文様施文後に素地を重ねたことがわかる。

楕円文の土器は40点を図示した(第54図～第57図)。帯状施文のものもあるが(204～209)、多くは密接施文の個体である。205・206は帯状の無文部に円形刺突文を列状に施文している。内面の調整は丁寧で、口唇と口唇直下にはミガキを施すものもある(215・217)。口唇部は山形文の土器ほど形状が整えられておらず、内面の器壁と緩やかに連続する円頭状となるもの(210～213)が中心である。帯状施文の204は例外で、隅丸角頭状とした口唇に楕円文を施している。黒曜石や角閃石を含むものも多く、微量の繊維を含む個体が山形文施文の土器と比べて増える。山形文施文の土器にみられた器壁の層状剥落はまったく認められない。220はソロバン状の楕円文と扁平な楕円文の2種が施されており、同じ楕円文でも異なる原体が併用されている事例である。

格子目文土器は6点を図示した(第57図・第58図)。244～246は横位の帯状施文で、244は口唇および口唇直下に施文がみられる。249は胎土に結晶片岩を含んでいる。

250～252はネガティブな楕円文を施文するものである(第58図)。250は内面を丁寧に磨く一方で、施文が粗く施文単位などの詳細観察が困難な状態である。

異種文様を併用するものや変形押型文などの少数例が253～265である(第58図・第59図)。いずれも出土数が少なく破片が小さいため、傾向をとらえるのは難しい。楕円文と平行線文を併用する253・254は、厚手で粗大な作りである。楕円文と粗大な山形文ないしは変形押型文を併用する255～259は、器面の凹凸が目立つ。262は柵状文を帯状に施文する調整が丁寧な土器である。長野県平石遺跡、同山の神遺跡に類例が認められる(望月町教育委員会編1989、長野県埋蔵文化財センター編2003)。264・265も類似する文様をもつ。

押型文土器に伴う縄文施文、無文の土器も少数出土している(第59図)。266・267は縦位帯状に回転縄文を施したもので、樋沢遺跡の事例が代表的である(樋沢遺跡発掘調査団編1987)。268・269は山形文施文の土器に胎土や器面調整が類似する無文土器ないしは無文部の破片である。いずれも縦方向の擦痕が顕著である。

沈線文土器は98点を図示した(第60図～第68図)。型式学的検討は未実施だが、本遺跡出土の沈線文土器群は以下の3つに大別できる。①三戸式・田戸下層式、あるいはそれに類似する一群、②中部高地系(橋本2010)の既知の型式、③類例のみられない独自タイプ。

三戸式は掲載した270・271のみが確実な資料である。施文、器面調整ともに丁寧である。田戸下層式および、これに類似する単沈線による直線的な文様を施文する一群が272～304である。横位の沈線と方向を違えた斜

位の沈線で文様を構成するものが比較的多い(272～286)。田戸下層式に特徴的な太沈線は少なく、貝殻腹縁文の刺突文列はみられない。中部高地系の土器に比べるとナデが丁寧である。胎土に微量の繊維を含む。

305～309は田戸上層式に併行するとみられる貝殻腹縁文を施文するものである。308・309は羽状構成の幅の狭い沈線間に貝殻腹縁文を充填しており、長野県信濃町の鍋久保遺跡を標式遺跡とする鍋久保式(領塚2005)に類似する。305は浅い沈線の間貝殻腹縁文を模したとみられる櫛歯状工具の刺突文を施している。いずれも浅い条痕を地文にしている、胎土に黒曜石や黒雲母を含んでいる。

310～316は半截竹管状工具や多截竹管による平行沈線ないし引きずり沈線を施文するもので、317～330は櫛歯状工具などで集合条線を施文するものである。319～322は、集合条線によって山形、縦位の構成をとっており、田戸下層式の細沈線による文様とも類似する。324～326は、縦位展開の鋸歯状の集合沈線の空白部分に櫛歯状工具の刺突文を施文するもので、長野県山ノ内町の上林中道南遺跡が標式遺跡の上林中道南式(中沢2005)である。326は横方向の擦痕が顕著に残る。胎土に微量の繊維を含むものが多い。

331～336は口唇下、胴部に刺突文列を施し、その間の幅広の施文帯に沈線を充填する判ノ木山西式(阿部2010)の文様構成をもつ。ナデ調整が雑で器面の粗いものや(331・332)、施文のタイミングが早く粘土の捲れが著しいもの(333・334)があり、作りは全体に粗い。繊維の含有量も比較的多い。

337～348は位置づけが明確でない沈線文土器である。337～339は縦位の沈線を軸として単沈線で文様を構成している。340～345は沈線と刺突文を組み合わせるものである。340～343は断面コ字状の沈線を整然と平行施文しており、田戸下層式に含まれる可能性がある。345は口縁部の沈線・刺突による直線・曲線を組み合わせた文様の下に斜縄文を施文する土器である。縄文は太く、原体の繊維痕を明瞭に観察できる。管見の限りでは類例は認められない。口唇部および内面の口唇下は丁寧に整形されていて、胎土に黒曜石が多く含まれる。これ以外にも、本遺跡では沈線文と回転縄文を併用する土器が少数存在する。

沈線文土器に類似する胎土をもつ条痕施文の土器、無文の土器が349～367である(第66図～第68図)。概して黒曜石や黒雲母を顕著に含む。繊維を含有するものの、条痕文土器に比べると含有量は少ない。器面のナデ調整は粗い。条痕は、櫛歯状工具によるもの(349・355)と、一条ごとの幅や深さが不規則で施文原体が判然としないものがある(352・359～363)。内面への条痕施文はほとんど認められない。352は口唇が外反する器形で、縦位に近い条痕を胴部に施文し、口縁部をナデ消して無文にしている。

早期中葉の無文土器は24点を図示した(第68図～第70図368～391)。無文部の可能性のある胴部破片も含む。黒曜石や黒雲母、繊維を含む胎土は、押型文土器、沈線文土器と共通する。横方向の擦痕が顕著に残るものがある(368・379・385など)。内面が摩耗しているものが多い(387・389・390など)。

条痕文系の子母口式と分類した土器は11点を図示した(第70図・第71図)。微隆起線文のタイプ(392～395)、絡条体圧痕文のタイプ(396～402)がある。絡条体圧痕文のタイプは早期末段階のものとの判別が難しいが、比較的繊維の含有量が少なく、器壁が薄いものを子母口式に伴うものとした。

鶺鴒ガ島台式は3点を図示した。403は角閃石、404は黒曜石、405は黒雲母を含む。

大別分類に留めた条痕文土器は12点を示した(第71図・第72図406～417)。繊維を多量に含み、貝殻条痕を施文するものが中心である(409～412など)。結晶片岩を含むものが特徴的である(414～416)。407は内面の条痕が顕著なため条痕文土器に含めたが、外面の調整や器壁が層状に剥がれている点は早期中葉の土器に類似しており、位置づけに疑問を残す。

早期末の絡条体圧痕文土器は1点を図示した(第72図418)。15mmと厚手で、横位に張り付けた隆帯の上下に芋虫状の絡条体圧痕文を施文している。

前期の土器は有尾式(419)と諸磯b式(420)を図示した。いずれも表層出土である。

#### (4) 表面採集

岩陰部および前庭部緩斜面の調査区周辺で、47点の縄文土器を表面採集した。分類・集計結果は第36図上の集計表のとおりである。遺存度の良くない細片ばかりのため、図示していない。(松本)

第10表 岩陰部出土土器 グリッド・層位別分類集計表(1)

出土位置		表層(①層)					第I層群(②~⑤層, ⑬層)					調査区内一括															
		□5	ハ4	ハ6	ニ6	ニ7	ニ9	イ9	□5	□6	ハ5	ハ6	ハ9	イ8	イ9	□5	□6	□7	□8	ハ4	ハ5	ハ6	ハ7	ハ8	ニ6	ニ8	
縄文時代	草創期 3b期	多縄文系											1														
	前葉	表裏縄文																									
		回転縄文																									
	前葉	燃糸文																						1			
	中葉	押型文																									
		沈線文 未細別													1										1	1	
		沈線文 無文部														1			1			1	1			1	
		無文(口縁部)																									
	後葉	無文(胴部)																									
		条痕文	子母口式																								
			野島式																								
			鶴ガ島台式																								
			細別不可																								
	薄手																										
	早期末~前期初頭																										
	前半	羽状縄文	関山II式																								
			有尾式		1																						
		細別不可		1	1																						
		諸磯式	諸磯a式																								
			諸磯b式		1																						
十三菩提式		1																									
前期末~中期初頭																											
中期前半	勝坂式																										
後期																											
晩期後葉	浮線網状文系		1																								
時期不明		2																									

第11表 岩陰部出土土器 グリッド・層位別分類集計表(2)

出土位置		EL-115~120		EL-120~125					EL-125~130					EL-130~135				SB2⑥層					SB1⑥層					
		□5	□6	□5	□6	□7	ハ5	ハ6	ハ7	ハ9	□5	□6	□7	ハ5	ハ6	ハ7	□5	□6	□7	ハ6	イ8	イ9	□8	□9	ハ8	ハ9	□5	ハ5
縄文時代	草創期																											
	前葉	表裏縄文																										
		回転縄文																										
	前葉	燃糸文																										
	中葉	押型文																										
		沈線文 未細別																										
		沈線文 無文部																										
		無文(口縁部)																										
	後葉	無文(胴部)																										
		条痕文	子母口式		1																							
			野島式																									
			鶴ガ島台式																									
			細別不可		1	4																						
	薄手																											
	早期末~前期初頭																											
	前半	羽状縄文	花積下層式		1																							
			関山II式																									
		有尾式																										
		細別不可																										
	後半																											
中期																												
後期																												
晩期																												
時期不明		1	1																									

1) EL-115~120などの表記は、EL(650.000m)より設定した人工層位の範囲(cm)を示す。詳細は第3章第1節、第4章第1節を参照。



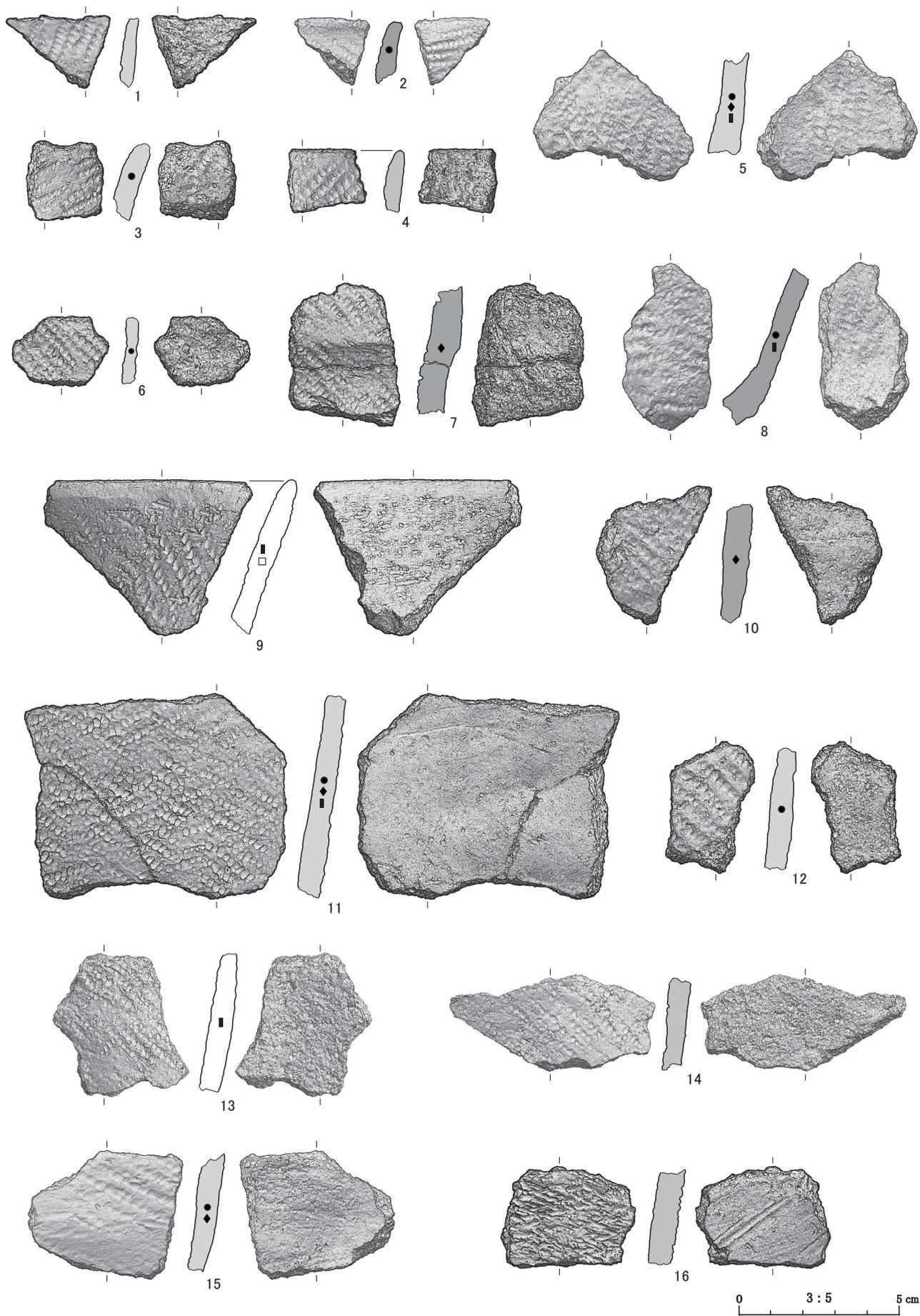
第14表 前庭部緩斜面出土土器 グリッド・層別別分類集計表（1）

時期・分類		出土位置		8層			9a～9d層	9層				調査区内一括								
		1層	4層	7y層	A0	A1	A2	A0	A0	A1	A2	A3	A0	A1	A2	A3				
縄文時代	草創期																			
	前葉	表裏縄文						2		1	1									
		前葉	回転縄文				4	1	4	11	13	24	40		1	2				
	中葉		燃糸文					1		2		2	3	2						
	中葉	押型文	山形文			1				13	46	17	48		5	4				
			楕円文	3		4	17			10	33	37	51	2	3	1				
			格子目文							2	1	2								
			その他			1	1				3	2	1							
			無文部							5	9	4	9		1	2				
		沈線文	未細別	52		2	51		7	2	26	81	197		6	1				
			条痕施文	8		2	2		2		2	7	11							
			無文部	14		3	12	1			4	33	70		4					
			無文（口縁部）		2					2	3	1	5	6			1			
			無文（胴部）		9		1	9		1	2	11	22	22		2	1			
	後葉	条痕文	子母口式						2		6	10								
			鶯刀島台式							1		4								
			未細別	16			14		11		14	60		2		1				
			薄手						1		1	7								
	早期末～前期初頭								3			1			1					
	前期	前葉	羽状縄文	有尾式	1															
細別不可				1	1										1			1		
後葉		諸磯式	諸磯 a 式	1																
			諸磯 b 式	1																
時期不明		88		2	47		75	27	40	169	361		12	9						
近世以降	陶磁器	1																		

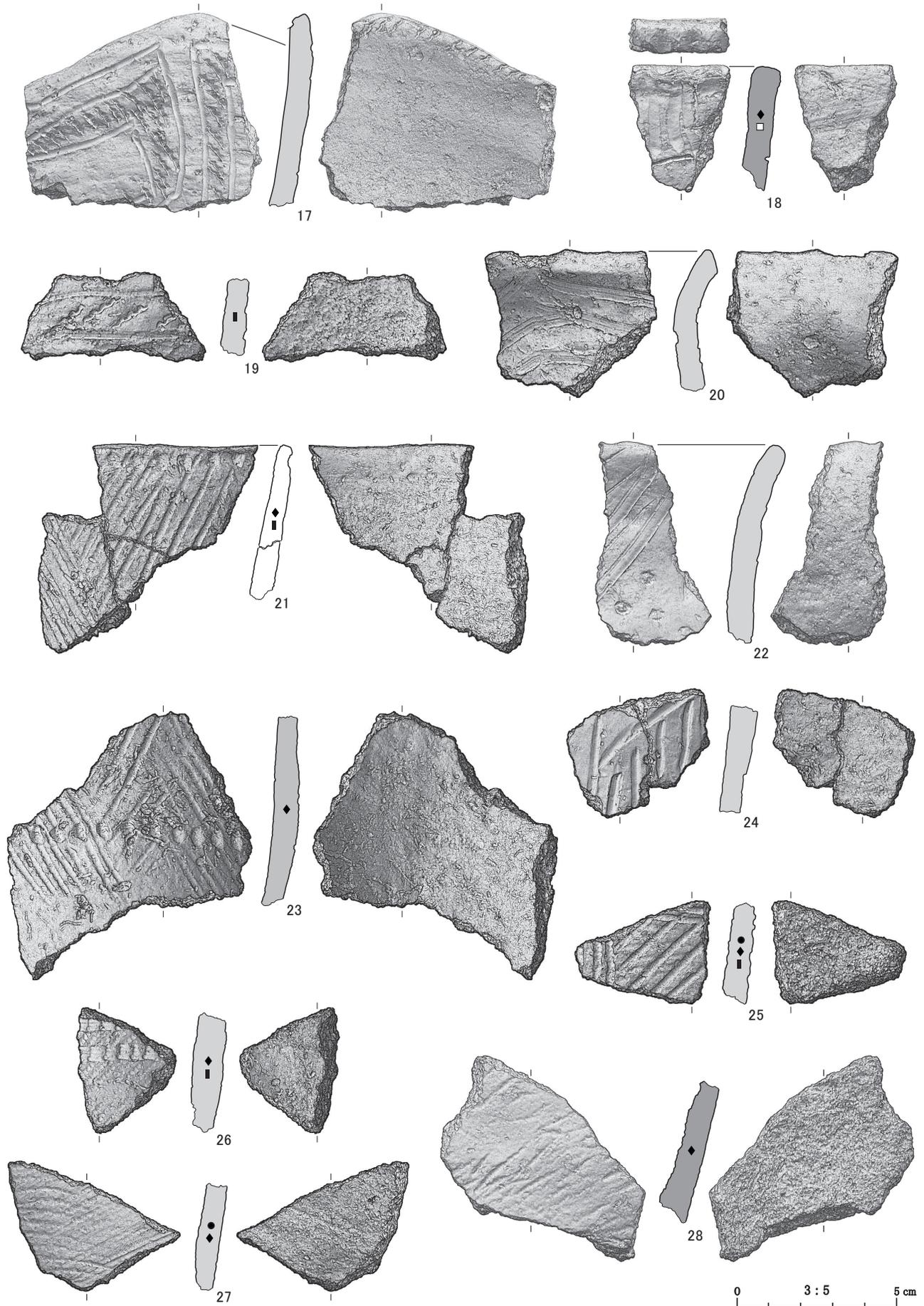
第15表 前庭部緩斜面出土土器 グリッド・層別別分類集計表（2）

時期・分類		出土位置		10ab層		10c層	10g層	10層			11層		円形落込み			土留部分			
		A0	A1	A2	A1	A0	A0	A1	A2	A0	A1	1層	2層	3層	A0				
縄文時代	草創期																		
	前葉	表裏縄文										1							
		前葉	回転縄文	1						14	1		1	2			1		
	中葉		燃糸文						6						1	1			
	中葉	押型文	山形文	3		1		5		140	1	16		5	3	24	31		
			楕円文	2	1					13				2		1	7		
			格子目文	1				3			2					1	1		
			その他	2	1	1					12					3	4		
			無文部			1	1				57		4		5		13	8	
		沈線文	未細別	1		1					4				1			6	
			条痕施文			1					1						1		
			無文部			1						1					1	1	
			無文（口縁部）					1		2	6								
			無文（胴部）		1							11	1	2			1	3	2
	後葉	条痕文																	
	早期末～前期初頭																		
	前期																		
	時期不明		4	5						124		1		17	1	42	9		

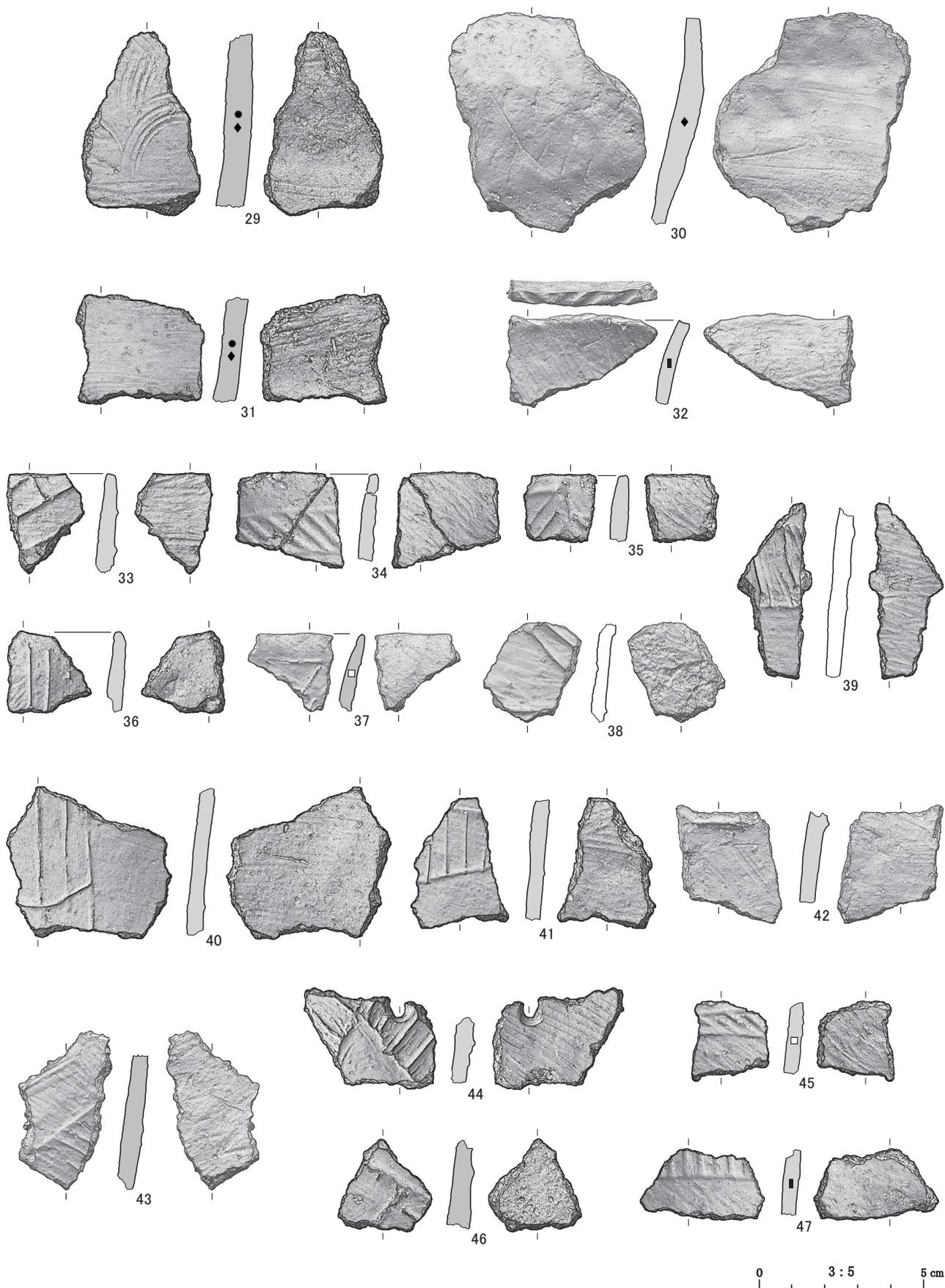
1) 「土留め部分」は、A0北西壁の土留め工事に伴う掘削で出土したものを一括したもので、9～11層が混在する。



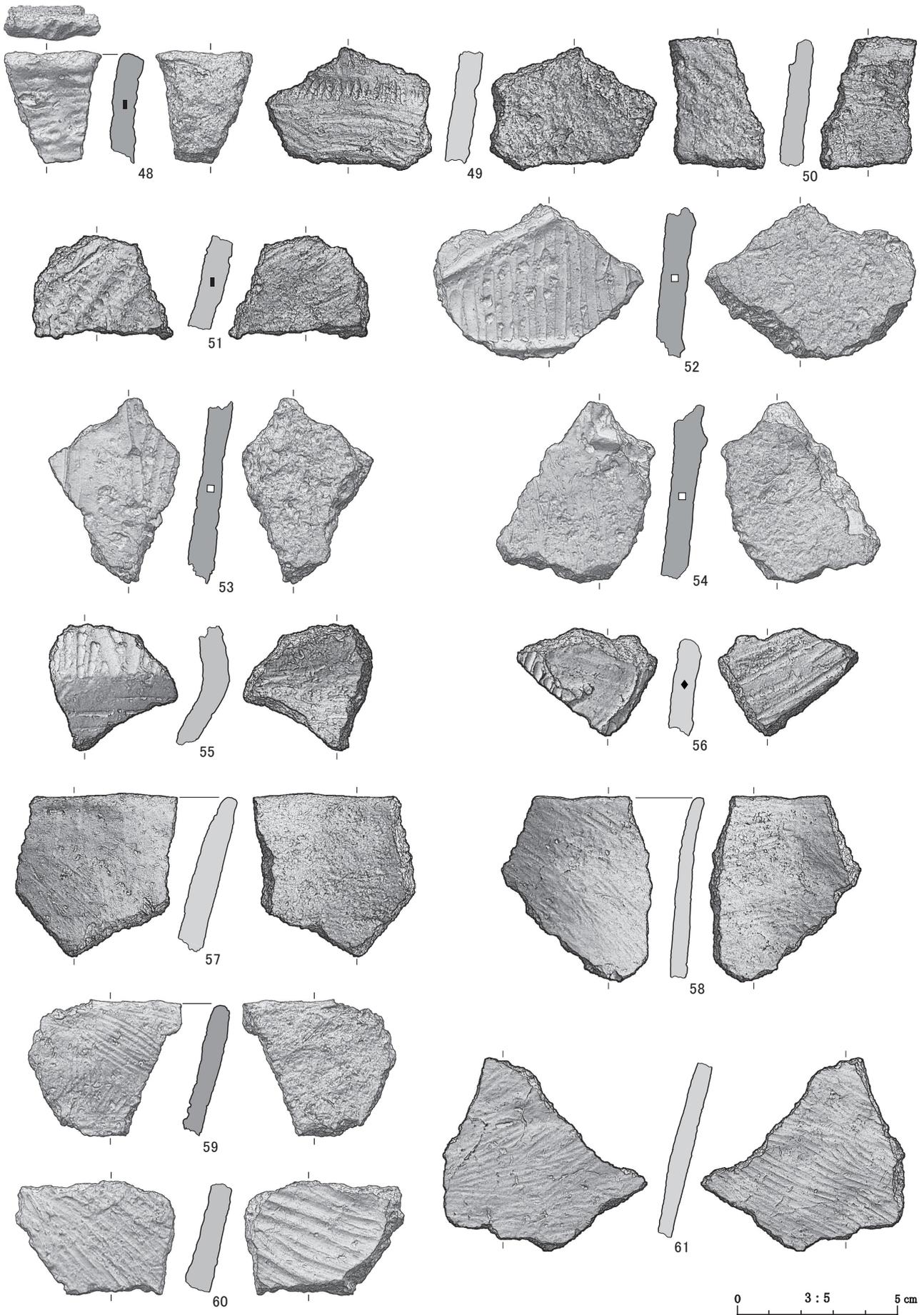
第38図 岩陰部出土土器 PEAKIT 画像(1) 草創期・早期



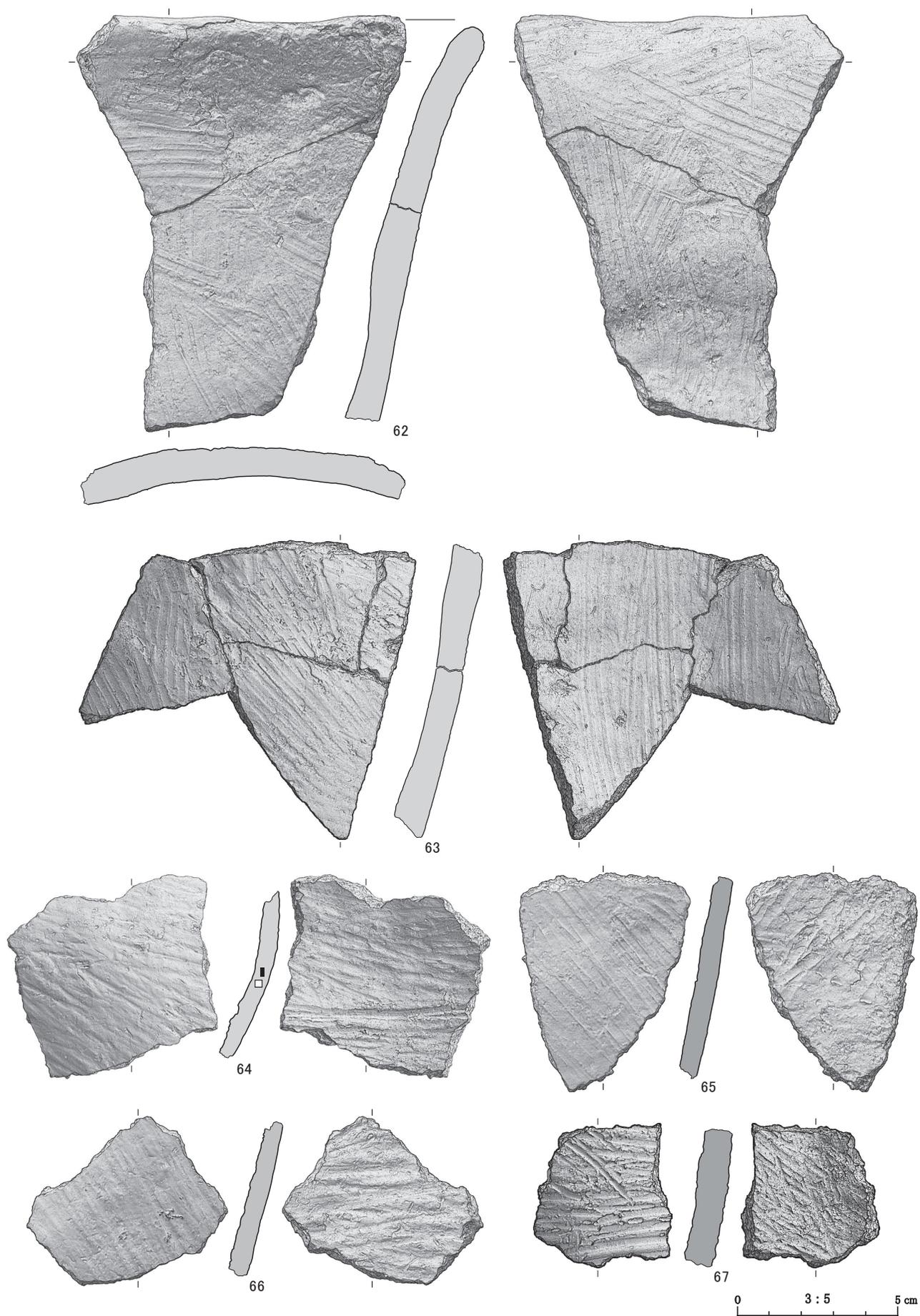
第39図 岩陰部出土土器 PEAKIT 画像(2) 早期



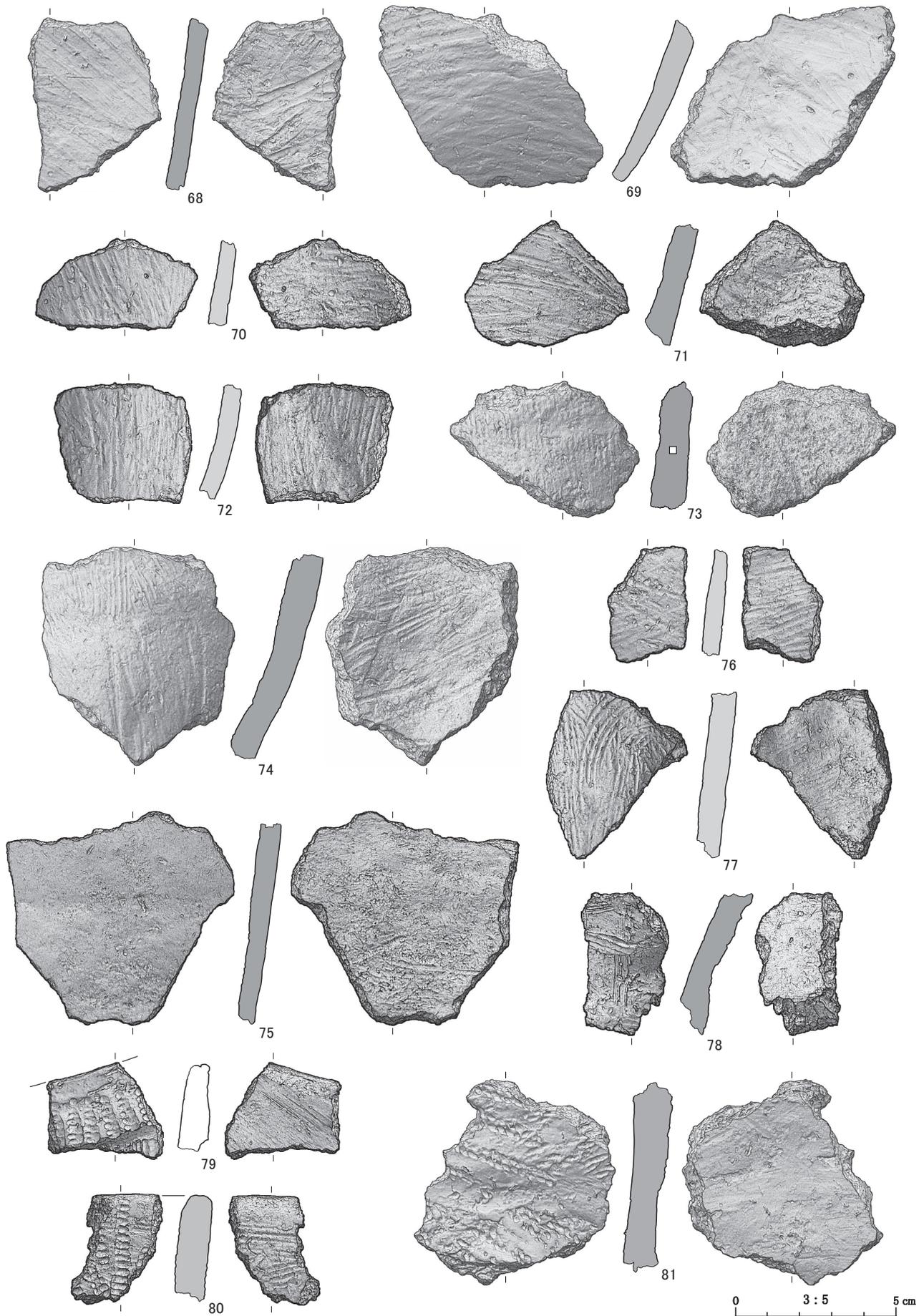
第40図 岩陰部出土土器 PEAKIT 画像 (3) 早期



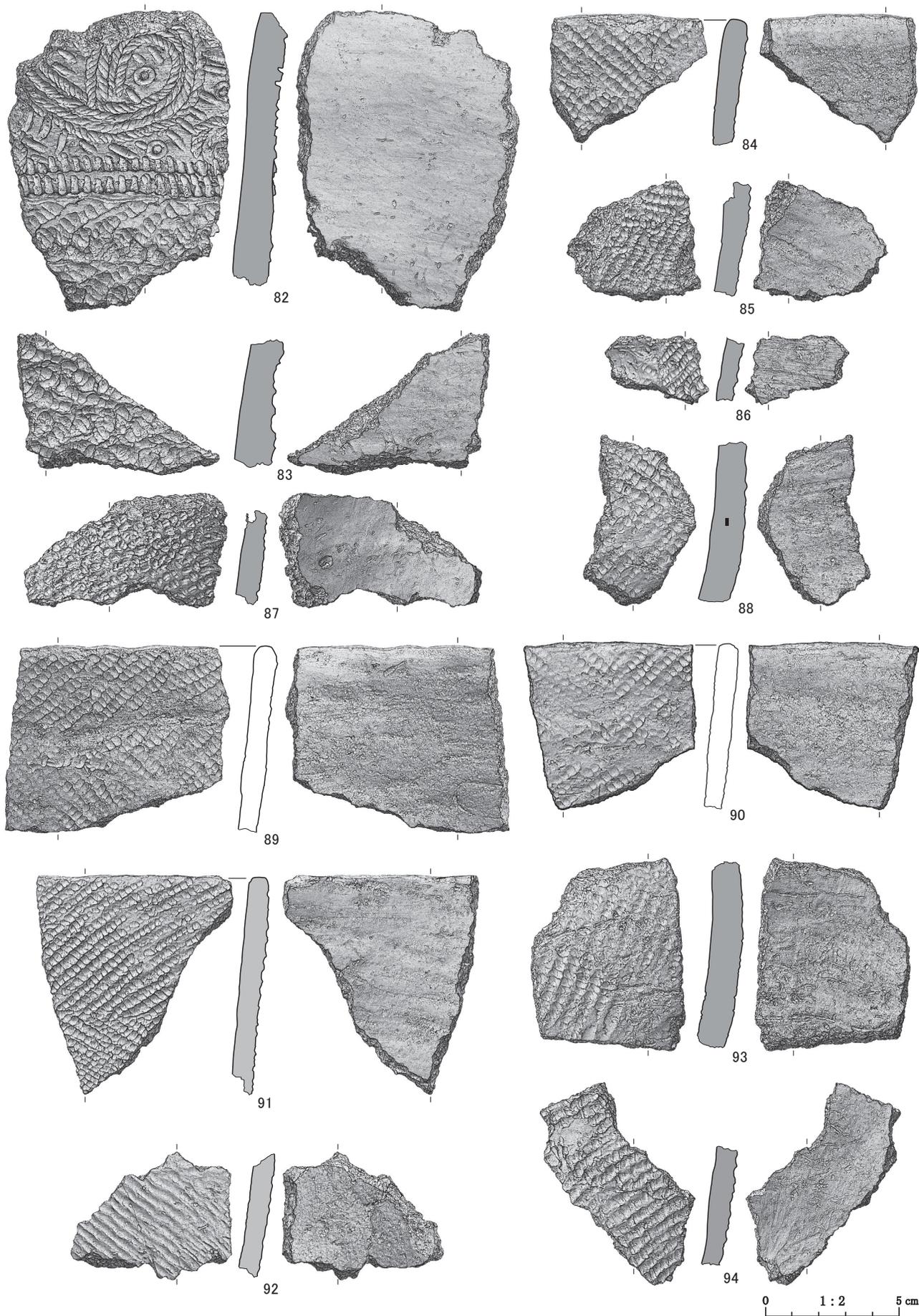
第41図 岩陰部出土土器 PEAKIT 画像(4) 早期



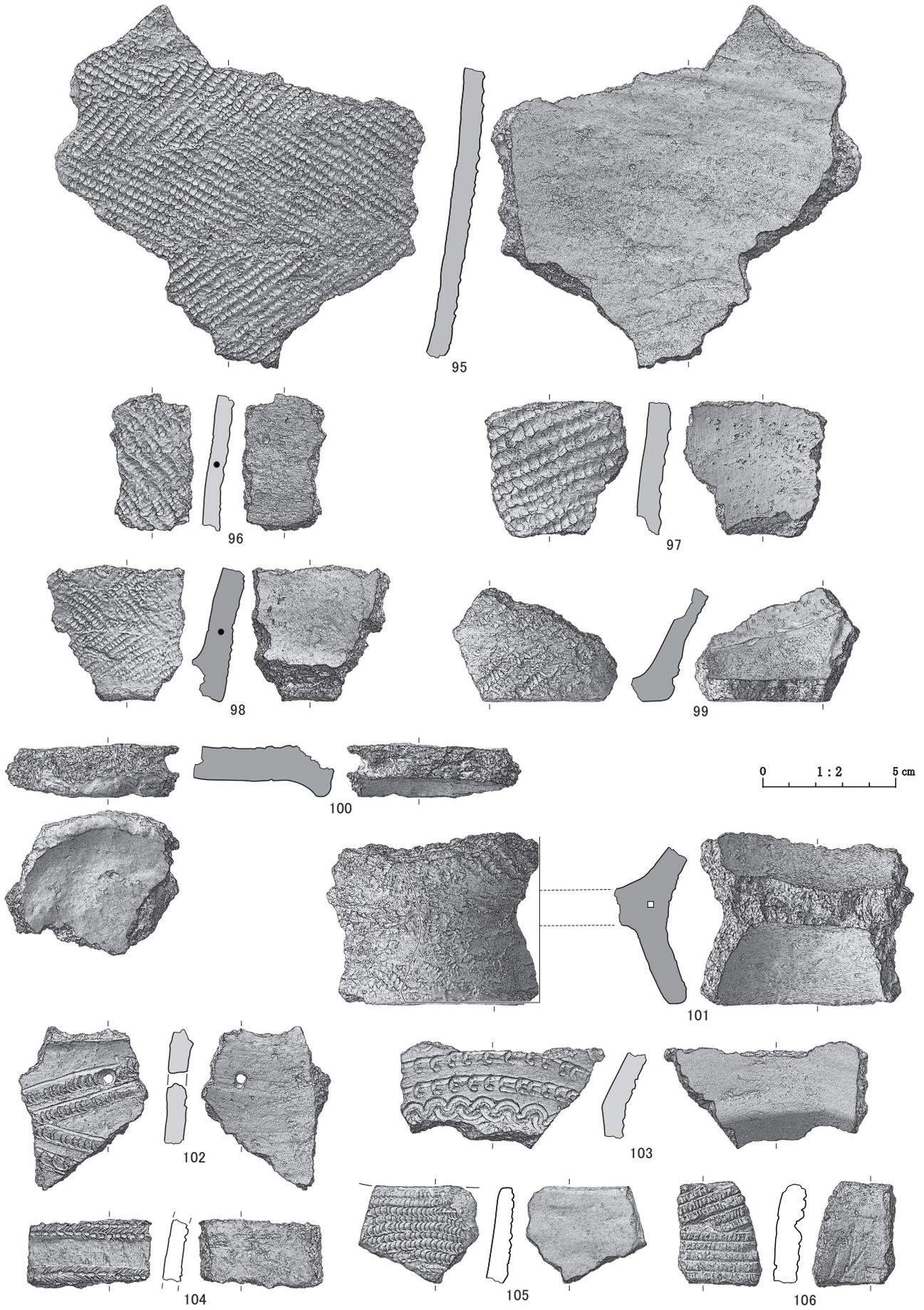
第42図 岩陰部出土土器 PEAKIT 画像 (5) 早期



第43図 岩陰部出土土器 PEAKIT 画像(6) 早期



第44図 岩陰部出土土器 PEAKIT 画像(7) 前期



第45図 岩陰部出土土器 PEAKIT 画像(8) 前期

第16表 岩陰部出土土器 観察表(1) 草創期・早期

土器観察表 凡例

層位：数字表記のものはELを基準として設定された人工層位である。「土留め部分」の詳細は第3章第1節2項・第3節第6表を参照。  
 胎土：鉱物、繊維などの混和材を記載した。鉱物・岩石の同定は主に結晶構造を保持するものに限定して行った。具体的には、輝石、黒雲母、結晶片岩、黒曜石、磁鉄鉱、チャート、カンラン石、石英、長石を対象とした。同定が困難なものは最大径2mm以上を礫、2mm未満を砂粒とし、色調および光沢の有無を記載した。含有量は『新版標準土色帖 2005年度版』の面積割合を用いて、1%未満を僅、1～2%を少、3～5%をやや多、7%以上を多と表記した。記載は含有量が多い順とした。  
 成形/整形/器厚/重量：上段に成形、中段に整形、下段に器厚・重量を記載した。観察不能項目は未記載とした。  
 器形/文様：施文順序に沿って①、②、③...と示す。順序が読み取れない場合は番号を振らずに併記した。  
 特記事項：使用痕、放射性炭素年代測定値、種実圧痕などを記載した。年代測定、圧痕分析の詳細は第7章第1節・第3節を参照。

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
1	ハ9 第1層群③層	草創期	多縄文	深鉢 胴部	繊維少,1mm以下の黒色砂粒僅か 7.5YR5/2 7.5YR4/3 7.5YR5/4	内面指頭圧痕あり 内面ナデ 4mm 2.4g	外面に単節LRを横位施文。糸幅2.5mm。	
2	ニ9 第II層群②層	早期前葉	表裏縄文	深鉢 口縁部	繊維多,1mmの黒曜石やや多 7.5YR5/3 7.5Y3/1 7.5YR4/1	口唇：角頭状 内外面横ナデ 5.5mm 2.6g	外面に単節RLを縦位施文。内面に単節RLを斜位施文。口唇部に単節RLを回転施文。糸幅2.5mm。	
3	ロ9 第II層群e層	早期前葉	表裏縄文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石,繊維少,1mm以下の黒雲母,黒色砂粒僅か 5YR4/4 5YR4/3 5YR4/2	外面ナデ 7mm 5.2g	外面に単節LRを横位施文。内面に単節LRを斜位施文。糸幅2mm。	外面褐色化。
4	ハ9 第II層群⑥層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 口縁部	繊維やや多,1mm以下の黒色砂粒僅か 7.5YR5/4 5YR5/4 5YR5/4	口唇：円頭状 内面横ナデ 5mm 2.9g	単節LRを縦位施文。糸幅3mm。	
5	イ8 性格不明遺構	早期前葉	表裏縄文	深鉢 底部付近	1mm以下の黒曜石やや多,1mm以下の角閃石,黒雲母,繊維少 7.5YR5/3 2.5YR5/6 10YR4/2	内面指頭圧痕あり 内外面ナデ 9mm 17.4g	外面に単節LRを斜位～縦位施文。内面に単節LRを斜位施文。糸幅3mm。	内面～断面黒色化。
6	イ9 第II層群i層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 胴部	2mm以下の光沢黒色砂粒,褐色砂粒,白色砂粒少,1mm以下の黒曜石,繊維僅か 7.5YR4/2 7.5YR5/3 7.5YR5/3	内面指頭圧痕あり 外面横ナデ,内面斜ナデ 3～4.5mm 2.7g	単節RLを横位施文。糸幅2.5mm。	内面摩耗。
7	ハ8 第II層群⑦層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 胴部	2mm以下の黒雲母,繊維多,2mm以下の褐色礫僅か 10YR3/1 10YR3/1 10YR3/1	屈曲部に輪積痕あり 8.5～10mm 14.3g	胴部に段をもつ深鉢。単節RLを横位施文。糸幅3.5mm。	
8	ハ9 第II層群②層	早期前葉	表裏縄文	深鉢 底部付近	繊維多,1mm以下の黒曜石,角閃石,3mm以下の褐色礫・砂粒少 10YR7/1 7.5YR6/6 10YR3/1	内面指頭圧痕あり 内外面ナデ 5.5～9mm 13.1g	外面に単節LRを斜位～縦位施文。内面に単節LRを縦位施文。糸幅3.5mm。	内面～断面黒色化。底部付近使用による光沢あり。
9	ハ6 SB1 第I層群⑤層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 口縁部	2mm以下の結晶片岩,褐色粒やや多,1mm以下の角閃石僅か 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR4/1	口唇：円頭状 ①外面横ナデ,内面横ナデ ②口唇部斜ミガキ ③口唇頂部入念なミガキ 7mm 27.2g	単節RLを横位施文。糸幅4mm。口唇頂部,口唇直下に幅状の無文部を作成。	
10	ハ5 SB1 第II層群⑥層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 胴部	繊維多,1mm以下の黒雲母少,1mm以下の褐色砂粒僅か 5YR5/4 5YR5/4 5YR4/1	内面に輪積痕あり 内面横ナデ 9mm 10.7g	単節LRを横位施文。糸幅4mm。	
11	ロ9 第II層群⑦層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石,黒曜石,黒雲母,褐色砂粒少,繊維僅か 5YR4/2 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面指頭圧痕あり 内面ナデ 4.5～8mm 56.9g	単節LRを縦位,横位に施文。縦位展開の羽状縄文を構成。糸幅2mm。	内面～断面黒色化。
12	ロ5 第II層群j層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石多,1mm以下の光沢黒色砂粒,ガラス質透明砂粒,繊維少 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR5/4	内面斜ナデ 5.5～8mm 7.9g	単節RLを横位施文。糸幅4mm。	内面～断面黒色化。
13	イ9 第II層群i層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 胴部	2mm以下の黒色砂粒,褐色砂粒やや多,1mm以下の角閃石,石英僅か 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR3/1	外面ナデ 7.5mm 13.9g	単節RLを横位施文。一部に単節LRを施文。糸幅3mm。	内面黒色化。
14	イ9 第II層群i層	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 胴部	2mm以下の褐色礫,1mm以下の黒色砂粒,白色砂粒,繊維やや多 7.5YR5/2 5YR5/4 7.5YR2/1	外面横ナデ 6mm 13.1g	単節RLを横位施文。糸幅2.5mm。	内面黒色化,摩耗。
15	ロ8 第II層群b層最下部	早期前～中葉	回転縄文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石,黒雲母,石英,光沢黒色砂粒,繊維少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR4/3	外面ミガキ,内面横ナデ 6.5mm 16.5g	単節RLを横位施文。糸幅3mm。	外面黒斑。
16	ロ5 SB1 第II層群⑥層	早期前～中葉	撚糸文	深鉢 胴部	繊維やや多,1mm以下の白色砂粒少 10YR6/3 5YR5/4 7.5YR5/2	内面斜ナデ 8mm 11.3g	外面に粗い撚糸条痕を斜格子状に施文。撚は0段撚方向不明。糸幅1.5mm。内面に①浅い擦痕を斜位に施し。②糸線の幅が不規則な深い条痕を斜位施文。	前期前半の可能性あり
17	イ8 第II層群⑦層	早期中葉	沈線文	深鉢 口縁部	2mm以下の光沢黒色砂粒,白色砂粒,繊維少,5mm以下の黒色礫僅か 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR4/1	口唇：円頭状 内外面横ナデ 7mm 45.1g	やや内湾する波状口縁の深鉢。口唇上に①幅1mmで断面弧状の沈線を施文。②口唇内側に具数腹縁による斜位のキザミ列を施文。外面に①幅1mmで断面弧状の沈線を横位・曲線状に平行させて施文。②沈線間に斜位の具数腹縁文を充填。	内面一部黒色化。
18	ロ9 第II層群⑥層	早期中葉	沈線文	深鉢 口縁部	繊維多,1mm以下の黒雲母,褐色砂粒やや多,結晶片岩僅か 5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR4/1	口唇：隅丸角頭状 外面横ナデ,内面斜ナデ 7.5mm 12.6g	口唇部に幅6～7mmで断面弧状の刻みを連続施文。外面口唇直下に幅2.5～3.5mmの浅い沈線を横位に連続させて垂下させる。その下端に幅1mmで断面半円形の深い沈線を横位施文。	内面黒色化。
19	ハ9 第II層群②層	早期中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒,褐色砂粒少,1mm以下の角閃石,繊維僅か 10YR3/2 10YR5/2 10YR5/2	内外面ナデ 5.5～7.5mm 13.7g	①幅3mmで断面弧状の沈線を横位に施文。②沈線間に斜位の具数腹縁文を連続施文。	
20	イ9 第II層群i層	早期中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の白色砂粒,黒色砂粒,繊維僅か 7.5YR3/2 7.5YR3/1 7.5YR3/1	口唇：角頭状 内外面横ナデ 7mm 22.2g	波状の小突起をもち口唇が強く外反する深鉢。口縁波頂部に頂点を交差させて幅4mmで断面口の字状の浅い沈線を施文。施文動作は反時計回り。施文順は時計回り・反時計回りが混在。	内外面,断面に灰状付着物。
21	ハ8 第II層群⑥層/⑦層	早期中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石,黒雲母少,2mm以下の長石,褐色砂粒僅か 7.5YR3/2 7.5YR3/1 10YR3/1	口唇：角頭状 外面斜ナデ,内面横ナデ 3.5～8mm 26.1g	①口唇直下に幅3mmの楕円形刺突を巡らす。②刺突文列直下に幅2mmで断面弧状の沈線を方向を違えて斜位に平行施文。	
22	ハ9 第II層群②層	早期中葉	沈線文	深鉢 口縁部	4mm以下の褐色礫やや多,2mm以下の黒色砂粒,繊維少 7.5YR3/1 7.5YR4/1 10YR4/1	口唇：円頭状 外面横ナデ,内面横ナデ 8mm 21.4g	口縁部が緩く外反する深鉢。口唇部に幅5mmの連続する刻みを施文。外面に幅4.5mmの多岐竹管状工具による引きずり文を斜位施文。径3～5mmの竹管状工具による刺突文を施文。	外面黒斑あり。
23	ハ9 第II層群	早期中葉	沈線文	深鉢 胴部	繊維やや多,5mm以下の褐色礫少,1mm以下の黒雲母僅か 7.5YR5/3 10YR3/1 10YR3/1	内面指頭圧痕あり 内外面ナデ 6.5～7.5mm 41.2g	①幅1.5mmで断面弧状の沈線を方向を違えて斜位に平行施文。②幅3mmの楕円形刺突文を横位に連続施文。	内面～断面黒色化。
24	ロ5/イ9 第II層群⑦層	早期中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mmの長石,褐色礫やや多,繊維僅か 5YR5/3 5YR5/4 5YR5/6	外面ナデ,内面横ナデ 7～9mm 15.5g	幅2.5mmで断面半円形～弧状の沈線を斜位,縦位の順に施文。	

第17表 岩陰部出土土器 観察表(2) 早期

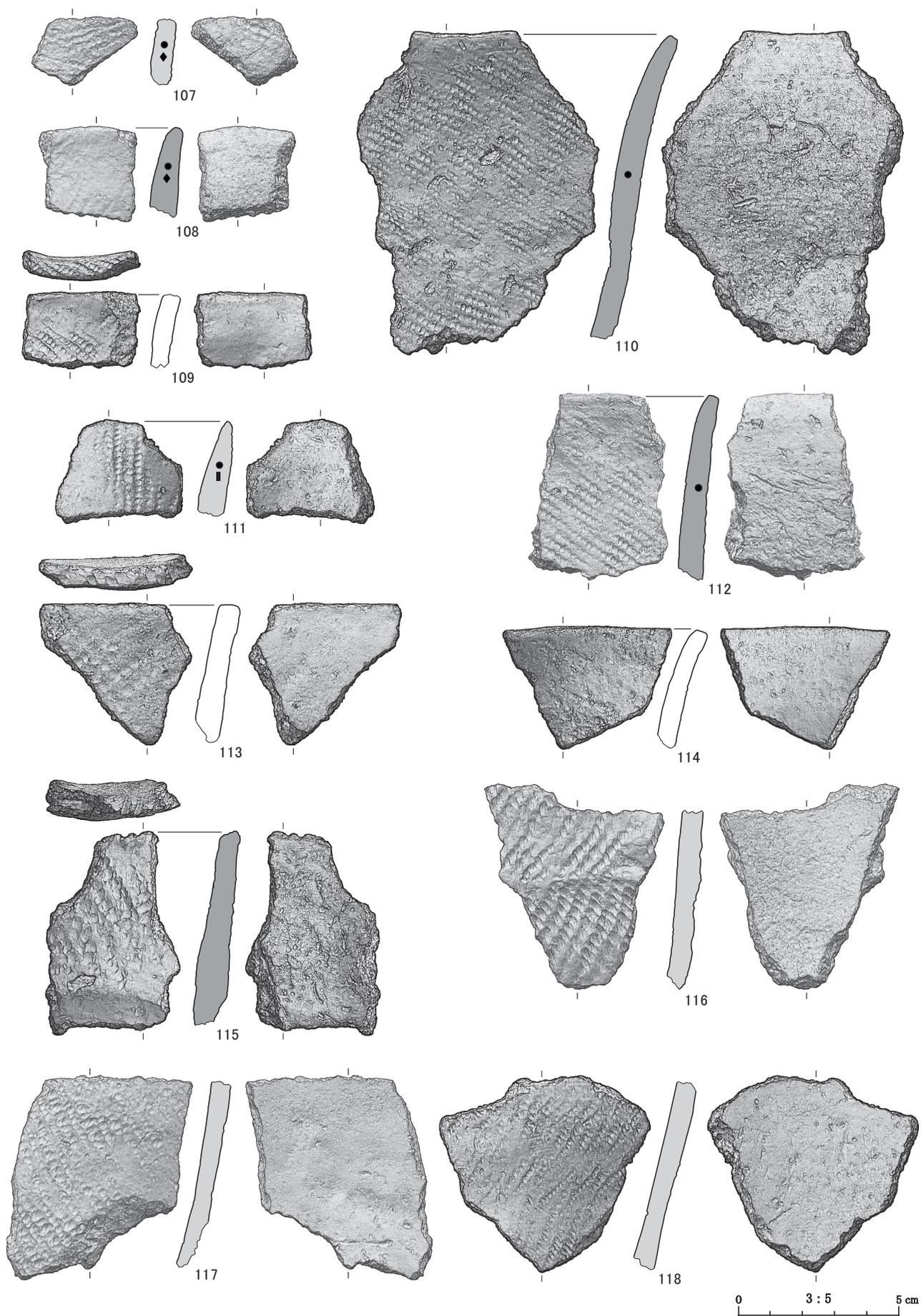
掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
25	イ8 第II層群①層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石,黒雲母多,0.5mm以下の角閃石,4mm以下の黒色礫,褐色礫,繊維僅か 7.5YR3/1 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面横ナデ 7.5mm 10.7g	幅2mmで断面弧状〜コの字状の沈線を横位,斜位,縦位の順に平行施工.	
26	イ8 第II層群①層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下のガラス質透明砂粒多,1mm以下の角閃石,黒雲母やや多,繊維少 5YR4/4 5YR4/4 5YR4/2	内面指頭圧痕あり 内面横ナデ 8~10mm 10.2g	①単節LRを横位施工,条幅1mm.②幅5mmの先端が4条に割れた工具で押し文を横位施工.反時計回りの施工順,施工動作.	
27	ロ5 第II層群j層	早期 中葉	沈線文(条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石,黒曜石多,2mm以下の褐色礫,繊維少 10YR3/1 10YR3/1 10YR3/1	内面横ナデ 6.5~8mm 14.8g	外面に櫛歯状工具で浅い条痕を弧状,斜位に施工.内面に浅い条痕を斜位施工.	
28	ニ8 第II層群②層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の黒雲母,繊維多,1mm以下の石英少 7.5YR4/2 5YR4/4 10YR3/2	外面ミガキ 8mm 31.4g	長さ2cm以下で断面弧状の沈線を不規則に斜位施工.沈線幅3mm以下.擦糸文の可能性あり.	内面摩耗.内面〜断面黒色化.
29	ロ5 第II層群	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石,黒雲母多,繊維やや多,2mm以下の褐色礫少 7.5YR4/1 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面指頭圧痕あり 内面横ナデ 7.5mm 18.0g	櫛歯状工具で集合条線を横位,斜位,曲線状に施工.	内面黒色化.
30	ハ6 EL-120~125	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の黒雲母,黒色砂粒やや多,繊維少 10YR6/2 7.5YR7/3 10YR6/1	内外面指頭圧痕あり 内面横ナデ,内面横ナデ 5.5~8mm 34.4g	ヘラ状工具で横位に連続する長さ4mmの刻みを施工.内面沈線状の擦痕顕著.	内外面の指頭圧痕横位に連続.内面上半黒色化.
31	イ9 第II層群①層	早期 中葉	沈線文(条痕)	深鉢 胴部	繊維やや多,2mm以下の黒曜石,黒雲母少 5YR5/3 5YR5/3 5YR5/2	下端凹状の輪積痕 7mm 11.9g	櫛歯状工具で細密条痕を外面に横位,内面に斜位施工.	
32	ハ9 第II層群②層	早期 後葉	子母口式(無文)	深鉢 口縁部	2mm以下の褐色砂粒,繊維少,1mm以下の角閃石,白色砂粒僅か 7.5YR5/4 10YR5/4 10YR5/3	口唇:角頭状 4~5mm 6.3g	口縁部が緩く外反する深鉢,口唇部に幅3mmで断面円形の工具を斜位に連続押圧.外面に細密な条痕を斜位施工.内面に細密な条痕を横位施工.1条幅1mm以下.	
33	イ9 8号灰ブロック	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 口縁部	2mm以下の石英,繊維僅か 5YR5/3 5YR5/3 5YR5/3	口唇:角頭状 口唇ナデ 5.5mm 3.6g	外面に①細密な貝殻条痕を横位施工し,ナデ消す.②右上りの微隆起線を貼付.③右下りの斜位の微隆起線を貼付.微隆起線は幅1mmで断面二等辺三角形状で稜線をもつ.内面に貝殻条痕を横位,斜位施工.	
34	イ9 第II層群⑥/⑦層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒,白色砂粒少,繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR6/4 7.5YR6/4	口唇:角頭状 外面横ナデ 5mm 5.2g	①微隆起線を横位に貼付.②微隆起線を①の間に斜位に平行させて貼付.微隆起線は幅2mm.内面に浅く細密な貝殻条痕を斜位施工.条幅1.5mm.	外面黒斑あり.
35	イ9 第II層群⑥層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 口縁部	1mm以下の白色砂粒,白色砂粒,繊維僅か 7.5YR5/4 7.5YR5/3 7.5YR5/3	口唇:隅丸角頭状 口唇ナデ 4.5mm 2.8g	外面に幅1.5mmで断面半円形の微隆起線を縦・横・斜位に貼付,側縁にナデ.内面に貝殻条痕を斜位施工.	外面黒斑あり.
36	イ9 第II層群⑦層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒,褐色砂粒,繊維僅か 5YR5/3 5YR5/3 5YR5/3	口唇:円頭状 内面指頭圧痕あり 口唇ナデ,内面ナデ 4~5mm 3.4g	①細密な貝殻条痕を斜位施工し,ナデ消す.②幅1mmで断面二等辺三角形の微隆起線を縦位に貼付,側縁を幅3mmのヘラ状工具でナデする.	
37	イ9 性格不明遺構	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 口縁部	繊維やや多,2mm以下の白色砂粒,褐色砂粒少,1mm以下の光沢黒色砂粒,結晶片岩僅か 10YR3/4 5YR2/1 7.5YR4/2	口唇:円頭状 内外面斜ナデ 4mm 2.6g	①幅1mm以下の微隆起線を横位,斜位に貼付.②微隆起線に沿ってナデを施す.	
38	イ8/ロ8 調査区内一括	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	2mm以下の白色砂粒,褐色砂粒多 7.5YR2/1 7.5YR4/2 10YR3/4	外面横ナデ,内面斜ナデ 4mm 4.5g	①浅い条痕を斜位に施し,ナデ消す.②幅2mm以下で断面三角形の微隆起線を横位,斜位に貼付.③微隆起線に沿ってナデを施し,明確な稜を作出.	内面摩耗.
39	イ9 第II層群①層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒僅か 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR4/1	5mm 6.2g	外面に①貝殻条痕を横位施工し,ナデ消す.②幅1.5mmで断面二等辺三角形の微隆起線を横位,斜位の順に貼付,側縁をナデする.③区画内に斜位の微隆起線に沿って断面弧状の沈線を施す.内面に浅い貝殻条痕を横位〜斜位に重ねて施工.	
40	ハ5 第II層群SB1⑥層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒,3mm以下の黒色礫,繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR5/4	5mm 13.5g	外面に①浅い貝殻条痕を斜位施工し,ナデ消す.②縦位の微隆起線を平行に貼付.③微隆起線を横位曲線状に貼付.微隆起線は幅1mmで断面二等辺三角形状で稜線をもつ.微隆起線の側縁をヘラ状工具でナデする.内面に浅く細密な貝殻条痕を横位施工.	40・41同一個体.外面黒斑あり.
41	ロ5 第II層群j層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒,3mm以下の黒色礫,繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR5/4	5mm 5.9g	外面に①細密な貝殻条痕を斜位施工し,ナデ消す.②横位,斜位の微隆起線を貼付.③縦位の微隆起線を平行に貼付.微隆起線は幅1mmで断面二等辺三角形状で稜線をもつ.微隆起線の両側を幅4mmのヘラ状工具でナデする.内面に細密な貝殻条痕を斜位施工.	外面黒斑あり.
42	イ8 第II層群⑥層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	繊維少,1mm以下の白色砂粒僅か 10YR4/2 10YR4/3 7.5YR5/2	内外面横ナデ 5mm 7.6g	①幅2mmで断面三角形の微隆起線を縦位,横位に貼付.②微隆起線は明確な稜を作出.③条幅1mmの浅い条痕を斜位施工.	
43	ハ9 第II層群h層(掲)	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	繊維やや多,2mm以下の黒色礫・砂粒,白色砂粒少 7.5YR5/3 7.5YR5/2 7.5YR5/2	6mm 9.4g	①内外面に幅2mmの浅い条痕を斜位に施工.②幅1.5mmの微隆起線を斜位に貼付.③これに斜行する幅1mm以下の微隆起線を数条貼付.④微隆起線に沿ってナデを施す.	10号人骨寛骨付近出土(写真図版11右下).
44	イ8 性格不明遺構	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒,褐色砂粒少,繊維僅か 10YR3/1 7.5YR4/2 7.5YR4/2	内外面ナデ 5.5mm 8.0g	外面に①貝殻条痕を斜位施工し,ナデ消す.②幅3mm以下の微隆起線を斜位に貼付,両端をナデで稜を作出.内面に浅い貝殻条痕を斜位施工.	内外面から補修孔を穿孔.
45	イ9 8号灰ブロック	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	1mm以下の結晶片岩,白色砂粒,褐色砂粒,繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR6/3	4.5mm 3.1g	外面に①貝殻条痕を斜位施工し,ナデ消す.②幅1.5mmで断面弧状の微隆起線を横位,斜位の順に貼付.内面に貝殻条痕を斜位施工.	内面黒斑あり.
46	ロ5 第II層群j層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒,白色砂粒,褐色砂粒,繊維やや多 7.5YR4/2 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面ナデ 5~8mm 5.0g	幅3mmで断面半円形の微隆起線を斜位に貼付,側縁をヘラ状工具でナデする.	
47	イ9 第II層群①層	早期 後葉	子母口式(微隆起線文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石,褐色砂粒,繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面ナデ 5mm 4.4g	外面に貝殻条痕を斜位施工し,ナデ消す.幅2mmで断面弧状の微隆起線を横位,斜位の順に貼付,側縁をナデする.	内面黒色化.
48	イ8 性格不明遺構	早期 後葉	子母口式(絡糸体圧痕文)	深鉢 口縁部	2mm以下の白色砂粒,褐色砂粒,繊維多,1mm以下の角閃石少 10YR4/2 10YR5/2 7.5YR4/2	口唇:円頭〜隅丸角頭状 外面ナデ 7mm 9.4g	口唇下に絡糸体圧痕文を縦位施工.口唇上に絡糸体圧痕文を斜位施工.縄は不明,条幅2mm.	内面摩耗.
49	イ8 第II層群①層	早期 後葉	子母口式(絡糸体圧痕文)	深鉢 胴部	3mm以下の褐色礫,褐色砂粒少,繊維僅か 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR6/3	外面ナデ 8mm 15.0g	①貝殻条痕を横位施工.②絡糸体圧痕文を連続施工.縄は1段R,条幅2mm.	外面黒斑あり.
50	ロ5 第II層群j層	早期 後葉	子母口式(絡糸体圧痕文)	深鉢 胴部	繊維やや多,7mm以下の褐色礫,3mm以下の黒色礫少,1mm以下の白色砂粒僅か 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面器表面下にナデ整形された面 外面横ナデ 7mm 10.4g	外面に絡糸体圧痕文を斜位施工.縄は不明,条幅2mm.内面に浅く細密な貝殻条痕を横位施工.	

第18表 岩陰部出土土器 観察表(3) 早期

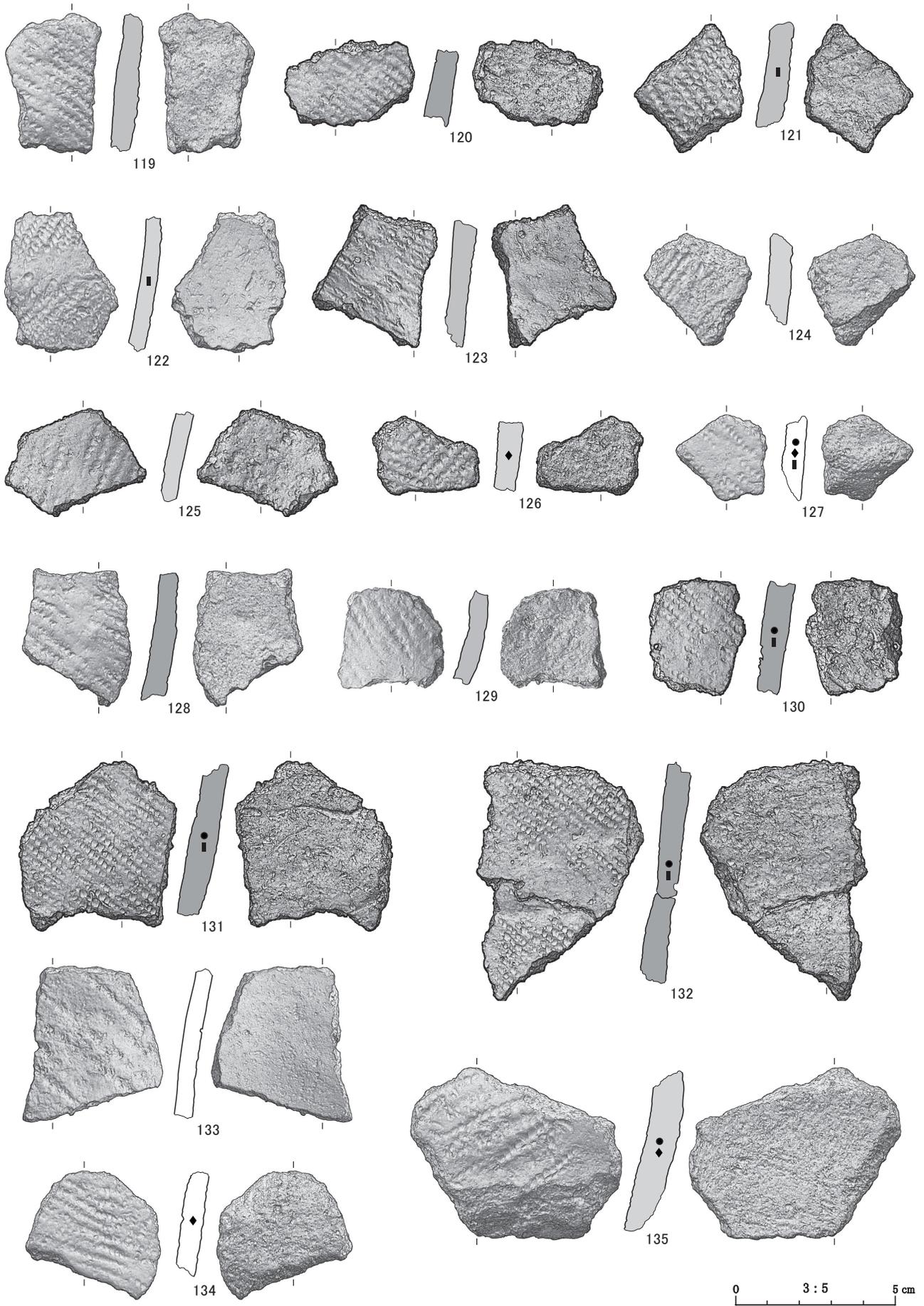
掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/成形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
51	イ9 第II層群i層	早期後葉	子母口式(給糸体圧痕文)	深鉢胴部	繊維やや多,1mm以下の角閃石少,3mm以下の褐色礫,白色礫少 7.5YR3/1 5YR5/4 7.5YR6/3	内面指頭圧痕あり 7.5mm 12.3g	外面に給糸体圧痕文を斜位密接に施文,内面に貝殻条痕を斜位施文,一部ナデ消す。	
52	ロ5 EL-125~130	早期後葉	野島式	深鉢胴部	8mm以下の結晶片岩,繊維多,1mm以下の石英僅か 10YR3/2 10YR1.7/1 7.5YR4/4	8mm 28.7g	①幅4.5mmの隆起線を区画状に斜位,横位に貼付,②隆起線に沿ってナデを施し,稜を作出,③区画内に幅4mmで断面弧状の縦位沈線を2~3mmの間隔で充填。	断面黒色化。
53	ロ6 EL-125~130	早期後葉	野島式	深鉢胴部	8mm以下の結晶片岩,繊維多,1mm以下の石英僅か 7.5YR3/1 10YR5/2 7.5YR4/6	外面ナデ 8mm 16.4g	①幅3mmで断面弧状の沈線を縦位に施文,②縦位沈線に重なるように幅6mmの隆起線を貼付,③隆起線に沿ってナデを施し断面三角形に成形,④幅3mmで断面弧状の沈線を斜位に連続施文。	
54	ハ9 第II層群②層	早期後葉	野島式	深鉢胴部	繊維多,5mm以下の結晶片岩やや多,1mm以下の光沢黒色砂粒僅か 7.5YR5/4 10YR5/1 10YR5/2	内外面ナデ 7.5mm 23.4g	①内外面に浅い貝殻条痕を縦位施文,②外面に幅5mm隆起線を貼付,断面三角形で稜をもつ。	
55	ロ5 第II層群SB1⑥層	早期後葉	鶴ガ島台式	深鉢胴部	繊維やや多,1mm以下の白色砂粒少 7.5YR5/4 5YR5/6 5YR5/6	内外面横ナデ 7~8mm 10.9g	外面に①貝殻条痕を横位施文し,ナデ消す,②幅4mmの太く浅い沈線を縦位,斜位施文,③沈線間に幅2mmの縦位の単沈線を充填施文,内面屈曲部の輪積み接着部に貝殻条痕を横位施文。	
56	ロ5 第II層群SB1⑨層	早期後葉	鶴ガ島台式	深鉢胴部	1mm以下の黒雲母やや多,繊維少 10YR3/1 10YR3/1 7.5YR5/3	外面ナデ 7.5mm 9.9g	外面に①貝殻条痕を斜位施文し,ナデ消す,②幅3mmの微隆起線を斜位に貼付,断面三角形で稜をもつ,③微隆起線の区画内に幅2.5mmで断面弧状の沈線を充填,内面に浅い貝殻条痕を斜位施文。	外面黒色化。
57	ロ5 第II層群	早期後葉	条痕文	深鉢口縁部	1mm以下の黒色砂粒,褐色砂粒,繊維少 7.5YR5/3 7.5YR5/4 7.5YR5/4	口唇:円頭状 内外面指頭圧痕あり 内外面横ナデ 9.5mm 29.7g	浅く細密な条痕を斜位施文。	口唇~外面黒斑あり。
58	ハ8 第II層群⑥層	早期後葉	条痕文(薄手)	深鉢口縁部	1mm以下の白色砂粒,褐色砂粒,繊維少 7.5YR4/1 7.5YR4/2 7.5YR4/2	口唇:円頭状 内面指頭圧痕あり 口唇ナデ 5mm 17.3g	内外面に粗く細密な貝殻条痕を斜位施文。	内面灰状物質付着。
59	ハ6 EL-125~130	早期中葉	条痕文(薄手)	深鉢口縁部	繊維多,2mm以下の褐色砂粒やや多 10YR4/2 5PB3/1 7.5YR6/3	口唇:円頭状 内外面ナデ 7mm 14.3g	幅1mmで断面弧状の浅い平行沈線を1単位3条の櫛歯状工具で斜位,横位,縦位に施文。	断面黒色化。
60	ハ6 EL-125~130	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維やや多,2mm以下の黒色砂粒,白色砂粒僅か 10YR6/3 10YR5/4 7.5YR5/4	外面ナデ,内面ナデ 7mm 16.1g	外面に貝殻条痕を斜位施文,内面に深い貝殻条痕を斜位施文。	外面灰付着により白色化。
61	ハ8 第II層群f層	早期後葉	条痕文(薄手)	深鉢胴部	1mm以下の黒色砂粒,繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR3/1 7.5YR5/2	内面指頭圧痕あり 4.5~6mm 22.7g	内外面に浅く細密な貝殻条痕を斜位施文。	内面~断面黒斑あり。
62	ハ6 EL-125~130 第II層群	早期後葉	条痕文	深鉢口縁~胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒,白色砂粒,繊維少 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR6/2	口唇:円頭状 内面指頭圧痕あり 内外面横ナデ 9.5mm 153.7g	口縁部が緩く外反する深鉢,推定口径30cm,内外面ともに口縁部に貝殻条痕の横位~斜位施文,胴部にかけては斜位~縦位施文の貝殻条痕を施文。	外面器表面薄く剥落,62・63同一個体。
63	ハ5 SB1 第II層群⑥層/層	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒,白色砂粒,繊維少 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR6/2	11mm 145.3g	内外面に貝殻条痕を縦位~斜位施文。	
64	ハ4 調査区内一括	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維少,1mm以下の角閃石,結晶片岩 7.5YR5/2 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面指頭圧痕あり 6mm 31.5g	条線の幅,深さが不規則な粗い条痕を内外面に斜位施文,外面の条痕を一部ナデ消す。	7219 ± 26 BP (PLD-43804)
65	ロ5 EL-120~125	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維やや多,2mm以下の黒色砂粒,白色砂粒少 10YR6/4 10YR5/3 7.5YR5/3	内外面ナデ 6mm 27.2g	外面に浅い貝殻条痕を斜位施文,内面に貝殻条痕を斜位施文。	断面に炭灰 or 昆虫圧痕(圧痕分析No.20).
66	ロ9 第II層群e層	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維やや多,1mm以下の黒色砂粒,白色砂粒,褐色砂粒僅か 7.5YR4/3 7.5YR5/4 10YR4/2	5mm 21.4g	外面に貝殻条痕を斜位施文,内面に深く粗い貝殻条痕を横位施文。	
67	ロ4 第II層群	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維多,1mm以下の黒色砂粒,白色砂粒 5YR5/3 7.5YR3/1 7.5YR3/1	8.5mm 23.1g	外面に浅い貝殻条痕を縦位~斜位施文,内面に浅い貝殻条痕を縦位施文。	内面~断面黒色化。
68	ロ5 EL-125~130	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維多,2mm以下の黒色砂粒,白色砂粒少 10YR5/3 10YR6/2 10YR6/3	5mm 15.5g	外面に浅い貝殻条痕を斜位施文,内面に断面形状が不規則な条痕を斜位施文。	
69	ロ7 EL-120~125	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維やや多,2mm以下の石英,6mmの黒色礫僅か,1mm以下の黒色砂粒少 10YR7/3 10YR7/2 7.5YR7/6	7mm 32.3g	内外面に浅い貝殻条痕を斜位施文。	内面黒斑あり。
70	ハ8 第II層群f層	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	2mm以下の黒色砂粒,白色砂粒,褐色砂粒,繊維少 5YR5/4 5YR5/4 5YR5/3	4~5.5mm 8.5g	外面に貝殻条痕を縦位~斜位施文,内面に貝殻条痕を横位施文。	
71	ロ5 第II層群j層	早期後葉	条痕文	深鉢底部付近	1mm以下の白色砂粒,黒色砂粒,繊維多 7.5YR6/4 7.5YR2/1 7.5YR2/1	7.5~9mm 15.5g	外面に貝殻条痕を横位~斜位施文,内面に浅い貝殻条痕を斜位施文。	内面~断面黒色化。
72	ロ9 第II層群e層	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒,白色砂粒,繊維少 5YR4/4 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面指頭圧痕あり 5.5~7mm 15.4g	外面に細密な貝殻条痕を縦位,曲線状に施文,内面に細密な貝殻条痕を斜位施文。	内面の指頭圧痕斜位に連続,内面~断面黒色化,外面摩耗により光沢。
73	イ9 第II層群⑥層	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維多,1mm以下の褐色砂粒やや多,5mm以下の黒色礫,白色礫少,4mm以下の結晶片岩僅か 7.5YR6/4 5YR6/5 7.5YR4/2	外面ナデ,内面縦ナデ 10mm 24.5g	外面に細密な貝殻条痕を斜位施文,内面に条幅が不規則な条痕を浅く縦位施文。	内面~断面黒色化。
74	ニ8 第II層群②層	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維多,1mm以下の黒雲母少,2mm以下の光沢黒色砂粒僅か 7.5YR5/1 10YR4/1 10YR6/2	9mm 51.2g	外面上半部に細密な貝殻条痕を縦位施文し,下半部に条間隔が広い条痕を縦位施文,内面に幅2mmで断面形状が不規則な条痕を斜位施文。	内面~断面黒色化。
75	ニ6 表層	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	繊維多,1mm以下の光沢黒色砂粒 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR3/1	外面縦ナデ 5~6.5mm 35.5g	外面無文,内面に細密な貝殻条痕を横位施文。	
76	イ9 第II層群⑥層	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	1mm以下の白色砂粒,黒色砂粒,繊維少 7.5YR4/1 7.5YR5/3 7.5YR5/3	4~6mm 6.1g	内外面に浅い貝殻条痕を斜位施文。	
77	ロ9 第II層群e層最下部	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	1mm以下の白色砂粒,繊維少 5YR4/4 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内外面指頭圧痕あり 外面斜ナデ 7~8.5mm 18.2g	内外面に浅い貝殻条痕を斜位施文。	内面~外面付近黒色化。
78	ハ4 第II層群	早期後葉	条痕文	深鉢胴部	1mm以下の白色砂粒,繊維多,2mm以下の褐色礫僅か 7.5YR5/3 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面横ナデ,外面斜ナデ 7~9mm 10.9g	口縁部が大きく外反する深鉢,先割れの工具による引きずり文を縦位,斜位,横位の順に施文,下部を一部ナデ消す。	内面~断面黒色化。
79	ハ5 SB1 第II層群⑤層	早期末葉	給糸体圧痕文	深鉢口縁部	3mm以下の白色礫・砂粒,褐色礫・砂粒やや多 7.5YR4/1 5YR5/4 5YR5/4	口唇:角頭状 口唇ミガキ,外面ナデ,内面斜ナデ 7~10mm 10.9g	段をもつ波状口縁の深鉢,①口唇と平行に粘土紐を貼付,上下端をナデ段を作出,②口唇直下に縦位の給糸体圧痕文を密接に巡らす,紐は1段撻方向不明,条幅1.5mm,胴部に櫛歯状工具による集合条痕を縦位施文,内面に深さ,幅が不均一条痕を斜位施文。	外面黒色化,型式同定に疑問残す。

第19表 岩陰部出土土器 観察表(4) 早期・前期

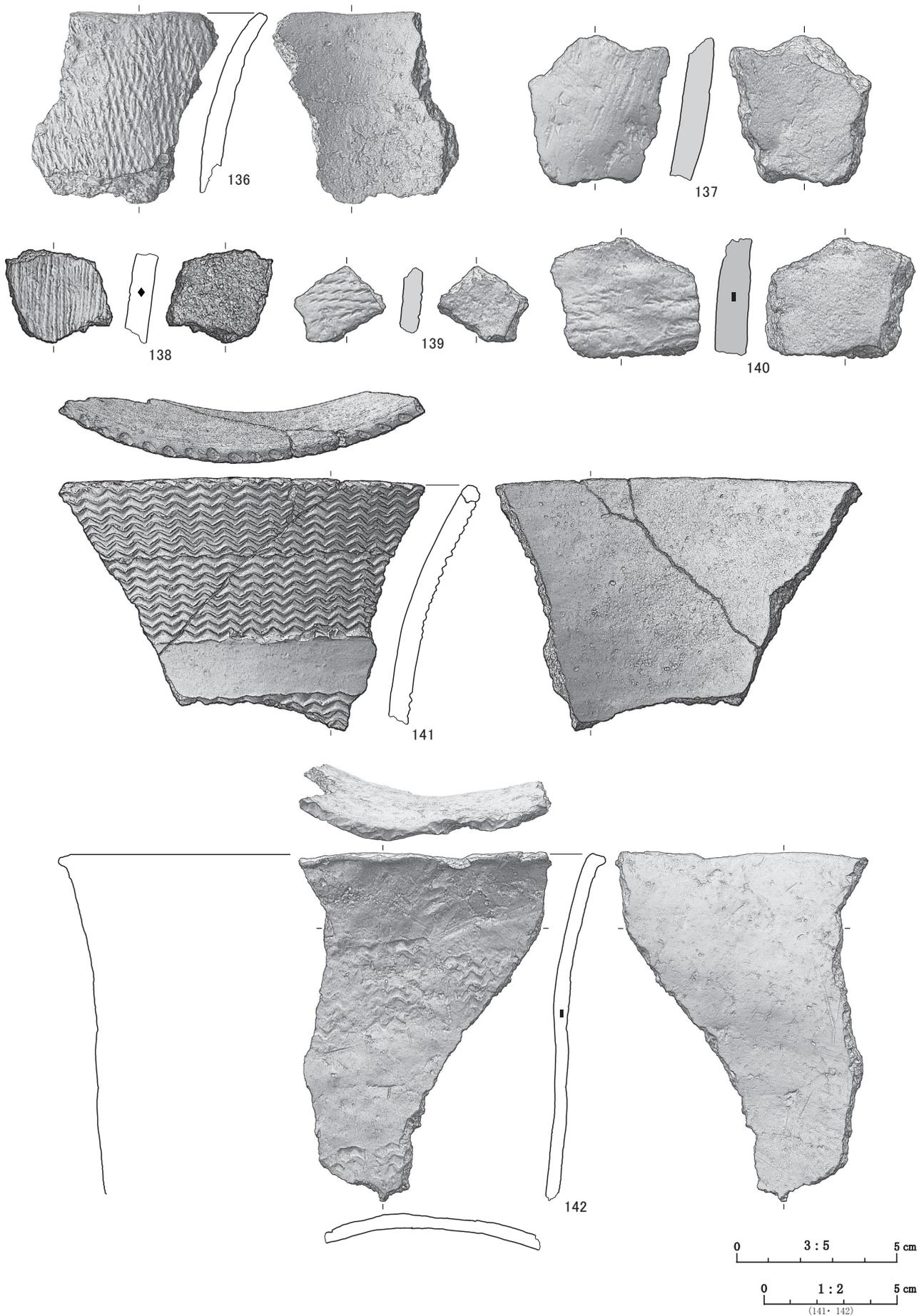
掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
80	□6 調査区内一括	早期 末葉	絡糸体圧痕文	深鉢 口縁部	繊維やや多,1mm以下の石英,白色砂粒少 5PB3/1 5PB3/1 5PB3/1	口唇:隅丸角頭状 内外面ナデ 10mm 8.5g	外面に絡糸体圧痕文を縦に,斜位に 施文.内面に絡糸体条痕を横位,斜位 に施文.縄は0段r,条幅2mm.	内外面,断面に灰状 付着物.
81	□6 EL-125~130	早末~前初	型式不明	深鉢 胴部	繊維多,1mm以下の黒色砂粒僅か 7.5YR5/1 7.5YR4/6 7.5YR5/3	外面指頭圧痕あり 外面横ミガキ,内面斜~横 ナデ 10mm 40.1g	1段Lの側面圧痕を2本1単位にして 斜位施文.	外面灰付着により白 色化.
82	□5 EL-130~135	前期 初頭	花積下層式	深鉢 胴部	繊維多,6mm以下の黒色礫・砂粒少,1mm以下 の白色砂粒僅か 10YR5/2 10YR5/2 7.5YR5/4	内面横ミガキ,外面横ナデ 14mm 144.7g	①隆起線を2条横位に貼付し,断面 円形の工具の側面で幅2mmの刻みを 連続施文.②径7mmの円形竹管文を 施文.1段縄の側面圧痕を蕨手状に施 文.縄は外側からL,R,R,L,長さ17cm ~.幅3mm.③空白部に断面半円径の 沈線を斜位施文.反時計回りの動作方 向.隆起線下部に,①原体折返し部を 下にして単節RL,ループ文を横位施文 .②隆起線との境面に粗雑な沈線を施 す.	82・83同一個体.
83	□5 EL-120~125	前期 初頭	花積下層式	深鉢 胴部	繊維多,6mm以下の黒色礫・砂粒少,1mm以下 の白色砂粒僅か 10YR4/6 10YR1.7/1 10YR5/2	内面横ミガキ 12~14mm 40.8g	2段RL,LR縄の折り返し部によるループ 文を横位多段に施文.条幅6mm.	
84	ハ6 EL-120~125	前期 前半	羽状縄文	深鉢 口縁部	繊維少,1mm以下の黒色砂粒僅か 7.5YR4/1 10YR7/1 10YR6/2	口唇:角頭状 口唇ミガキ,内面横ナデ 9mm 25.4g	単節LR,単節RLを交互に横位施文し ,羽状縄文を施す.条幅3mm.	
85	ハ7 EL-120~125	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維多,1mm以下の黒色砂粒少 10YR6/3 10YR5/1 10YR4/1	内面斜ミガキ 8mm 19.5g	①下部に単節LRを横位施文し,②上 部に単節RLを横位施文し,羽状縄文 を施す.条幅3~4mm.	内外の器表面層状に 割れる.
86	□5 第II層群j層	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維多,1mm以下の褐色砂粒 5YR4/3 5YR2/1 5YR2/1	内面横ナデ 7mm 7.0g	単節LRを横位施文.一部に2段RL,0 段rの側面圧痕が残る.ヘラ状工具で 幅5mmのごく浅い沈線を斜位施文.	内面~断面黒色化.
87	ハ6 EL-130~135	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維多,1mm以下の白色砂粒僅か 10YR6/2 10YR5/2 10YR7/4	内面縦ミガキ 9mm 24.8g	3段縄による複節縄文を施文.原体, 施文方向不明.	内面の一部面に割 落.
88	ハ4 表層	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維多,1mm以下の白色砂粒少,1mm以下の角 閃石僅か 7.5YR4/1 7.5YR3/1 7.5YR6/2	外面横ナデ 11mm 26.8g	①単節LR,②単節RLを横位施文し, 羽状縄文を施す.条幅5mm.	断面~外面黒色化.
89	□6 調査区内一括	前期 前半	有尾式	深鉢 口縁部	1mm以下の白色砂粒,褐色砂粒僅か 7.5YR2/0 7.5YR8/2 10YR5/2	口唇:円頭状,凹凸顕著 内面指頭圧痕あり,外面輪 積痕あり 口唇横ミガキ,内面横ナデ 9mm 67.3g	上部に単節LRを横位,下部に単節 RLを横位施文し,羽状縄文を施す .条幅4mm.	
90	□5 第II層群SB1⑥層	前期 前半	羽状縄文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒,白色砂粒僅か 10YR4/1 10YR3/1 10YR5/2	口唇:隅丸角頭状 口唇内外面横ナデ 6~8mm 37.7g	①上段左辺に単節RLを横位施文.① 上段右辺および下段に単節LRを横位 施文.	内面黒斑あり.外面 ~断面黒色化.
91	ハ7 EL-125~130	前期 前半	羽状縄文	深鉢 口縁部	繊維やや多,1mm以下の白色砂粒少 10YR4/1 10YR7/1 10YR6/2	口唇:角頭状 口唇ミガキ,内面口縁に沿 う斜ナデ 8mm 50.0g	①下部に単節RL.②上部に単節LRを 横位施文し,羽状縄文を施す.原体長 4.5cm~,条幅3.5mm.	
92	ハ6 EL-120~125	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維やや多,1mm以下の黒色砂粒,褐色砂粒 僅か 10YR4/1 10YR5/4 10YR5/1	内面横ナデ 8mm 24.8g	無節Rを横位施文.条幅3mm.	
93	□5 調査区内一括	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維多,2mm以下の黒色礫,褐色礫 7.5YR5/2 7.5YR3/1 7.5YR6/3	外面輪積痕あり 内面横ナデ 12mm 52.7g	単節LRを横位施文.条幅4mm.	
94	ニ9 第II層群②層	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維多,1mm以下の光沢黒色砂粒やや多,4mm 以下の褐色砂粒少 10YR3/1 N2/0 10YR7/1	内面指頭圧痕あり 内面横ナデ 8mm 26.9g	無節Lを横位施文.条幅3mm.条幅3 ~5mm.	
95	ハ7 EL-125~130	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維やや多,1mm以下の石英,光沢黒色砂粒, 白色砂粒,黒色砂粒少 10YR5/2 10YR7/2 10YR6/2	輪積痕あり 内面横ナデ 8mm 153.2g	輪積痕を境に単節LR,単節RLを交互 に横位施文し,羽状縄文を施す.原体 長4cm~,条幅3mm.	『居家以岩陰遺跡II』 掲載69と同一個体
96	ハ5 EL-120~125	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維少,2mm以下の白色砂粒多,5mm以下の褐 色礫やや多,1mmの黒曜石,黒色砂粒少 10YR3/1 N2/0 10YR2/1	内面横ナデ 6mm 13.7g	0段多条の単節LRを横位施文.条幅 2~6mm.	
97	□6 EL-125~130	前期 前半	羽状縄文	深鉢 胴部	繊維やや多,2mm以下の黒色砂粒,白色砂粒 僅か 7.5YR5/4 7.5YR6/2 7.5YR5/3	内面縦ミガキ 8~9mm 29g	単節LRを横位施文.条幅5mm.	
98	□5 第II層群SB1⑦層	前期 前半	関山式	深鉢 胴~底部	繊維多,1mm以下の黒曜石少 7.5YR8/1 7.5YR2/1 7.5YR2/1	内面横~斜ナデ 9mm 28.1g	上げ底状の底部.単節LR,RLを交互 に横位施文し,羽状縄文を施す.原体 長1.6cm~,条幅2mm.	外面灰付着により白 色化.内面~断面黒 色化.
99	ニ8 第II層群②層	前期 前半	羽状縄文	深鉢 底部	繊維多,1mm以下の白色砂粒僅か 10YR5/2 10YR6/3 10YR3/1	内外面横ナデ,底面ナデ 7~8mm 31.7g	上部に単節LRを横位施文.底面付近 に絡糸体圧痕文を斜位施文.縄は不 明,条幅4mm.	内面黒色化.底部 周縁の高まり摩擦による 光沢.脂質分析のため 内面器壁を切削.
100	イ8 第II層群⑥層	前期 前半	羽状縄文	深鉢 底部	繊維多,1mm以下の白色砂粒僅か 10YR6/1 N2/0 10YR8/0	12~13mm 40.3g	上げ底状の底部.底径推定12.5cm.	底部接地面摩擦による 光沢.外面灰付着 により白色化.内面 黒斑あり.
101	ハ6 EL-130~135	前期 前半	羽状縄文	深鉢 底部	繊維多,5mm以下の結晶片岩,褐色礫,白色礫 少,繊維僅か 10YR8/1 7.5YR6/4 7.5YR6/1	内面ナデ,台面内面横ナ デ 9~11mm 75.7g	高台をもつ底部.推定底径10cm.単節 RLを横位施文.条幅3mm.	底部接地面摩擦による 光沢.外面灰付着 により白色化.内面 黒斑あり.
102	ハ6 EL-130~135	前期 前半	有尾式	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒,3mm以下の褐色礫・砂 粒少,繊維僅か 10YR4/2 10YR5/1 7.5YR4/6	内面横ナデ,外面斜ナデ 7mm 19.7g	①幅4~5mmの多載竹管状による平 行沈線を斜位施文.②平行沈線上に 多載竹管状工具でC字状の爪形文を 連続施文.	内外面から補修孔を 穿孔.
103	□5 表層	前期 前半	黒浜式	深鉢 胴部	繊維少,1mm以下の白色砂粒,黒色砂粒僅か 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR4/1	外面横ナデ,内面ミガキ 7mm 26.8g	胴部が屈曲し外反する深鉢.①上部に 幅6mmの半載竹管状工具による押し 文を施文.②屈曲部に入れ子状のコン パス文を横位施文.コンパス文の回縁 は幅2mmで断面コの字状.反時計回 りの動作,施文順序.	内面~断面黒色化.
104	ハ8 第II層群SB1⑧層	前期 後半	諸磯b式	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒,白色砂粒僅か 10YR5/1 10YR5/1 10YR5/1	上端円頭状の擬口縁,下 端凹状の輪積痕 内外面横ナデ 6mm 11.3g	①幅3mmで断面弧状の隆起線を1mm 間隔で横位に貼付.②隆起線に幅 0.5mmの刻みを斜位に連続施文.隆 起線単位で向きを変え矢羽根状にする .③隆起線間に幅1.5mmの円形刺突 を2mm間隔で連続施文.	
105	8・9列 調査区内一括	前期 末葉	十三菩提式	深鉢 口縁部	1mm以下の光沢黒色砂粒,白色砂粒僅か 10YR4/2 10YR6/2 7.5YR4/3	口唇:円頭状 口唇ミガキ,内面斜ミガキ 6mm 13.0g	波状口縁の深鉢.幅3mmの多載竹管 状工具で結節浮線文に似せた連続爪 形文を施文.	
106	ハ9 調査区内一括	前期 末葉	十三菩提式	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒,白色砂粒少 7.5YR6/4 7.5YR7/2 10YR6/2	上端円頭状の擬口縁 内面ナデ 9mm 15.4g	①隆起線を貼付.②幅4mmの半載竹 管状工具で①をなぞる.③隆起線上に ヘラ状工具により刻みを連続施文.	内面黒色化.



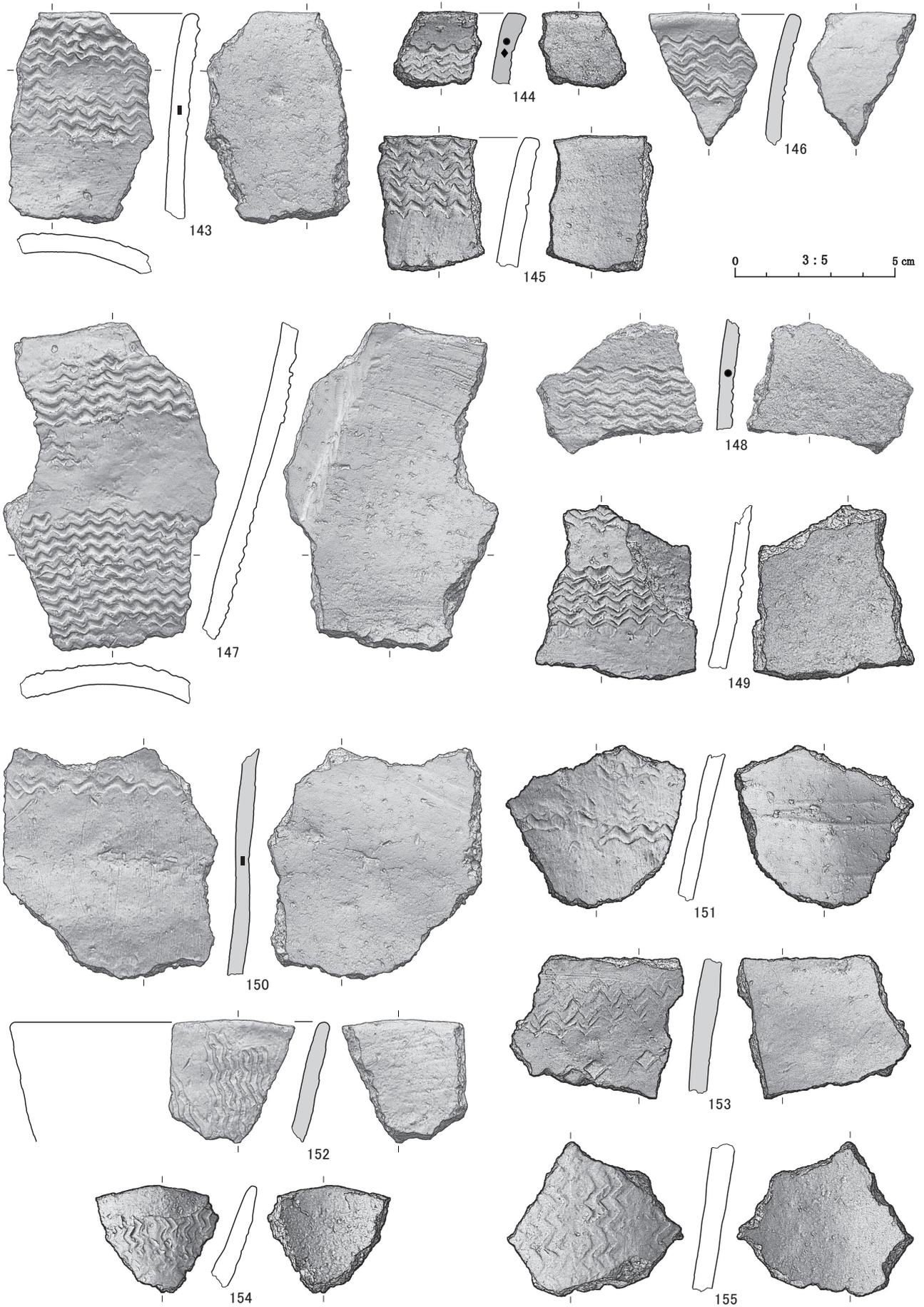
第46図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像(1) 早期



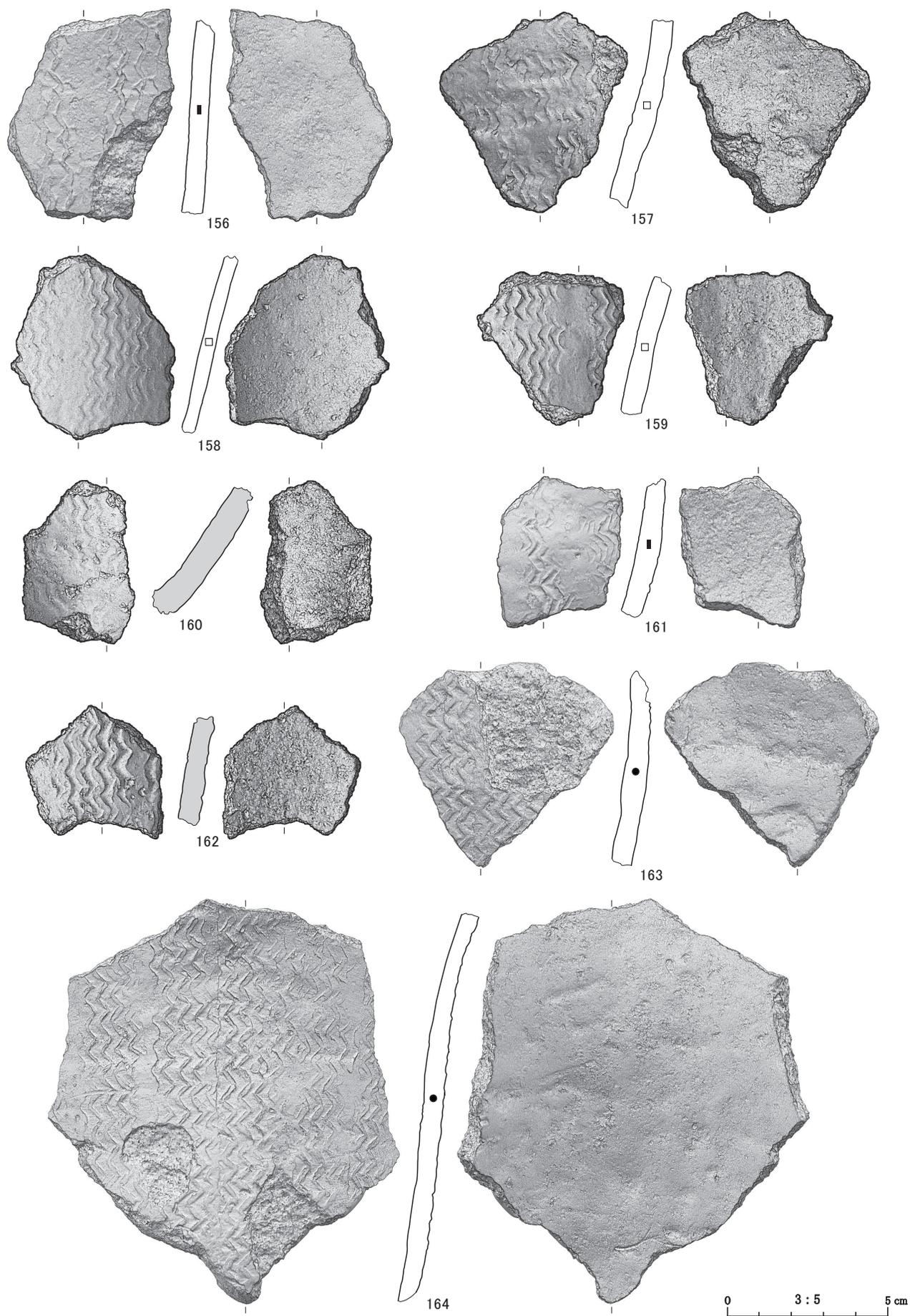
第47図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像(2) 早期



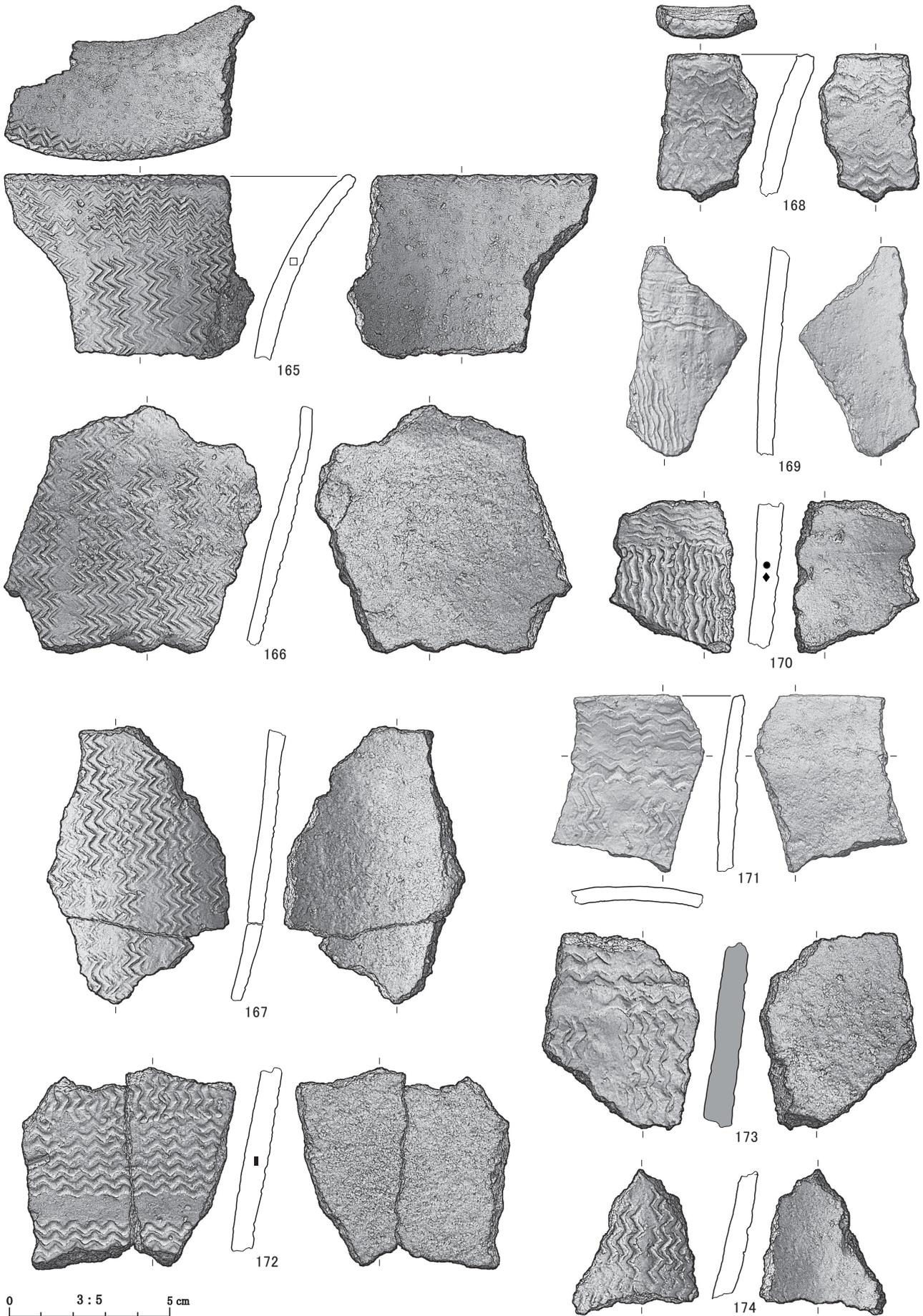
第48図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像(3) 早期



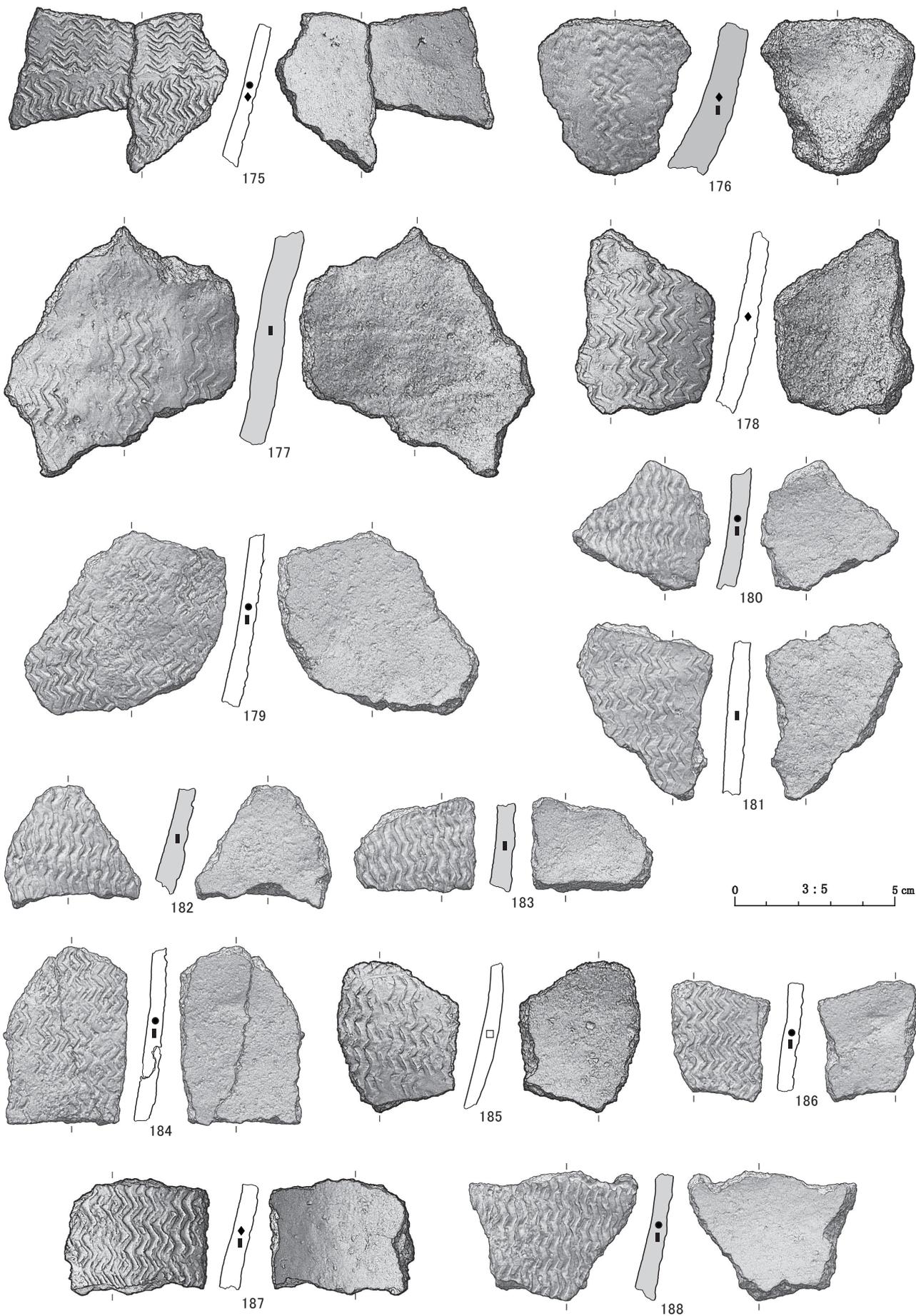
第 49 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (4) 早期



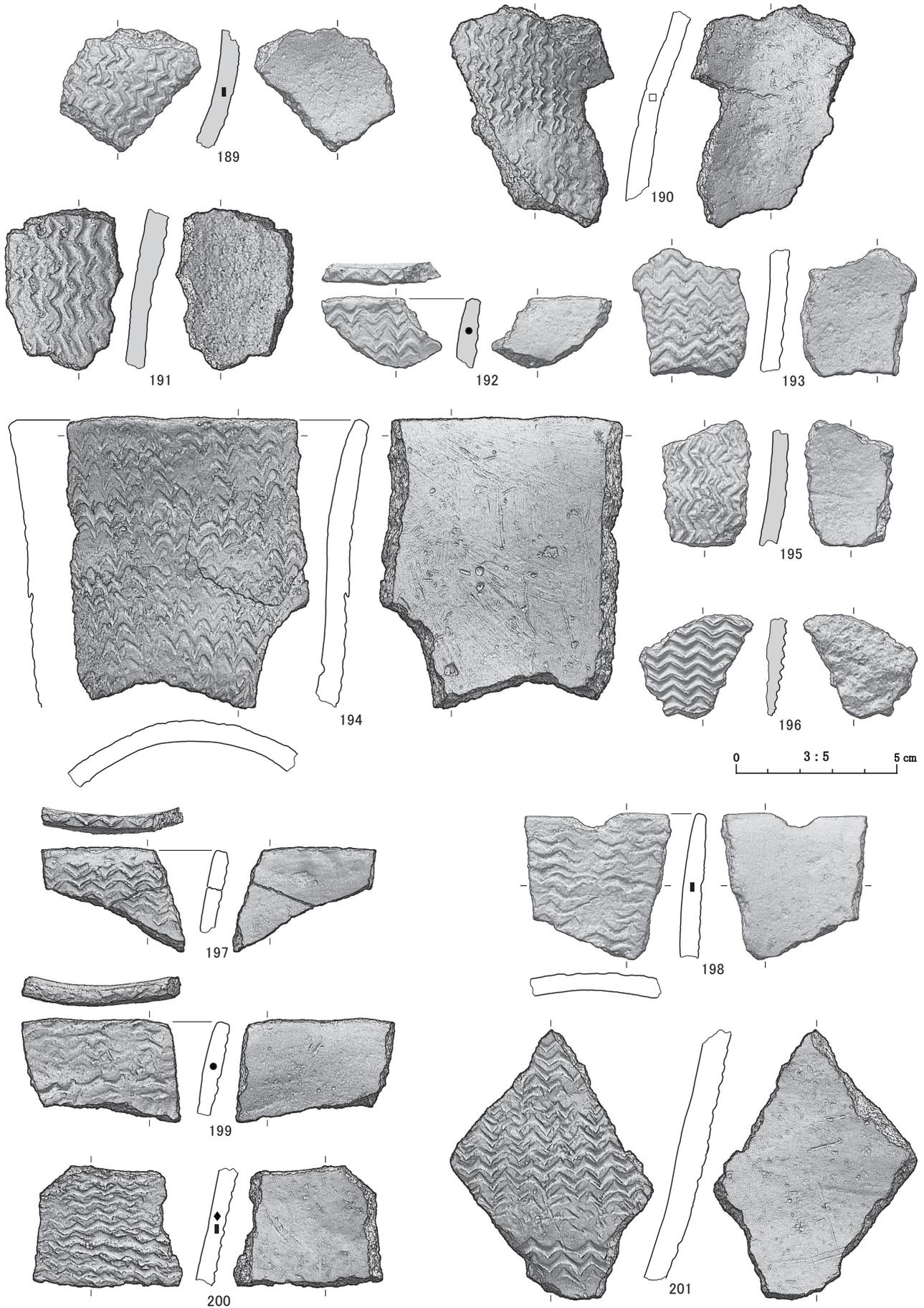
第 50 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (5) 早期



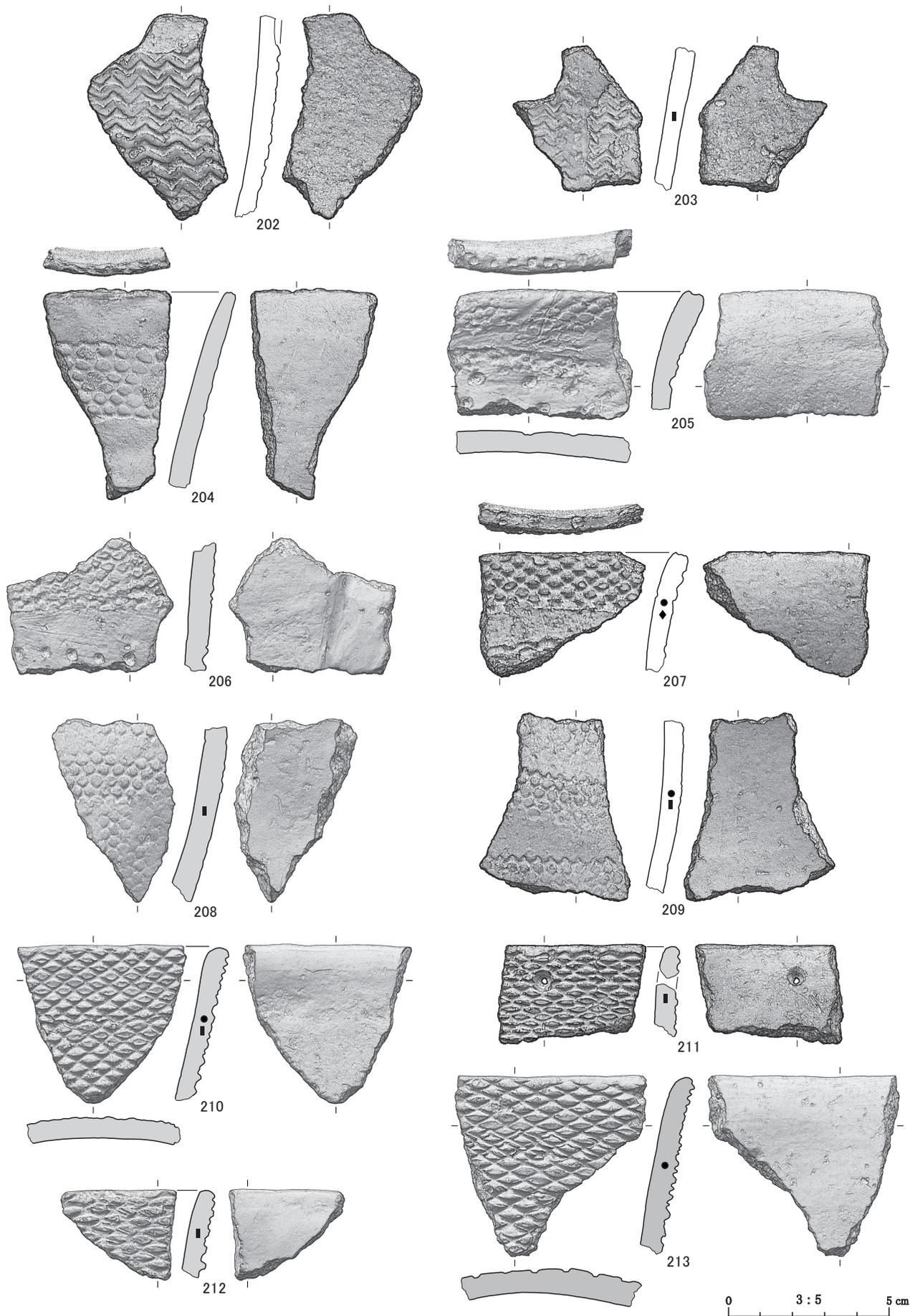
第51図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像(6) 早期



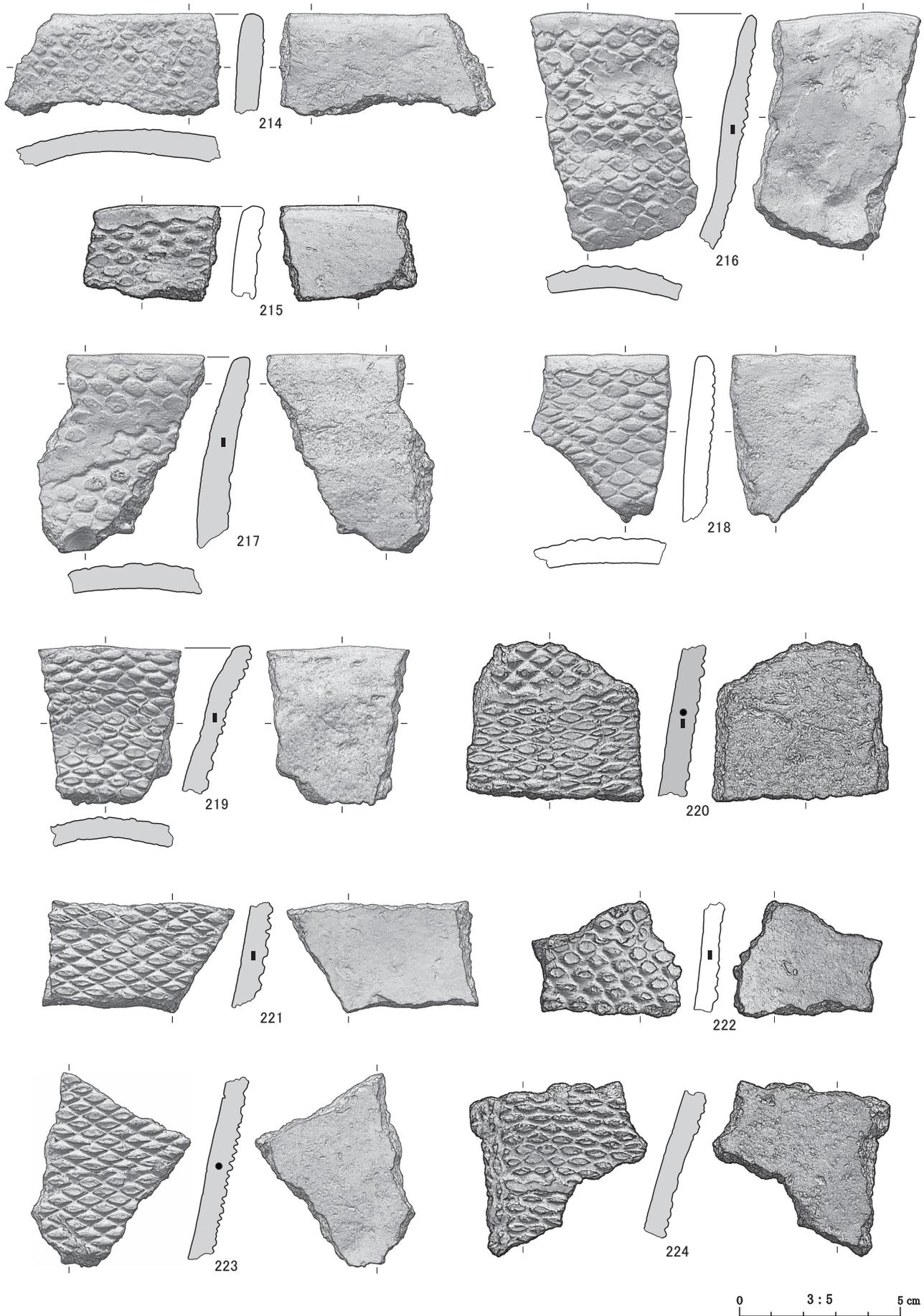
第 52 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (7) 早期



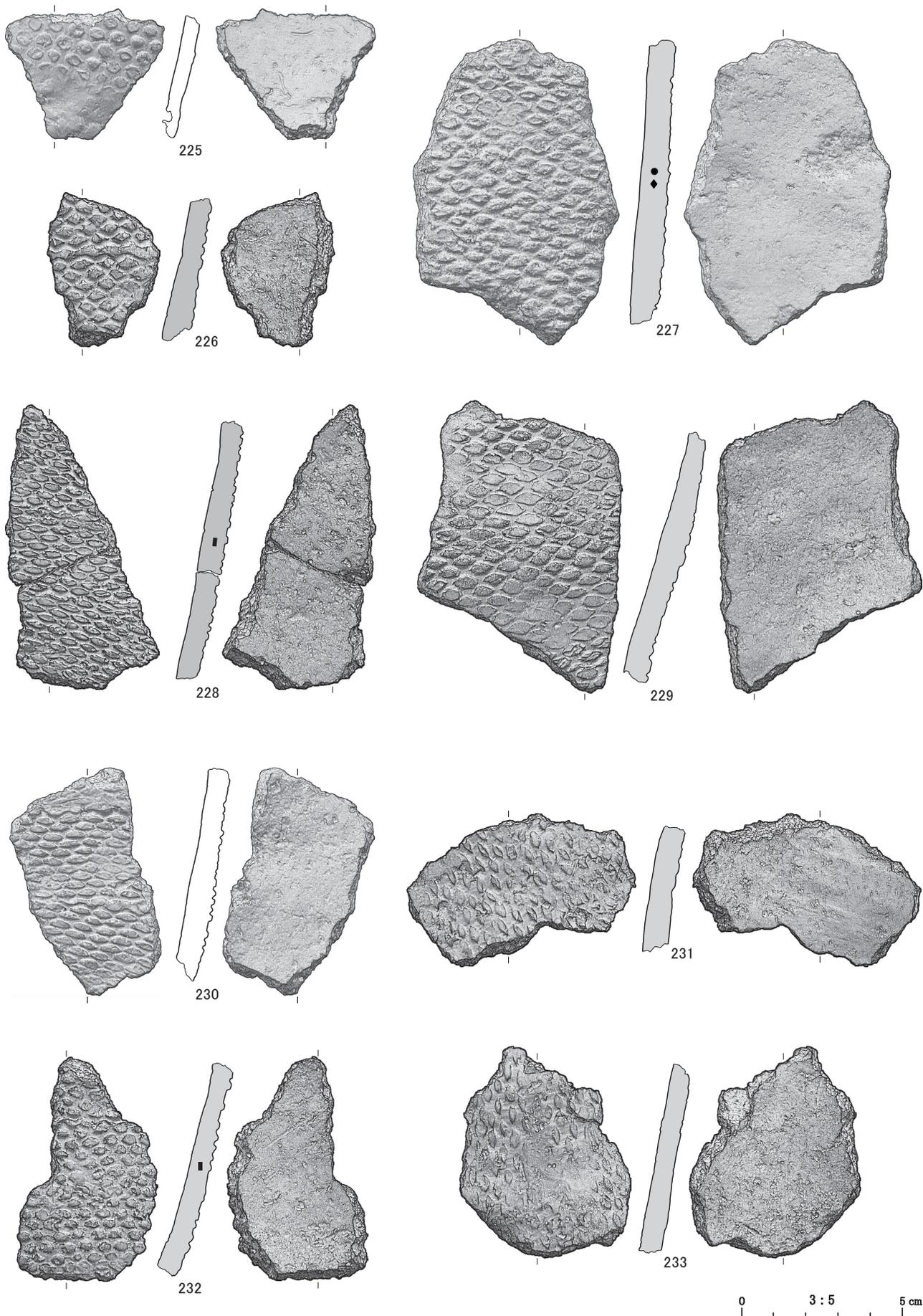
第53図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像(8) 早期



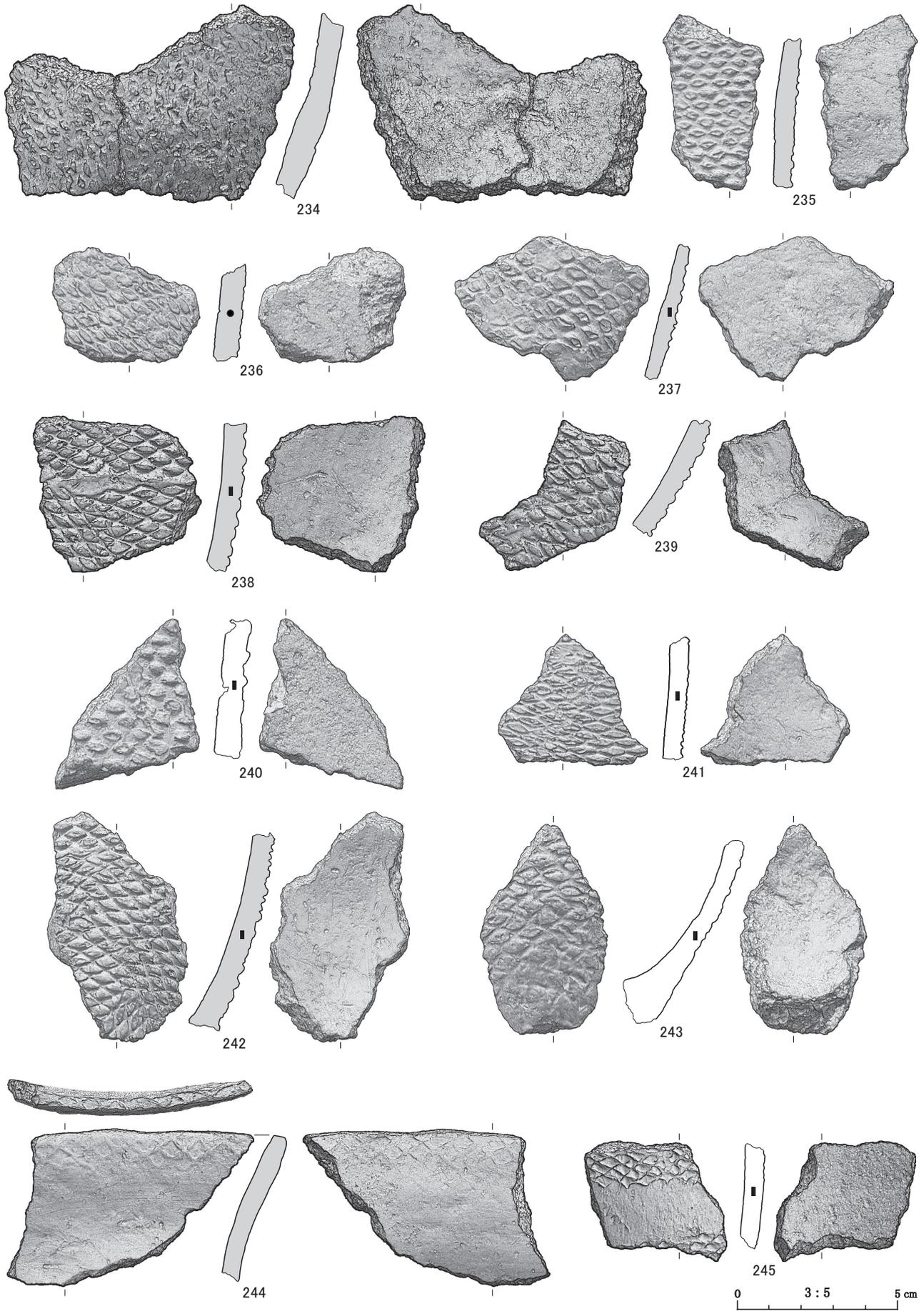
第 54 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (9) 早期



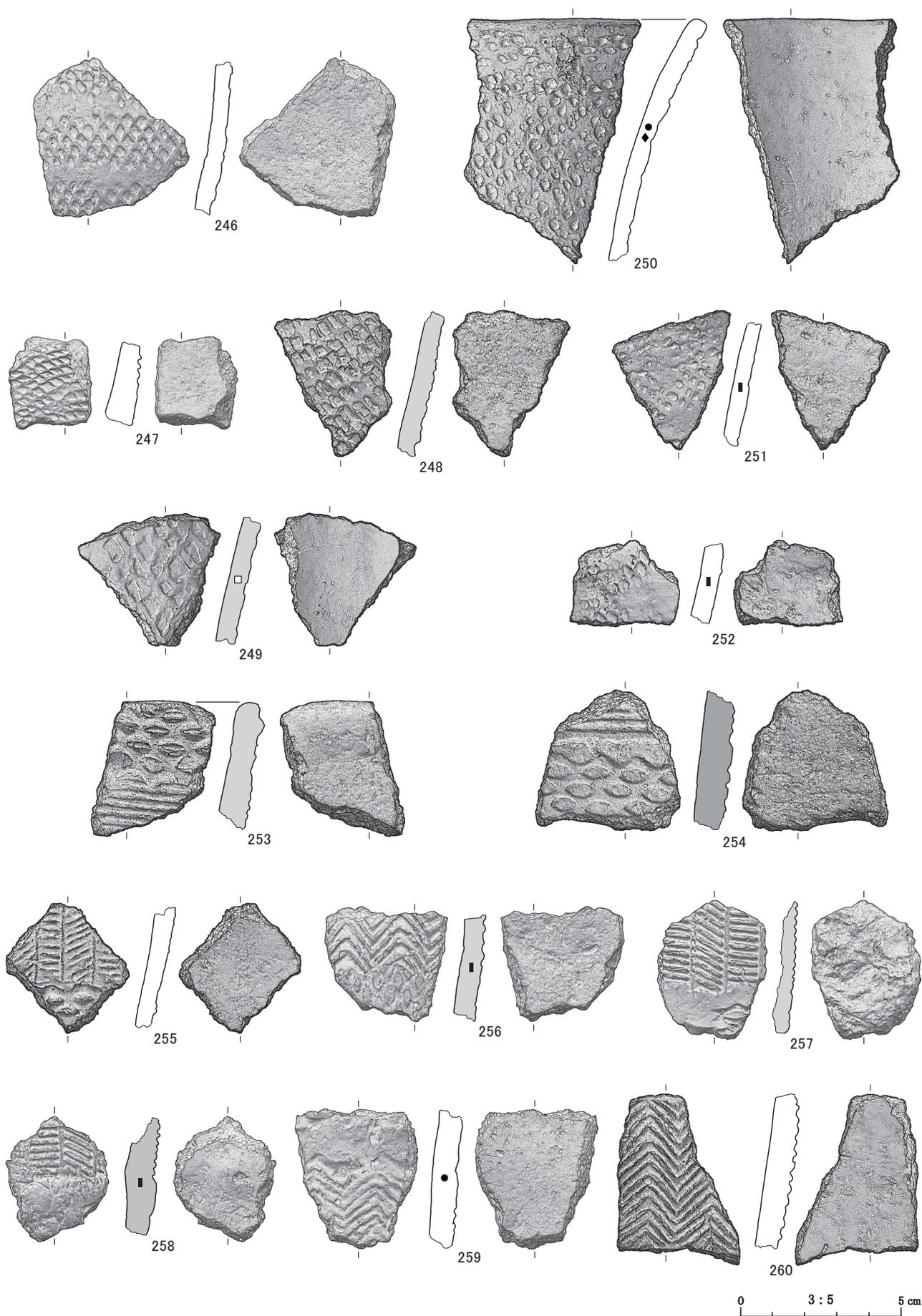
第55図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (10) 早期



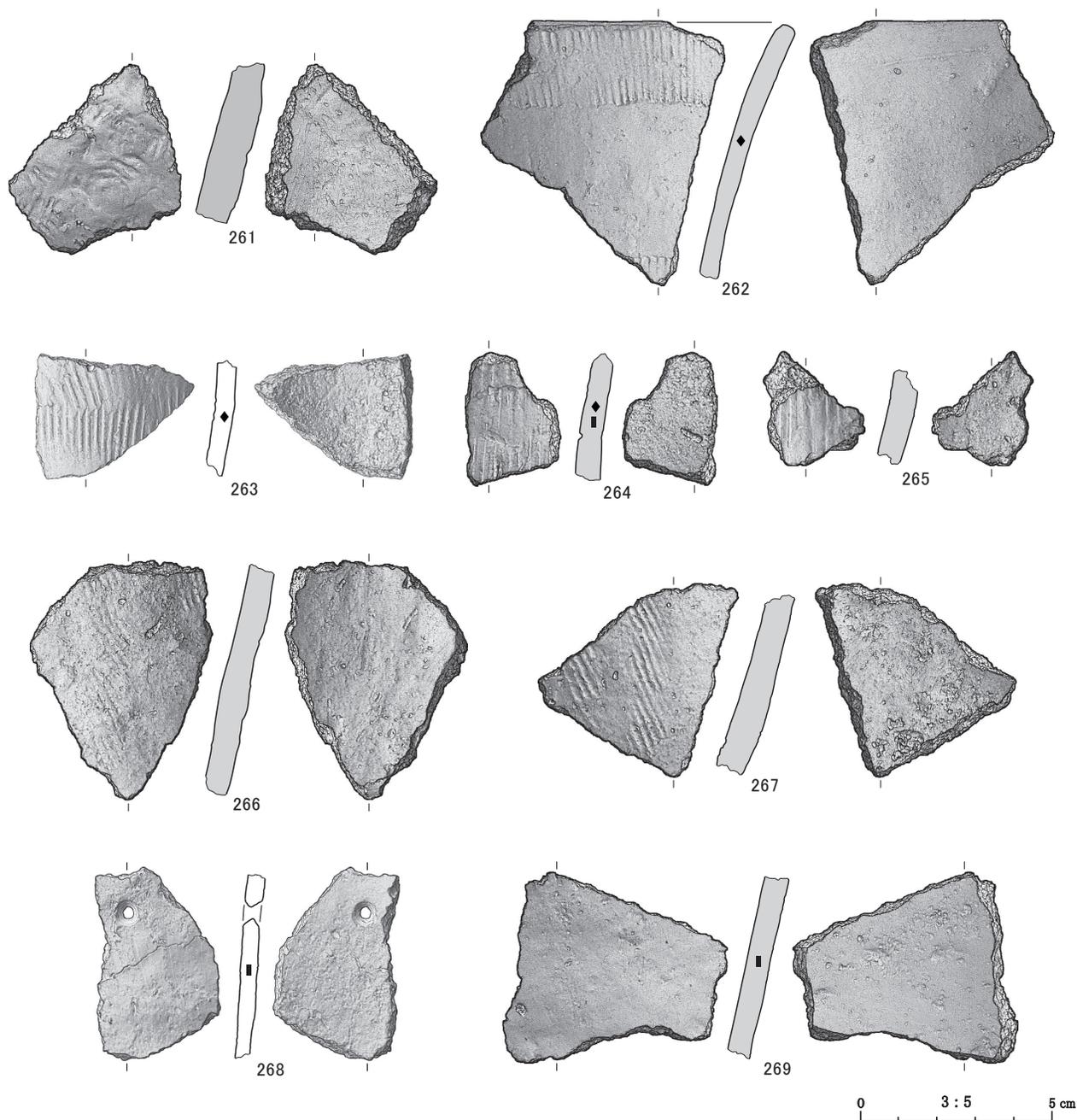
第 56 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (11) 早期



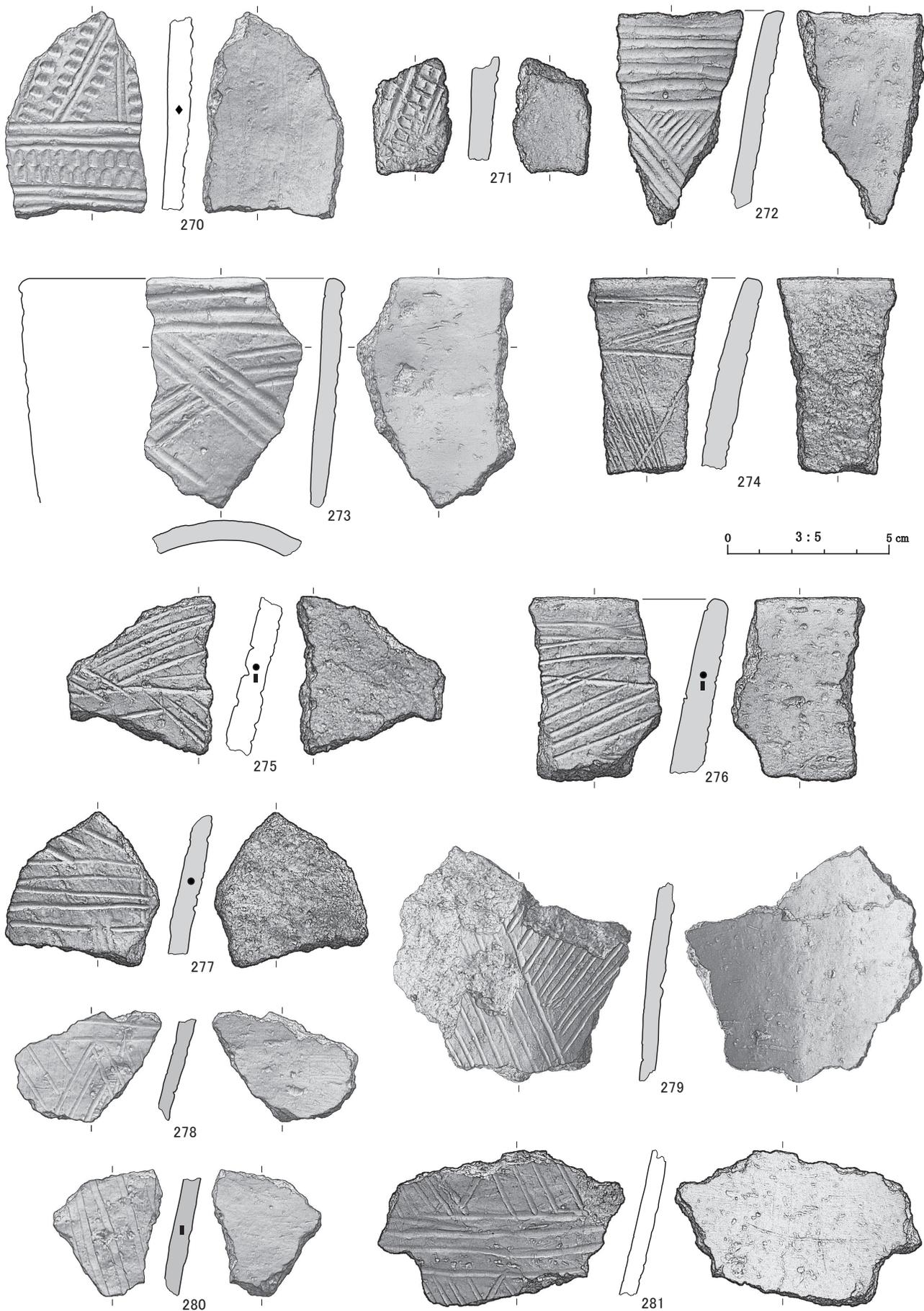
第57図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (12) 早期



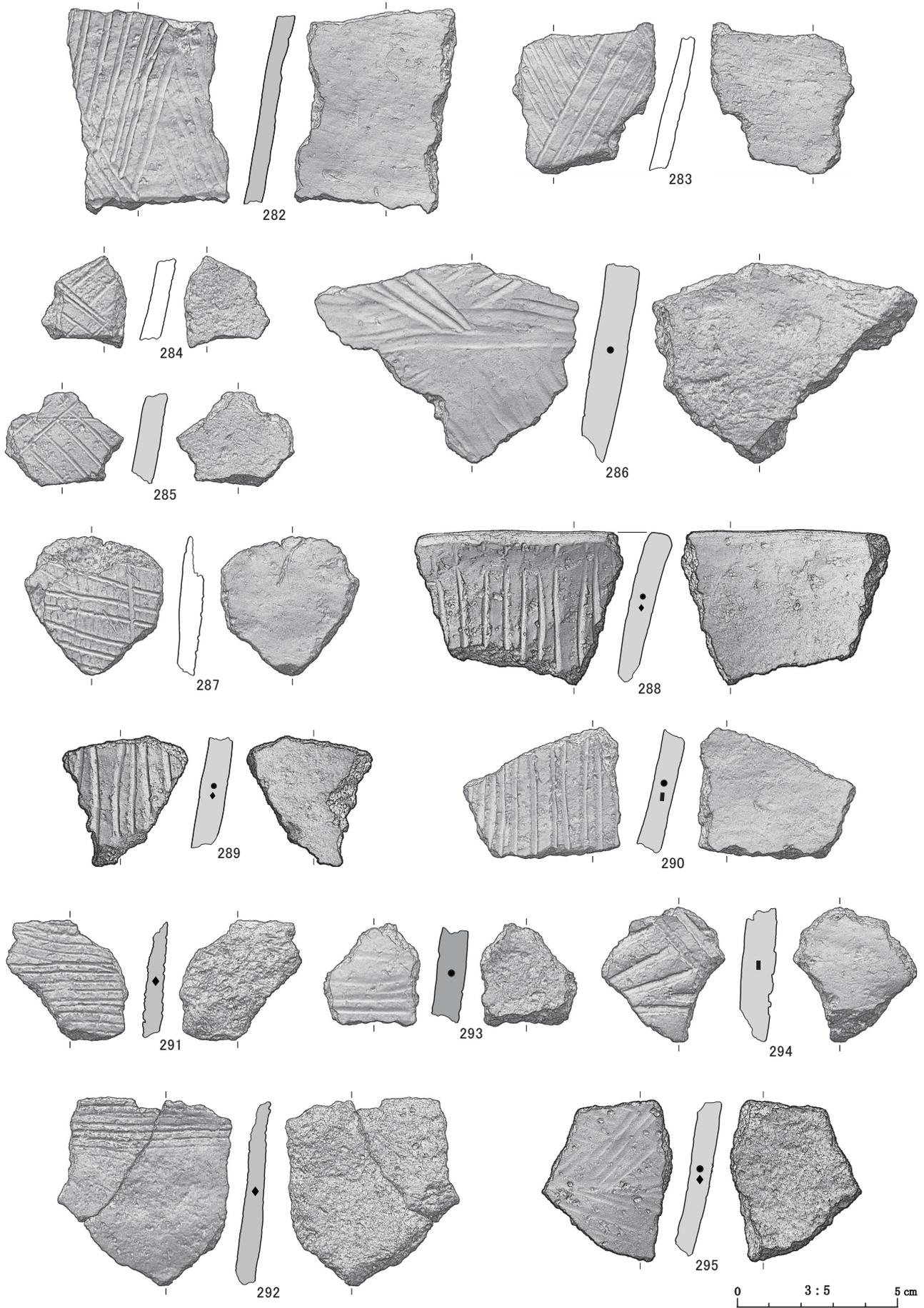
第 58 图 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (13) 早期



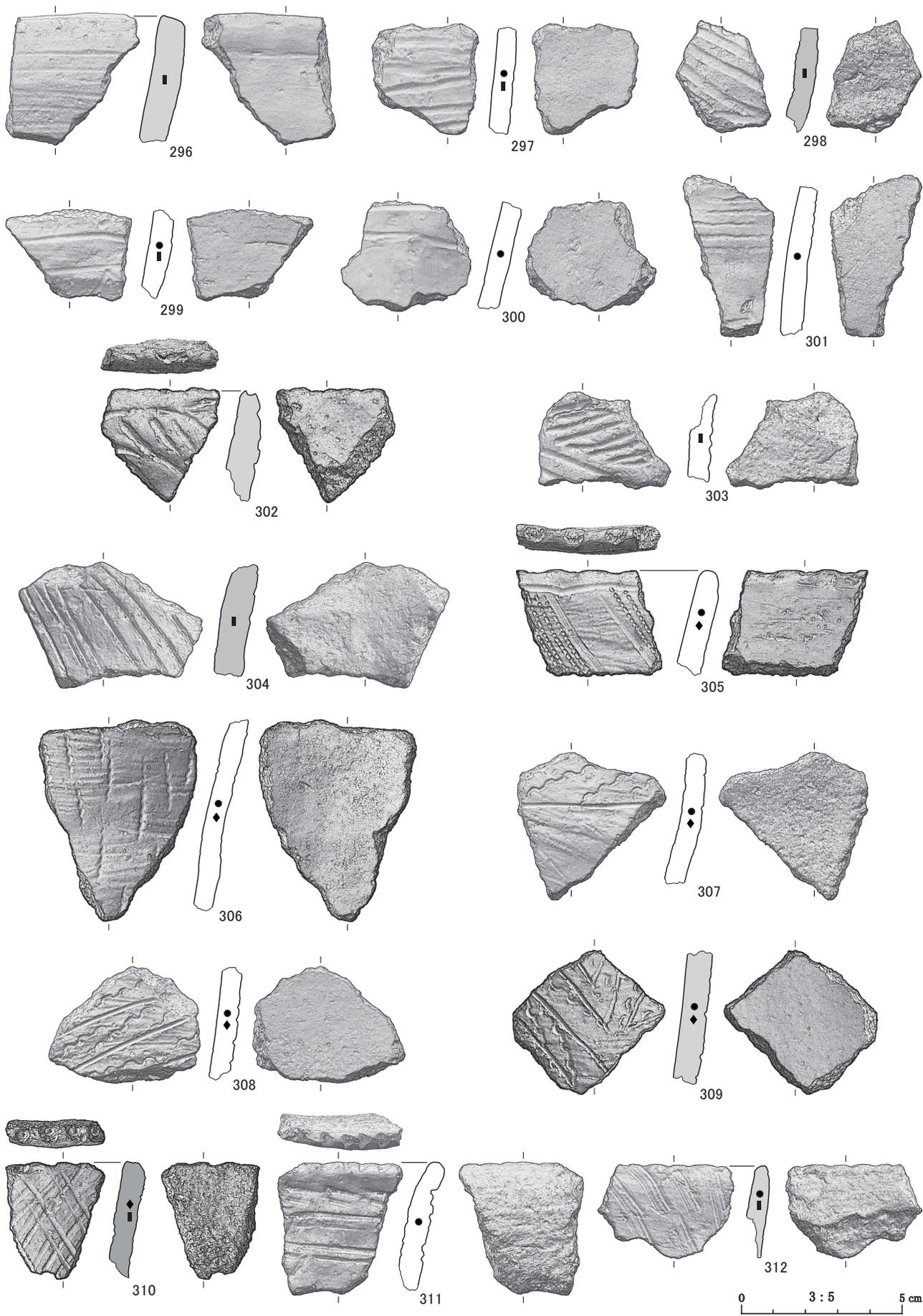
第59図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (14) 早期



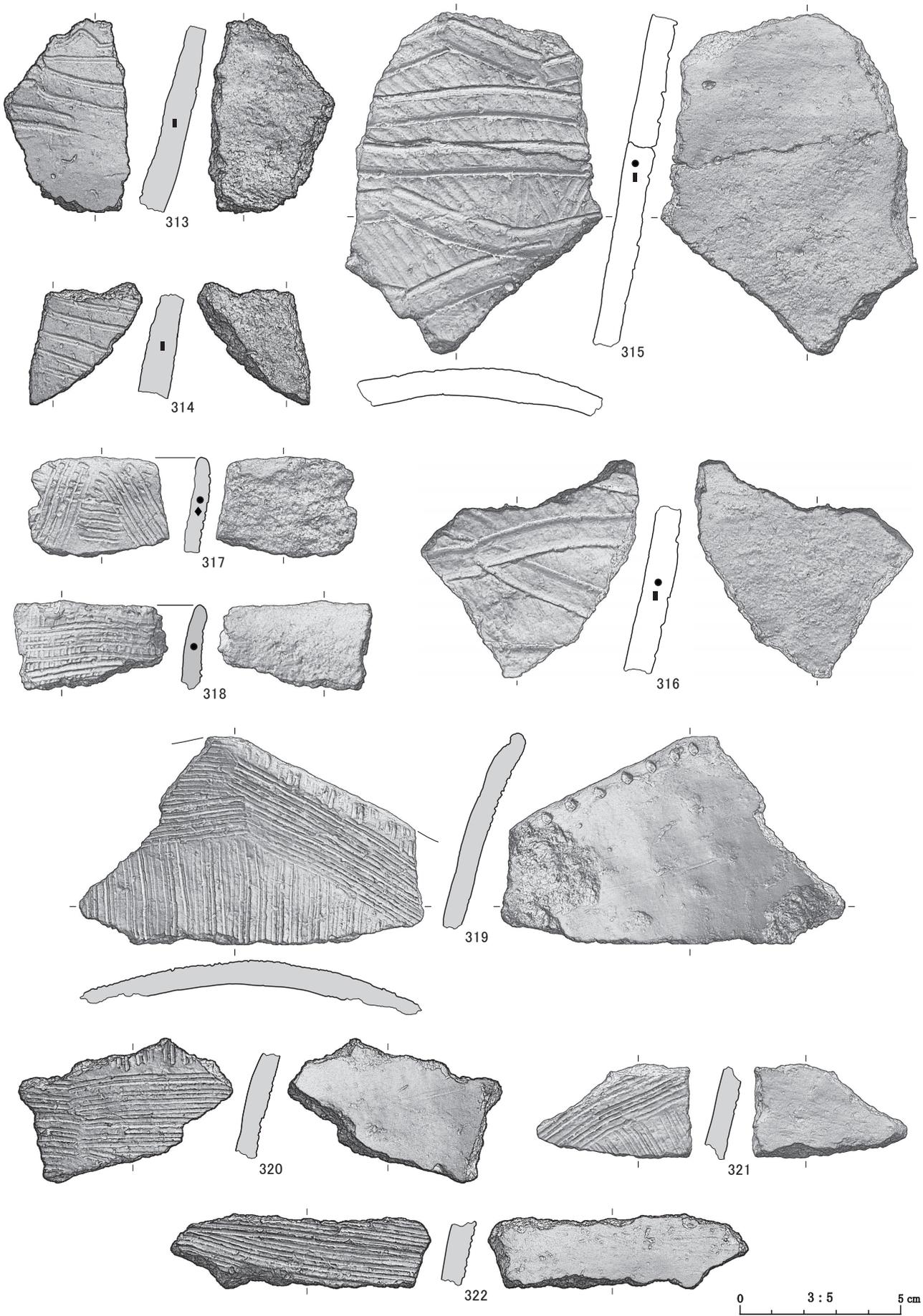
第60图 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (15) 早期



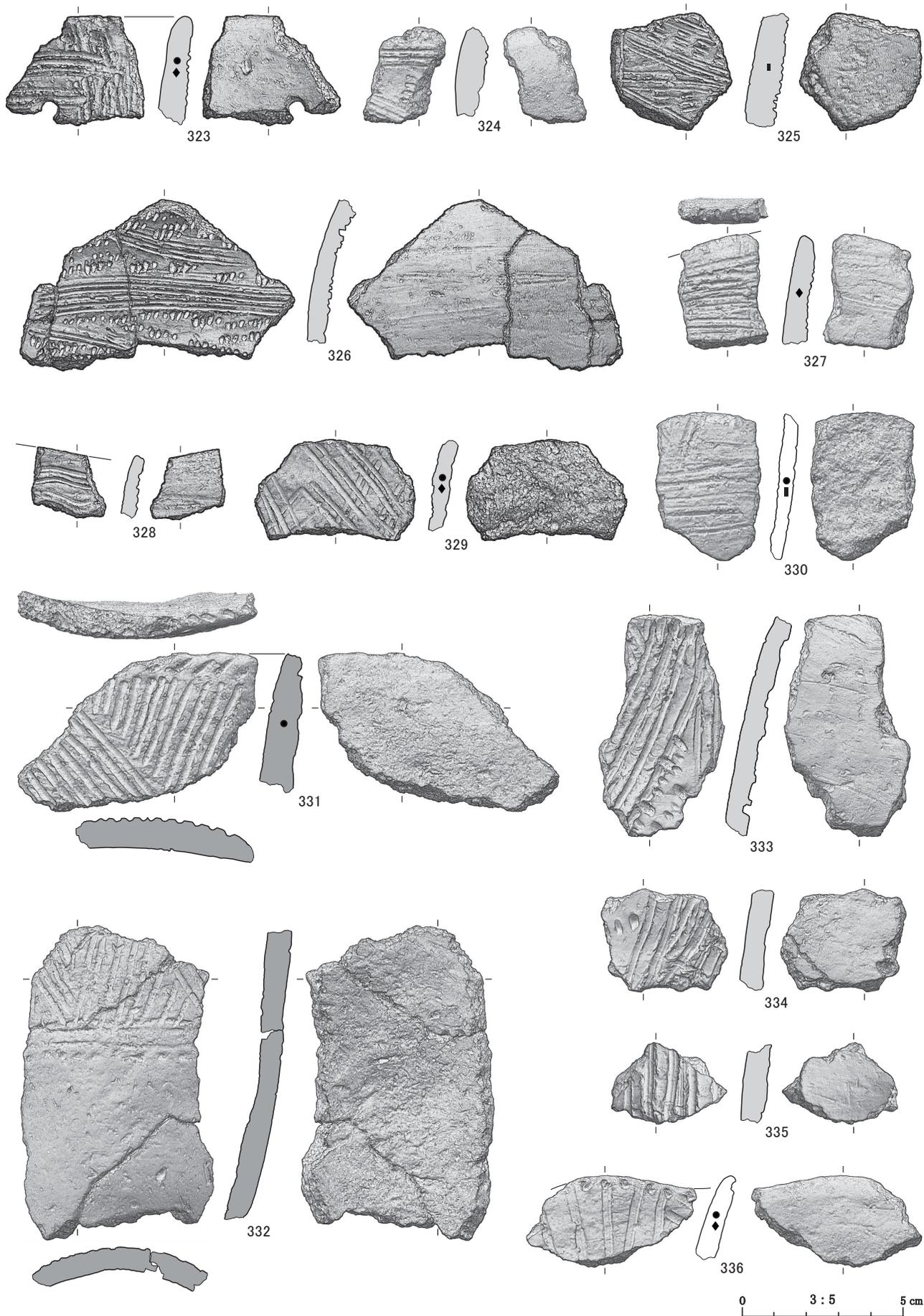
第 61 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (16) 早期



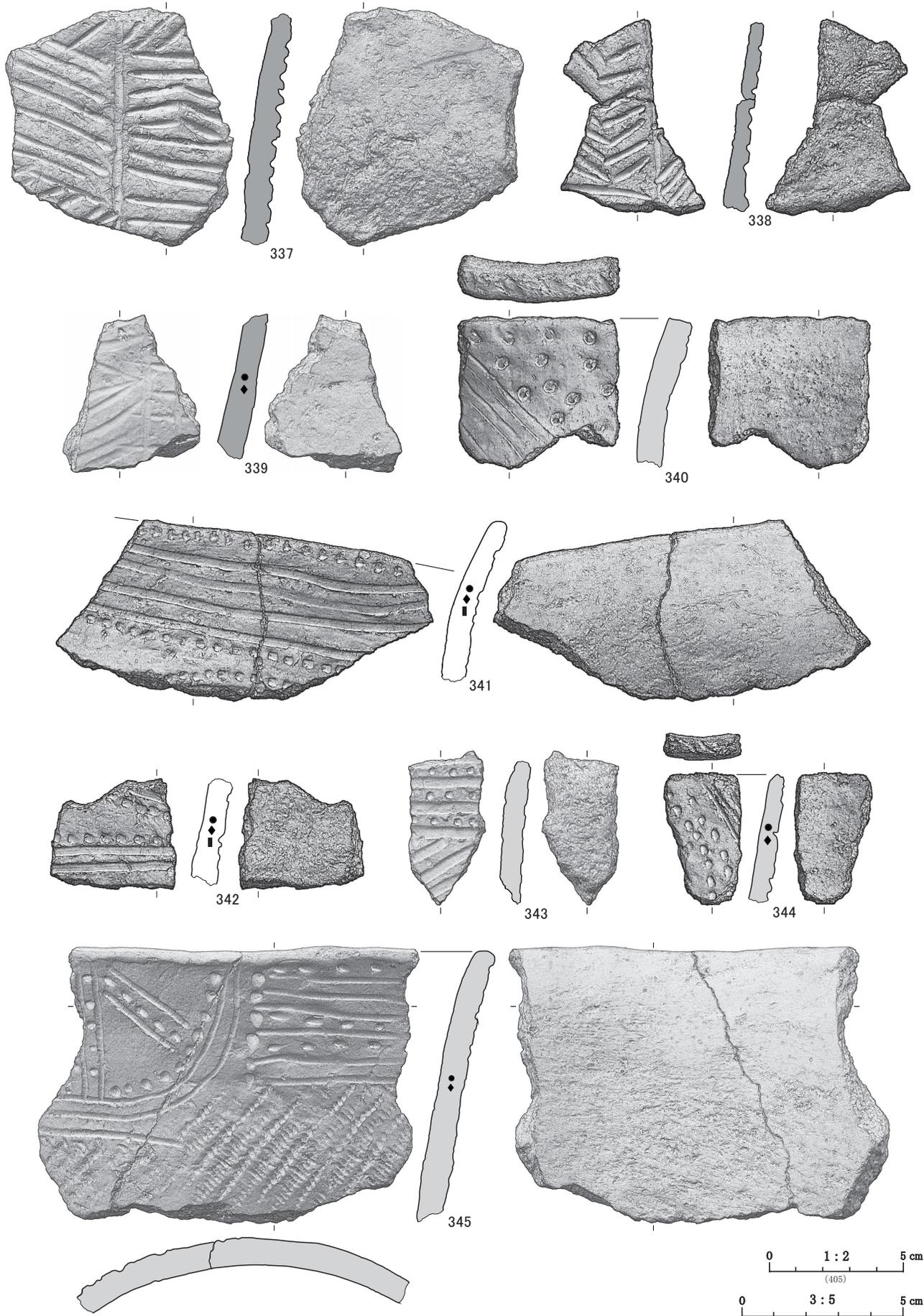
第 62 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (17) 早期



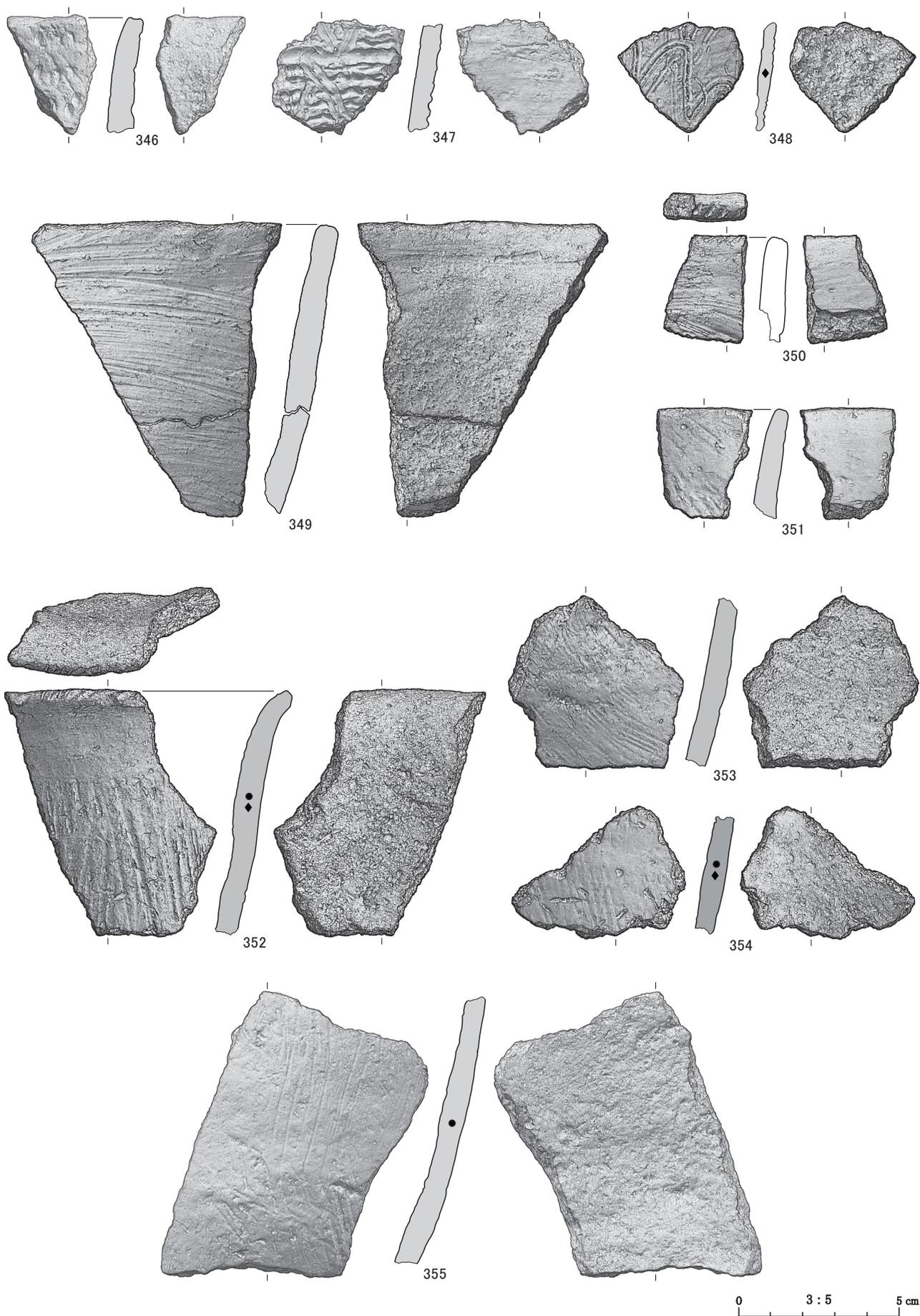
第63図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (18) 早期



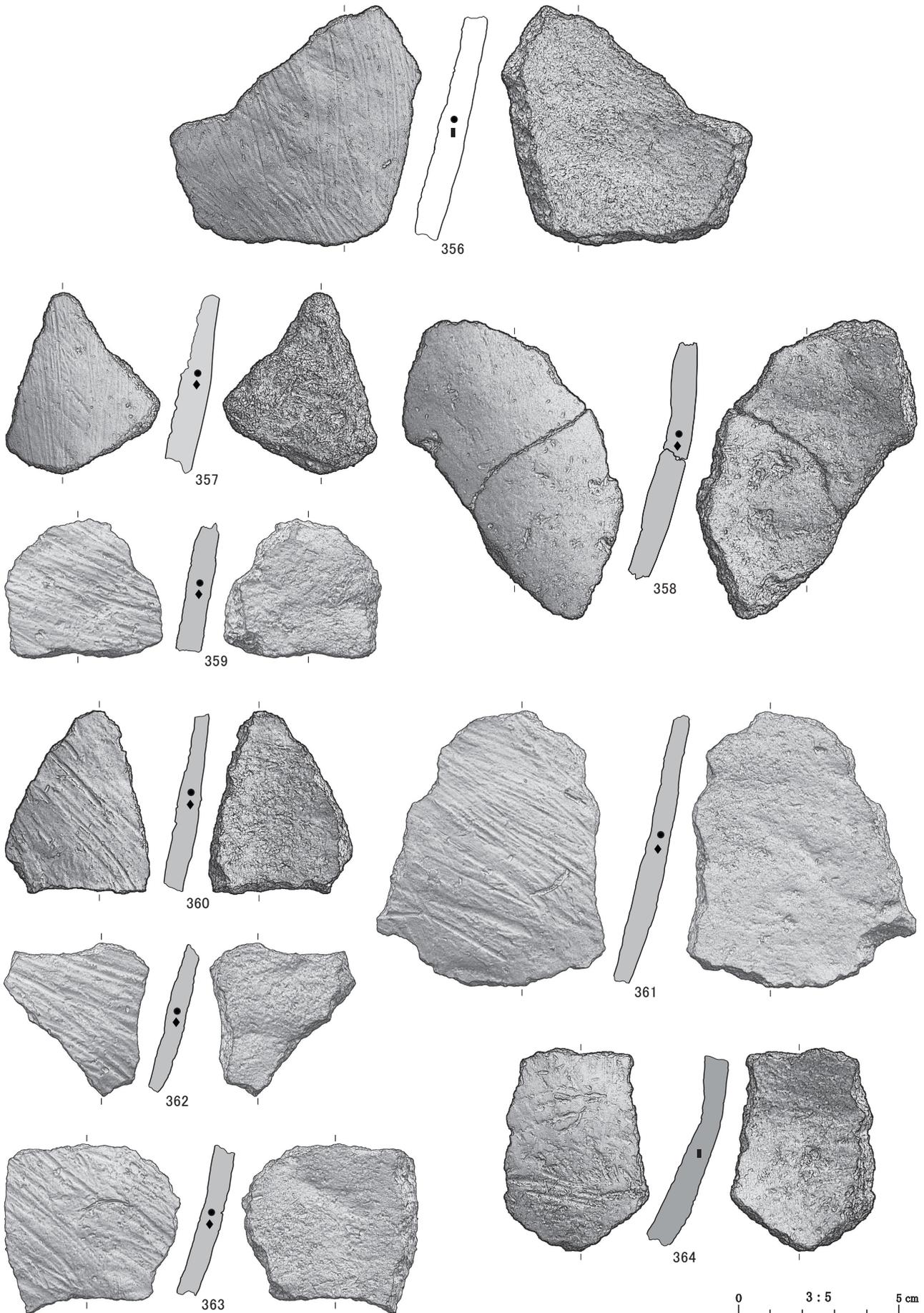
第 64 图 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (19) 早期



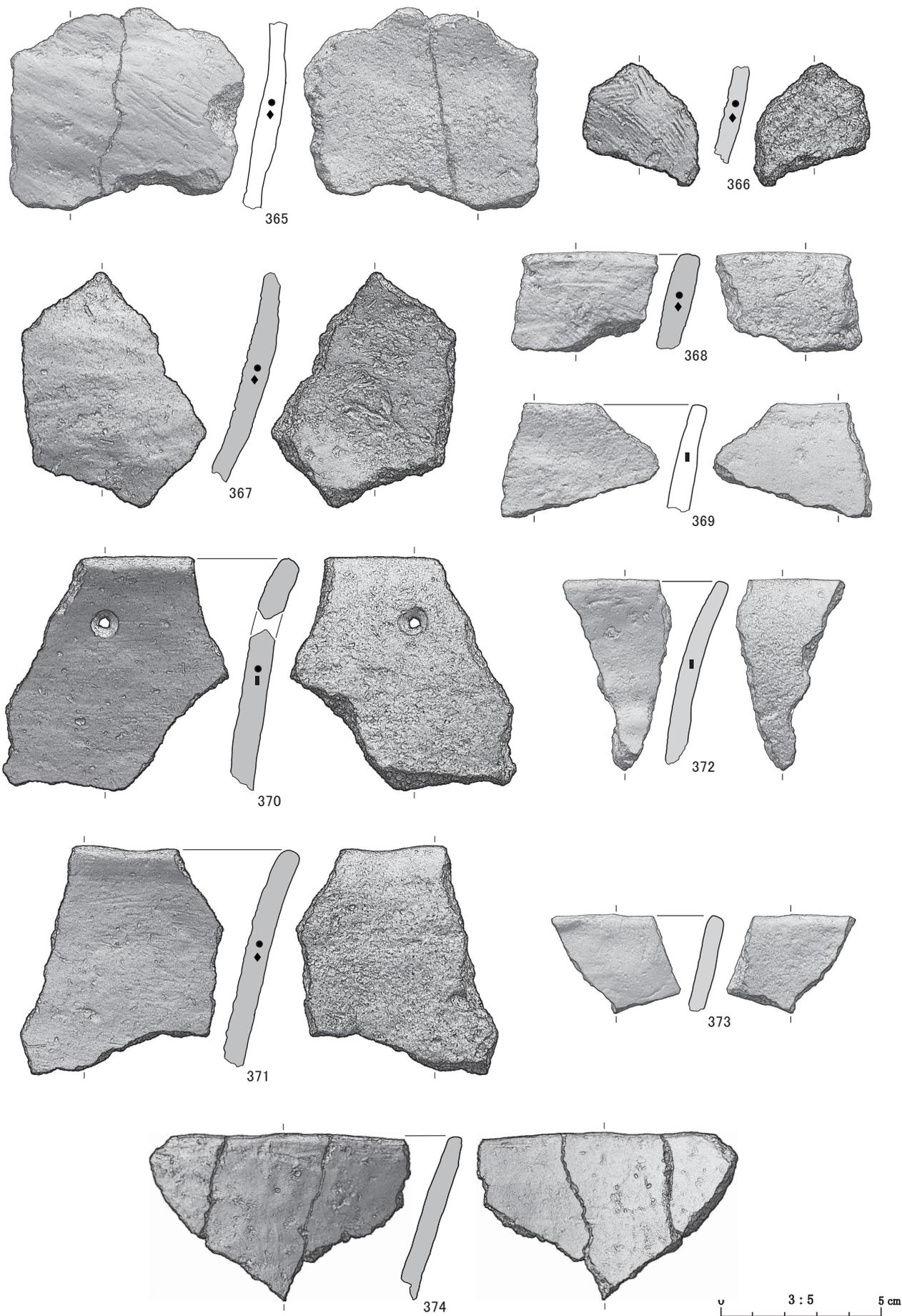
第 65 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (20) 早期



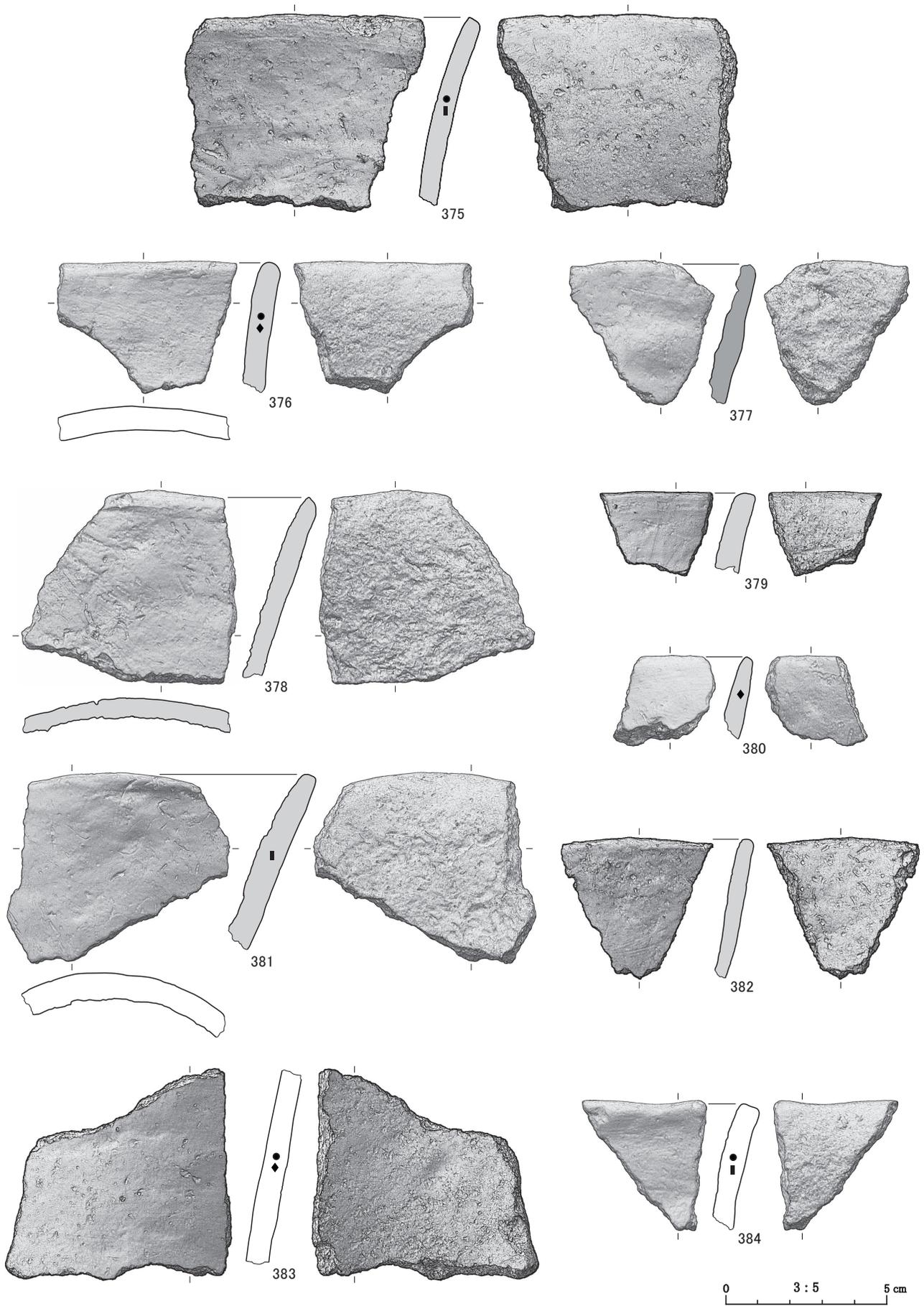
第 66 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (21) 早期



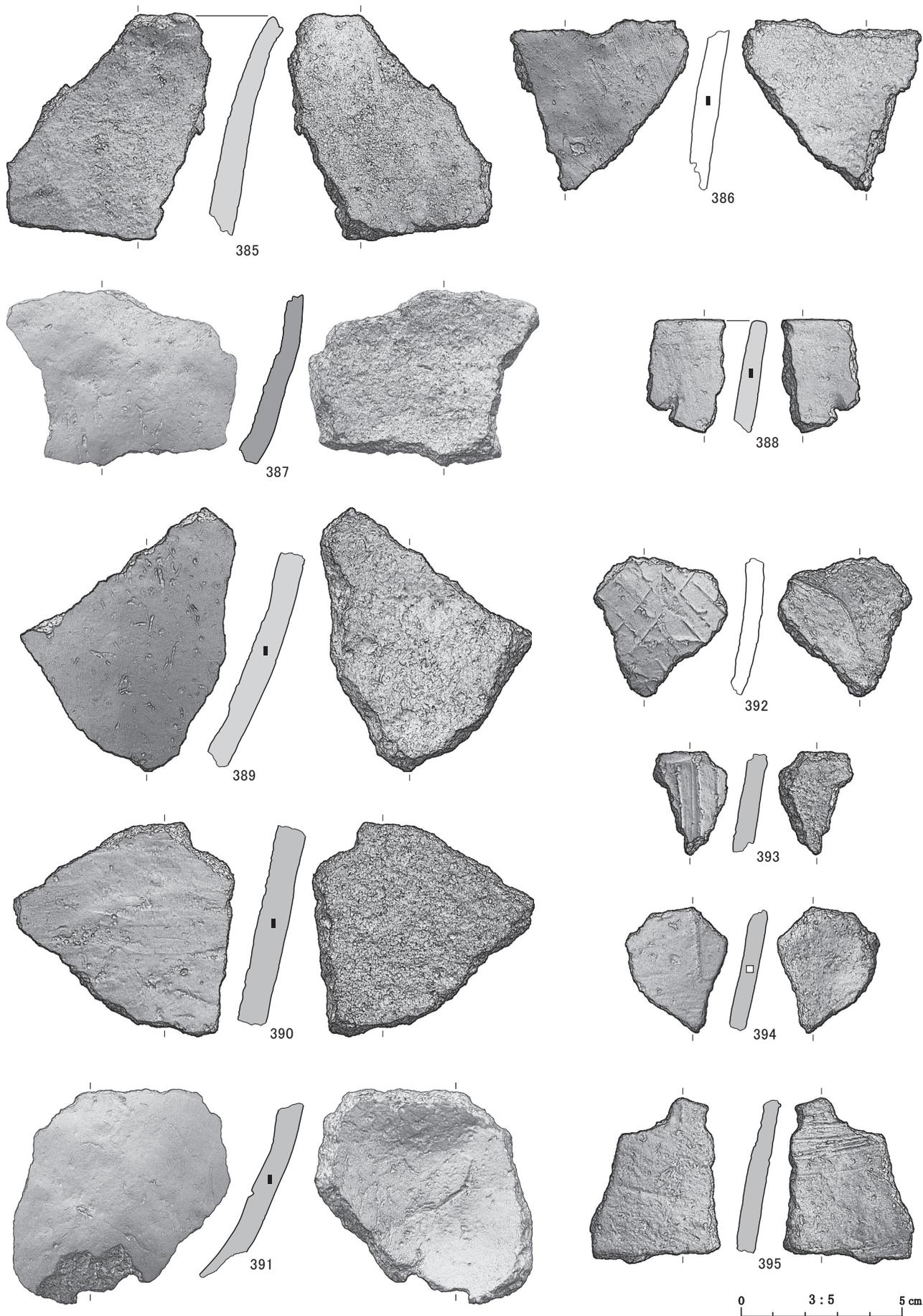
第 67 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (22) 早期



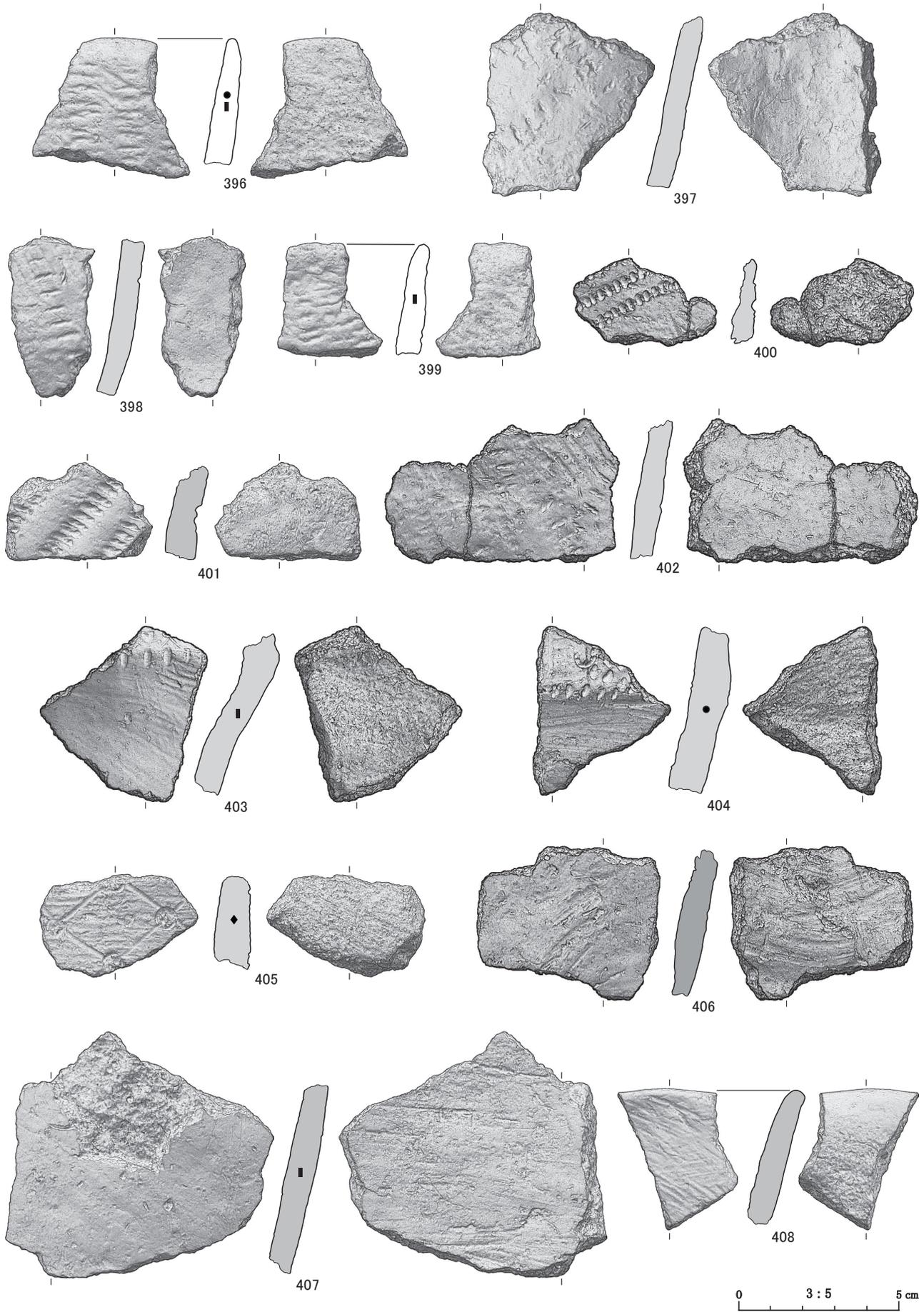
第 68 図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (23) 早期



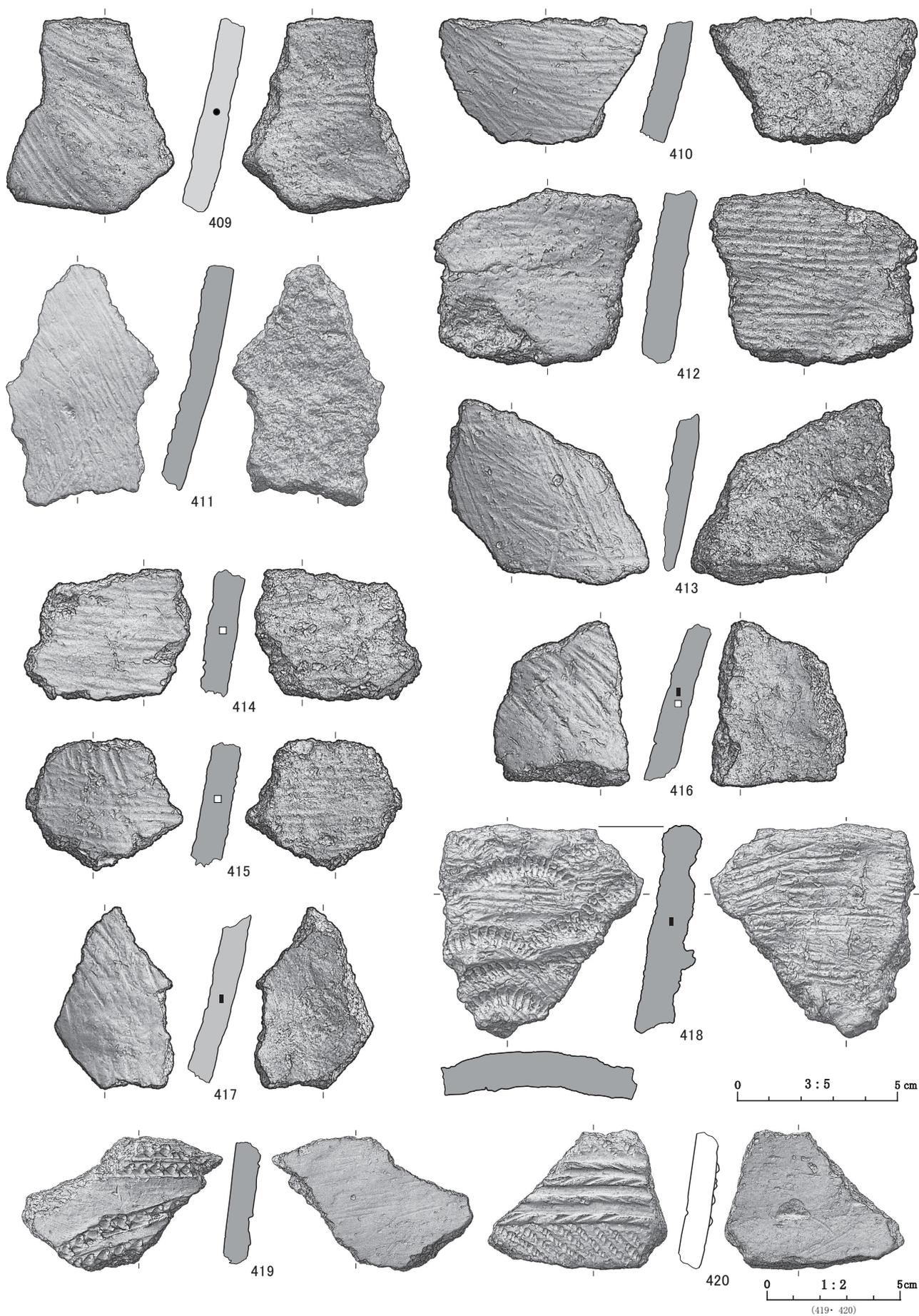
第69図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (24) 早期



第70図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (25) 早期



第71図 前庭部緩斜面出土土器 PEAKIT 画像 (26) 早期



第 72 図 前庭部緩斜面出土 PEAKIT 画像 (27) 早期・前期

第20表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(1) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
107	A2 8層	早期前葉	表裏縄文	深鉢胴部	1mm以下の黒雲母やや多, 1mm以下の黒曜石, 2mm以下の褐色砂粒, 繊維少 7.5YR4/3 7.5YR4/2 7.5YR4/3	内外面ナデ 6mm 4.5g	外面に単節LRを斜位施文。内面に単節LRを横位施文。条幅1.5mm。	
108	A2 8層	早期前葉	表裏縄文	深鉢口縁部	1mm以下の黒曜石, 2mm以下の褐色砂粒, 繊維多, 1mm以下の黒雲母少 7.5YR5/4 7.5YR4/2 10YR4/3	口唇: 尖頭~円頭状 内外面横ナデ 9mm 8.7g	外面に単節LRを縦位施文。内面に燃方向不明の単節縄文を施文。条幅2mm。	
109	A0 9a~9d層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢口縁部	2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 白色砂粒少 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR5/2	口唇: 角頭状 内面指頭圧痕あり 外面縦, 横ナデ, 内面横ナデ 6mm 7.3g	口唇, 外面に単節RLを横位施文。条幅2mm。	
110	A1 10層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢口縁~胴部	4mm以下の黒色礫, 褐色礫, 繊維多, 1mm以下の黒曜石, 黒色砂粒少 7.5YR4/1 7.5YR3/1 7.5YR6/1	口唇: 円頭状 外面ナデ, 内面横ナデ 5~8mm 64.6g	口縁がやや外反する深鉢。単節RLを横位施文。条幅2.5mm	
111	A2 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢口縁部	1mm以下のカンラン石, 黒雲母やや多, 1mm以下の角閃石少, 繊維僅か 5YR5/6 5YR5/6 5YR5/6	口唇: 尖頭状 口唇指頭圧痕あり 内外面斜ミガキ 3~8mm 10.8g	単節RLを斜位施文し、縦走縄文を施す。条幅2mm。	内面に不明木材圧痕(圧痕分析No.3)
112	A1 10層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢口縁部	2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 繊維多, 1mm以下の黒曜石僅か 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR4/1	口唇: 角頭状 内面斜ケズリ, 口唇直下横ナデ 5mm 22.6g	単節RLを横位施文。条幅1.5mm。	
113	A1 調査区内一括	早期前~中葉	回転縄文	深鉢口縁部	1mm以下の黒色砂粒, 5mm以下の褐色礫・砂粒多 5YR3/1 5YR5/3 5YR5/3	口唇: 隅丸角頭状 内面横ナデ 9mm 15.4g	口縁に単節LRを横位施文。外面に単節RL。LRを横位に浅く施文。	外面黒色化。
114	A0 土留部分28	早期前~中葉	回転縄文	深鉢口縁部	2mm以下の褐色礫, 白色砂粒少 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR4/1	口唇: 角頭状 外面横ナデ, 内面縦ナデ 7mm 12.7g	口縁が外反する深鉢。口唇直下に無文部を残し、斜縄文を施す。原体不明。	器表面~断面まで均質に黒色。口唇内側縦位の擦痕。
115	A2 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢口縁部	繊維多, 1mm以下の白色砂粒やや多, 1mm以下の褐色砂粒少 7.5YR4/2 7.5YR3/2 7.5YR3/2	口唇: 角頭状, 内削ぎ 内面指頭圧痕あり 内外面横ナデ 7~10mm 22.4g	口唇にヘラ状工具を斜角にあてて刻みを施す。外面に①隆起線を横位に貼付、側縁を完全にナデ付ける。②単節RLを横位施文。節が間延びしており原体要検討。	
116	A1 円形落込み1層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 褐色砂粒少, 繊維僅か 10YR5/2 7.5YR7/3 10YR5/2	内外面ナデ 7mm 26.9g	胴部に段を有する深鉢。①上部に単節LRを横位施文。②下部に単節LRを横位施文。条幅4mm	
117	A1 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 褐色砂粒, 繊維少 10YR6/2 10YR7/3 10YR4/1	内外面指頭圧痕あり 外面縦ナデ, 内面ナデ 6.5mm 28.1g	単節RLを横位施文。条幅3mm。	内面~断面黒色化。
118	A0 9a~9d層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 4mm以下の褐色礫, 褐色砂粒, 繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR4/1	外面横ナデ, 内面縦ナデ 6mm 27.9g	単節LRを横位施文。条幅2.5mm。	内面黒色化, 外面黒斑あり。
119	A1 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	繊維多, 1mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 白色砂粒少 10YR5/2 10YR7/3 10YR3/2	内外面指頭圧痕あり 外面ナデ, 内面横ナデ 7mm 10.9g	単節LRを縦位施文。条幅2mm。	内面黒色化。
120	A0 調査区内一括	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	繊維多, 1mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒やや多 7.5YR6/2 7.5YR4/2 7.5YR4/2	内面ナデ 8mm 8.7g	単節RLを横位施文。条幅2mm。	内面~断面黒色化。
121	A2 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の長石やや多, 1mm以下の角閃石, 繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面斜ナデ 7~8.5mm 9.2g	単節LRを縦位施文。条幅3mm	内面~断面黒色化。
122	A0 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の角閃石, 2mm以下の褐色礫, 繊維少 10YR6/2 10YR7/3 10YR6/2	外面縦ナデ, 内面縦ミガキ 5mm 9.7g	上下に約1cmの間隔を空けて単節LRを横位施文。条幅2.5mm。	内面黒斑あり。
123	A2 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	繊維多, 1mm以下の白色砂粒, 2mm以下の褐色砂粒少 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面斜ナデ 7.5mm 11.0g	無節Lを縦位施文。条幅2mm。	内面~断面黒色化。内面に不明種実圧痕(圧痕分析No.5)
124	A1 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 繊維僅か 7.5YR4/1 10YR6/2 10YR4/1	内外面斜ナデ 7mm 7.8g	単節RLを縦位施文。条幅2mm。	内面黒色化。
125	A1 10層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	5mm以下の黒色礫, 褐色礫多, 繊維少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR5/2	内外面ナデ 5.5mm 7.8g	単節RLを縦位施文。条幅2mm。	内面黒斑あり。
126	A2 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下のカンラン石多, 1mm以下の黒雲母, 繊維少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR4/1	内面横ナデ 7.5mm 6.7g	単節LR, 単節RLを横位施文し、羽状縄文を施す。条幅2mm。	内面黒色化, 摩耗。
127	A1 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下のガラス質透明砂粒多, 1mm以下の角閃石, 黒曜石やや多, 1mm以下の黒雲母, 褐色砂粒僅か 5YR6/6 5YR5/6 7.5YR5/2	外面斜ナデ 7mm 5.8g	単節RLを浅く横位施文。条幅2mm。	内面摩耗。
128	A0 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	3mm以下の褐色礫, 繊維多, 1mm以下の黒色砂粒少 10YR6/2 7.5YR7/2 7.5YR4/1	外面ナデ 7mm 11.5g	単節LRを縦位施文。施文後の調整により一部潰れる。	内面黒色化。
129	A1 10層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 繊維少 7.5YR6/1 7.5YR6/1 7.5YR6/1	内外面ナデ 9mm 12.8g	単節RLを浅く横位施文。条幅3mm。	内面黒色化。8657 ± 32BP (PLD-43806)
130	A1 10層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石, 黒色砂粒やや多, 4mm以下の黒色礫, 褐色礫少, 繊維多 7.5YR4/1 7.5YR4/1 3.5YR5/3	内面ナデ 7~8.5mm 10.6g	単節RLを横位施文。条幅2mm。	断面黒色化。130~132同一個体。
131	A0 9a~9d層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	繊維多, 1mm以下の角閃石, 黒曜石, 黒色砂粒やや多, 4mm以下の黒色礫, 褐色砂粒少 7.5YR4/1 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面横ナデ 8mm 23.3g	単節RLを横位施文。条幅2.5mm	内面黒色化。
132	A1 10層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	繊維多, 1mm以下の角閃石, 黒曜石, 黒色砂粒やや多, 4mm以下の黒色礫, 褐色砂粒少 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR5/2	外面指頭圧痕あり 内外面横ナデ 8mm 29.5g	単節RLを横位施文。条幅2.5mm	
133	A0 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	5mm以下の褐色礫少, 2mm以下の黒色礫, 白色礫, 褐色礫僅か 5YR4/1 2.5Y7/1 2.5Y7/1	内面横ナデ 外面ナデ 5.5mm 15.0g	単節RLを横位施文。条幅は4mm。	
134	A1 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の黒雲母, ガラス質透明砂粒やや多, 2mm以下の褐色砂粒少 5YR6/6 断 5YR7/6 面 7.5YR4/1	外面ナデ 6mm 14.0g	単節RL, 単節LRを横位施文し、羽状縄文を施す。条幅2mm。	内面摩耗, 黒色化。
135	A0 9層	早期前~中葉	回転縄文	深鉢胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母, 光沢黒色砂粒多, 繊維少 5YR6/4 7.5YR7/2 10YR2/1	外面横ナデ, 内面横, 斜ナデ 9mm 38.5g	単節LRを横位施文。条幅は4.5mmと3mm。	内面~断面黒色化。
136	A1 10層	早期前~中葉	燃糸文	深鉢口縁部	6mm以下の褐色礫やや多 5YR5/3 5YR5/3 5YR5/2	口唇: 隅丸角頭状, 外面にやや肥厚 内面横ナデ 6.5mm 25.2g	口縁部が外反する深鉢。燃糸文rを斜格子状に施文。条幅1mm。燃糸文と同じ傾斜角で1段R縄の側面圧痕を数条残す。	
137	A1 9層	早期前~中葉	燃糸文	深鉢胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒少, 繊維僅か 5YR6/6 10YR6/3 10YR3/1	内外面ミガキ 8mm 20.4g	絡条体条痕を斜位施文。縄原体不明。	内面黒色化。
138	A1 10層	早期前~中葉	燃糸文	深鉢胴部	1mm以下の角閃石少 7.5YR5/3 7.5YR4/1 7.5YR4/1	外面ナデ 7mm 7.7g	燃糸文Rを縦位施文。条幅2mm。	内面~断面黒色化。内面摩耗。
139	A1 9層	早期前~中葉	燃糸文	深鉢胴部	1mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 繊維少 10YR6/3 5YR4/6 7.5YR4/2	内外面ナデ 6mm 4.1g	燃糸文Rを横位施文。条幅1.5mm。	
140	A0 8層	早期中葉	燃糸文	深鉢胴部	1mm以下の角閃石, 長石, 繊維多 10YR3/2 10YR5/3 7.5YR4/4	外面横ナデ, 内面斜ナデ 10mm 21.8g	燃糸文Lを横位施文。	

第21表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(2) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
141	A2 10層最上面	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒少 7.5YR4/2 7.5YR4/2 7.5YR5/4	口唇: 角頭状 口唇ミガキ, 内外面横ナデ 7.5mm 117.8g	口縁が外反する深鉢. 推定口径 30cm. 口唇に幅 2mm で断面半円形の刺突文を斜位施文. 外面に山形文を横位に密接, 帯状に施文.	外面黒斑あり. 写真 図版 17-4 図目左.
142	A1 円形落込み 2層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁~胴部	1mm以下の角閃石, 3mm以下の黒色礫・砂粒, 褐色礫僅か 7.5YR6/6 7.5YR6/2 7.5YR5/1	口唇: 角頭状, 外面肥厚 外面縦ナデ, 内面横ナデ 4.5mm 79.4g	推定口径 20cm. 口唇が突出, 口縁が緩く外反する. 口唇に山形文を施文. 外面に山形文を横位に帯状施文. 原体長 3.2cm. ナデにより山形文を一部消す.	外面黒斑あり. 写真 図版 17-3 図目左.
143	A1 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	4mm以下の褐色礫・砂粒多, 1mm以下の角閃石僅か 7.5YR6/6 7.5YR5/6 7.5YR5/4	口唇: 円頭状 内外面横ナデ 5.5mm 27.3g	口縁がやや外反する深鉢. ①山形文を横位に帯状施文. ②無文部に横ナデ. 擦痕顕著. 山形文を一部消す.	
144	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母, 繊維やや多 7.5YR3/2 7.5YR3/1 7.5YR4/2	口唇: 角頭状, 外面やや肥厚 口唇, 外面横ナデ, 内面斜ナデ 7mm 4.7g	山形文を横位施文.	
145	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の光沢黒色砂粒やや多 7.5YR4/4 7.5YR4/4 7.5YR4/4	口唇: 角頭状 口唇横ナデ, 外面斜ナデ, 内面横ナデ 凹状の擬口縁 5.5~7mm 13.2g	山形文を横位に帯状施文. 原体長 5cm.	
146	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の光沢黒色砂粒少 10YR3/1 10YR6/2 10YR2/1	口唇: 隅丸角頭状 外面横ナデ, 内面ミガキ, 口唇入念な横ミガキ 4.5mm 7.5g	山形文を横位に帯状施文. 原体は 5条 2単位.	
147	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	3mm以下の白色礫, 褐色礫, 1mm以下の白色砂粒少 10YR7/4 10YR7/2 2.5Y3/1	外面横・斜ナデ, 内面横ナデ 5mm 57.0g	①山形文を横位に帯状施文. 原体は 4条 2単位. ②横ナデにより無文部を作出. 山形文を一部ナデ消す. 内面擦痕顕著.	内面黒色化. 脂質分析のため内面器壁を切削.
148	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石多, 1mm以下の褐色礫やや多, 繊維僅か 7.5YR4/2 7.5YR4/2 7.5YR3/1	内面横ナデ 5mm 12.2g	山形文を横位に帯状施文.	
149	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒やや多 5YR4/4 5YR4/1 5YR4/1	外面横ナデ, 内面ナデ 6mm 16.7g	山形文を横位に帯状施文. 一部をナデ消す. 原体長 4.5cm.	外面剥落部分に横ナデ整形がされた面露出. 内面黒色化. 写真 図版 18-1 図目左.
150	A1 円形落込み 2層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石少, 2mm以下の褐色礫, 繊維僅か 7.5YR5/6 7.5YR4/1 10YR5/2	外面横ナデ, 内面横ナデ 4.5mm 38.6g	上部に山形文を横位帯状施文.	内面黒斑あり.
151	A2 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒少, 5mm以下の褐色礫少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR5/4	外面横ナデ, 内面ナデ 5mm 18.7g	山形文を横位に帯状施文. 原体長 4.5cm. 一部ナデ消す. 外面縦位の擦痕顕著.	内面に幅 2mm の沈線状の痕跡残る. 外面黒斑あり.
152	A1 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒, 繊維僅か 7.5YR5/4 7.5YR6/4 7.5YR6/4	口唇: 隅丸角頭状 内面横ナデ 5.5mm 10.4g	推定口径 10cm の深鉢. 山形文を縦位施文.	
153	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	8mm以下の黒色礫, 繊維僅か 7.5YR4/2 7.5YR4/2 7.5YR4/2	内面指頭圧痕あり 内外面横ナデ 5~7mm 19.3g	山形文を横位に帯状施文. 一部ナデ消す.	内面の指頭圧痕横位に連続.
154	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の褐色砂粒少 7.5YR4/2 7.5YR5/3 7.5YR5/3	上端尖頭状の擬口縁 内面ナデ 4~7mm 7.4g	外面に山形文を縦位施文.	外面摩擦による光沢, 外面剥落部分にナデ整形された面露出.
155	A0 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒僅か 7.5YR6/2 7.5YR5/2 7.5YR4/1	内面斜ナデ 6mm 18.8g	山形文を縦位施文.	内面黒色化. 外面に横位の擦痕顕著.
156	A1 円形落込み 3層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 2mm以下の褐色礫やや多 10YR3/1 7.5YR4/2 10YR5/2	内面横ナデ, 内面縦ナデ 6mm 27.8g	山形押型文を縦位に帯状施文. 原体は 2単位.	外面一部分的に剥落.
157	A0 9a~9d層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の結晶片岩, 光沢黒色砂粒多, 5mm以下の白色礫, 褐色礫少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 5YR3/1	外面指頭圧痕あり 内面横ナデ 7mm 27.7g	山形文を縦位施文. 一部無文部を残す. 施文時の押圧により原体長軸に沿う凹部が残る.	内面黒色化. 外面輪積みの凹凸を残す.
158	A0 土留部分 20	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 白色砂粒やや多, 2mm以下の結晶片岩僅か 7.5YR6/3 7.5YR6/3 7.5YR6/3	内面ナデ 3.5~4mm 17.0g	山形文を縦位施文し, ナデを施して縦位の無文部を作出.	内面黒色化.
159	A2 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	3mm以下の石英, 長石, 灰色礫, 結晶片岩やや多 7.5YR6/4 7.5YR6/4 7.5YR5/2	内面指頭圧痕あり. 6.5~8mm 17.1g	山形文を縦位に帯状施文し, 縦位のナデを施して無文部を調整.	
160	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 底部付近	2mm以下の褐色礫, カンラン石, 繊維少 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR4/2	内面横ナデ 7mm 14.5g	底部尖底の深鉢. 山形文を縦位施文.	底部同心円状擦痕顕著. 内面黒色化, 摩擦.
161	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石やや多, 1mm以下の褐色砂粒僅か 7.5YR7/4 7.5YR6/2 7.5YR4/2	外面施文後ミガキ, 内面ナデ 6.5mm 16.6g	①浅い山形文を縦位に帯状施文. ② 1.5cm幅の無文部をミガキを施す.	内面~断面黒色化.
162	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の黒色礫・砂粒, 白色砂粒やや多, 繊維少 5YR5/4 5YR5/4 5YR5/3	内面横ナデ 6mm 12.9g	山形文をやや間隔をあけて縦位施文.	内面黒斑あり.
163	A0 11層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の褐色礫やや多, 1mm以下の黒曜石, 石英僅か 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR4/1	内面縦ナデ 7mm 27.8g	山形文を縦位に密接施文.	外面一部分剥落. 163・164 同一個体.
164	A0 11層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒やや多, 1mm以下の黒曜石僅か 7.5YR5/3 7.5YR6/6 10YR7/4	外面横ナデ, 内面下部縦ナデ, 上部横ナデ 6~7mm 120.7g	山形文を縦位に帯状施文. 原体長 2cm.	外面層状に剥落. 外面上部黒色化, 内面下部黒色化. 6836 ± 27BP (PLD-43808).
165	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	4mm以下の結晶片岩, 2mm以下の長石, 白色礫, 白色砂粒, 黒色砂粒少 5YR4/3 5YR4/3 5YR4/3	口唇: 角頭状 下端凹状の輪積痕 内面横ナデ 5mm 38.2g	口縁が強く外反する深鉢. 推定口径 19cm. 口唇に山形文を横位施文. 外面口唇下に①山形文を横位に密接施文. ②その下部に山形文を縦位に密接施文. 内面口唇下に山形文を横位施文.	外面一部分的に剥落. 外面黒斑あり. 写真 図版 18 右下.
166	A0 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の褐色礫, 光沢黒色砂粒, 白色砂粒少 5YR4/3 5YR4/3 5YR3/1	屈曲部に輪積痕 内面横ナデ 4.5~6.5mm 39.4g	山形文を縦位施文. 一部無文部を残す.	内面黒色化. 166・167 同一個体.
167	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の褐色礫, 光沢黒色砂粒, 白色砂粒少 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR3/1	内面指頭圧痕あり 内面ナデ 4~5mm 27g	山形文を縦位に密接施文. 一部をナデ消す.	内面黒色化.
168	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	0.5mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 褐色砂粒少 5YR5/4 5YR5/4 5YR5/4	口唇: 角頭状 内面横・斜ナデ 7mm 12.7g	口縁がやや外反する深鉢. 口唇に山形文を横位施文. 外面に山形文を①縦位, ②横位に密接施文. 内面に山形文を横位に帯状施文.	
169	A1 円形落込み 2層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の長石, 石英, 褐色砂粒少, 1mm以下の光沢砂粒僅か 7.5YR4/3 7.5YR6/3 7.5YR5/3	外面縦ナデ, 内面横ナデ 5mm 16.3g	①地緩した山形文を縦位に帯状施文. ②地緩した山形文を①上部に横位施文.	断面一部黒色化.
170	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 角閃石, 白色砂粒, 2mm以下の褐色砂粒やや多 7.5YR4/3 7.5YR4/3 7.5YR4/3	内面横ナデ 7mm 16.4g	弛緩した山形文を①横位. ②縦位に密接施文.	

第22表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(3) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
171	A1 円形落込み3層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒, 2mm以下の褐色砂少 10YR3/3 7.5YR3/1 10YR3/1	口唇: 角頭状 内面横ナデ, 内面横ミガキ 5mm 17.9g	口唇直下に山形文を横位施文し, これと直交するように山形文を縦位に帯状施文. 原体は5条2単位, 長さ2.3cm.	
172	A2 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の石英, 長石やや多, 1mm以下の角閃石, 光沢黒色砂粒, 2mm以下の褐色砂粒僅か 7.5YR4/1 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内外面横ナデ 8mm 39.9g	①山形文を横位に帯状施文. ②山形文を縦位に密接施文.	内面黒色化.
173	A0 9a~9d層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	繊維多, 1mm以下の光沢黒色砂粒少 5YR5/4 5YR5/4 5YR4/1	内面横, 縦ナデ 9mm 30.2g	山形文を①縦位に帯状施文し, その上部に②山形文を横位施文.	内面黒色化.
174	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒僅か 5YR5/4 5YR5/4 5YR3/1	内面ナデ 6mm 10.6g	山形文を縦位施文.	内面黒色化. 下部横位の擦痕顕著.
175	A1/A2 10層/9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石, 褐色砂粒僅か 7.5YR3/1 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面指頭圧痕あり 内面斜ナデ 5mm 18.4g	山形文を①縦位, ②横位に密接施文.	
176	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 底部付近	繊維やや多, 1mm以下のカンラン石, 黒雲母, 角閃石少 5YR5/3 5YR5/4 5YR5/4	内面横, 縦ナデ 8~9mm 26.9g	山形文を①縦位に帯状施文し, その上部に横位施文. 一部ナデ消す.	外面摩擦による光沢. 底部を中心とした同心円状の擦痕.
177	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 白色砂粒, 繊維僅か 5YR4/4 5YR4/4 5YR4/1	内外面指頭圧痕あり 内面横ナデ 8mm 51.0g	山形文を縦位に帯状施文. 一部をナデ消す.	
178	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の黒雲母, 褐色砂粒やや多, 1mm以下のカンラン石僅か 7.5YR4/3 2.5YR5/6 5YR3/1	外面ナデ 6mm 20.1g	山形文を縦位に密接施文.	内面黒色化, 摩擦.
179	A1 円形落込み3層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	3mm以下の褐色砂, 繊維少, 1mm以下の角閃石, 黒曜石僅か 7.5YR7/6 5YR6/6 7.5YR4/1	内面斜ナデ 5mm 24.8g	山形文を縦位に密接施文. 原体は2単位.	内面黒色化.
180	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石少, 2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 繊維僅か 7.5YR6/6 7.5YR6/2 10YR4/2	内面ナデ 5.5mm 11.0g	山形文を縦位に密接施文.	内面黒色化.
181	A1 円形落込み3層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 2mm以下の褐色砂少 5YR4/2 5YR4/2 5YR4/2	内面横ナデ 5mm 16.4g	山形文を縦位に密接施文. 原体は2単位.	
182	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の石英少, 1mm以下の角閃石, 2mm以下の褐色砂, 繊維僅か 5YR6/6 5YR5/6	内面斜ナデ 6mm 12.0g	山形文を縦位施文.	内面~断面黒色化. 182・183同一個体.
183	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の石英少, 1mm以下の角閃石, 2mm以下の褐色砂, 繊維僅か 5YR6/6 5YR6/8 10YR3/1	内面ナデ 6mm 10.0g	山形文を縦位施文.	内面~断面黒色化.
184	A0 11層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石やや多, 2mm以下の白色砂, 褐色砂粒僅か 5YR5/4 5YR5/6 7.5YR3/1	内面ナデ 5.5mm 17.3g	山形文を縦位施文.	内面~断面黒色化.
185	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	3mm以下の結晶片岩, 褐色砂粒少 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR4/2	内面横ナデ 4.5mm 10.4g	山形文を縦位に密接施文.	内面黒色化.
186	A0 11層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石やや多, 1mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒僅か 5YR4/6 5YR5/6 7.5YR3/1	内面横ナデ 4.5mm 7.8g	山形文を縦位施文.	内面~断面黒色化.
187	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の角閃石, 黒雲母, 石英僅か 5YR4/4 5YR4/4 5YR5/4	下端凹状の輪積痕 内面横ナデ 5.5mm 13.3g	山形文を縦位に密接施文.	
188	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石少, 2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 繊維僅か 7.5YR4/3 7.5YR6/4 7.5YR5/2	内面横ナデ 6mm 15g	山形文を縦位に密接施文.	内面黒色化.
189	A0 11層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, ガラス質の透明粒やや多, 繊維少 5YR5/4 5YR4/8 5YR3/1	内面斜ナデ 6mm 10.5g	山形文を斜位施文.	内面~断面黒色化.
190	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	5mm以下の結晶片岩, 褐色砂多 2.5YR4/4 2.5YR4/4 7.5YR5/3	内面指頭圧痕あり 5.5mm 29.1g	胴部が屈曲して外反する深鉢. 山形文を縦位に密接施文.	
191	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の光沢黒色砂粒, 褐色砂粒やや多, 繊維僅か 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR5/2	内面ナデ 6~7.5mm 15g	山形文を縦位に密接施文.	
192	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒, 繊維少, 1mm以下の黒曜石僅か 7.5YR3/4 10YR7/4 10YR6/3	口唇: 角頭状 内面横ナデ 5mm 5.1g	口唇, 外面に山形文を横位施文.	
193	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒僅か 7.5YR7/6 7.5YR7/8 7.5YR7/4	内外面ナデ 6mm 9.8g	山形文を横位施文.	
194	A2 10ab層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の褐色砂粒僅か 7.5YR5/3 7.5YR5/2 7.5YR5/2	口唇: 角頭状 下端凹状の輪積痕 口唇ナデ, 内面①縦ナデ ②斜ナデ 7mm 69.1g	口縁がやや外反する深鉢. 推定口径11cm. 波状に近い山形文を横位に密接施文.	口唇から約6cm下部にかけて層状のヒビ. 写真図版17-4 段目左.
195	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の長石, 黒色砂粒, 繊維僅か 7.5YR5/4 5YR5/4 7.5YR6/3	下端凹状の輪積痕 内面横ナデ 5.5mm 8.1g	山形文を縦位に密接施文.	
196	A1 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 褐色砂粒, 繊維僅か 7.5YR4/3 7.5YR6/2 10YR4/2	5mm 5.6g	山形文を横位施文.	内面剥落.
197	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の褐色砂粒僅か 10YR3/1 10YR3/1 10YR3/1	口唇: 角頭状 内面横ナデ, 口唇直下横ミガキ 5mm 7.2g	口唇に山形文を横位施文. 外面に山形文を横位施文. 口唇直下に無文部を残す. 原体長2cm.	
198	A0 11層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, ガラス質透明砂粒多, 1mm以下の褐色砂粒僅か 7.5YR5/4 5YR6/6 7.5YR5/3	内面ナデ 6mm 15.8g	山形文を横位施文. 指頭により一部を消す.	
199	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石少, 磁鉄鉱僅か 10YR4/1 10YR4/1 10YR4/1	口唇: 角頭状 内面横ナデ, 口唇直下横ミガキ 5.5mm 11.9g	口唇に山形文を横位施文. 外面に浅い山形文を横位施文.	
200	A2 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	5mm以下の褐色砂少, 2mm以下の角閃石, 黒雲母, 白色砂粒僅か 7.5YR4/2 7.5YR4/2 7.5YR4/2	下端凹状の輪積痕 内面縦, 斜ナデ 4.5~6mm 13.3g	外面に山形文を横位に密接施文.	
201	A2 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒少, 1mm以下の光沢黒色砂粒僅か 7.5YR4/2 7.5YR4/2 7.5YR4/2	内面横ミガキ 9mm 45.2g	外面に山形文を横位施文. 一部無文部を残す.	
202	A2 9層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 白色砂粒, 褐色砂粒少 7.5YR5/2 5YR5/4 5YR2/1	内面横ナデ 7mm 17.6g	外面に山形文を横位に密接施文.	断面に層状の亀裂, 外面剥落部分にナデ整形された面. 内面~断面黒色化.
203	A1 10層	早期 中葉	押型文 (山形文)	深鉢 胴部	2mm以下の角閃石, 褐色砂・砂粒やや多 7.5YR4/2 7.5YR4/2 7.5YR4/2	施文後に素地を重ねる 内面斜ナデ 6~8mm 10.8g	①山形文を横位施文. ②山形文の一部に素地を塗り重ね, ナデを施す.	外面剥落部分に山形文が露出.
204	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒, 繊維少 7.5YR4/2 7.5YR5/2 7.5YR5/3	口唇: 角頭状 内外面横ナデ 7mm 20.0g	口唇に楕円文を横位施文. 幅2.4cm. 外面に楕円文を横位に帯状施文.	

第23表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(4) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
205	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の白色砂粒多, 繊維少, 1mm以下の 黒色砂粒僅か 10YR4/1 7.5YR7/1 7.5YR6/4	口唇: 隅丸角頭状 外面横ナデ, 内面斜ナデ, 一部ミガキによる光沢 7mm 25.5g	口縁が外反する深鉢。口唇に3mmの円 形刺突文を連続施文。外面に口唇直下 に楕円文を横位施文。楕円文は大きくナ デ消す。②無文帯に4mmの円形刺突文 を横位に2列連続施文。	内面口唇付近に指紋 付着。205・206同一 個体。
206	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒多, 繊維少, 1mm以下の 黒色砂粒僅か 7.5YR4/2 10YR7/3 7.5YR7/4	外面横ナデ, 内面横, 斜 ナデ 7mm 16.6g	楕円文を横位に帯状施文。無文帯に幅 3mmの円形刺突文を横位に連続施文。	脂質分析のための内面 器壁を切削。
207	A1 10層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母やや多, 1mm以下 の褐色砂粒少 7.5YR3/1 5YR4/4 5YR4/4	口唇: 角頭状, 浅い凹線 を巡らす 外面斜ナデ, 内面横ナデ 7mm 14.1g	口唇に2列1組の刺突文を施文。外面に 楕円文を帯状に横位施文。下部に種類不 明の押型文を横位施文。	
208	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 石英, 繊維少 10YR6/4 10YR6/2 7.5YR2/1	内面ナデ 7mm 16.9g	正円に近い楕円文を横位, 縦位施文。一 部ナデ消す。	断面～内面黒色化。
209	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石少 7.5YR5/5 7.5YR4/2 7.5YR4/2	外面斜ナデ, 内面縦ナデ 6mm 20.2g	楕円文を横位に帯状施文。原体長1.6cm。 一部をナデ消す。	内面黒色化。
210	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	2mm以下の角閃石, 黒曜石, 繊維僅か 7.5YR4/1 10YR7/2 10YR4/1	口唇: 円頭状, 内削ぎ 口唇横ナデ, 内面横ナデ 5mm 20.3g	楕円文を横位に密接施文。原体は8条, 長さ2cm。	
211	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石やや多, 2mm以下の褐色 繊維少 7.5YR5/4 10YR5/2 10YR5/2	口唇: 円頭状 口唇, 内面横ナデ 6mm 11.4g	楕円文を横位施文。	内外面から補修孔を 穿孔。
212	A0 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, 黒色砂粒, 繊維少 10YR6/4 10YR4/2 10YR5/3	口唇: 隅丸角頭状 口唇横ミガキ, 内面横ナデ 6mm 7.1g	楕円文を横位施文。	
213	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒色砂粒, 4mm以下の 褐色繊維やや多 7.5YR5/2 7.5YR5/3 10YR5/2	口唇: 円頭状, 内削ぎ 口唇内面横ナデ 6mm 27.0g	楕円文を横位に密接施文。	内面黒斑あり。
214	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	2mm以下の褐色砂粒やや多, 繊維少 10YR6/3 10YR6/2 10YR5/1	口唇: 円頭状 口唇横ミガキ, 内面横, 斜 ナデ 6mm 21.4g	楕円文を横位に密接施文。	
215	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒やや多, 1mm以下の 白色砂粒少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR6/4	口唇: 円頭状 口唇横ミガキ, 内面横ナデ 8mm 11.5g	楕円文を横位施文。	
216	A0 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁～胴部	1mm以下の角閃石, 繊維少 7.5YR6/6 10YR5/2 10YR5/2	口唇: 円頭状 内外面指頭圧痕あり 内面横ナデ, 縦ナデ 4～6mm 29.1g	楕円文を横位に密接施文。原体は2単位 、長さ2cm。指頭により楕円文の一部消す 。	内面～断面黒色化。
217	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	2mm以下の白色繊維, 褐色繊維やや多, 繊維少, 1mm以下の角閃石僅か 10YR3/2 10YR6/2 7.5YR6/2	口唇: 隅丸角頭状, やや 内削ぎ 口唇横ミガキ, 内面横ナデ 9mm 32.2g	粗大な楕円文を①横位, ②斜位に密接施 文。楕円文の一部ナデ消す。	外面から補修孔を穿 孔。
218	A0 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の長石, 黒色砂粒, 白色砂粒少 10YR3/2 10YR6/2 10YR6/3	口唇: 円頭状 口唇ミガキ, 内面横ナデ 7mm 19.9g	楕円文を横位に密接施文。原体は2単位	
219	A0 8層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石少, 繊維僅か 10YR4/2 10YR3/2 10YR4/2	口唇: 内削角頭状 口唇ナデ, 内面横ナデ 5.5～6mm 19.3g	口縁がやや外反する深鉢。楕円文を横位 に密接施文。	
220	A0 調査区内一括	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 角閃石, 白色砂粒, 繊維 やや多, 4mm以下の褐色繊維少 7.5YR5/4 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面ナデ 9mm 31.9g	楕円文を横位に密接施文。上部はそろば ん玉形, 下部は扁平な形状。	内面～断面黒色化。
221	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 褐色砂粒, 繊維少 7.5YR4/2 5YR4/1 5YR5/2	内面縦ミガキ 6mm 18.8g	楕円文を縦位に密接施文。原体は7条以 上。	
222	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 光沢黒色砂粒やや多, 2mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒少 7.5YR4/3 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面横ナデ 6mm 12.2g	山形文を横位に密接施文。	内面～断面黒色化。
223	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 光沢黒色砂粒, 繊維少 7.5YR6/6 10YR7/1 10YR4/1	内面横ナデ 7mm 21.6g	楕円文を横位に密接施文。	断面～内面黒色化。 <b>写真 図版17-2 裏目左。</b>
224	A0 9a～9d層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	2mm以下の光沢黒色砂粒, 褐色砂粒, 繊維少 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR4/1	内面ナデ 7mm 22.3g	楕円文を①横位, ②縦位に密接施文。	内面黒色化。
225	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の褐色繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR6/3 7.5YR4/1	内面ミガキ 5mm 11.0g	正円に近い楕円文を横位施文。	断面～内面黒色化。
226	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	5mm以下の褐色繊維, 繊維やや多, 1mm以下 の白色砂粒少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR4/1	内面ナデ 6mm 13.5g	楕円文を横位に密接施文。	内面黒色化。
227	A0 8層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	2mm以下の黒曜石やや多, 1mm以下の黒雲 母, 褐色砂粒僅か 10YR4/2 10YR6/2 10YR5/2	内面①横ナデ②縦ミガキ 10mm 59.0g	楕円文を横位に密接施文。	
228	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	繊維やや多, 1mm以下の角閃石, 褐色砂粒, 白色砂粒少 10YR5/3 10YR5/3 10YR5/3	内面横ナデ 7.5mm 33.6g	楕円文を横位に密接施文。	
229	A0 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒, 4mm以下の黒色繊維・砂 粒, 褐色繊維, 繊維少 7.5YR6/4 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面斜ナデ 5.5～9.5mm 58.0g	楕円文を横位に密接施文。	内面～断面黒色化。
230	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒僅か 10YR6/4 10YR7/3 7.5YR5/1	内面横, 斜ナデ 7.5mm 27.9g	楕円文を横位に密接施文。原体は10条 、長さ2.3cm。	
231	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	2mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒少, 繊維僅か 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR4/1	内面①横ケズリ②斜ナデ 7.5mm 28.5g	楕円文を斜位に密接施文。	内面黒色化。
232	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 光沢黒色砂粒やや多, 2mm以下の白色繊維, 褐色繊維, 褐色砂粒少, 磁 鉄鉱, 繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR3/1	内面斜ナデ 6.5mm 24.9g	楕円文を横位に密接施文。	内面～断面黒色化。
233	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	3mm以下の白色繊維, 褐色繊維, 繊維少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR4/2	内面縦ナデ 6～7mm 27.0g	楕円文を縦位に密接施文。一部をナデ消 す。	内面下部黒色化。 233・234同一個体。
234	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	3mm以下の白色繊維, 褐色繊維, 繊維少 7.5YR5/4 5YR4/4 7.5YR4/1	内面指頭圧痕あり 内面縦, 横, 斜ナデ 7～10mm 52.5g	楕円文を斜位, 縦位に密接施文。	内面黒色化。
235	A1 10ab層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒多, 繊維僅か 10YR7/4 10BG6/1 7.5YR7/4	内面横ナデ 6mm 11.7g	楕円文を横位に密接施文。	
236	A0 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒色砂粒, 3mm以下の黒 色繊維・白色繊維, 繊維少 7.5YR6/6 5YR6/6 5YR5/4	内面横ナデ 7mm 13.9g	楕円文を斜位に密接施文。	
237	A0 7γ層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 長石, 石英, 繊維少 10YR5/2 10YR6/3 10YR4/2	内面横ナデ 4.5mm 15.8g	楕円文を横位に密接施文。	内面～断面黒色化。
238	A2 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 繊維少 7.5YR5/3 5YR6/6 5YR3/1	内面斜ナデ 7mm 21.4g	楕円文を①横位, ②斜位に密接施文。	内面～断面黒色化。
239	A0 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, ガラス質透明砂粒 少, 繊維僅か 10YR5/3 10YR2/1 10YR5/3	内面ナデ, 一部ミガキ 6.5mm 16.5g	楕円文を①横位, ②斜位に密接施文。	内面～断面黒色化。

第24表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(5) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
240	A0 7y層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	1mm以下の長石, 石英多, 1mm以下の角閃石, 2mm以下の褐色礫少, 6mmのチャート僅か 10YR6/4 10YR4/2 10YR3/2	内面ナデ 9mm 18.0g	楕円文を横位に密接施文.	
241	A0 8層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 胴部	2mm以下の角閃石少, 1mm以下の褐色砂粒僅か 10YR6/3 7.5YR7/3 7.5YR6/4	内面縦ナデ 6mm 11.3g	楕円文を横位に密接施文.	
242	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 底部付近	1mm以下の角閃石, 繊維少 7.5YR5/1 7.5YR5/2 10YR3/2	内面縦ナデ, 横ナデ 6mm 30.0g	楕円文を斜位, 横位に密接施文.	断面～内面黒色化.
243	A1 9層	早期 中葉	押型文 (楕円文)	深鉢 底部付近	2mm以下の黒色礫, 褐色礫やや多, 1mm以下の角閃石, 長石少 10YR6/2 10YR5/1 2.5Y6/3	内面横ナデ 5mm 22.5g	底部尖底の深鉢. 楕円文を上部に横位, 底部付近に縦位に密接施文.	断面～内面黒色化.
244	A0 10g層	早期 中葉	押型文 (格子目文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒, 繊維僅か 7.5YR5/2 7.5YR6/4 7.5YR6/3	口唇: 角頭状 内外面横ナデ 5.5mm 25.6g	口唇に格子目文を施文. 内外面口唇直下に浅い格子目文を横位に帯状施文.	内面黒斑あり.
245	A0 9a～9d層	早期 中葉	押型文 (格子目文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石やや多, 2mm以下の褐色礫僅か 7.5YR6/3 7.5YR7/6 7.5YR4/1	外面縦, 斜ナデ, 内面ナデ 6mm 10.7g	格子目文を横位に帯状施文.	内面黒色化.
246	A1 円形落込み4層	早期 中葉	押型文 (格子目文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒少, 1mm以下の褐色砂粒僅か 10YR7/4 10YR4/1 7.5YR4/1	内面横ナデ 5mm 15.1g	格子目文を横位に帯状施文.	内面黒色化.
247	A0 9層	早期 中葉	押型文 (格子目文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒多, 2mm以下の白色礫, 白色砂粒やや多 5YR4/4 7.5YR6/3 10YR4/2	内面横ナデ 7mm 7.6g	格子目文を密接施文.	
248	A0 9a～9d層	早期 中葉	押型文 (格子目文)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 白色砂粒, 繊維僅か 7.5YR4/2 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面横ナデ 6.5mm 11.2g	格子目文を斜位施文.	内面黒色化.
249	A1 10層	早期 中葉	押型文 (格子目文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 結晶片著, 2mm以下の褐色礫少, 繊維僅か 7.5YR4/2 7.5YR4/2 7.5YR4/3	内面横ナデ 6mm 12.0g	粗大な格子目文を縦位施文	
250	A1 10層	早期 中葉	押型文 (ネガティブ)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石少, 2mm以下の黒雲母僅か 7.5YR3/1 7.5YR3/1 7.5YR3/1	口唇: 角頭状 口唇横ミガキ, 内面ミガキ 6mm 30.9g	口縁が外反する深鉢. 推定口径14cm. 口唇下にネガティブな粗い楕円文を横位施文し, その下部に縦位に密接施文.	
251	A0 10層	早期 中葉	押型文 (ネガティブ)	深鉢 胴部	2mm以下の褐色砂粒やや多, 1mm以下の角閃石, 長石少 7.5YR4/3 7.5YR4/3 7.5YR4/3	外面ナデ, 内面斜ナデ 5.5mm 8.1g	格子目文を回転施文. ナデにより潰れる.	
252	A1 10層	早期 中葉	押型文 (ネガティブ)	深鉢 胴部	2mm以下の褐色礫少, 0.5mm以下の角閃石僅か 5YR5/4 5YR5/4 5YR3/1	内面指頭圧痕あり 外面横ナデ, 内面ナデ 6mm 7.4g	ネガティブな楕円文を斜位施文.	内面黒色化.
253	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (沈線併用)	深鉢 口縁部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 白色砂粒少, 3mm以下の黒色礫, 褐色礫, 繊維僅か 10YR5/2 10YR5/2 10YR5/2	口唇: 円頭状 内面横ナデ 8mm 15.7g	①幅2mmで断面弧状の沈線を数条平行させて横位施文. ②その上部に楕円文を横位施文.	断面黒色化.
254	A0 土留部分	早期 中葉	押型文 (沈線併用)	深鉢 胴部	繊維多, 3mm以下の石英, 長石, 黒色砂粒, 褐色砂粒やや多 10YR5/2 10YR5/2 10YR5/2	内面横ナデ 10mm 19.9g	幅2～3mmで断面弧状の沈線を数条平行させて横位施文. その下部に楕円文を横位施文.	断面黒色化.
255	A0 9層	早期 中葉	押型文 (異種併用)	深鉢 胴部	3mm以下の白色礫, 黒色礫・砂粒, 1mm以下の褐色砂粒僅か 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR5/2	内面横, 縦ナデ 6mm 8.4g	①楕円文を横位施文し, ②165と同様の特殊な押型文を横位施文.	
256	A0 9層	早期 中葉	押型文 (異種併用)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 光沢黒色砂粒少, 3mm以下の白色礫, 繊維僅か 10YR7/3 10YR7/2 10YR3/2	内面ナデ 6mm 10.9g	①楕円文を縦位施文. ②楕円文を切って粗大な山形文を横位施文.	内面黒色化.
257	A1 10ab層	早期 中葉	押型文 (異種併用)	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 繊維少 7.5YR6/4 10YR7/1 10YR7/1	外面横ナデ 5mm 7.9g	①楕円文が横位施文. 左辺をナデ消す. ②麁状文を横位施文. 1cm幅の縦位区画内に横・斜位の平行線が1mm間隔で充填される.	内面剥落.
258	A2 10ab層	早期 中葉	押型文 (異種併用)	深鉢 胴部	繊維やや多, 1mm以下の角閃石, 2mm以下の黒色礫, 褐色礫少 10YR7/3 7.5YR6/1 10YR6/2	内面縦ミガキ 8mm 9.3g	①楕円文を縦位施文. ②麁状文を横位施文.	内面黒色化.
259	A0 7y層	早期 中葉	押型文 (山形文粗大)	深鉢 胴部	2mm以下の黒曜石多 10YR4/2 10YR5/3 10YR6/3	内外面ナデ 8mm 16.9g	粗大な山形文を横位施文.	
260	A0 9層	早期 中葉	押型文 (山形文粗大)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 白色砂粒, 3mm以下の黒色礫・砂粒少 7.5YR6/6 7.5YR5/2 7.5YR5/2	内面縦ナデ 8mm 17.9g	粗大な山形文を回転施文.	内面～断面黒色化.
261	A2 9層	早期 中葉	押型文 (山形文粗大)	深鉢 底部付近	2mm以下の褐色礫, 白色礫, 繊維やや多 5YR5/6 5YR4/1 5YR3/1	内面縦, 斜ナデ 9～11mm 22.6g	浅い山形文を縦位～斜位施文.	内面黒色化.
262	A1 10層	早期 中葉	押型文 (櫛状文)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒雲母, 光沢黒色砂粒, 繊維僅か 10YR5/3 10YR5/3 10YR5/2	口唇: 角頭状 口唇ミガキ, 内外面横ナデ 5mm 25.7g	口縁が外反する深鉢. 櫛状の押型文を横位に帯状施文.	
263	A1 10層	早期 中葉	押型文 (櫛状文)	深鉢 胴部	2mm以下の黒雲母, 光沢黒色砂粒やや多 7.5YR6/3 7.5YR6/3 7.5YR3/1	内面横ナデ 5.5mm 8.7g	櫛状の押型文を横位施文.	内面黒色化.
264	A1 10層	早期 中葉	押型文 (櫛状文)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石多, 繊維僅か 5YR5/3 5YR5/3 5YR3/1	内面ナデ 6mm 6.4g	櫛状の押型文を横位に帯状施文.	内面黒色化.
265	A1 10層	早期 中葉	押型文 (櫛状文)	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒多, 繊維少 5YR5/3 5YR5/3 5YR5/3	内面ナデ 6mm 4.1g	櫛状の押型文を横位に帯状施文.	外面摩耗による光沢.
266	A1 10層	早期 中葉	押型文 (帯状縄文施文)	深鉢 胴部	3mm以下の白色礫・砂粒, 褐色礫・砂粒多, 繊維少 7.5YR6/2 7.5YR6/2 7.5YR4/1	内外面指頭圧痕あり 外面横ナデ, 内面縦ナデ 6～8mm 20.7g	無筋Lを縦位施文. 条幅2mm.	266・267同一個体. 内面黒色化.
267	A2 9層	早期 中葉	押型文 (帯状縄文施文)	深鉢 胴部	3mm以下の白色礫・砂粒, 褐色礫・砂粒多, 繊維少 7.5YR6/2 7.5YR6/2 7.5YR4/1	内外面斜ナデ 6～8mm 16.5g	無筋Lを縦位に帯状施文.	内面黒色化.
268	A1 円形落込み3層	早期 中葉	押型文 無文部	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石やや多 7.5YR4/3 7.5YR4/2 7.5YR5/1	内外面縦ナデ 4.5mm 10.0g	無文. 縦方向の擦痕顕著.	内外面から補修孔を穿孔.
269	A1 10層	早期 中葉	押型文 無文部	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石少, 繊維僅か 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR4/3	外面斜ナデ, 内面縦ミガキ 7mm 22.1g	無文.	
270	A1 9層	早期 中葉	三戸式	深鉢 胴部	1mm以下の黒雲母僅か 10YR4/1 10YR6/1 N2/0	外面ナデ, 内面縦ナデ 7mm 27.6g	2, 3条の平行する断面半円形の沈線を①斜位, ②横位に施文. ③幅4mmのヘラ状工具を斜角にあて, 沈線に沿う刺突を連続施文.	内外面黒色化.
271	A2 9層	早期 中葉	三戸式	深鉢 胴部	2mm以下の石英, 褐色礫少, 輝石, 繊維僅か 7.5YR5/4 7.5YR5/2 7.5YR5/2	内面横ナデ 7mm 8.0g	①幅2～3mmで断面弧状の沈線を斜位施文. ②沈線間に角頭状工具による2列1組の刺突文を充填.	
272	A2 9層	早期 中葉	田戸下層式	深鉢 口縁部	2mm以下の光沢黒色砂粒, 白色砂粒, 繊維少 7.5YR2/1 7.5YR4/1 7.5YR3/1	口唇: 角頭状, 内削ぎ 口唇ミガキ, 内面縦ミガキ 5mm 17.7g	外面に①沈線を横位, 斜位施文. ②空白部に沈線を斜位に充填施文. 沈線は幅2～3mmで断面弧状. 内面に条幅1mmの1段Lの側面圧痕を1条残す.	
273	A0 9層	早期 中葉	田戸下層式	深鉢 口縁部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 繊維少 10YR5/3 10YR6/3 10YR7/2	口唇: 円頭状, 外面肥厚 外面ナデ, 内面縦ミガキ 5.5mm 27.2g	推定口径10cmの小型の深鉢. ①右下部に沈線を斜位に充填施文. ②右上がりの沈線を斜位施文. 口唇直下に沈線を横位施文. 沈線はいずれも幅3mmで断面弧状. 3条平行させる.	写真図版17-1図目左.

第25表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(6) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
274	A1 10層	早期 中葉	田戸下層式	深鉢 口縁部	1mm以下の光沢黒色砂粒やや多, 1mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒, 繊維少 7.5YR3/1 7.5YR3/1 7.5YR3/1	口唇: 隅丸角頭状 口唇横ミガキ, 内外面横ナデ 7~9mm 20.7g	①下部に幅1mmで断面V字状の沈線を数条平行させて斜位施文。②幅1mmで断面V字状の沈線を①と交差させて斜位施文。③口縁に幅1.5mmで断面半円形の沈線を横位, 斜位施文。	
275	A2 9層	早期 中葉	田戸下層式	深鉢 胴部	2mm以下の黒曜石, 角閃石少, 2mm以下の白色砂粒僅か 7.5YR5/2 7.5YR5/2 7.5YR4/1	内外面ナデ 8.5mm 26.8g	沈線を①横位に1条施文。②その上部に斜位に数条平行させて施文。沈線の幅1.5mmで断面V字状。	内面黒色化。
276	A2 9層	早期 中葉	田戸下層式	深鉢 口縁部	2mm以下の角閃石, 黒曜石やや多, 2mm以下の白色砂粒, 繊維少 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR4/1	口唇: 隅丸角頭状 口唇, 内面口唇直下ミガキ 内外面ナデ 8.5~10mm 20.5g	幅1.5mmで断面V字状の沈線を口唇下に①横位, その下部に②斜位施文。	
277	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下のカンラン石, 長石, 褐色砂粒少, 1mm以下の黒曜石, 繊維僅か 5YR4/3 5YR4/3 5YR4/3	外面斜ナデ 7mm 15.1g	幅1.5mmで断面半円形の沈線を①縦位, ②横位, ③斜位の順に平行施文。横位沈線の一部をナデ消す。	内面摩耗。
278	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	繊維やや多, 2mm以下の褐色礫少, 1mm以下の白色砂粒僅か 7.5YR4/6 7.5YR4/2 7.5YR4/3	外面縦, 横ナデ, 内面横ナデ 5mm 8.1g	幅1mmで断面弧状の浅い沈線を数条平行に①横位, 方向を逸した斜位の順に施文。鋸歯状構成をとる。	内面黒色化。278~282同一個体。
279	A1 10層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	5mm以下の褐色礫やや多, 繊維僅か 7.5YR4/6 7.5YR4/1 7.5YR5/2	外面ナデ, 内面①横ケズ ②横ミガキ 5.5mm 31.7g	幅1mmで断面弧状の沈線を数条平行させて斜位に施文。	外面層状に剥落。内面に不明木材圧痕(圧痕分析No.6)。
280	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	繊維やや多, 2mm以下の褐色礫少, 1mm以下の白色砂粒僅か 7.5YR4/6 7.5YR4/2 7.5YR4/3	外面縦ナデ, 内面横ミガキ 6mm 8.7g	幅3mmで断面弧状の沈線を斜位に平行させて施文。	内面黒色化。
281	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の褐色砂粒僅か 5YR4/3 5YR4/3 5YR4/1	内外面横ミガキ 5mm 24.9g	①幅2mmで断面弧状の沈線を横位に平行施文。②幅1mmで断面弧状の沈線を①の上下に斜位に数条平行させて施文。③幅1mmで断面弧状の沈線を②と方向を逸して斜位施文。	内面黒色化。
282	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	繊維やや多, 2mm以下の褐色礫少, 1mm以下の白色砂粒僅か 7.5YR4/6 7.5YR4/2 7.5YR4/3	外面横, 斜ナデ, 内面横ミガキ 5mm 25.3g	幅3mmで断面弧状の沈線を方向を逸して斜位に施文。鋸歯状の構成をとる。	内面黒色化。
283	A0 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒少 7.5YR3/1 10YR6/2 10YR7/3	外面ナデ, 内面横ナデ 5mm 15.5g	破片右から①右上がり, ②右上がり, ③右下がりの順で, 幅1mmで断面弧状の沈線を数条平行させて斜位施文。	内面~断面黒色化。
284	A0 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒少 7.5YR4/3 7.5YR5/3 7.5YR5/2	下端凹状の輪積痕 内外面ナデ 6mm 5.4g	幅1mmで断面V字状の沈線を方向を逸して斜位に平行施文。	内面黒色化。
285	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の石英, 長石, 黒色砂粒やや多, 繊維僅か 7.5YR4/6 7.5YR5/8 7.5YR4/6	外面縦ナデ, 内面ナデ 7mm 8.2g	幅1mmで断面弧状の沈線を①横位, ②右上がり, ③右上がりの順で斜位施文。	内面黒色化。
286	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒多, 1mm以下の黒曜石少, 繊維僅か 10YR2/2 10YR3/3 10YR5/3	内外面ナデ 10mm 51.4g	①下部に幅広く浅い沈線を斜位施文。②中央部に沈線を3条平行に横位施文。③上部に3条の沈線を方向を逸して斜位施文。沈線はいずれも最大幅3mmで断面弧状。	内外面黒斑あり。
287	A0 表土	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の長石少 10YR4/3 10YR6/2 10YR4/4	内面縦ミガキ 6mm 12.6g	①浅い条痕を縦位施文。条線幅1~2mm。②断面半円形の沈線を斜位施文。③断面半円形の単沈線を横位に平行施文。沈線の幅は1.5mm。	内外面黒色化。
288	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	2mm以下の黒曜石少, 1mm以下の角閃石, 長石, 繊維僅か 7.5YR4/1 7.5YR5/2 7.5YR4/1	口唇: 角頭状, 外面に稜口唇横ミガキ, 内外面横ナデ 7.5mm 30.9g	①幅2mmで断面V字状の沈線を縦位に平行施文。②口唇直下を一部ナデ消す。	内面下半部摩耗。288~290同一個体。
289	A0 9a~9d層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の黒曜石少, 1mm以下の角閃石, 長石, 繊維僅か 7.5YR4/1 7.5YR5/2 7.5YR4/1	内外面ナデ 8mm 11.4g	幅2mmで断面V字状の沈線を縦位に平行施文。	内面下半部摩耗。
290	A0 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の黒曜石少, 1mm以下の角閃石, 長石, 繊維僅か 7.5YR5/4 7.5YR7/6 7.5YR6/6	外面ナデ, 内面横ナデ 7mm 20.6g	幅1~2mmで断面V字状の沈線を縦位に平行施文。	内面黒斑あり。
291	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒雲母多, 1mm以下の石英, 繊維やや多 10YR3/2 10YR5/2 10YR6/2	外面ナデ 6mm 6.9g	櫛歯状工具による集合条線を横位, 斜位施文。条線は幅1mmで断面コの字状。	内面摩耗。291・292同一個体。
292	A0 表土	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒雲母多, 1mm以下の石英, 繊維やや多 10YR3/2 10YR5/2 10YR6/2	外面ナデ 7mm 20.0g	櫛歯状工具で集合条線を横位施文。条線は幅1~1.5mmで断面弧状。	内面~断面黒色化, 内面摩耗。
293	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	繊維多, 2mm以下の黒曜石, 石英少 10YR6/3 10YR7/4 10YR3/1	外面縦ミガキ, 内面縦ナデ 9mm 10.1g	幅2mmで断面弧状の沈線を横位に平行させて施文。	内面黒色化。
294	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石やや多, 1mm以下の白色砂粒, 繊維少 10YR3/3 10YR6/3 7.5YR7/4	外面ナデ, 内面横ナデ 9mm 13.4g	幅2mmで断面コの字状の沈線を横位, 斜位施文。	
295	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母, 繊維少 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR3/1	外面①ケズ②ミガキ 7mm 14.6g	幅2mmのごく浅い沈線を①横位に1条施文し, ②その上下に斜位に方向を逸して施文。	内面摩耗, 黒色化。
296	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, 石英, 3mm以下の白色礫, 繊維僅か 7.5YR4/6 7.5YR3/4 7.5YR4/2	口唇: 角頭状 内外面横ミガキ 9mm 19.0g	幅1.5mmの浅い沈線を横位に平行施文。	
297	A0 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒多, 1mm以下の角閃石, 黒曜石僅か 7.5YR4/6 7.5YR5/1 N2/0	外面ナデ, 内面縦, 斜ナデ 7mm 9.7g	幅3mmで断面弧状の沈線を横位施文。	
298	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	3mm以下の白色礫, 繊維やや多, 1mm以下の角閃石僅か 10YR7/3 10YR8/2 10YR7/3	外面ナデ, 内面横ナデ 7mm 8.4g	断面コの字状, 幅3mmの沈線を①横位, ②斜位施文。	
299	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石やや多, 1mm以下の角閃石僅か 7.5YR3/1 7.5YR6/3 10YR4/2	外面ナデ, 内面横ナデ 7mm 8.9g	幅1.5mmで断面弧状の沈線を①横位, ②鋸歯状に施文。	
300	A0 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 白色砂粒少 10YR6/4 10YR6/2 10YR5/2	外面縦ミガキ, 内面縦ナデ 7mm 12.1g	幅2mmで断面弧状の沈線を横位施文。	内面黒色化。
301	A0 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒色砂粒やや多, 2mm以下の黒色礫, 白色砂粒少 10YR6/4 10YR7/4 10YR5/2	外面ナデ, 内面縦, 斜ナデ 7mm 11.0g	原体不明の凹線を横位に数条平行させて施文。押型文の可能性あり。凹線は幅2mm, 側縁が緩やかな波状を呈する。	
302	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の石英, 長石, 繊維少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR5/4	口唇: 円頭状 内外面ナデ 8mm 10.0g	口唇にヘラ状工具で斜位にキザミを施す。外面に幅2.5mmで断面弧状~半円形の沈線を①曲線状に施し, ②その空白部に同一工具による沈線を斜位に平行させて施文。	

第26表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(7) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
303	A0 7層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石少, 2mm以下の黒色礫, 褐色礫少繊維僅か 10YR6/4 10YR6/5 10YR5/2	内面斜ナデ 6mm 8.4g	幅1.5~2mmで断面半円形の沈線を斜位に数条平行させて施文。幅3mmで断面弧状の沈線を斜位に2条平行させて施文。	
304	A0 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	繊維やや多, 5mm以下の褐色礫・砂粒少, 2mm以下の角閃石僅か 10YR5/3 10YR5/4 10YR3/2	外面縦ナデ, 内面横ナデ 9mm 20.7g	幅1~3mmで断面V字状の沈線を斜位に平行施文。	
305	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母少 7.5YR4/1 2.5YR4/6 5YR4/4	口唇: 円頭状, 刺突間をつまみ波状にする 内面横ナデ, 横ナデ 8mm 14.6g	口唇に幅7mmの円形竹管文を施文。外面に①条痕を横位施文。②幅2.5mmの浅い沈線を斜位に平行施文。③口縁直下に幅2.5mmで断面弧状の沈線を横位施文。④櫛歯状工具による刺突文を②と平行させて施文。	口唇, 内面黒斑あり。外面黒色化。
306	A0 調査区内一括	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多 5YR4/2 5YR4/2 5YR4/1	内面指頭圧痕あり 内面横ナデ 6mm 23.8g	①細密な貝殻条痕を横位施文。②縦位の貝殻腹縁文を不規則に施文。	内面黒色化。
307	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母, ガラス質透明砂粒多 7.5YR4/3 10YR6/3 10YR6/2	外面ナデ, 内面横ナデ 6.5mm 16.5g	①浅い条痕を斜位施文。②幅1mmで断面半円形の沈線を横位施文。③貝殻腹縁文を斜位に平行施文。	内面~断面黒色化。
308	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多 10YR6/4 10YR5/3 10YR3/2	内面ナデ 6.5mm 14.5g	①浅い条痕を斜位施文。②幅1mmで断面半円形の沈線を3条平行させて斜位施文。③沈線間に貝殻腹縁文を充填。	
309	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石, 白色砂粒, 繊維少 5YR5/6 5YR5/6 5YR5/6	内面横ナデ 8mm 16.1g	①細密な貝殻条痕を横位施文。②貝殻腹縁の刺突列を施文。③幅1.5mmで断面V字状の沈線を②に沿って矢羽根状に施文。	
310	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の褐色砂粒, 角閃石, 繊維多, 1mm以下の黒雲母, 石英, 黒色砂粒やや多 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR5/4	口唇: 角頭状 外面横ナデ 6.5mm 7.8g	口唇に幅4mmの円形竹管文を施文。外面に2本1組の沈線を斜格子状に施文。沈線は幅1.5mmで断面コ状。	
311	A0 表土	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	2mm以下の黒曜石多, 1mm以下の黒色砂粒やや多 7.5YR3/3 10YR6/3 10YR6/4	口唇: 円頭状 外面横ナデ, 内面横ナデ 6mm 13.5g	口唇にヘラ状工具を斜角にあて、刺突文を連続施文。口唇直下に幅5mmの半截竹管状工具で斜位の短沈線を連続施文。その下部に同一工具で平行沈線を横位施文。	内面摩耗顕著。
312	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, 黒曜石, ガラス質透明砂粒, 2mm以下の褐色砂粒, 繊維少 7.5YR2/2 10YR6/2 7.5YR7/2	口唇: 円頭状 内外面横ナデ 5mm 6.9g	①口唇直下に長さ1.4~2cmの短沈線を斜位に平行させて施文。施文具は幅4.5mmで櫛歯状。②口唇部に幅3mmの刺突を連続施文。	
313	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の褐色礫, 1mm以下の角閃石, 黒色砂粒, 繊維少 7.5YR4/3 10YR5/3 10YR5/3	内面指頭圧痕あり 外面ナデ 7~10mm 25.1g	幅2mmの半截竹管状工具で平行沈線を斜位, 横位, 波状に施文。	内面摩耗。313・314同一個体。
314	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の褐色礫, 1mm以下の角閃石, 黒色砂粒, 繊維少 7.5YR4/3 7.5YR4/3 7.5YR5/3	内外面ナデ 8mm 9.3g	幅2mmの半截竹管状工具で平行沈線を斜位施文。	内面摩耗。
315	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	5mm以下の褐色礫やや多, 2mm以下の黒曜石, 角閃石, 光沢黒色砂粒少 10YR3/3 10YR6/3 7.5YR5/4	内面横ナデ 8mm 91.9g	①細密な条痕を方向を違えて斜位施文。条幅2~4mm。②幅10mmの多截竹管で平行沈線を横位, 縦位に施文。反時計回りの施文動作・施文順序。	315・316同一個体。ブドウ属種子圧痕(正産分析No.11②)。
316	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	5mm以下の褐色礫やや多, 2mm以下の黒曜石, 角閃石, 光沢黒色砂粒少 5YR3/6 7.5YR5/1 7.5YR5/4	内面ナデ 8mm 38.1g	①細密な条痕を方向を違えて斜位施文。条幅2~4mm。②幅10mmの多截竹管で平行沈線を横位, 縦位に施文。反時計回りの施文動作・施文順序。	破断面一部に研磨あり。
317	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	2mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 繊維少 7.5YR4/6 7.5YR4/2 7.5YR4/3	口唇: 円頭状 外面ナデ 5mm 7.3g	①幅1.2cmで5本歯の櫛歯状工具でハの字状に集合条線を施文。②空白部に同一工具で集合条線を横位施文。③同一工具で口唇直下に短沈線列を斜位施文。条線は幅1mmで断面コの字状。	内面剥落。
318	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	9mmの褐色礫, 繊維やや多, 1mm以下の黒曜石, 黒色砂粒少 7.5YR4/6 10YR6/4 10YR2/3	口唇: 円頭状 外面横ナデ, 内面横ナデ 6mm 8.5g	口唇にヘラ状工具による斜位の刻みを施す。外面に①櫛歯状工具で浅い集合条線を縦位施文。②櫛歯状工具で深い集合条線を横位施文。条線は幅1~1.5mmで断面コの字状。	
319	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 3mm以下の褐色礫少, 繊維僅か 7.5YR3/3 7.5YR3/3 7.5YR4/6	口唇: 円頭~隅丸角頭状 内面粗いミガキ 7mm 53.4g	口縁が開く波状口縁の深鉢。胴部に①5本歯の櫛歯状工具で集合条線を縦位施文。②口縁と平行する集合条線を反時計回りの動作・施文順序で施文。③口唇直下の無文部に集合条線を縦位に施文。条線は断面コの字状, 幅1mm。内面に口縁と平行するように円形刺突を施す。刺突は径3.5mm, 竹管状工具による。	内面下部薄く黒色化。内面一部部分的に剥落。319~322同一個体。
320	A1 10層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 3mm以下の褐色礫少, 繊維僅か 7.5YR4/3 7.5YR4/3 5YR6/4	内面横ナデ 7mm 18.8g	幅8mmで4本歯の櫛歯状工具による集合条線を横位, 縦位に施文。	内面黒斑あり。
321	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 3mm以下の褐色礫少, 繊維僅か 7.5YR4/6 7.5YR4/2 7.5YR4/3	内面横ナデ 6mm 11.3g	櫛歯状工具で集合条線を方向を違えて斜位施文。条線は幅1mmで断面コの字状。	内面黒斑あり。
322	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 3mm以下の褐色礫少, 繊維僅か 7.5YR4/3 7.5YR4/3 5YR6/4	内面横, 斜ナデ 7mm 16.7g	幅8mmで5本歯の櫛歯状工具による集合条線を横位施文。	
323	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母, 繊維少 10YR4/1 10YR4/1 10YR4/1	口唇: 円頭状 口唇, 内面横ナデ 8.5mm 11.4g	櫛歯状工具による集合条線を①縦位, ②横位に施文。③口唇直下に幅3mmで断面半円形の刺突を横位に連続施文。	内面黒斑あり。内外面から補修孔を穿孔。
324	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の光沢黒色砂粒, ガラス質透明砂粒, 繊維僅か 10YR5/2 10YR4/2 10YR3/2	内外面横ナデ 9mm 5.4g	①櫛歯状工具で集合条線を横位, 斜位に施文。条線は幅1mmで断面コの字状。②空白部に①と同一工具で刺突文を施文。	
325	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の石英やや多, 1mm以下の角閃石, 光沢黒色砂粒, 5mm以下の褐色礫, 繊維少 7.5YR4/1 7.5YR5/4 7.5YR5/4	内外面横ナデ 9mm 13.7g	幅4.5mmで3本歯の櫛歯状工具で集合条線を①縦位, ②斜位に施文。③空白部に同一工具で長さ6mmの短沈線を約2mm間隔で施文。	
326	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒やや多, 繊維僅か 7.5YR3/1 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面横ナデ 5mm 26.9g	口縁にかけて外反する深鉢。①幅7mmで4本歯の櫛歯状工具で集合条線を横位施文。②同一工具で空白部に刺突文を施文。	
327	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒雲母, 長石, 磁鉄鉱, 石英, 繊維少 7.5YR7/6 7.5YR7/6 10YR6/2	口唇: 円頭状, やや外削ぎ 外面横ナデ 6mm 8.8g	波状口縁の深鉢。口唇上に直行する刻みを連続施文。外面に①幅2.5mmの半截竹管状工具で平行沈線を10mm間隔で縦位施文。②同一工具で平行沈線を集合条線状に横位, 斜位施文。内面に不規則な条痕を斜位施文。	

第27表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(8) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
328	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の長石, 繊維少 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR4/1	口唇: 隅丸角頭状 内面横ナデ, 口縁に沿う 斜ナデ 4.5mm 2.5g	波状口縁の深鉢。口唇に幅1mmの浅いキザミを斜位施文。外面に幅1.5mmで断面半円状の沈線を2本1組にして蛇行施文。	
329	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母やや多, 2mm以下の ガラス質砂粒, 白色礫, 褐色礫, 繊維少 5YR4/4 5YR4/4 5YR4/3	外面横ナデ 7mm 10.1g	幅4.5mmの半載竹管状工具で斜格子状に平行沈線を施文。	内面摩耗。
330	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母, ガラス質透明砂粒 多 7.5YR4/3 10YR6/3 7.5YR6/4	4.5mm 8.2g	①太さの異なる2条1単位の平行沈線を横位, 斜位施文。	内面摩耗。
331	A2 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	繊維多, 1mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 3mm以下の褐色礫やや多, 1mm以下の黒曜石 少 7.5YR4/3 7.5YR5/3 10YR4/2	口唇: 円頭状 口唇ナデ, 外面ナデ, 内 面横ナデ 9mm 36.6g	口唇上に幅2.5mmの斜位の刻みを連続施文。口唇直下に施文具を斜角にあて、幅2.5mmで断面L字状の刻みを連続施文。幅2mmで断面半円形の沈線を数条平行させ、方向を違えて斜位施文。	
332	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 繊維多 10YR4/1 10YR6/3 10YR3/1	内面指頭圧痕あり 外面縦ナデ, 内面横ナデ 6mm 52.9g	①幅1.5mmの浅い沈線を横位に3条施文し、②その下部に幅2mmの円形刺突を連続施文。③上部に幅1.5mmで断面コの字状の沈線を8条平行させ、方向を違えて斜位に施文。鋸歯状構成をとる。	内面黒色化。
333	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	3mm以下の白色礫・砂粒, 繊維僅か 7.5YR4/6 10YR6/2 10YR3/4	内外面横ナデ 7mm 21.9g	①幅3mmで断面コの字状の沈線を数条平行させ、方向を違えて斜位施文。②空白部に幅3mmの施文具を斜角に押し、不規則な刺突文列を斜位施文。	333~335同一個体。
334	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	3mm以下の白色礫・砂粒, 繊維僅か 10YR4/1 7.5YR 10YR7/2	外面ナデ, 内面横ナデ 7mm 10.6g	幅2mmで断面コの字状の沈線を斜位施文。最大幅4mmの楕円形刺突文列を連続施文。	内外面黒斑あり。
335	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	3mm以下の白色礫・砂粒, 繊維僅か 10YR4/1 10YR6/2 10YR5/1	外面ナデ, 内面横ナデ 6.5mm 6.5g	幅3mmで断面コの字状の沈線を縦位に平行させて施文。	
336	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石やや多, 1mm以下の黒雲母 少 7.5YR5/4 7.5YR6/1 10YR6/3	口唇: 円頭状 内外面横ナデ 7mm 11.1g	緩い波状口縁をもつ深鉢。①幅3mmで断面コの字状の沈線を口唇と垂直方向に縦位施文。②その両側に同一工具で沈線を数条平行に斜位施文。③口唇直下に幅3mmの円形刺突文を連続施文。	
337	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒, 繊維多, 1mm以下の光沢黒色砂粒, 4mm以下の褐色礫 少 10YR4/1 10YR5/3 10YR4/1	内面指頭圧痕あり 外面ナデ, 内面横ナデ 7mm 51.0g	①沈線を縦位施文。②沈線を①の左辺に8条平行に斜位施文。右辺に横位施文し、3条は山形を呈す。③上部と下部に沈線を斜位施文。沈線はいずれも幅3mmで断面半円形。	
338	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下白色礫, 2mm以下の褐色礫, 繊維多 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR5/4	外面ナデ 7mm 11.5g	①幅1.5mmで断面半円状の沈線を横位, 縦位に施す。②その区画内に同一工具で沈線文を矢羽根状に施文。	内面摩耗。
339	A1 10ab層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	繊維多, 1mm以下の黒曜石, 黒雲母, 磁鉄鉱 少 5YR5/3 10YR7/1 10YR7/2	外面ナデ, 内面ミガキ 8.5mm 17.8g	①幅2mmで断面弧状の沈線を縦位に平行施文。②幅1.5mmの浅い単沈線を横位施文。③幅2mmの浅い単沈線を①に向けて斜位施文。	内面~断面黒色化。
340	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	3mm以下の白色礫・砂粒多, 2mm以下の黒色 礫, 繊維少 7.5YR6/6 7.5YR5/6 7.5YR5/6	口唇: 角頭状 外面ナデ, 内面縦, 横ナ デ 5.5~9mm 29.1g	口縁が緩く外反する深鉢。口唇に多載竹管状工具による短沈線を斜位施文。外面に幅4mmの多載竹管状工具による引きずり文を斜位に平行させて施文。同一工具の端部を2回刺突することで円形~C字状の刺突文を施す。刺突幅4mm。	内面摩耗
341	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 1mm以下の角 閃石, 長石, 2mm以下の褐色礫少 7.5YR3/1 7.5YR4/3 7.5YR4/3	口唇: 円頭状 口唇ナデ, 内外面横ナデ 8mm 57.9g	口縁がやや外反する波状口縁の深鉢。幅3mmで断面コの字状の沈線を4条平行させて施文。幅2mmの円形刺突を沈線に沿うように施文。	341・342同一個体。 写真図版17-1 図目右。
342	A0 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 1mm以下の角 閃石, 長石, 2mm以下の褐色礫少 7.5YR4/3 7.5YR4/3 7.5YR3/2	内外面ナデ 8mm 13.6g	幅3mmで断面コの字状の沈線を横位, 斜位施文。幅2mmの円形刺突を沈線に沿うように施文。	
343	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒多, 1mm以下の黒色砂粒, 繊維僅か 7.5YR4/3 7.5YR6/2 7.5YR5/3	外面ナデ, 内面斜ナデ 6mm 6.7g	①幅3mmで断面コの字状の沈線を横位に平行施文し、沈線間に幅1.5mmの円形刺突を連続施文。②幅3mmで断面コの字状の沈線を斜位に平行施文。	内面摩耗。
344	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母少, 繊維僅か 10YR4/2 10YR4/2 10YR4/2	口唇: 円頭~尖頭状 内外面斜ナデ 6mm 7.1g	口唇にへら状工具による幅1mmのキザミを斜位に連続施文。外面に幅1mm断面コの字状の沈線を斜位に平行させて施文。幅2mmで断面半円状の刺突文を曲線状に連続施文。	
345	A0 8層	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石多, 1mm以下の黒雲母, 白 色砂粒少, 繊維僅か 10YR7/2 10YR6/2 10YR6/4	口唇: 円頭状, 外面やや 肥厚 口唇横ミガキ, 外面横ナデ 内面上端入念横ナデ, 以下横ナデ, 斜ナデ 9mm 240.6g	推定口径25cmの深鉢。①左辺に沈線により半円形の区画を施す。右辺に沈線を6条平行させて横位施文。②区画内に数条一組の沈線を縦位, 斜位に施文。沈線はいずれも断面弧状で幅3mm。③沈線に沿って幅3.5mmの円頭状工具を斜角にあてた刺突文列を施文。胴部に車筋LRを横位施文。条幅は4mmと6mm。	外面上部黒色化。写真図版17-1 図目左。
346	A0 表土	早期 中葉	沈線文	深鉢 口縁部	2mm以下の白色礫, 白色砂粒, ガラス質透明砂 粒, 繊維少 10YR2/2 10YR2/1 10YR6/3	口唇: 角頭状 外面斜ナデ, 内面横ナデ 7mm 7.1g	①中央部に幅1.5mmで断面弧状の沈線を斜位に平行施文。②先丸の棒状工具を斜角にあて、刺突文を横位多段に施文。	
347	A1 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	5mm以下の褐色礫やや多, 繊維少 10YR3/2 10YR6/2 10YR3/3	内面横ナデ 6mm 11.4g	①幅2mmで断面V字状の平行沈線を波状に横位施文。②幅5mmで断面弧状の沈線を横位施文。③2条1単位の沈線をX状に斜位施文。	内面黒斑あり。
348	A2 9層	早期 中葉	沈線文	深鉢 胴部	2mm以下の黒雲母, 石英, 長石, 褐色砂粒や や多, 繊維少 5YR5/4 5YR5/4 5YR5/4	外面ナデ 5mm 4.4g	幅5.5mmで5本歯の櫛歯状工具で集合条線を波状に施文。	内面脱落。
349	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 口縁部	3mm以下の黒色礫, 白色礫・砂粒, 褐色礫少, 繊維僅か 10YR4/2 10YR4/2 10YR4/2	口唇: 角頭状 内面指頭圧痕あり 内面口唇直下の輪積部に へら状工具によるクズリ 8.5mm 60.6g	口唇に①櫛歯状工具で斜行する集合沈線を施文。外面に①幅、深さが不規則な条痕を斜位施文。②口唇直下に同様の条痕を横位施文。内面口唇直下に浅い条線を横位に連続的に施文。	内面下部摩耗。
350	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒僅か 7.5YR4/2 7.5YR4/2 7.5YR4/2	口唇: 円頭~隅丸角頭状 口唇ナデ, 外面ナデ, 内面ミガ キ 8mm 7.4g	口唇に幅1mmで断面コの字状の刻みを斜位施文。外面に①幅5mmの先割れの工具で条痕を横位, 斜位施文。②幅6mmの半載竹管状工具による沈線を斜位施文。	
351	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 口縁部	1mm以下の長石, 繊維少 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2	口唇: 円頭~隅丸角頭状 口唇ナデ, 外面横, 斜ナ デ, 内面横ミガキ 7mm 7.3g	幅1mmの浅い条痕を2本1組にして斜位施文。	白色系の胎土。

第28表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(9) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
352	A1 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 口縁部	1mm以下の黒雲母多, 2mm以下の黒曜石, 長石, 褐色砂粒, 繊維やや多 7.5YR3/1 7.5YR4/3 7.5YR4/3	口唇: 円頭状 5~8mm 39g	口唇が大きく外反する深鉢, 口唇に幅2.5mmで断面弧状のキザミと, 幅1mmで断面V字状のキザミを斜位施文。外面に縦~斜位の条痕を施文し, 口唇直下を帯状にナゲ消す。	内面摩耗。
353	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 繊維やや多 7.5YR6/6 7.5YR4/1 7.5YR4/1	内面横, 斜ナゲ 8mm 24.2g	幅11mmで6本歯の櫛歯状工具で細密な条痕を斜位施文。	内面~断面黒色化。
354	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 繊維多, 1mm以下の黒雲母少 5YR5/4 5YR4/1 5YR4/1	外面ナゲ 8mm 14.8g	櫛歯状工具による浅い条痕を斜位施文。一部をナゲ消す。	内面黒色化, 摩耗。
355	A0 表土	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 光沢黒色砂粒, 繊維少 10YR7/6 10YR6/1 10YR6/3	内外面ナゲ 8mm 62.9g	櫛歯状工具による条痕を斜位施文。条痕は幅1mm以下で断面弧状。	内面摩耗, 黒色化。
356	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 黒曜石少, 2mm以下の褐色礫僅か 7.5YR6/6 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内外面指頭圧痕あり 下端凹状の輪積痕 内面横ナゲ 8~10mm 55.0g	外面に条痕を斜位, 縦位施文。内面に浅い条痕を斜位施文。	内面~断面黒色化。
357	A0 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 2mm以下の褐色礫, 繊維少 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR3/1	外面ナゲ 10mm 18.2g	①櫛歯状工具で条痕を斜位施文し, ナゲ消す。②幅1mmの浅い短沈線を斜位施文。	内面黒色化, 摩耗。
358	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (無文部)	深鉢 胴部	3mmの黒曜石, 黒雲母多, 1mm以下の石英僅か, 繊維やや多 5YR5/6 4.5YR4/1 4.5YR4/1	内面指頭圧痕あり 外面横, 縦, 斜ナゲ, 内面横ナゲ 6~9.5mm 45.5g	無文。	内面黒色化。黒雲母と黒曜石による光沢顕著。『居家以II』195・196と同一個体
359	A1 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 繊維やや多 10YR7/6 10YR7/2 10YR5/2	内面斜ナゲ 7mm 18.3g	条線の幅が不規則な条痕を斜位施文。条線は幅1~2mmで断面弧状。	内面~断面黒色化。359~363同一個体。
360	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 繊維やや多 7.5YR6/3 7.5YR6/3 7.5YR5/3	6.5mm 18.6g	①幅, 深さが不規則な条痕を斜位施文。②幅1.5mmで断面半円状の沈線を斜位施文。	内面黒色化, 摩耗。
361	A0 8層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 繊維やや多 10YR7/4 7.5YR6/1 10YR7/3	内面横ナゲ, 斜ナゲ 7mm 51.6g	条線の幅が不規則な条痕を斜位施文。条線は幅1~2mmで断面弧状。	内面黒色化。
362	A0 8層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 繊維やや多 10YR3/3 10YR2/1 10YR3/1	内面指頭圧痕あり 内面横ナゲ 5mm 12.6g	条の幅, 深さが不均一な条痕を斜位施文。	内面黒色化。
363	A0 表土	早期 後葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 繊維やや多 7.5YR7/3 7.5YR6/3 7.5YR4/1	内面ナゲ 6mm 26.0g	条線の幅が不規則な条痕を斜位施文。	内面黒色化。
364	A2 9層	早期	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下のカンラン石, 黒色砂粒, 繊維やや多, 1mm以下の角閃石 10YR7/3 10YR5/1 10YR5/1	内面指頭圧痕あり 内面横, 斜ナゲ 7~10mm 26.1g	条線の幅, 深さが不規則な粗い条痕を横位, 斜位施文。	内面~断面黒色化, 摩耗。
365	A0 7y層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒やや多, 1mm以下の黒曜石, 黒雲母僅か 7.5Y7/6 7.5YR6/2 7.5YR6/3	外面横ナゲ, 内面斜ナゲ 8mm 45.9g	幅3mmの半截竹管状工具で浅い条痕を斜位施文。一部ナゲ消す。	上半部のみ断面~内面黒色化。
366	A1 9層	早期 中葉	沈線文 (条痕)	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母多, 繊維少 7.5YR5/4 7.5YR4/1 7.5YR4/1	4mm 6.6g	幅9mmの櫛歯状工具による細密な条痕を不規則に斜位施文。	内面剥落, 黒色化。
367	A2 9層	早期 中葉	沈線文 (無文部)	深鉢 胴部	1mm以下の黒雲母, 繊維やや多, 1mm以下の黒曜石, 褐色砂粒少 7.5YR6/3 7.5YR6/3 7.5YR6/4	外面凹凸顕著 内外面横, 斜ナゲ 6~8.5mm 32.0g	無文。	内面上部薄く黒色化。
368	A1 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒雲母, 繊維やや多, 1mm以下の黒曜石, 黒色砂粒少 10YR3/2 10YR4/2 10YR5/2	口唇: 角頭状, 外面やや肥厚 外面横位, 斜ナゲ 8mm 12.9g	外面横方向の擦痕顕著。	
369	A0 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石やや多 10YR3/1 7.5YR6/2 7.5YR6/1	口唇: 角頭状 外面横ナゲ, 口唇, 内面ガキ 7mm 12.6g	無文。	
370	A1 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	3mm以下の白色礫・砂粒多, 2mm以下の黒曜石, 角閃石, 1mm以下の磁鉄鉱, 繊維やや多 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR5/3	口唇: 隅丸角頭状 口唇, 外面横ナゲ 8mm 46.6g	口唇がやや外反する深鉢。無文。横方向の平行な擦痕顕著。	内外面から補修孔を穿孔。370・371同一個体。
371	A2 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	2mm以下の黒曜石, 角閃石, 3mm以下の白色礫・砂粒, 繊維やや多 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR5/3	口唇: 円頭状 口唇内外面横ナゲ 8mm 43.2g	無文。外面横方向の擦痕顕著。	内面摩耗。
372	A1 円形落込み2層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, 白色砂粒少, 繊維僅か 10YR5/3 10YR7/2 10YR4/2	口唇: 角頭状 外面横, 縦ナゲ 6mm 11.0g	口縁が外反する深鉢。無文。	内面黒色化。
373	A0 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の褐色砂粒, 繊維僅か 10YR6/3 10YR7/2 7.5YR7/2	口唇: 円頭状 内外面斜ナゲ 5.5mm 8.1g	無文。	内面薄く黒色化。
374	A0/A1 10層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	5mm以下の黒色礫, 繊維やや多, 1mm以下の黒色砂粒僅か 7.5YR4/1 7.5YR4/1 7.5YR5/3	口唇: 隅丸角頭状 外面指頭圧痕あり 外面①縦, 斜ナゲ②口唇直下横ナゲ, 口唇, 内面横ナゲ 7mm 28.6g	無文。	外面黒斑あり。
375	A1 10層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	2mm以下の角閃石, 黒曜石, 褐色礫やや多, 繊維少 7.5YR4/1 7.5YR5/3 7.5YR5/3	口唇: 円頭~角頭状, 内側一部に稜 口唇横ナゲ, 外面横ナゲ, 内面斜ナゲ 7mm 41.1g	無文。内外面の口唇直下, 横方向の擦痕顕著。	外面薄く黒色化。
376	A1 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の黒曜石, 黒雲母, 繊維少 7.5YR7/6 7.5YR7/2 7.5YR7/3	口唇: 円頭状 口唇縦ナゲ, 外面口唇直下横ナゲ, 以下縦ナゲ, 内面斜ナゲ 7mm 42.5g	無文。	内面指頭圧痕あり。
377	A0 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	繊維やや多, 1mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒少, 4mm以下の褐色礫僅か 7.5YR5/8 7.5YR5/8 7.5YR5/8	口唇: 円頭状 外面縦, 斜ナゲ 外面指頭圧痕あり 5.5~7mm 12.3g	無文。	内面摩耗。
378	A0 表土	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	4mm以下の長石, 繊維やや多 10YR7/3 10YR7/1 10YR8/3	口唇: 尖頭状, 外面肥厚 外面口唇直下横ナゲ, 外面斜ナゲ 7mm 31.7g	外面斜方向の擦痕顕著。	内面摩耗。条痕文期の可能性残す。
379	A2 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 白色砂粒やや多, 繊維少, 1mm以下の長石僅か 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR5/3	口唇: 隅丸角頭状 口唇内外面横ナゲ 7mm 7.6g	無文。	
380	A0 11層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	0.5mm以下の黒雲母多, 2mm以下の白色礫, 繊維少 10YR5/2 10YR7/2 10YR6/2	口唇: 円頭状 外面横ナゲ, 内面斜ナゲ 6mm 5.6g	無文。外面横方向の擦痕顕著。	

第29表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(10) 早期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形・整形・器厚/重量	器形・文様	特記事項
381	A1 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の褐色砂粒, 黒色砂粒やや多, 1mm以下の角閃石, 繊維少 7.5YR7/6 10YR6/1 10YR7/3	口唇: 円頭状, 外面やや肥厚 外面指頭圧痕あり 口唇横ナデ, 外面口唇直下横ナデ, 以下縦ナデ, 内面斜ナデ 7.5mm 37.5g	口縁が大きく開く深鉢. 推定口径9cm. 無文.	内面薄く黒色化.
382	A0 9a~9d層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の褐色, 繊維僅か 7.5YR5/4 7.5YR4/1 7.5YR4/1	口唇: 円頭~尖頭状 内外面横ナデ, 斜ナデ 5mm 10.7g	推定口径9cmの小型の深鉢. 無文. 外面横~斜方向の擦痕顕著.	内面~断面黒色化.
383	A2 10層	早期 中葉	無文	深鉢 胴部	1mm以下の黒雲母多, 1mm以下の黒曜石, 光沢黒色砂粒少 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR3/1	内外面指頭圧痕あり 内外面横ナデ 7mm 32.5g	無文. 横位の擦痕顕著.	輪痕残存. 内面黒色化.
384	A1 9層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, 黒曜石, 白色砂粒やや多, 繊維僅か 7.5YR6/8 10YR7/3 7.5YR5/2	口唇: 角頭状 外面横位・斜ナデ, 内面横ナデ 8mm 11.5g	口縁がやや外反する深鉢. 外面擦痕顕著.	
385	A1 10層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	2mm以下の褐色砂粒, 褐色砂粒多, 繊維少, 7mm以下の暗赤色礫僅か 7.5YR5/1 7.5YR5/1 7.5YR5/1	口唇: 隅丸角頭状 口唇ナデ, 内外面斜ナデ 8mm 36.8g	口縁がやや外反する深鉢. 無文.	
386	A1 10層	早期 中葉	無文	深鉢 胴部	5mm以下の褐色砂粒少, 1mm以下の角閃石, 黒色砂粒僅か 7.5YR3/1 7.5YR3/1 7.5YR4/3	内外面斜ナデ 7mm 21.7g	無文.	外面黒色化.
387	A2 9層	早期 中葉	無文	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 繊維多 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR3/1	外面斜ナデ 8mm 35.6g	無文.	内面黒色化, 摩耗.
388	A1 10層	早期 中葉	無文	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, 褐色砂粒, 繊維僅か 7.5YR4/1 7.5YR5/3 7.5YR5/3	口唇: 隅丸角頭状 口唇, 内面横ナデ, 外面①斜ナデ②口唇直下横ナデ 6mm 6.6g	無文.	内外面から補修孔を穿孔.
389	A1 9層	早期 中葉	無文	深鉢 底部付近	1mm以下の角閃石, 長石僅か, 2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒, 繊維少 5YR6/4 5YR3/1 5YR3/1	外面縦ナデ 8mm 43.7g	無文.	内面~断面黒色化, 摩耗.
390	A1 10層	早期 中葉	無文	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 2mm以下の褐色礫やや多, 繊維少 5YR5/4 5YR5/4 5YR4/1	外面横ナデ 11mm 45.3g	無文. 外面横方向の擦痕顕著.	内面黒色化, 摩耗.
391	A1 9層	早期 中葉	無文	深鉢 底部付近	1mm以下の褐色砂粒, 繊維やや多, 1mm以下の角閃石, 磁鉄鉱, 長石少 7.5YR7/6 7.5YR7/1 7.5YR7/1	内外面指頭圧痕あり 外面縦ナデ, 内面ナデ 6mm 19.8g	尖底土器の底部付近. 無文.	外面底部付近剥落.
392	A2 9層	早期 後葉	子母口式 (微隆起線文)	深鉢 胴部	2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒やや多 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR3/1	5.5mm 11.3g	微隆起線を①右上がりの斜位, ②右下がりの斜位, ③横位の順に微隆起線を貼付. 微隆起線はいずれも幅1mmで断面二等辺三角形状で稜をもつ. 微隆起線の両側は幅3mmのヘラ状工具でナデる.	内面黒色化.
393	A2 9層	早期 後葉	子母口式 (微隆起線文)	深鉢 胴部	2mm以下の黒色砂粒, 褐色砂粒多, 繊維やや多 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR3/2	内面横ナデ 6.5mm 4.3g	幅1.5mmの微隆起線を①横位, ②縦位の順に貼付. 微隆起線の両側をヘラ状工具でなでる.	内面~断面黒色化.
394	A2 9層	早期 後葉	子母口式 (微隆起線文)	深鉢 胴部	2mm以下の結晶片岩, 長石, 黒色砂粒, 白色砂粒, 褐色砂粒やや多, 5mm以下の褐色礫少, 繊維僅か 5YR5/4 5YR5/4 5YR5/4	6mm 7.2g	①外面に浅く細密な貝殻条痕を横位施文. ②貝殻条痕をナデ消す. ③幅1mmの微隆起線を縦位に貼付し, 面筋をなでる. 内面に外面と同様の条痕を横位施文.	内外面摩耗.
395	A2 9層	早期 後葉	子母口式 (微隆起線文)	深鉢 胴部	2mm以下の長石, 黒色砂粒, 褐色砂粒やや多, 繊維やや多 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR5/4	5.5mm 13.5g	外面に①浅い条痕を斜位施文. ②縦位の微隆起線を貼付. 内面に幅1~2mmで断面弧状~半円形の不規則な条痕を横位施文.	内外面摩耗.
396	A1 9層	早期 後葉	子母口式 (絡糸体圧痕文)	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, 長石多, 1mm以下の黒曜石僅か 7.5YR7/8 7.5YR6/4 7.5YR5/8	口唇: 尖頭状 内外面横ナデ 8mm 16.7g	緩やかな波状口縁の深鉢. 絡糸体圧痕文を縦位施文. 縄原体は撓方向不明の1段縄, 糸幅1.5mm.	内外面一部黒色化. 型式同定に疑問残す.
397	A1 9層	早期 後葉	子母口式 (絡糸体圧痕文)	深鉢 胴部	4mm以下の褐色礫やや多, 1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 繊維少 7.5YR6/4 7.5YR6/1 10YR3/1	外面ナデ, 内面縦, 横ナデ 7mm 27.0g	絡糸体圧痕文を斜位施文. 縄原体は不明, 糸幅1mm.	内面~断面黒色化.
398	A1 9層	早期 後葉	子母口式 (絡糸体圧痕文)	深鉢 胴部	4mm以下の褐色礫やや多, 1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 繊維少 7.5YR7/6 7.5YR6/2 10YR4/2	外面横, 縦ナデ, 内面縦, 斜ナデ 7mm 12.8g	①櫛歯状工具で浅い条痕を斜位施文. ②絡糸体圧痕文を斜位施文. 縄原体は1段R, 糸幅2mm.	内面~断面黒色化.
399	A1 9層	早期 後葉	子母口式 (絡糸体圧痕文)	深鉢 口縁部	1mm以下の角閃石, 光沢黒色砂粒, 白色砂粒, 褐色砂粒やや多 5YR6/8 7.5YR7/1 5YR6/8	口唇: 尖頭状 内面斜ナデ 8mm 9.0g	絡糸体圧痕文を縦位施文. 縄原体は0段L, 糸幅2mm.	
400	A2 9層	早期 後葉	子母口式 (絡糸体圧痕文)	深鉢 胴部	1mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒, 繊維僅か 7.5YR3/1 7.5YR5/1 7.5YR5/1	外面横ナデ 7mm 6.6g	絡糸体圧痕文を斜位施文. 縄原体は0段R, 糸幅1.5mm.	内面剥落.
401	A2 8層	早期 末葉	絡糸体圧痕文	深鉢 胴部	1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒, 繊維やや多 10YR6/2 10YR4/1 10YR7/4	内面縦ナデ 9.5mm 13.9g	絡糸体圧痕文を斜位施文. 縄原体は1段R, 糸幅3mm.	内面~断面黒色化.
402	A1 9層	早期 後葉	子母口式 (絡糸体圧痕文)	深鉢 胴部	2mm以下の褐色礫・砂粒少, 繊維僅か 7.5YR5/4 7.5YR4/1 7.5YR4/1	外面ナデ, 内面横ナデ 7~9mm 32.2g	絡糸体圧痕文を斜位施文. 縄原体は1段R, 糸幅1.5mm. 絡糸体条痕を斜位施文.	内面~断面黒色化.
403	A2 9層	早期 後葉	鶴が島台式	深鉢 胴部	2mm以下の角閃石, 白色砂粒, 褐色砂粒, 5mm以下の褐色礫やや多, 繊維少 7.5YR5/4 7.5YR4/3 7.5YR4/2	9mm 25.7g	胴部が屈曲する深鉢. 外面に①屈曲部に幅6mmで断面弧状の隆起線を横位に貼付. 側縁を完全にナデ付ける. ②貝殻条痕を斜位施文. ③隆起線に幅7mmで断面弧状の短沈線を施す. 隆体上部に工具を斜角にあてた刺突を施し, 幅0.5mmの沈線を幾何学的に施す. 内面に浅い貝殻条痕を斜位施文.	内面摩耗.
404	A2 9層	早期 後葉	鶴が島台式	深鉢 胴部	2mm以下の黒曜石, 長石, 褐色礫やや多, 繊維少 7.5YR4/1 7.5YR5/3 7.5YR5/2	内面指頭圧痕あり 9.5~12mm 22.1g	胴部に段をもつ深鉢. 外面に①浅い貝殻条痕を横位施文. ②段部に幅6mmで断面溝状の隆起線を横位に貼付. 側縁をナデつける. ③幅3.5mmで断面二等辺三角形の隆起線を縦位に貼付. ④隆起線下端をなぞるように幅7mmの半截竹管状工具でC字状に沈線施文. ⑤隆起線, 空自部に幅4.5mmのヘラ状工具を斜角にあて刺突を施す. 内面に浅い貝殻条痕を斜位施文.	内面摩耗.
405	A2 8層	早期 後葉	鶴が島台式	深鉢 胴部	1mm以下のガラス質透明砂粒多, 1mm以下の黒雲母やや多, 繊維少 7.5YR4/3 7.5YR4/2 7.5YR3/3	内面斜ナデ 10mm 17.3g	①浅い貝殻条痕を横位施文. ②幅2mmで断面弧状の沈線を斜格子状に施し, 沈線の交点に幅6mmの竹管状工具で円形刺突文を施す. 円形竹管文と沈線の施文順序は混在する.	

第30表 前庭部緩斜面出土土器 観察表(11) 早期・前期

掲載番号	出土位置	時期	分類	器種	胎土・色調	成形/整形/器厚/重量	器形・文様	特記事項
406	A2 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	繊維多, 1mm以下の長石, 光沢黒色砂粒少 7.5YR5/4 7.5YR4/1	内外面指頭圧痕あり 外面縦、斜ナデ 8mm 26.1g	内面に幅が不規則な浅い条痕を斜位施文。外面斜方向の擦痕顕著。	内面黒色化。
407	A1 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	2mm以下の角閃石, 長石, 褐色礫, 繊維やや多 7.5YR6/6 7.5YR7/2 7.5YR6/3	外面斜ナデ 8mm 59.6g	外面無文。内面に浅い条痕を横位, 斜位施文。	外面層状に剥落。早期中葉期の可能性あり
408	A0 表土	早期 後葉	条痕文	深鉢 口縁部	1mm以下の長石多, 1mm以下の角閃石やや多, 繊維少 7.5YR7/8 7.5YR7/4 7.5YR6/3	口唇: 円頭状 口唇部横ナデ, 内面横ナデ 8mm 12.8g	口唇上に条痕を斜位施文。外面に条線条痕の幅が不規則な条痕を斜位施文。	
409	A2 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	1mm以下の黒曜石, 白色砂粒, 3mm以下の褐色礫・砂粒少, 繊維僅か 7.5YR7/4 7.5YR7/6 7.5YR2/1	内外面ナデ 7~10mm 31.5g	外面に貝殻条痕を斜位施文。内面に貝殻条痕を横位施文。	内面~断面黒色化。内面に炭化物付着。
410	A2 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	繊維多, 2mm以下の輝石, 磁鉄鉱, 長石, 褐色砂粒少 7.5YR5/4 7.5YR5/4 7.5YR5/4	8mm 26.6g	貝殻条痕を横位, 斜位施文。	内面摩耗。
411	A1 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	繊維多, 1mm以下の黒色砂粒, 白色砂粒少 10YR7/3 10YR7/2 10YR5/1	外面ナデ 8mm 30.4g	外面に浅い貝殻条痕を縦位, 斜位施文。	内面黒色化。
412	A2 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	6mm以下の褐色礫, 繊維多, 3mm以下の白色礫・砂粒やや多 5YR5/6 7.5YR3/1 7.5YR3/1	内面指頭圧痕あり 8~10mm 47.1g	内外面に浅い貝殻条痕を横位施文。	内面~断面黒色化。
413	A2 9層	早期 中葉	条痕文	深鉢 胴部	2mm以下の白色砂粒, 褐色砂粒, 繊維多, 3mm以下の黒色礫僅か 7.5YR5/3 7.5YR5/3 7.5YR4/1	8mm 24.6g	①浅い貝殻条痕を斜位施文。②①の両端を切るように貝殻条痕を斜位施文。	内面黒色化, 摩耗, 一部剥落。
414	A2 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	6mm以下の結晶片岩, 褐色礫, 繊維多, 2mm以下の長石少 7.5YR4/3 7.5YR4/3 7.5YR4/4	10mm 23.1g	内外面に浅い貝殻条痕を横位施文。	414・415 同一個体。
415	A2 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	6mm以下の結晶片岩, 褐色礫, 繊維多, 2mm以下の長石少 7.5YR3/3 7.5YR3/3 7.5YR3/3	9mm 20.8g	外面に貝殻条痕を横位, 斜位施文。内面に貝殻条痕を横位施文。	
416	A2 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	6mm以下の結晶片岩, 褐色礫, 繊維多, 2mm以下の角閃石, 石英, 長石少 7.5YR4/3 7.5YR4/2 7.5YR4/2	内面横ナデ 10mm 24.9g	条線の幅が不規則な条痕を斜位施文。	内面~断面黒色化。
417	A2 9層	早期 後葉	条痕文	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 長石, 繊維やや多 7.5YR6/3 7.5YR4/1 7.5YR4/1	外面指頭圧痕あり 8mm 19.2g	外面に貝殻条痕を斜位施文。内面に貝殻条痕を縦位施文。一部をナデ消す。	内面~断面黒色化。内面摩耗。
418	A2 8層	早期 末葉	絡糸体圧痕文	深鉢 口縁部	繊維多, 2mm以下の石英, 角閃石, 4mm以下の白色礫, 褐色礫やや多 7.5YR4/3 5YR6/8 5YR6/8	口唇: 円頭~角頭状 内外面斜ナデ 15mm 53.2g	①内外面に櫛齒状工具による粗い条痕を横位, 斜位施文。②外面に幅7mmの陸帯を貼付。③軟性の軸を用いた絡糸体によってイモムシ状の絡糸体圧痕文を施文。縄原体は惣方向不明の0段階, 条幅1~1.5mm。	
419	A0 表土	前期 前半	有尾式	深鉢 胴部	1mm以下の光沢黒色砂粒, 褐色砂粒, 繊維多 7.5YR5/4 10YR6/3 7.5YR4/6	内面横ミガキ, 外面横ナデ 10mm 32.4g	①幅6mmの多載竹管状工具による引きずり文を斜位, 横位に施文。②その上に幅6mmの半載竹管状工具によるC字状の爪形文を連続施文。	断面黒色化。
420	A0 表土	前期後半	諸磯b式	深鉢 胴部	1mm以下の角閃石, 褐色砂粒僅か 10YR7/2 10YR6/2 10YR6/2	内面①横ケズリ, ②横ミガキ 下端凹状の輪積痕 9~10mm 39.3g	①単節RLを横位施文。条幅3mm。②幅4mmで断面蒲鉾状の陸起線を3~4mm間隔で4本貼付, 間にナデを施す。③陸起線上に幅1.5mmで断面弧状の刻みを斜位に連続施文。陸起線ごとに向きを変え, 矢羽根状にする。	外面黒斑あり。

### 3. 層位別の出土傾向と分布

ここでは層位別に土器の分類集計を行い、各層の形成時期を検討する上での基本となるデータを提示する。ただし、早期の遺物包含層の調査には着手したばかりで土器の詳細な分類も実施できていないため、分析は第5次調査時点での大まかなものとなる。

集計は、第1次~第5次調査で出土した土器を対象に、出土量が少なく多く傾向を見えづらくする時期不明の縄文土器と、ごく少数の出土にとどまる弥生時代以降の土器を除いて行った。これとあわせて、第4次・第5次調査出土土器の平面・垂直分布を示し、各分類の分布状況からも出土傾向を検討する。なお、第2次・第3次調査出土土器の分布図は『居家以岩陰遺跡II』において提示している。

#### (1) 岩陰部

##### a) 層位別の出土傾向

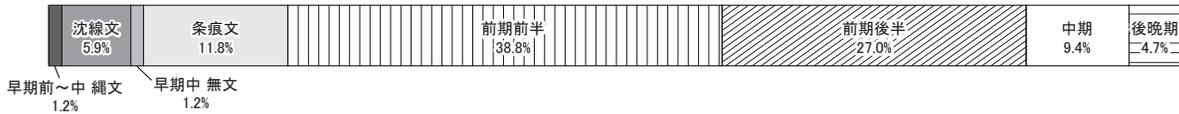
岩陰部出土土器の層位別の集計グラフを第73図に示す。岩陰部は土層堆積状況が複雑で個々の土層で集計するのは困難であるため、大別層群ごとに集計を行った。

岩陰部の出土土器全点の集計をみると、条痕文土器が約4割と最も多く、前期前半の土器が約3割と次に多い。早期前葉~中葉の縄文土器や早期中葉の沈線文土器、前期後半の土器の出土量もまとまっている。草創期の土器は小さな破片が中心で、確実なものはきわめて少ない。早期前葉に位置づけられる表裏縄文土器が少数出土している一方で、押型文土器が1点も認められない。押型文土器は第7次・第8次調査で行った第III層群の調査で検出されたものの、表層~第II層群においてまったく出土しない点には違和感を覚える。この意味については、

## 土器層位別集計グラフ 凡例 (第73図・第77図・第78図)

- 1) 早期前葉～中葉期にあたる回転縄文、捺糸文施文の土器を統合し「早期前～中 縄文」とした。そのうち約8割が回転縄文である。
- 2) 早期末葉期の土器は少数であるため、便宜的に早期後葉の条痕文に含めて集計した。
- 3) 岩陰部の集計では後期、晩期の集計を「後晩期」にまとめた。前底部緩斜面では分類の難しい無文部の破片のみを「後晩期」とした。
- 4) 合計の集計には、調査区一括で取り上げたもの、集計時の層位区分に対応できないものも含めた。
- 5) 時期不明の縄文土器、弥生時代以降の土器、分類不能の細片は集計から除いた。

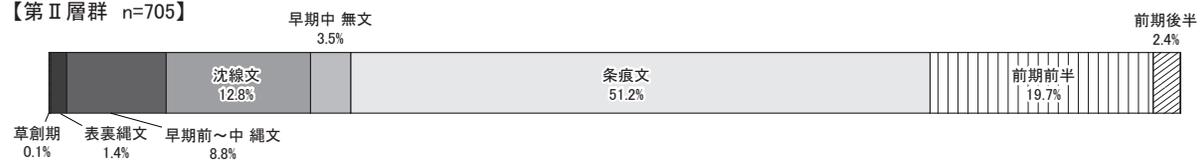
## 【表層 n=85】



## 【第I層群 n=189】



## 【第II層群 n=705】



## 【合計 n=1,096】



第73図 第1次～第5次調査 岩陰部出土土器 層位別分類集計

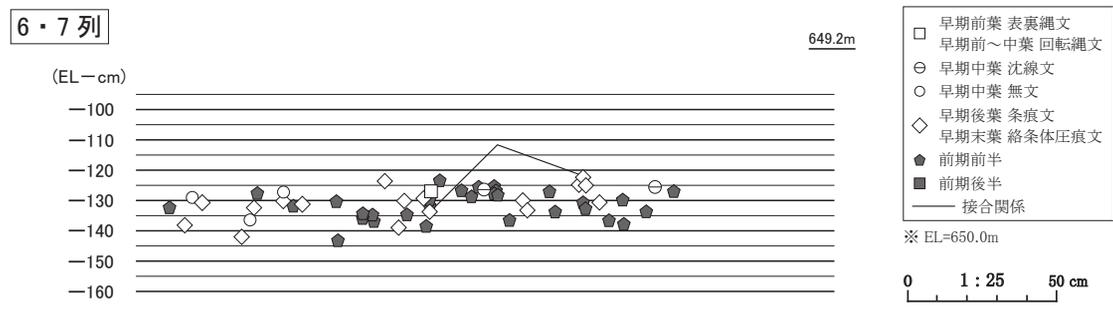
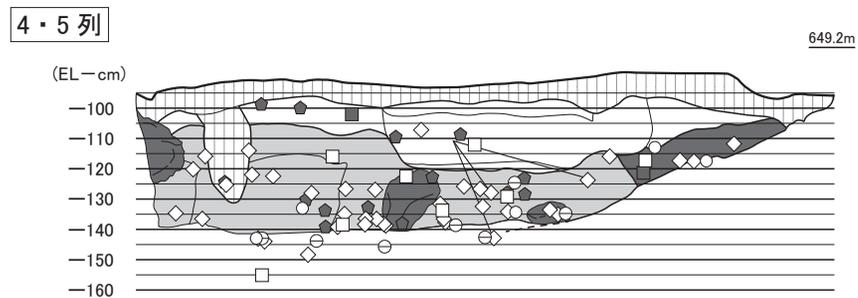
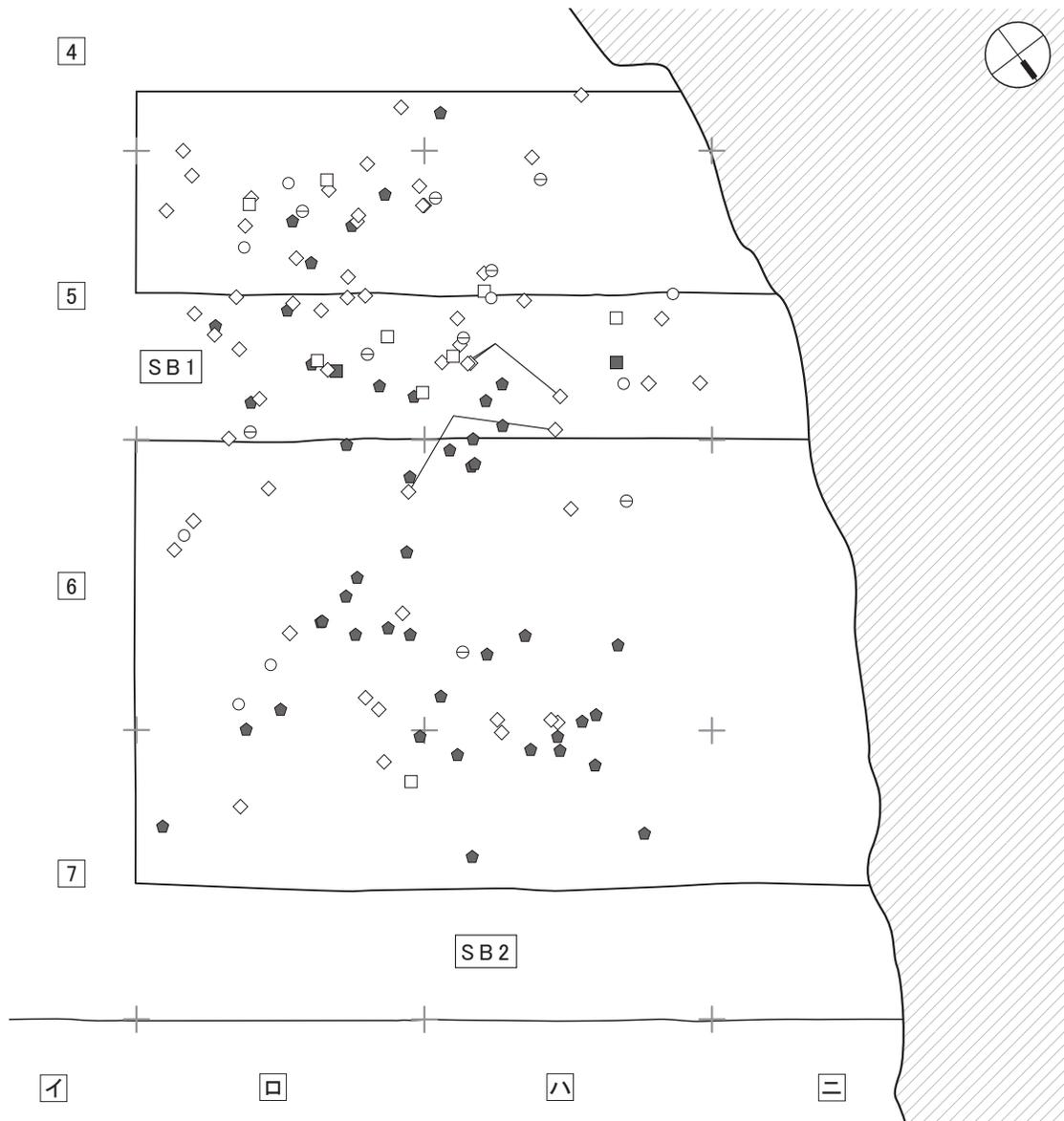
後の調査報告書で第III層群の報告を行う際にあらためて考えたい。

表層および第I層群の出土土器は、前期が6割以上と大半であるが、中期・後晩期の出土数も比較的多まるなど多時期のものを含んでいる。煩雑になるため集計には含めなかったが、弥生土器や陶磁器も少数出土している。第I層群は表層と比べて早期土器の割合が増し、反対に中期以降の土器が減っている。上下層の関係として整合している。第I層群中の焼土ブロック出土炭化種実の放射性炭素年代測定では、前期後半～中期初頭および近代の測定値が得られており(第5章第2節参照)、前期を中心としつつ以降の時期の資料も混在する土器の状況と矛盾はない。

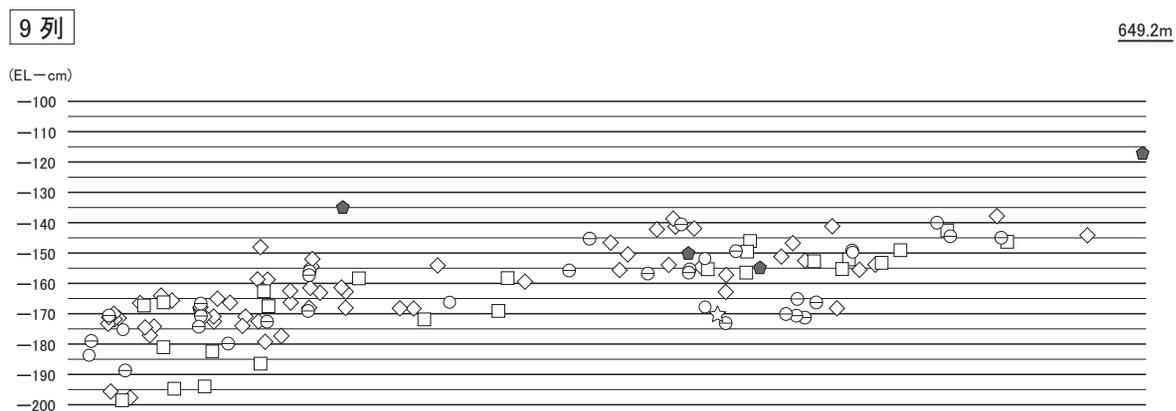
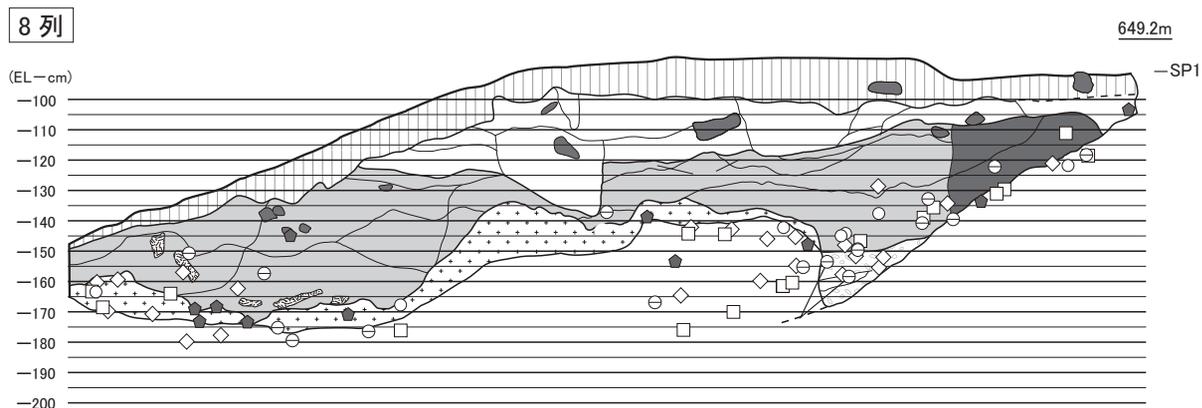
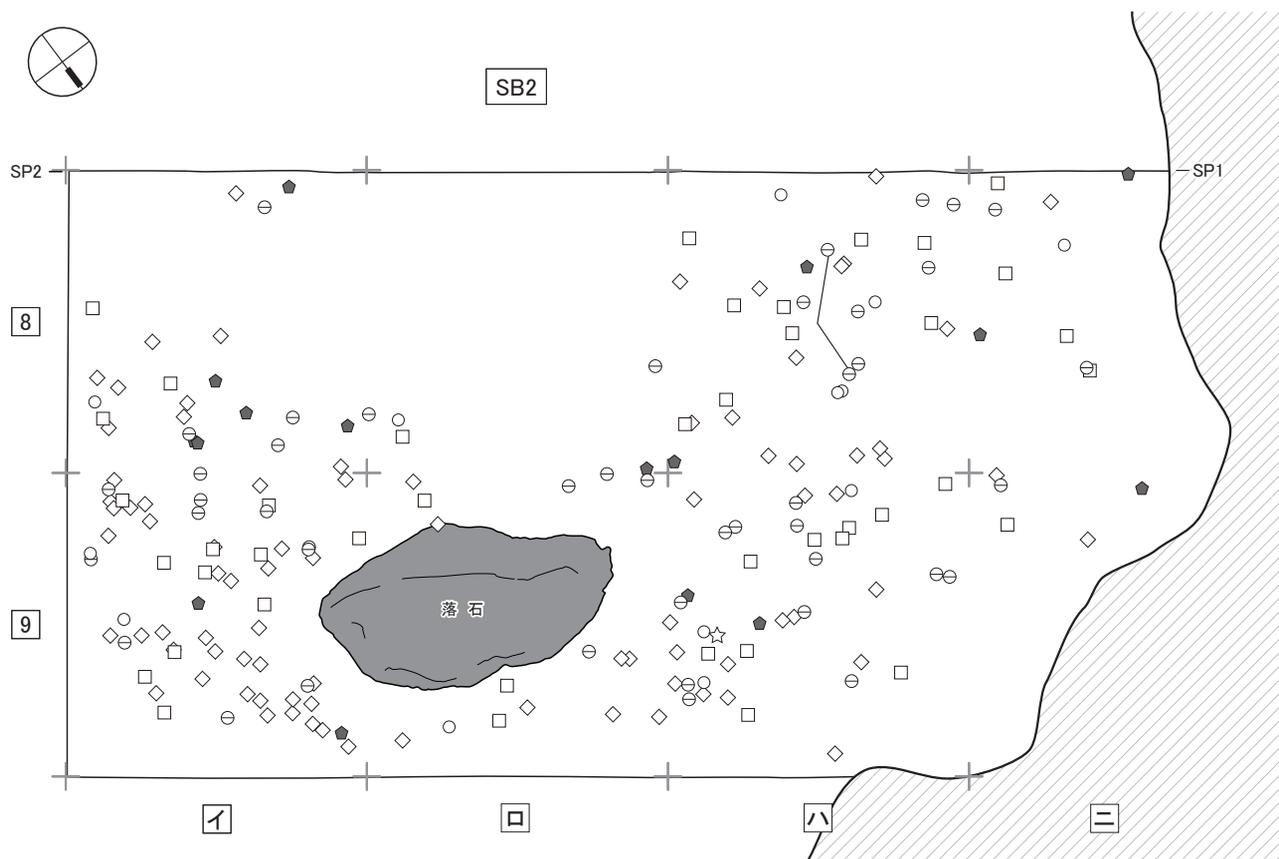
第II層群の出土土器については、まず出土量の多さに注目できる。第5次調査時点では第II層群は未完掘であるにも関わらず、すでに完掘している表層・第I層群を合わせた数の2.5倍以上の出土数となっている。層群間での遺跡利用の頻度の差を端的に表す数字といえる。分類の内訳は、早期後葉の条痕文土器が半数を占め、前期前半の土器が約2割、早期前葉～中葉の縄文土器と早期中葉の沈線文土器が1割前後となる。中期以降の土器はまったく出土せず、前期後半の土器も断片的で上層からの落込みとみられる。第II層群中にある灰ブロック出土炭化材の放射性炭素年代測定では前期前半の測定値が、埋葬人骨群の年代測定では早期後葉と前期後半の値がそれぞれ得られている(第5章・第8章参照)。出土土器の内容と齟齬のない結果である。

## b) 出土土器の分布

第74図～第76図は、第4次・第5次調査における岩陰部出土土器の平面・垂直分布図である。4・5列ではSB1を掘削したため、表層から第II層群までの分布を示している。6・7列は第II層群の半分近くの層準まで掘り下げたレベル、8・9列は第II層群をほとんど完掘するレベルまで掘り下げている。6～9列は、壁面から取



第74図 第4次・第5次調査 岩陰部出土土器 平面・垂直分布 (4～7列)

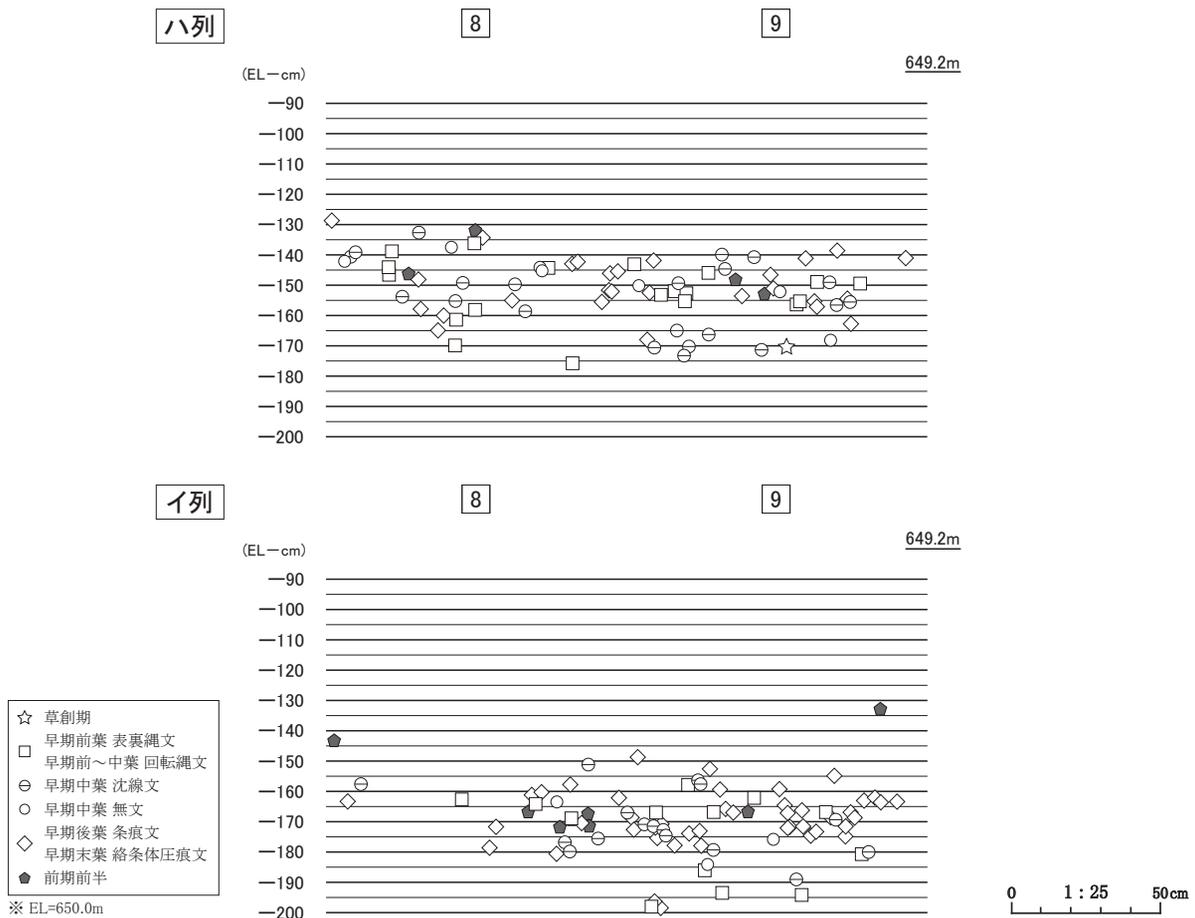


☆ 草創期 □ 早期前～中葉 回転縄文・表裏縄文 ⊖ 早期中葉 沈線文 ○ 早期中葉 無文  
◇ 早期後葉 条痕文・早期末葉 絡条体圧痕文 ● 前期前半 — 接合関係

※ EL=650.0m

0 1:25 50cm

第75図 第4次・第5次調査 岩陰部出土土器 平面・垂直分布 (8～9列)



第76図 第4次・第5次調査 岩陰部出土土器の平面・垂直分布（イ・ハ列）

り上げたものなど例外を除き、すべてが第II層群出土の土器で、表層・第I層群の出土土器は含んでいない。

4～7列では、全体に条痕文土器と前期前半の土器が混在する状況である（第74図）。ただし、4・5列のEL-140cm以下では前期以降の土器が出土していない。これより下は多数の埋葬人骨が集積された人骨集積Aが検出されたレベルで、下層に埋葬人骨が埋まると予想される6・7列でも、より下層においては出土土器が早期に限定される状況になると推測される。二列に分布が認められないのは、他の列よりも高いレベルで岩盤が露出したためである。上層の調査を行った第1次～第3次調査では、他の列と同様の分布密度で土器が出土している。

8・9列は先行して調査を進めているため、4～7列よりも掘削深度が深い（第75図）。前期前半の土器が減り、沈線文土器、条痕文土器の数が増している。早期の土器に前期前半の土器が混ざって分布する8列の状況に対し、9列はEL-160cm以下のレベルでは早期土器のみが出土している。この状況を比較するためにイ・ハ列の分布をみると、9列の掘削深度が相対的に深く、8列と同レベルでは9列でも前期前半の土器が出土していることが分かる（第76図）。第II層群の堆積は、8列側よりも9列側の方が分厚い。したがって9列側の方が第II層群中の上下の新旧関係をよく保存しているものと考えられる。

平面分布では特筆できる傾向は認められない。第II層群と、それが酸化して形成されたと考えられる奥壁褐色土の間でも傾向の違いはない。なお、ロ8の分布が少ないのは第3次調査に1号人骨の調査を行い、先行して掘削を進めていたためである。

## （2）前庭部緩斜面

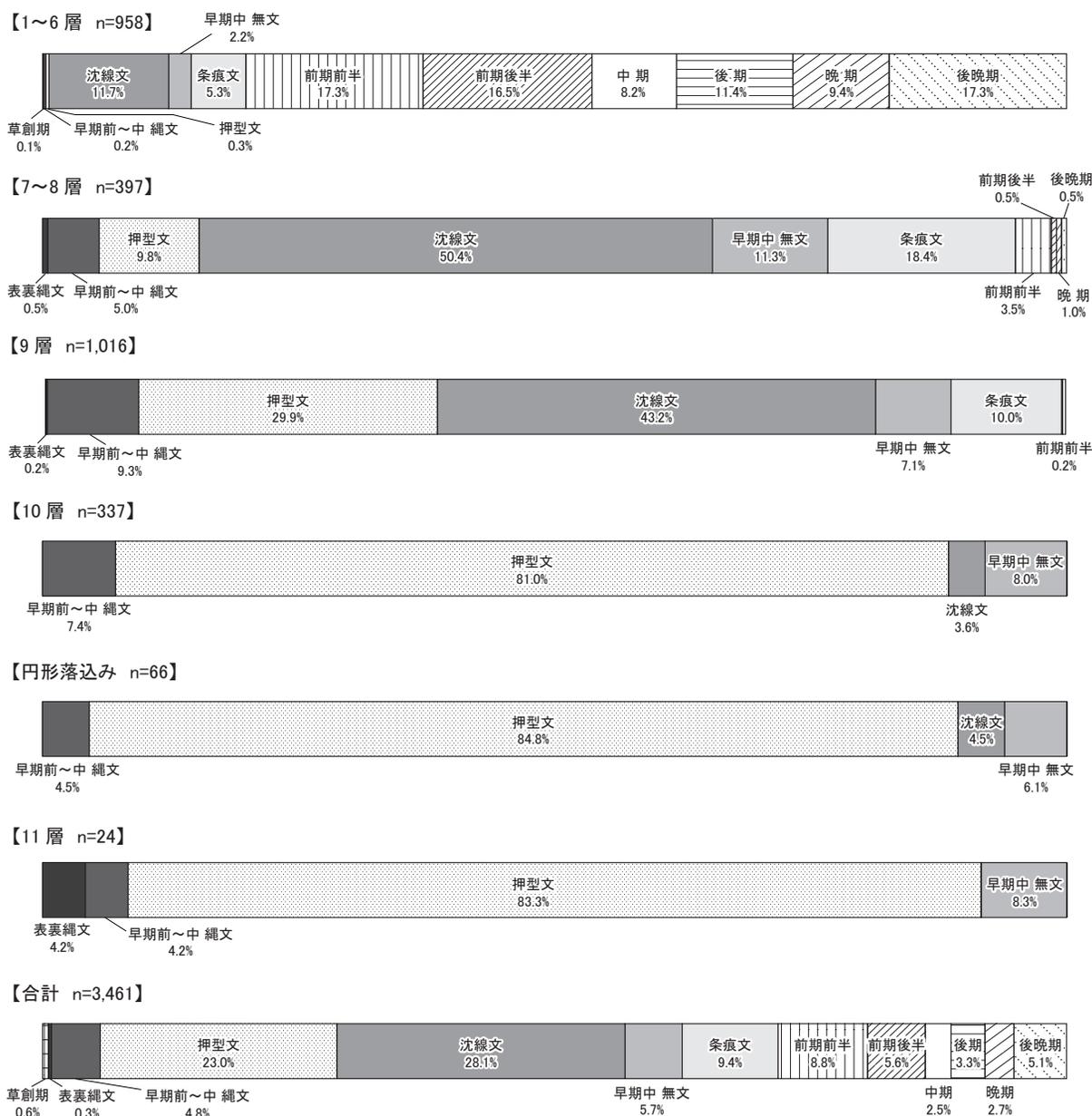
### a) 層位別の出土傾向

前庭部緩斜面の層位別集計グラフを第77図に示す。多時期の土器が混在する1～6層の集計をまとめ、出土土器が早期にほぼ限定される7層以下をそれぞれの層で集計した。ただし、7～8層は基質が非常に近い漸移層

で、掘削時の区別が困難であったため一括して集計した。10層は第5次調査で行った深掘区の調査によりa～gの7層に分層した(第4章第2節3項参照)。当然ながら、第4次・第5次時点ではこの分層を踏まえた調査は実施できていないため、10層は一括して集計する。円形落込みは灰質褐色土層である10層が土坑状に落ち込む部分で、流水の作用によって形成されたものである(第5章第3節参照)。11層は未調査であるが、一部掘削を行った部分があるため参考として集計した。

前庭部緩斜面の出土土器全点の集計をみると、早期土器が約7割で、前期以降が約3割となる。岩陰部では全体の3.5%であった中期以降の土器が10%以上を占め、傾向に差が認められる。対して前期の土器は約15%で、4割を占めた岩陰部よりも割合が低い。早期の土器については、押型文土器と沈線文土器の割合が高く、前庭部緩斜面では岩陰部で高い割合を占める条痕文土器の出土量が少ない。ただし、両調査区とも早期遺物包含層は調査途中であるため、現状での集計である点に注意が必要である。

1～6層は多時期の土器が混在する状況である。この部分の詳しい集計は『居家以岩陰遺跡II』において説明したため、ここでは概略を記す。1層(表層)から3層は弥生土器や土師器も混ざりながら後晩期の土器がまと



第77図 第1次～第5次調査 前庭部緩斜面出土土器 層別分類集計

まる。4層では中期土器が多く出土し、5層・6層では早期後葉の条痕文土器と前期前半の土器の出土数が増える。多時期の土器を混在しつつも、土器の時期的割合は下層から上層にかけて漸移的に変化している。

7～8層になると早期土器が9割以上で、後続する前期の土器はきわめて少数である。後晩期の土器が少数集計されているが、集計の傾向から判断すると現場段階で層序の把握を誤って混入したか、部分的な攪乱から出土したものである可能性が高い。早期のなかでは沈線文土器が半数で、条痕文土器が約2割、押型文土器と早期中葉の無文土器・無文部の破片が約1割である。

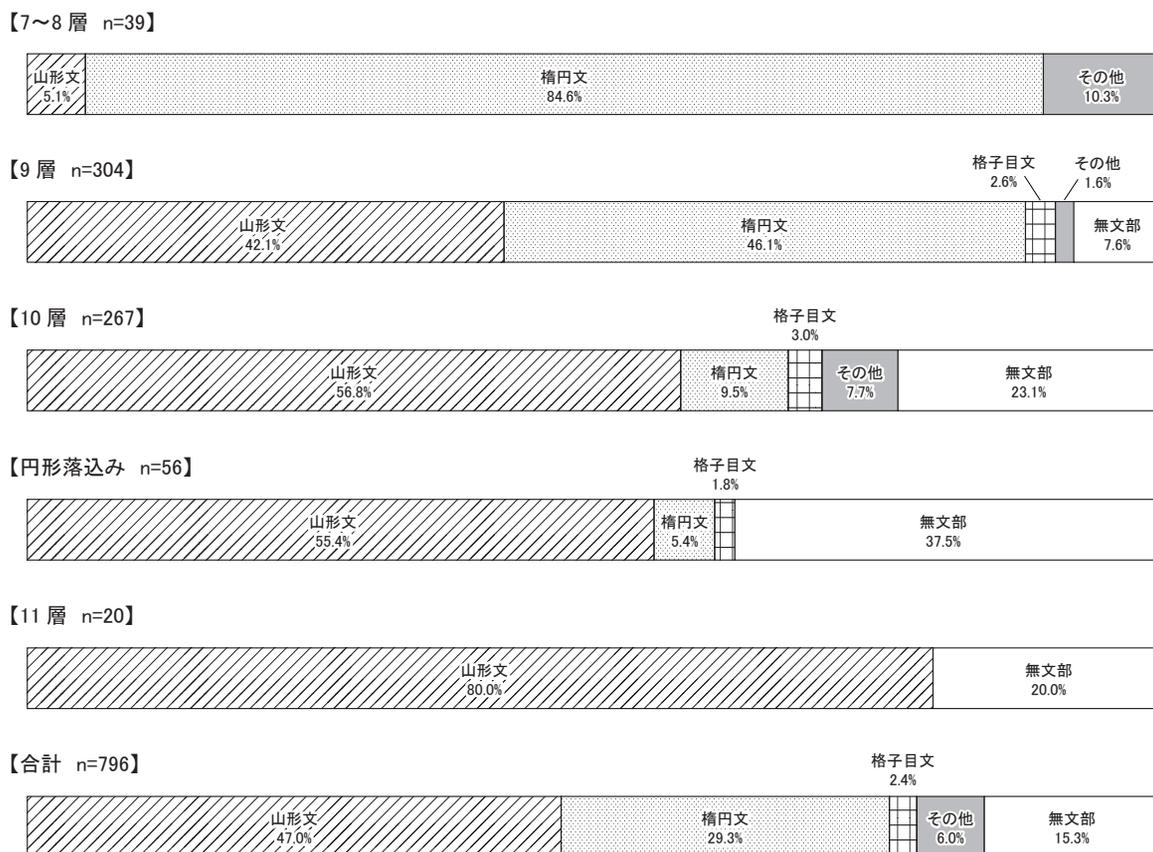
9層は土器の出土量が増加し、ほぼすべてが早期土器となる。前期前半の回転縄文土器が2点あるが、これは小破片で早期前葉～中葉の回転縄文土器に含まれる資料かもしれない。7～8層に比べて押型文土器の割合が増加し、3割を占める。沈線文土器も43%と多い一方で、条痕文土器は1割と出土数が減ずる。

10層では押型文土器が8割と急増する。7～8層と9層の集計で約半数であった沈線文土器は5%以下となり、条痕文土器は認められない。10層の円形落込み部分は9層に類似する暗褐色土が堆積していたが、その集計結果は10層とほぼ同じ割合で、押型文土器が8割以上、沈線文土器が5%以下である。円形落込みが10層を人為的に掘りこんで形成されたものでないことを裏づける結果といえる。なお、石器の集計においても、10層と円形落込みは近似する割合を示した（第2節3項参照）。

11層は24点ときわめて少数の集計で参考に過ぎないが、現時点での傾向を述べる。引き続き押型文土器が8割以上で、沈線文土器を含んでいない点が10層からの変化である。早期前葉の表裏縄文土器が出土している点には注目できる。

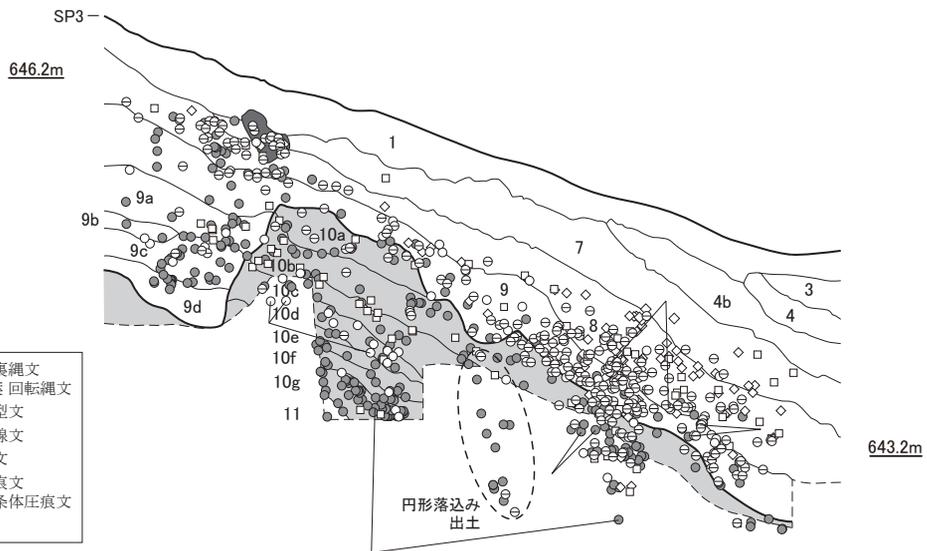
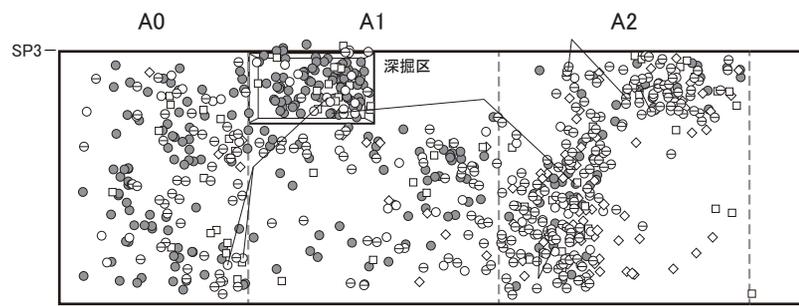
**b) 押型文土器の文様種別出土傾向**

第4次・第5次調査で出土数が急増した押型文土器について、文様種別の集計を実施した。同じく出土数の多い沈線文土器でも同様の分析を行うことが望ましいが、沈線文土器は文様が多様で体系的な分類を実施できていないため、種別によって分類が可能な押型文土器の検討を先んじて行う。



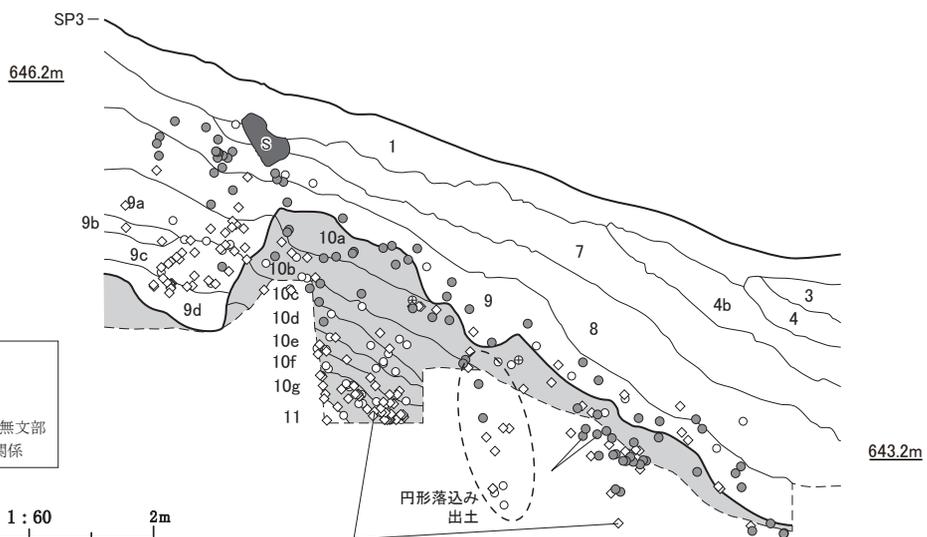
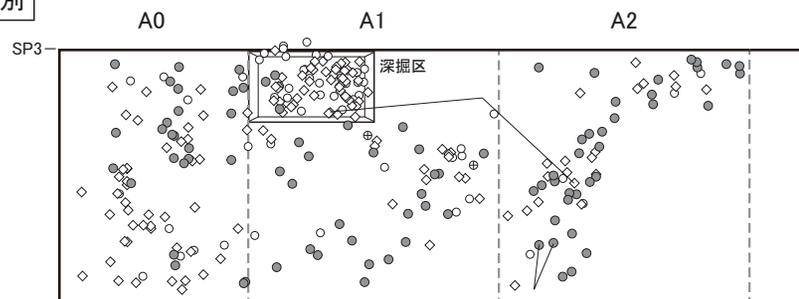
第78図 第1次～第5次調査 前庭部緩斜面出土押型文土器 層別分類集計

早期分類別



- 早期前葉 表裏縄文
- 早期前～中葉 回転縄文
- 早期中葉 押型文
- ⊖ 早期中葉 沈線文
- 早期中葉 無文
- ◇ 早期後葉 条痕文
- ◇ 早期末葉 絡条体圧痕文
- 接合関係

押型文 文様種別



- ◇ 山形文
- 楕円文
- ⊕ 格子目文
- その他・無文部
- 接合関係

0 1:60 2m

第79図 第4次・第5次調査 前庭部緩斜面出土土器 平面・垂直分布図

第78図は前庭部緩斜面出土の押型文土器の文様種別・層位別集計グラフである。大きく「山形文」「楕円文」「格子目文」の3種に分類し、異種併用や変形押型文、ネガティブ文などはその他にまとめた。無文部としたものはいずれも細片で、押型文土器に近い胎土や器面調整が認められるものである。無文土器や沈線文土器の胴部破片を含んでいる可能性については否定できない。

合計の集計では山形文が半数、楕円文が約3割と次ぐ。格子目文は2.4%ときわめて少数で、層位別の傾向の違いも認められない。7層から11層にいたるまでの変化で注目すべきは、山形文と楕円文の割合である。7～8層は全体で39点と出土量が少ないが、楕円文が8割以上で山形文は5%とごく少数である。それが9層では山形文が増大して約4割と楕円文とほぼ同数となる。10層においては比率が逆転し、山形文が半数以上、楕円文が1割となる。10層では無文部が増えているが、9層までの押型文土器は密接施文の個体が多いのに対し、10層では带状施文の土器が多いことが原因とみられる。円形落込みの割合は10層のものとはほぼ変わらない。11層は少ない資料数であるが、山形文と無文部に限定されている。

以上のように、押型文土器の文様種別の層位別集計には明確な傾向が認められた。現時点では型式学的検討を十分に行っていないため、既存の型式編年との対比は保留とする。中部地域における該期の編年研究に寄与するためには、施文手法や混和材、器面調整などの属性比較を進めるとともに、押型文土器と沈線文土器の関係性を分析していく必要がある。

### c) 出土土器の分布

第79図は第4次・第5次調査における前庭部緩斜面出土土器の平面・垂直分布図である。早期の分類別と、押型文の文様種別の二つを表示した。なお、平面分布が疎となっている部分は未調査の一角である。

早期分類別の分布では、7～8層では沈線文土器と条痕文土器が多く、9層では沈線文土器が卓越するなか押型文土器が増加し、10層では下層にいくにつれて押型文土器に限定されていく様子が読みとれる。押型文の文様種別の分布では、下層に向かうにつれ楕円文の数が減り、山形文主体となっていく。

10層には大きく落ち込んで黒褐色土が落ち込んでいる部分が複数あり、その形成要因の検討が課題となっている。その一つがA1の土坑状の円形落込みである。図中の点線で囲ったものが円形落込み出土の土器で、押型文土器が中心かつ、下層に向かうにつれて山形文の数が増えている。下層から沈線文土器2点が出土している点には注意が必要だが、分布状況においても10層と同様の状況がうかがえる。もう一つがA0の9a～9d層にあたる部分で、こちらは土坑状とならずに北西側は10層の壁が途切れる。この部分も円形落込みと同じく、10層と同様の内容となっている。A2のA1側において沈線文土器が10層に貫入するように分布しているが、これもメインセクションにかからないトレンチ南東側で10層が大きく落ち込んでいる部分である。こちらは前二者と異なり、沈線文土器と楕円押型文土器が中心で、9層の内容と類似する。この検討結果を踏まえると、A0・A1の落込みはもともと10層と同一の土層であった可能性が高く、A2の落込みは10層が形成された当初からあった落込みで、その上に黒褐色土(9層)が堆積したものと推測される。

平面分布については狭い調査区であるため、有意な傾向を見いだせていない。接合資料の分析を進めることで、遺跡形成に関する情報を読み取っていく。(松本)

## 第2節 石器

### 1. 石器と石材の分類

#### (1) 石器群の大別分類

出土した石器群には、製作・使用された道具としての石器（例：石鏃・打製石斧・磨石）と、それを製作する過程で生じた剥片や石核などが含まれる。人の行動・生活の必要から選択されて持ち込まれ、遺跡内に残された石製遺物の全体を石器群と総称する。

一般に石器の分類は、縄文土器の型式分類とは違って、個々の石器の考古年代を識別しにくい点に難がある。石器の分類と分析を通して遺跡での人間行動を考えようとするのであれば、同時期の石器群（例：廃棄ブロック・母岩別資料）を抽出して行うべきだが、現時点では厳密に同時期といえる石器群は得られていない。便宜的な方法となるが、出土した石器群を以下のカテゴリーに大別し、その分類を使って遺物包含層ごとの石器群を分類・集計することとする。

#### A類 貝殻状断面をもつガラス質・珪質の緻密石材を用いた剥片石器

A1類 剥片を素材として二次加工により整形された石器

A2類 定形的な器種以外の使用痕のある剥片

A3類 剥片

A4類 原石・石核（残核）

#### B類 砂岩などの粗粒石材を用いた比較的粗大な打製石器

B1類 粗大な剥片または礫を素材として二次加工により整形された石器

B2類 定形的な器種以外の使用痕・加工痕のある剥片

B3類 剥片

B4類 石核

#### C類 磨製石器（磨製石斧・環状石斧）

#### D類 安山岩・砂岩などの粗粒石材の礫を利用する礫石器類

D1類 素材の礫の一部を剥離して刃部を作出したもの

D2類 礫の原形をほぼそのまま利用し、使用による摩耗または敲打痕のあるもの

D3類 加工・使用痕のみられない自然礫

#### E類 軽石製品など、その他の石器を便宜的にまとめる

#### (2) 石材の分類

A類の石器に用いられた主要な石材には、黒曜石・黒色安山岩・黒色頁岩・チャート・珪質岩がある。黒曜石と他の石材の分別は容易である。黒色安山岩と黒色頁岩の分別は、ガラス質で石英の結晶を含むものを黒色安山岩、シルト・粘土起源の堆積岩を黒色頁岩とした。表面が風化した出土石器では、色調のよく似たこの二種の石材の分別は難しいため、強力磁石に付くものを黒色安山岩、付かないものを黒色頁岩として判別した。ただし、微細な剥片になると分別は困難である。珪質岩とは、さまざまな岩石に含有される二酸化珪素が火山活動による熱変成を受けて珪質化したものを指す。当初は色調の違いによって岩石学的な分類を試み、鉄石英に似た赤色系のもの、玉髓に似た緑がかかったもの、チャートに似て青色系のものを区別しようとしたが、吾妻川流域の縄文時代遺跡ではこうした岩石が広く利用されており、珪質岩としてまとめる方が地域的特性を表すことになり適当と判断した。

#### (3) 器種分類

A1類として石鏃・石錐・石匙・楔形石器・スクレイパーが出土している。押圧剥離により整形された定形的な器種が多い。石鏃の出土量が最も多く、形態は多様である。凹基無茎石鏃が大部分であるが、出土層位により

帰属時期を弁別した上で形態・型式による細別分類が必要となる。剥片の長辺の1/2以上に連続した二次加工により刃部が作出された石器をスクレイパー（削器）として分類する。二次加工が不連続または部分的で意図的な刃部の作出が明確でないものはA2類に分類する。

A4類の石核・原石の大部分は黒曜石製で、高さ2cm程度の小形なものが多い。打面または打点が残リネガティブな剥離面が1面以上あるものを石核とする。両極打撃による小形の石核が含まれ、曾根型石核（三上2009）とも称されるが、石材・サイズが黒曜石製石核に共通することから、これらも石核に分類した。ただし、平面形が矩形、断面系が菱形または楔形に意図的に加工整形されたものがあり、これらは楔形石器としA1類の一器種として分類した。

B1類には、打製石斧、小形へら状の両面加工石器、大形スクレイパーが含まれる。B1類の石器は意図的に加工・整形されたものであるが、A1類に比べて器種としての定型性が弱く、素材の形状によって形態が変異するものが多い。大形スクレイパーは砂岩・凝灰岩などの大形剥片の縁辺に刃部を作出したもので、A1類のスクレイパーと区別して大形スクレイパーとする。

C類として磨製石斧と環状石斧が出土している。今のところ出土点数が少ないため、細別分類は保留しておく。

D類のなかで出土量が最も多いのはD2類で、特殊磨石・磨石・敲石・石皿・台石・砥石・ハンマー、および磨石と敲石の使用痕を併せ持つ複合礫石器がある。特殊磨石は断面三角形状の長形礫の稜線部分に、使用による細長い摩耗面が残るもので、縄文早期の特徴的な礫石器である。敲打痕をもつ礫石器は、凹状の使用痕が礫の端部に残り堅果類の脱穀などに使用されたと考えられる類を敲石、比較的小形の礫の縁辺に溝状・線状の使用痕が残る剥片剥離や石器の加工に使用したとみられる類をハンマーとして区別する。

#### （4）分類・集計結果

第4次・第5次調査で岩陰部と前庭部緩斜面から出土した石器群の分類・集計結果を第80図および、第31表～第39表に示す。岩陰部の調査区と前庭部緩斜面のAトレンチは発掘調査深度が異なる。岩陰部は縄文前期から早期後葉を中心とした遺物包含層を上層から平面的に発掘中である。岩陰部出土の石器群は前期から早期後葉を中心としたものと考えられる。一方、前庭部緩斜面のAトレンチは、遺跡内の土層堆積と各層の時期を確認するためにサブトレンチを設定して部分的に深掘りを行ったため、早期中葉の遺物包含層に達した部分もあるが、Aトレンチ出土の石器群のうち7層以下については、同層出土の土器群から早期中葉・後葉の石器群と判断できる。（谷口）

## 2. 第4次・第5次調査出土石器

### （1）集計と傾向

第4次・第5次調査では、器種石器420点、剥片・チップ15,509点（6,823.7g）が出土した（水洗選別で回収した遺物も含む）。両次調査の器種・石材別の集計結果を第80図のグラフにまとめた。基礎集計のデータとして、グリッド・層位別の分類集計表（第31表～第37表）、石材別分類集計表（第38表・第39表）を示す。なお、第1次～第5次調査の全体集計については本節3にて詳述する。

器種別の出土石器の割合では、剥片石器（A類）が多数を占める（第80図上）。そのなかでも石鏃が44.5%と突出して多い。削器（A類）や、それに類する資料を含む二次加工剥片の出土数も比較的まとまっている。一方で礫石器が少なく、そのなかで多いのが磨石（5.0%）、石皿（1.0%）である。石器製作の素材となる石核・原石は全体の18.3%と多く出土している。

剥片石器（A類）の石材傾向をみってみる（第80図下）<sup>1)</sup>。点数比では黒曜石が78.2%を占め、他の石材に対して卓越する。これを重量比にすると黒曜石が31.0%、黒色安山岩が29.1%、黒色頁岩が22.3%となり均衡する。これら3つの石材が重量割合の82.4%を占めており、使用石材の中核をなしている。礫石器の石材は、安山岩が約7割と大半であり、砂岩がそれに次いで多い（第38表下・第39表下）。

以下では、調査区別に出土石器を図示、記載する。

（吉澤・松本）

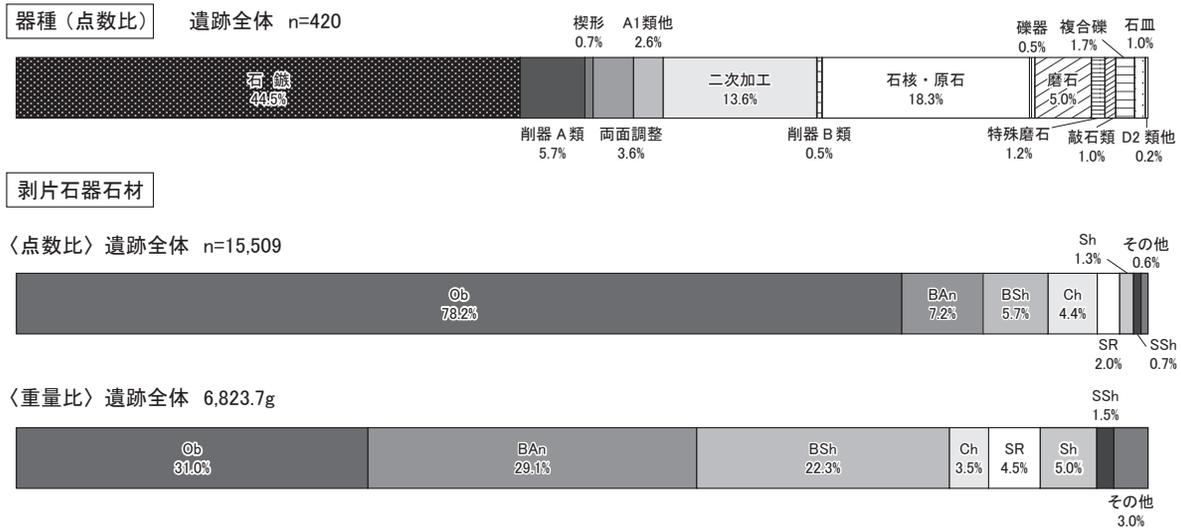
## 石器集計グラフ 凡例 (第80図、第99図～第103図)

〈器種集計〉

- 1) A1類およびD2類のうち3点に満たない器種は「A1類他」、「D2類他」にまとめた。
- 2) 敲石、ハンマーは「敲石類」にまとめた。
- 3) 出土数が僅かなC類(磨製石器)、E類(石製品)は集計から除いた。
- 4) 層別集計の合計には、集計時の層位区分に対応しないもの、出土層位が不明であるものを含めた。

〈剥片石器石材集計〉

- 1) 本報告での石器分類「A類」を剥片石器として集計した。分類の詳細は第6章第2節1項を参照。
- 2) 各調査区の合計において点数、重量のどちらも1%に満たないものをその他にまとめた。
- 3) 石材不明のものは集計から除いた。
- 4) 合計の集計には、ここでの層位区分に対応しないもの、層位不明のものも含めた。
- 5) 石材と略号の対応は巻頭の凡例を参照。



第80図 第4次・第5次調査出土石器器種・石材別集計

## (2) 岩陰部 (第81図～第86図、第40表・第41表)

**石鏃** (1～23) 64点(未成品含む)出土し、このうち23点を層別別、形態別で図示した。形態は1・15の平基無茎を除き、凹基無茎である。凹基無茎は、早期に特徴的な基部の抉りが浅く弧状となる形態がやや多い傾向にある。また、早期後葉にみられる長身鏃(1・14・21など)も散見される。一方で、前庭部緩斜面で出土している鋏形鏃は認められない。鏃身部は交互剥離によって調整されたものが多くを占めるが、少量ながら片面調整も認められる。使用石材は、黒曜石が最も多く、次いで黒色頁岩、黒色安山岩となり、第2次・第3次調査と同じ傾向を示す。

**スクレイパーA類** (24～31) 10点出土し、このうち8点を図示した。24は端部に急斜度の剥離が施されている。25は片側縁に連続した剥離が施されており、裏面には微細剥離が認められる。26は表裏ともに片側縁のみ調整が施され、器体中央に抉りが認められる。先端部の加工から石鏃の可能性も示唆される。27は右側縁から下面にかけて急斜度の剥離が施される。28は表面が全周にわたり剥離されており、端部の調整は急斜度である。29は大きい剥離で整形され、部分的に押圧剥離が施される。30は表面の両側縁に剥離が施されるが、主要剥離面となる裏面からの剥離はほぼ認められない。31は右側縁から下端部にかけて剥離が認められる。

**石匙** (32) 1点出土した。32は表面が深い押圧剥離により丁寧に調整されているものの、裏面は縁辺部のみに浅い剥離が認められる。

**ヘラ状石器** (33) 1点出土した。33は片面ずつに調整が行われ、裏面の後に表面に剥離が施される。

**石錐** (34・35) 2点出土した。34は錐部が長く、急斜度の剥離が施される。基部と先端部が欠損している。35は全周にわたり両面調整が施されており、錐部が短い。

**両面調整石器** (36～39) 7点出土した。36は左側縁に両面調整が施されているが、右側縁の加工は少ない。

37は異形石器に分類されるような平面形を呈しており、縁辺部に連続した両面調整が施される。38・39は表面に急斜度の剥離が、裏面に平坦な剥離が施される。

**石核**(40～47) 24点出土し、このうち8点を図示した。40・46・47は上方向および下方向から剥離されており、楔状を呈する。41は表面が節理面を打面として剥離されているが、右面および左面は下方向からの剥離である。42～44は、打面からの剥離を主体とする。45は右側縁と表面中央の稜線上から剥離されている。

**原石**(48～50) 6点出土し、このうち3点を図示した。風化した古い剥離面が多く残存する。

**スクレイパーB類**(51) 1点出土した。51は右側縁に連続した剥離が施される。

**礫器**(52) 1点出土した。52は円礫を素材とし、打割された縁辺を刃部としており、微細剥離が認められる。

**磨石**(53・54) 8点出土し、このうち2点を図示した。53は表裏面に磨痕と微弱な敲打痕が認められ、右側面に微弱な敲打による平坦面が形成されている。54は表面に磨痕が広がっており、裏面には磨痕の中央部に微弱な敲打痕が認められる。

**特殊磨石**(55) 2点出土し、このうち1点を図示した。55は円礫の稜部に磨痕と微弱な敲打によって平坦面が形成されており、剥離を伴う。

**敲石**(56) 1点出土した。56は表面の中央部に敲打痕が認められる。

**複合礫石器**(57～59) 3点出土した。すべて特殊磨石と磨石類の複合石器である。円礫の稜部に磨痕および敲打による平坦面が形成され、表裏面や端部などに磨痕や敲打痕が認められる。

**石製装身具**(60) 1点出土した。蛇紋岩製の石製装身具で、中央部に穿孔をもつ。形態は塊状耳飾に類似する。

### (3) 前庭部緩斜面 (第87図～第97図、第42表～第44表)

**石鏃**(61～103) 125点(未成品含む)出土し、このうち43点を層位別、形態別で図示した。102・103は未成品である。形態は、68・70などの平基無茎が少量であり、凹基無茎が主体を占める。出土数の多い9層は、抉りの浅いタイプよりも、抉りが深いタイプが多い傾向にある。また、押型文期に特徴的な鋏形鏃(84～95)が他層準と比較して多出する。抉りの浅い対応では、主要剥離面が大きく残存し、縁辺部のみの押圧剥離により整形されたもの(67～69など)も散見される。使用石材は、岩陰部同様に黒曜石が主体を占め、黒色頁岩、黒色安山岩がこれに次ぐ。

**局部磨製石鏃**(104・105) 2点出土した。104は表裏の脚部が、105は器体中央が研磨される。

**スクレイパーA類**(106～110) 12点出土し、このうち5点を図示した。106は大形の横長剥片を素材とし、右側縁にほぼ垂直の加工が施される。107は縦長剥片を素材とし、右側縁に急斜度の剥離が施される。108は、左側縁に急斜度の剥離が施され、右側面には原礫面が残存する。109は表面右側面と裏面左側面にそれぞれ連続した押圧剥離が施され、断面が三角形を呈する。110は裏面の原礫面から片面加工により、全周に剥離が施される。左側縁は急斜度の剥離である。

**石錐**(111) 1点出土した。111は縦長剥片の端部に急斜度の剥離が施されており、錐部の作出と判断した。表面は節理面で構成される。断面は三角形を呈する。

**楔形石器**(112～116) 8点出土し、このうち5点を図示した。113・116はほぼ上下方向からの剥離面によって構成されるが、112・115は上下方向のほか左右方向からの剥離も認められる。

**両面調整石器**(117～121) 5点出土した。118は周縁に急斜度の剥離が施されている。119は剥片を素材とし、周縁に急斜度の剥離が施される。120は深い大きな剥離と縁辺に施された連続した押圧剥離によって整形されている。119・120は尖頭器の可能性も示唆される。

**二次加工剥片**(122) 27点出土し、このうち1点を図示した。122は周縁に連続した剥離が施されており、表面に原礫面が、裏面に主要剥離面が残存する。

**剥片**(123) 1674点出土し、このうち1点を図示した。黒曜石の剥片である。

**石核**(124～146) 56点出土し、このうち23点を図示した。石材は黒曜石が多く、チャートや頁岩が微量ながら認められる。黒曜石の石核は、重量が15～40gの範囲に収まり、このうち20g台の小形の石核が主体

を占める。このうち、上下方向と左右方向からそれぞれ楔状に剥離が行われたものも認められる(135・139など)。143は大形の石核で、頁岩の円礫を素材としている。

**原石** (147～153) 14点出土し、このうち7点を図示した。風化した古い剥離面が多く残存する。

**スクレイパーB類** (154～156) 3点出土した。大形の剥片および破碎礫を素材とする。縁辺に連続した剥離が認められ、154・155が両面に、156は片面に調整が施される。

**打製石斧** (157・158) 2点出土した。調整はヘラ状石器に類似するが、器厚が厚く、刃部角が緩やかな曲線状を呈する。157は裏面に調整を施した後に表面の調整により整形されている。158も157と概ね同様の加工方法であるが、刃部のみ裏面に微細剥離が認められる。

**磨製石斧** (159) 1点出土した。159は定角式磨製石斧である。上下が欠損した後に、基部の稜上に潰れが認められ、刃部には剥離が施されており、スクレイパーとして転用された可能性がある。

**礫器** (160～163) 6点出土し、このうち4点を図示した。平坦な裏面から急斜度の剥離によって刃部を作出しており、すべて原礫面が残存する。161は円礫から刃部だけを作成している。

**磨石** (164) 9点出土し、このうち1点を図示した。164は表裏に磨面が広がっている。

**特殊磨石** (165～170) 9点出土し、このうち6点を図示した。断面が三角形状を呈しており、稜部に磨痕および微弱な敲打による平坦面が長軸に沿って認められる。165・166は敲打を、167は磨痕を主体としており、168～170は磨痕に微弱な敲打が共存する。

**複合礫石器** (171～173) 3点出土した。171・172は特殊磨石と敲石、173は磨石と敲石の複合である。

**石皿** (174・175) 3点出土し、このうち2点を図示した。174は全体の1/4ほどしか残存しておらず、表面に磨痕が広がる。175は使用面が緩やかに湾曲しており、敲打によって整形されたものと考えられる。磨痕の後に敲打作業が行われている。

**凹石** (176) 1点出土した。176は器体中央に敲打痕が認められ、凹状となる。

**ハンマー** (177～179) 3点出土した。小形の円礫が用いられており、端部および側面に敲打痕が認められる。

**砥石** (180) 2点出土し、このうち1点を図示した。表面中央に長軸方向の溝が認められる有溝砥石である。

#### (4) 表面採集 (第98図、第45表)

**石鏃** (181～184) 7点出土し、このうち4点を図示した。181は頁岩製で平基無茎を、182～184が黒曜石製で凹基無茎を呈する。

**石匙** (185) 1点出土した。縦型の石匙である。横長剥片を素材としており、上部に抉り部が作出され、右側縁に連続した調整が施される。

**楔形石器** (186) 1点出土した。器厚は厚く、上下方向からと左右方向からそれぞれ剥離が施される。

**微細剥離のある剥片** (187) 1点出土した。右側縁に連続した剥離が施されており、左側縁の原礫面に微細剥離が認められる。 (中島)

#### 註

1) 本報告では、剥片石器の石材集計結果を点数比、重量比のそれぞれによって示した。第4次・第5次調査では最小1mmメッシュの土壤水洗選別を実施しており、微細なチップも可能な限り回収しているため、両者の傾向がかなり異なるためである。本節3項の本文中でも述べたが、点数比では、押圧剥離が多用される黒曜石などガラス質の石材が実態以上に高い割合となっている。反対に重量比は、主要石材のなかでも比較的大形の石器が多い黒色安山岩、黒色頁岩の割合が高くなる。

第31表 岩陰部出土石器 グリッド・層位別分類集計表(1)

器種	出土位置	表層(①層)							第I層群(②~⑤層, ⑬層)								EL-115~120			
		ロ5	ロ6	ハ4	ハ5	ニ6	ニ7	ハ9	ロ4	ロ5	ロ6	ハ4	ハ5	ハ6	ハ8	ハ9	ニ5	ロ6	ロ7	ハ7
A類	1類	石 鍬								1 (0.5)			1 (0.2)			1 (1.7)		1 (1.0)	1 (1.0)	1 (0.5)
		スクレイパー																		
	石 匙					1 (5.6)														
	ヘラ状石器																			
	石 錘																			
	楔形石器																			
	両面調整石器																			
	2類	二次加工剥片												1 (45.7)	2 (72.1)					
		使用痕剥片																		
	3類	剥 片	19 (5.2)	6 (4.1)		11 (1.2)	2 (0.6)	5 (10.4)	1 (0.1)	1 (0.4)	44 (7.6)	3 (9.3)	2 (0.2)	90 (21.1)	5 (1.0)	1 (0.5)	5 (0.8)	32 (1.2)	7 (0.6)	2 (0.2)
4類	石 核			1 (2.9)							1 (1.5)		1 (2.6)							
	原 石		1 (2.5)																	
B類	1類	スクレイパー																		
		打製石斧																		
	2類	二次加工剥片																		
		剥 片													1 (124.3)					
4類	石 核																			
C類	磨製石斧																			
D類	1類	礫 器																		
		磨 石												1 (0.8)						
	2類	特殊磨石																		
		敲 石													1 (313.4)					
		複合礫石器																		
		石 皿																		
		凹 石																		
		ハンマー																		
3類	砥 石																			
	自然礫																			
E類	石製装身具																			

1) 上段は点数, 下段は重量(g)を示す.  
 2) EL-115~120などの表記は, EL(650.000m)を基準とする掘削深度(人工層位(cm))を示す. 詳細は第3章第1節, 第4章第1節を参照.

第 32 表 岩陰部出土石器 グリッド・層位別分類集計表 (2)

器種		EL - 120 ~ 125						EL - 125 ~ 130						EL - 130 ~ 135						
		口5	口6	口7	ハ5	ハ6	ハ7	口5	口6	ハ5	ハ6	ハ7	ハ9	口5	口6	口7	口9	ハ5	ハ6	ハ7
A 類	1 類	石 鎌				1 (0.4)				4 (2.3)		1 (0.6)	1 (0.5)		2 (1.3)					1 (0.8)
		スクレイパー															1 (27.3)			
		石 匙																		
		ヘラ状石器																		
		石 錐								1 (1.1)										
		楔形石器																		
		両面調整石器											1 (15.9)							
	2 類	二次加工剥片	1 (1.2)	1 (6.6)														1 (1.7)		
		使用痕剥片																1 (1.7)		
	3 類	剥 片	22 (12.7)	13 (3.6)	9 (1.9)	5 (0.3)	10 (7.8)	7 (4.6)	14 (7.0)	6 (4.5)	1 (10.0)	8 (0.8)	11 (8.3)	6 (2.4)	22 (7.7)	12 (9.7)	6 (2.8)	2 (2.1)	2 (0.1)	7 (6.6)
4 類	石 核							2 (14.5)			1 (2.6)									
	原 石														1 (17.5)					
B 類	1 類	スクレイパー																		
		打製石斧																		
	2 類	二次加工剥片																		
		剥 片				1 (25.5)														
4 類	石 核																			
C 類	磨製石斧																			
D 類	2 類	1 類	礫 器					1 (367.3)												
		磨 石																		
		特殊磨石																		
		敲 石																		
		複合礫石器																		
		石 皿																		
		凹 石																		
		ハンマー																		
	砥 石																			
3 類	自然礫				1 (1.7)						4 (114.7)						2 (81.5)			
E 類	石製装身具																			

1) 上段は点数, 下段は重量 (g) を示す.

2) EL - 115 ~ 120 などの表記は, EL(650.000m)を基準とする掘削深度 (人工層位 (cm)) を示す. 詳細は第 3 章第 1 節, 第 4 章第 1 節を参照.

第33表 岩陰部出土石器 グリッド・層位別分類集計表(3)

器種		出土位置		SB2												SB1								
				⑥層					⑦層					⑨層		⑥層		⑦層		⑧層		⑨層		
				イ8	イ9	ロ8	ロ9	ハ8	ハ9	イ8	イ9	ロ8	ロ9	ハ8	ハ9	ハ8	ハ9	ロ5	ハ5	ロ5	ロ5	ハ5	ニ5	ロ5
A類	1類	石 鏃	4 (2.8)	2 (1.8)		1 (0.2)	5 (3.4)	2 (1.7)	1 (0.8)	2 (2.2)					1 (0.2)	5 (1.4)	2 (0.6)	1 (1.4)	2 (1.0)					
		スクレイパー	1 (15.2)					2 (39.0)					1 (138.5)				1 (34.5)							
		石 匙																						
		ヘラ状石器																						
		石 錐																				1 (2.0)		
		楔形石器																						
		両面調整石器		1.0 (20.9)										1.0 (8.0)										
	2類	二次加工剥片		1 (0.4)		1 (1.7)				1 (7.2)														
		使用痕剥片		1 (0.4)		1 (1.7)				1 (7.2)														
	3類	剥 片	116 (88.8)	179 (35.4)		70 (65.7)	68 (53.6)	41 (39.4)	18 (2.5)	360 (75.4)	2 (0.1)	9 (4.1)	17 (5.1)	3 (0.1)	12 (7.9)	1 (0.5)	769 (42.1)	435 (71.4)	200 (12.0)	2 (0.1)	153 (10.7)	11 (0.4)	83 (10.3)	
2 (5.0)			2 (6.9)		1 (3.0)					1 (2.4)							1 (5.0)	1 (1.4)	1 (2.7)					
4類	石 核																							
	原 石				1 (9.2)	1 (4.1)																		
B類	1類	スクレイパー																						
		打製石斧																						
	2類	二次加工剥片																						
		剥 片								2 (0.6)														
4類	石 核																							
	磨製石斧																							
D類	1類	礫 器																						
		磨 石								1 (547.4)						3 (33.5)					1 (3.9)			
		特殊磨石								1 (642.5)														
		敲 石																						
		複合礫石器	1 (236.1)																					
	2類	石 皿																						
		凹 石																						
		ハンマー				1 (28.2)																		
		砥 石																						
	3類	自然礫	1 (18.6)	1 (10.0)		1 (46.2)	1 (30.9)								1 (54.0)	1 (71.5)	1 (11.2)				3 (699.8)			
E類	石製装身具																							

1) 上段は点数, 下段は重量(g)を示す.

第34表 岩陰部出土石器 グリッド・層位別分類集計表(4)

器種	出土位置	㉑～㉒層				第Ⅱ層群								㉓層	7号 灰プロ	8号 灰プロ	性格不 明遺構	調査区 一括		
		ハ8	ハ9	ニ8	ニ9	イ9	ロ4	ロ5	ロ8	ロ9	ハ4	ハ8	ハ9	ニ8	イ8	ロ5	イ9		イ8/9	
A類	1類	石 鏃			1 (0.5)	3 (1.4)												1 (0.8)	3 (1.5)	8 (4.7)
		スクレイパー	1 (74.9)		1 (50.4)															1 (35.3)
		石 匙																		
		ヘラ状石器																		
		石 錐																		
	2類	楔形石器																		1 (2.2)
		両面調整石器	1 (5.8)	1 (6.6)	1 (8.8)													1 (7.0)		
		二次加工剥片				1 (222.4)													2 (32.9)	2 (5.2)
		使用痕剥片																		
		3類	剥 片	5 (1.9)	92 (23.2)	45 (66.3)	49 (28.8)	3 (6.2)	55 (11.9)	23 (16.4)	2 (1.2)	6 (1.5)	3 (3.5)	4 (2.6)	2 (0.6)	5 (0.4)	1 (0.1)	25 (1.0)	140 (14.8)	201 (40.1)
4類	石 核			1 (2.1)															1 (6.3)	
	原 石																		2 (5.0)	
B類	1類	スクレイパー						1 (161.6)												
		打製石斧																		
	2類	二次加工剥片																		
	3類	剥 片			1 (18.3)	1 (10.9)														
4類	石 核																			
C類	磨製石斧																			
D類	1類	礫 器																		
		磨 石																	1 (663.3)	
		特殊磨石			1 (222.7)															
		敲 石																		
	2類	複合礫石器				1 (627.1)													1 (351.5)	
		石 皿																		
		凹 石																		
		ハンマー																		
3類	砥 石																			
	自然礫			1 (501.3)	2 (563.4)		1 (11.2)													
E類	石製装身具				1 (1.0)															

1) 上段は点数, 下段は重量(g)を示す。

第35表 岩陰部出土石器 グリッド・層位別分類集計表(5)

器種	出土位置	b層		c層		d層		e層		f層				h層		i層		j層			
		ロ8	イ8	ロ8	イ8	イ9	ロ8	ロ9	ロ8	ロ9	ハ8	ロ9	ハ8	ハ9	イ9	ロ4	ロ5	ハ4	ハ5		
A類	1類	石 鎌					2 (1.5)	1 (1.2)			1 (0.2)			1 (1.4)							
		スクレイパー												1 (38.7)							
		石 匙																			
		ヘラ状石器					1.0 (14.9)														
		石 錐																			
		楔形石器																			
		両面調整石器																			
	2類	二次加工剥片						1 (6.1)						1 (0.6)	1 (15.7)						1 (2.7)
		使用痕剥片																			
	3類	剥 片	2 (1.3)	35 (4.2)	1 (0.2)	1 (7.2)	144 (30.2)	204 (24.5)	63 (1.2)	9 (1.3)	47 (4.5)	242 (17.8)	46 (3.3)	18 (0.9)	128 (10.3)	805 (56.0)	209 (26.4)	688 (71.5)	15 (0.7)	212 (17.8)	
4類	石 核					2 (15.9)	2 (12.1)								2 (17.7)		1 (1.7)				
		原 石																			
B類	1類	スクレイパー																			
		打製石斧																			
	2類	二次加工剥片																			
	3類	剥 片											1 (0.1)								1 (0.2)
石 核																					
C類	磨製石斧																				
D類	1類	礫 器																			
		磨 石																			
		特殊磨石																			
		敲 石																			
		複合礫石器																			
	2類	石 皿																			
		凹 石																			
		ハンマー																			
		砥 石																			
	3類	自然礫													1 (4.9)						
E類	石製装身具																				

1) 上段は点数, 下段は重量(g)を示す。

2) 埋葬人骨の土壌覆土名称と個体番号の対応。

b層: 1号人骨, c層: 3号人骨, d層: 4号人骨, e層: 8号・9号人骨, f層: 2+15号人骨, h層: 10号人骨, i層: 12号人骨, j層: 人骨集積A

第 36 表 前庭部緩斜面出土石器 グリッド・層別別分類集計表 (1)

器種	出土位置	1層		7層		7y層	8層		9層				土留部分	調査区内一括	
		A0	A0	A2	A0	A0	A2	A0	A1	A2	A3	A0			
A類	1類	石 鏃	4	1			4	7	19	24	24		3	3	
			(3.3)	(0.2)			(4.8)	(4.2)	(14.6)	(23.3)	(19.3)		(4.5)	(1.2)	
		スクレイパー	2							3	3				
			(8.1)							(129.7)	(34.6)				
		石 匙										1			
												(0.8)			
		へら状石器													
	石 錐														
	楔形石器							1	2	2				1	
								(4.3)	(7.7)	(5.9)				(2.4)	
	両面調整石器						1			1	3				
							(4.4)			(2.2)	(77.1)				
2類	二次加工剥片	1				2				7			1		
		(5.6)				(15.7)				(122.6)			(5.2)		
使用痕剥片						1		1							
						(14.7)		(1.8)							
3類	剥 片	54	3	7	6	69	322	370	312	615	2	43	78		
		(108.0)	(2.1)	(0.2)	(14.4)	(87.7)	(130.9)	(504.5)	(618.3)	(1358.9)	(9.2)	(96.0)	(88.3)		
4類	石 核	1				1	5	12	9	14		1			
		(3.2)				(4.4)	(18.7)	(38.5)	(39.9)	(80.5)		(4.0)			
原石	1						1		1	3		2	1		
	(6.2)						(5.0)		(7.3)	(10.7)		(127.6)	(4.0)		
B類	1類	スクレイパー								2	1				
										(303.3)	(141.8)				
	打製石斧										2				
											(139.8)				
	2類	二次加工剥片						5	4						
							(83.4)	(8.2)							
3類	剥 片	2			1	1	8	2	6	25			1		
		(1.6)			(2.4)	(0.3)	(2.8)	(5.5)	(151.2)	(539.0)			(2.0)		
4類	石 核														
C類	磨製石斧	1													
		(128.8)													
D類	1類	礫 器						2		1					
								(320.0)		(209.2)					
	2類	磨 石						1	3		3			1	
								(79.9)	(79.5)		(77.4)			(44.5)	
		特殊磨石					2		2	3	1		1		
							(1507.3)		(460.9)	(1071.0)	(443.6)		(576.1)		
		敲 石							1		1				
									(121.8)		(685.8)				
		複合礫石器									3				
											(1594.6)				
石 皿							1					2			
							(1462.2)					(540.8)			
凹 石							1								
							(268.9)								
ハンマー								1		1					
							(103.2)		(25.8)						
砥 石							1	1							
							(101.4)	(13.2)							
3類	自然礫				5	1	2	5	5	8					
					(8.4)	(605.1)	(120.7)	(467.3)	(200.9)	(1248.5)					
E類	石製装身具				1							1			
					(8.1)							(226.5)			

1) 上段は点数, 下段は重量 (g) を示す。

2) 「土留め部分」は, A0 北西壁の土留め工事に伴う掘削で出土したものを一括したもので, 9 ~ 11 層が混在する。

第37表 前庭部緩斜面出土石器 グリッド・層位別分類集計表(2)

器種		出土位置		10ab層		10g層	10層			11層		円形落込み			
				A1	A2	A0	A0	A1	A2	A0	A1	1層	2層	3層	
				A1											
A類	1類	石 鏃	2 (0.6)	1 (0.5)				23 (8.3)			1 (1.8)		3 (1.1)	3 (0.9)	4 (0.6)
		スクレイパー						2 (58.4)							
		石 匙													
		ヘラ状石器													
		石 錐						1 (2.3)							
		楔形石器						1 (11.8)							1 (4.9)
		両面調整石器													
	2類	二次加工剥片					1 (0.6)	6 (50.5)							3 (6.8)
		使用痕剥片													
	3類	剥 片	597 (21.6)	138 (12.6)				4956 (566.4)	14 (11.2)		11 (17.8)	44 (7.6)	808 (98.5)	253 (23.8)	614 (85.9)
	4類	石 核	1 (6.7)		1 (9.3)	1 (9.3)		12 (240.0)	1 (4.7)				2 (18.3)		2 (9.5)
		原 石						3 (58.1)			1 (3.2)				1 (14.8)
	B類	1類	スクレイパー												
			打製石斧												
2類		二次加工剥片													
3類		剥 片					47 (293.8)					1 (1.6)		5 (90.9)	
4類	石 核														
C類	磨製石斧														
D類	1類	礫 器		1 (104.6)			2 (185.6)					1 (110.8)			
		磨 石												1 (24.9)	
	2類	特殊磨石						1 (19.6)							
		敲 石													
		複合礫石器													
		石 皿													
		凹 石													
		ハンマー						1 (58.2)							1 (76.1)
		砥 石													
		3類	自然礫					2 (35.7)						2 (13.2)	
E類	石製装身具														

1) 上段は点数, 下段は重量(g)を示す.

第 38 表 岩陰部出土石器 石材別分類集計表

器種 / 石材		Ob	BSh	BAn	Ch	SR	SSh	Sh	Cha	HSh	Sla	RSh	Rh	FQu	STu	Gr	Ser	
A1 類	石 鏃	29	14	9	4	5		1	1								2	
		(14.8)	(10.2)	(7.0)	(2.3)	(4.4)		(1.4)	(0.7)								(1.4)	
	局部磨製石鏃																	
	スクレイパー	1	2	6								1						
		(2.2)	(73.2)	(343.1)								(35.3)						
	石 匙																	
	石 錐		1				1											
			(1.1)				(5.6)											
へら状石器		1																
		(14.9)																
楔形石器	1																	
	(2.2)																	
両面調整石器		2	3				2											
		(15.4)	(44.8)				(12.8)											
A2 類	二次加工剥片	3	5	7		1	1											
		(4.6)	(249.0)	(60.9)		(7.7)	(15.7)											
	使用痕剥片																	
A3 類	剥 片	4,471	462	502	269	29	68	127	6	1		1	9	4	5			
		(517.3)	(159.6)	(368.5)	(38.9)	(23.0)	(39.5)	(52.3)	(25.8)	(2.6)		(0.1)	(1.3)	(0.3)	(11.5)			
A4 類	石 核	25			1	1	1	1	1									
		(102.4)			(15.5)	(6.3)	4.5	(5.0)	(10.9)									
	原 石																	
合 計		4,516	487	526	274	37	72	129	8	1	1	1	9	4	5	2	0	
		(642.7)	(523.4)	(824.2)	(56.7)	(47.0)	(72.5)	(58.7)	(37.4)	(2.6)	(35.3)	(0.1)	(1.3)	(0.3)	(11.5)	(1.4)	(0.0)	

器種 / 石材		BSh	BAn	Sla	An	Sa	Dia	Di	Mu	Ho	Tu	Pu
B1 類	打製石斧											
B2 類	スクレイパー				1							
					(161.6)							
B3 類	剥 片		2		2	5			1			
			(0.3)		(0.3)	(135.8)			(25.5)			
C 類	磨製石斧											
D1 類	礫 器									1		
										(367.3)		
D2 類	敲石・ハンマー				2							
					(341.6)							
	石 皿											
	凹 石											
磨石類					7							
					(3,290.6)							
合 計		0	2	0	10	5	0	0	1	1	0	0
		(0.0)	(0.3)	(0.0)	(3,794.1)	(135.8)	(0.0)	(0.0)	(25.5)	(367.3)	(0.0)	(0.0)

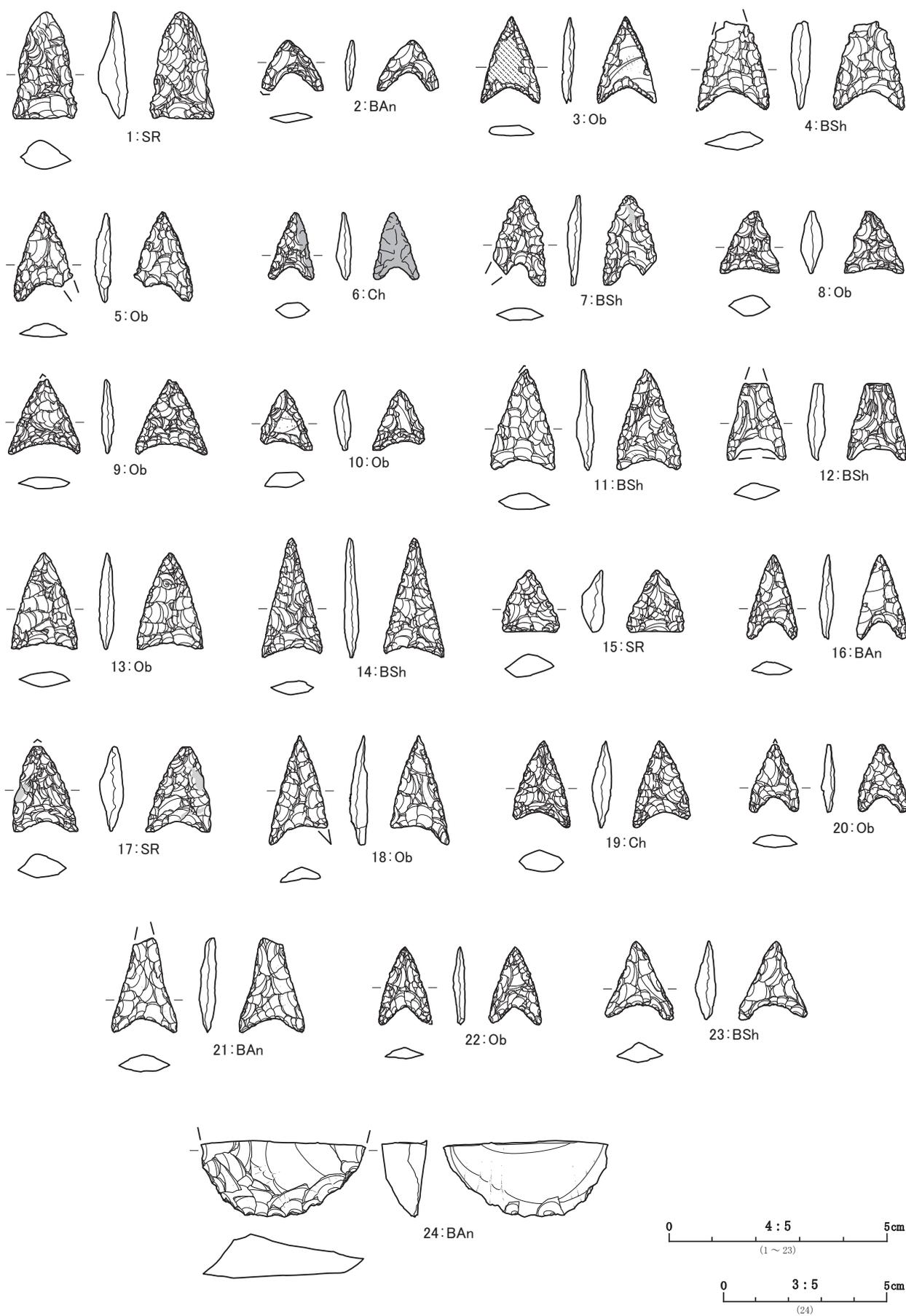
1) 上段は点数, 下段は重量 (g) を示す. 2) 石製品, 搬入礫を含む自然礫, 石材不明の石器は集計から除いている. 3) 特殊磨石, 磨石と敲石の使用痕を併せ持つ複合礫石器は磨石類としてまとめた. 4) 石材と略号の対応は巻頭の凡例を参照.

第39表 前庭部緩斜面出土石器 石材別分類集計表

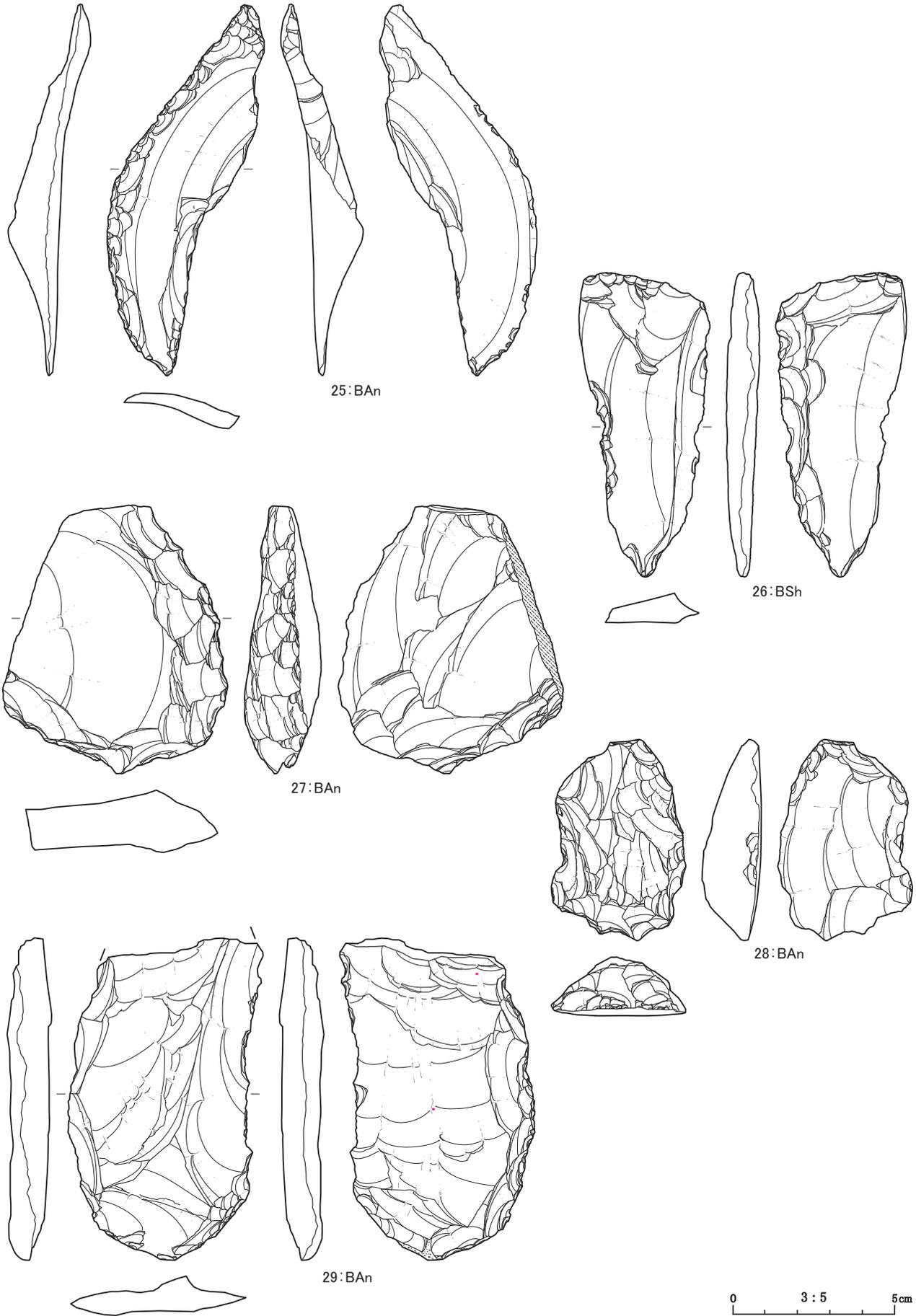
器種 / 石材		Ob	BSh	BAn	Ch	SR	SSH	Sh	Cha	HSh	Sla	RSh	Rh	FQu	STu	Gr	Ser		
A1類	石 鏃	77	5	10	13	13	3		3						2				
		(45.7)	(6.2)	(9.4)	(7.6)	(13.6)	(1.5)		(6.8)						(1.2)				
	局部磨製石鏃	2																	
		(0.6)																	
	スクレイパー	6	3	5		1													
		(9.0)	(158.9)	(120.5)		(5.4)													
	石 匙				1														
					(0.8)														
石 錐	1																		
	(2.3)																		
へら状石器																			
楔形石器	6	1	2							1									
	(22.4)	(11.8)	(139.8)							(2.4)									
両面調整石器			2					1											
			(28.5)					(12.0)											
A2類	二次加工剥片	9	7	3	3	4				1									
		(20.0)	(164.2)	(29.5)	(2.6)	(23.6)				(7.3)									
使用痕剥片	1								1										
	(1.8)								(14.7)										
A3類	剥 片	7454	384	565	383	248	25	59	2	28	4	4		15	1			3	
		(1148.4)	(641.6)	(819.5)	(149.4)	(211.1)	(21.0)	(85.0)	(3.6)	(37.6)	(12.0)	(5.6)		(22.2)	(2.1)			(0.8)	
A4類	石 核	49	2	2	1	2	1	5											
		(226.3)	(16.9)	(12.2)	(20.3)	(9.7)	(7.3)	(186.4)											
原石	12		2																
	(106.3)		(127.6)																
合 計		7616	402	591	401	268	29	65	6	30	4	4	0	17	1	0		3	
		(1,476.0)	(999.6)	(1159.4)	(180.7)	(263.4)	(29.8)	(283.4)	(25.1)	(47.3)	(12.0)	(5.6)	(0.0)	(23.4)	(2.1)	(0.0)		(0.8)	

器種 / 石材		BSh	BAn	Sla	An	Sa	Dia	Di	Mu	Ho	Tu	Pu
B1類	打製石斧		2									
			(139.8)									
B2類	スクレイパー			1	1	1						
				(141.8)	(224.0)	(79.3)						
B3類	剥 片			2	73	15			3	1	5	
				(12.4)	(1,018.2)	(44.2)			(1.5)	(7.5)	(7.3)	
C類	磨製石斧					1						
						(128.8)						
D1類	礫 器	1	1		6	2						
		(104.6)	(209.2)		(626.5)	(227.4)						
D2類	敲石・ハンマー				2	1						
					(807.6)	(25.8)						
	石 皿		1		14		1					1
			(24.9)		(5,142.8)		(664.2)					(44.5)
凹 石				3	1							
				(2,003.0)	(40.1)							
磨石類								1				
								(268.9)				
合 計		1	3	3	99	21	1	1	3	1	5	1
		(104.6)	(373.9)	(154.2)	(9,822.1)	(545.6)	(664.2)	(268.9)	(1.5)	(7.5)	(7.3)	(44.5)

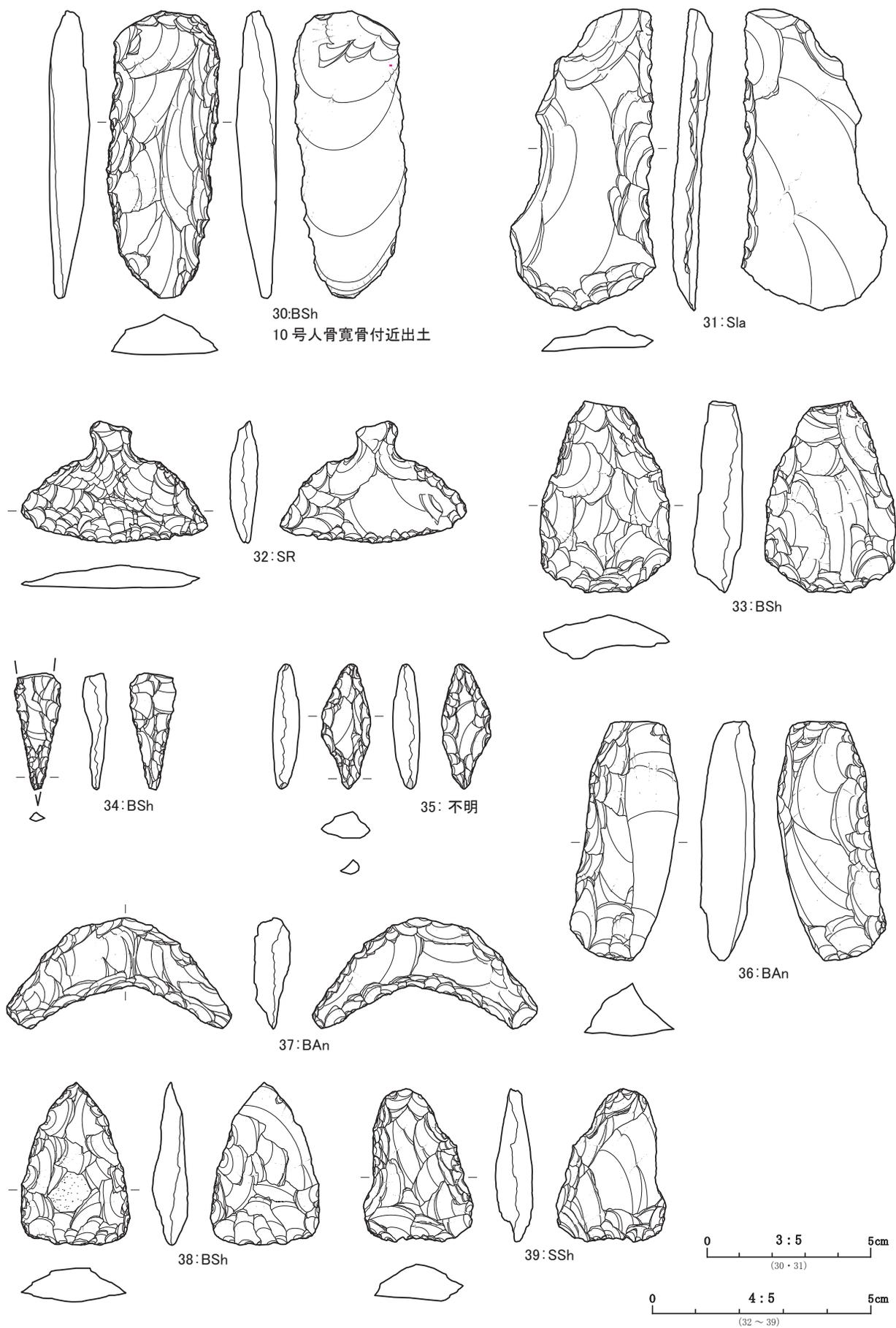
1) 上段は点数, 下段は重量 (g) を示す. 2) 石製品, 搬入礫を含む自然礫, 石材不明の石器は集計から除いている. 3) 特殊磨石, 磨石と敲石の使用痕を併せ持つ複合礫石器は磨石類としてまとめた. 4) 石材と略号の対応は巻頭の凡例を参照.



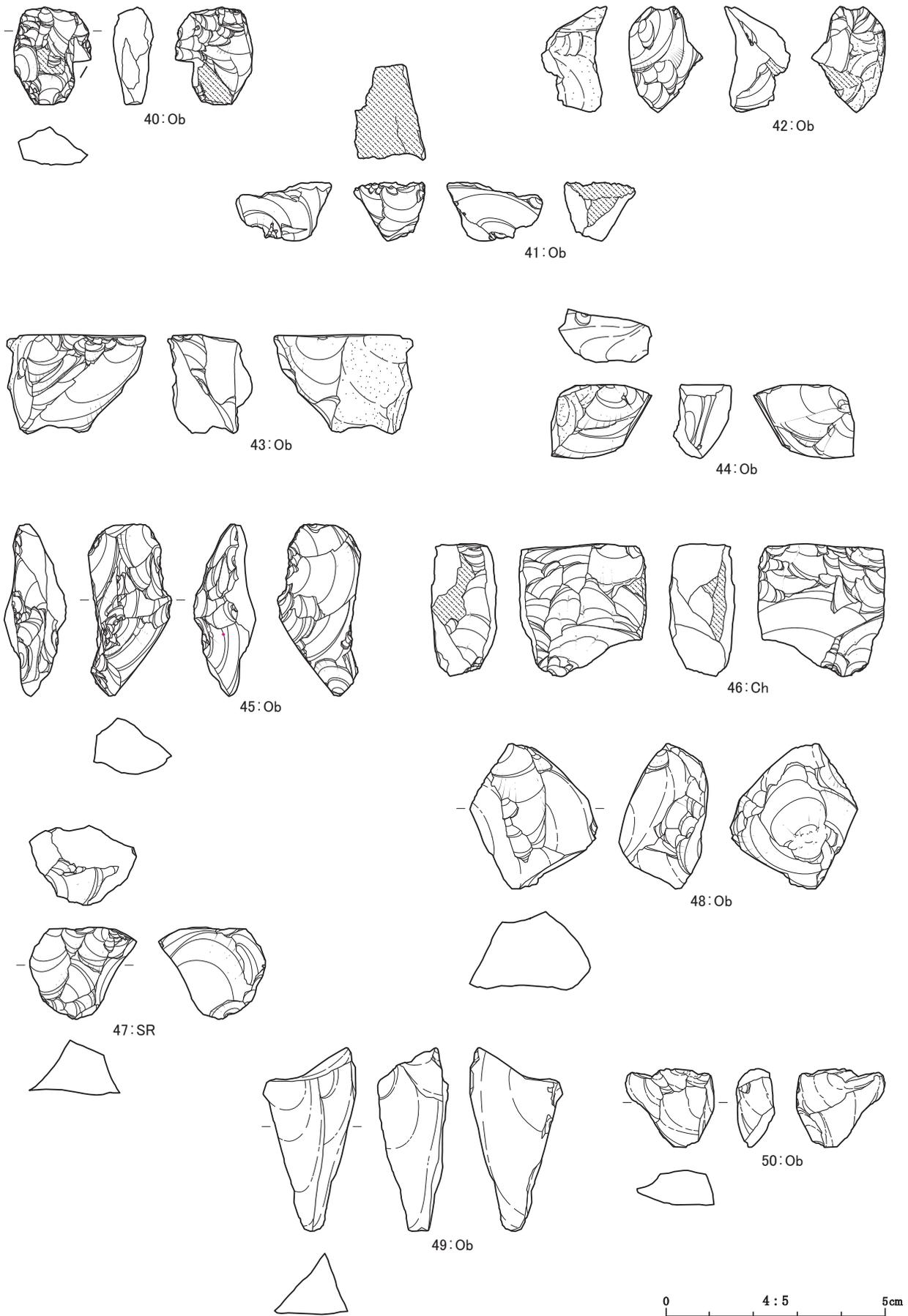
第 81 图 岩陰部出土石器 (1)



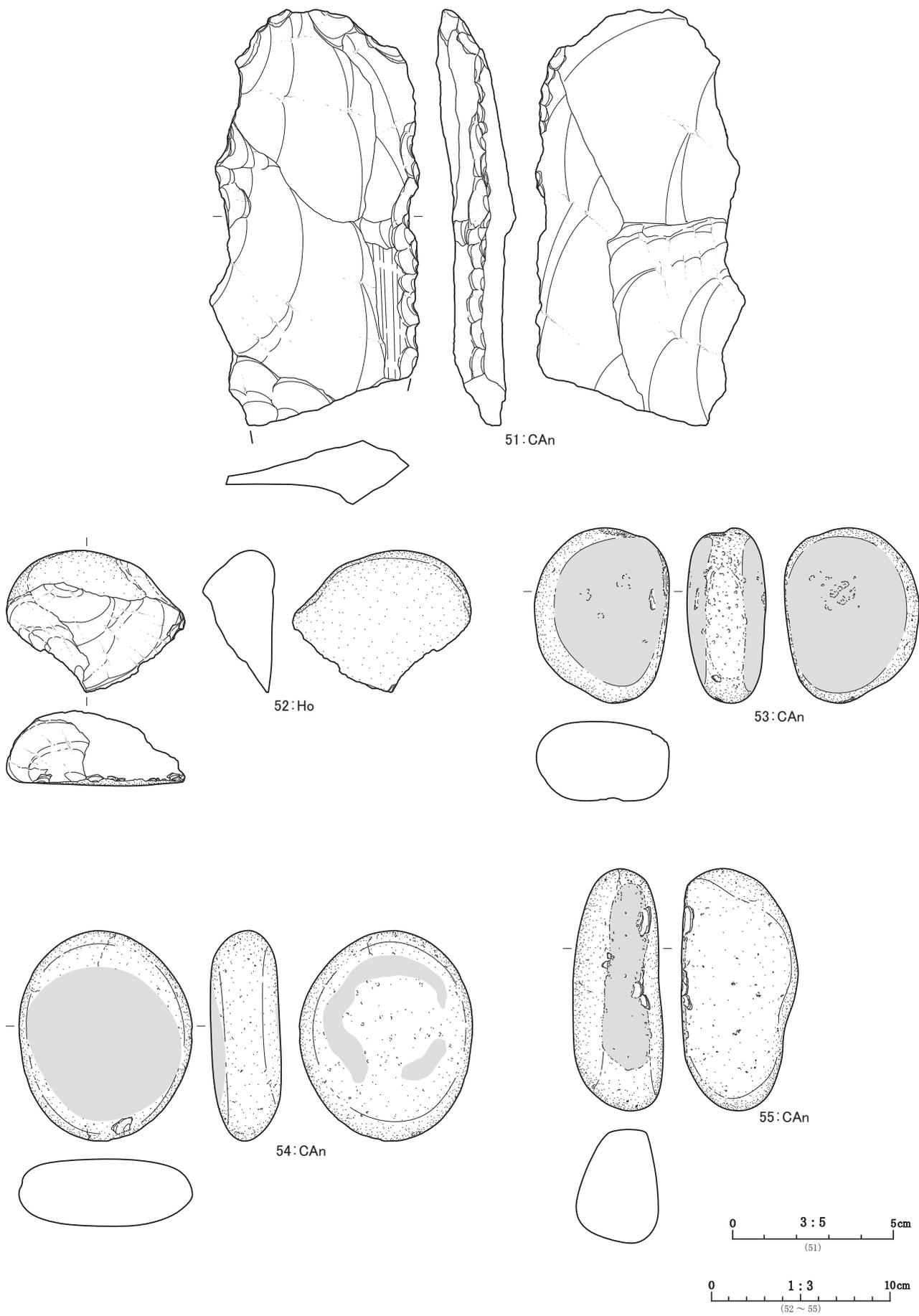
第 82 図 岩陰部出土石器 (2)



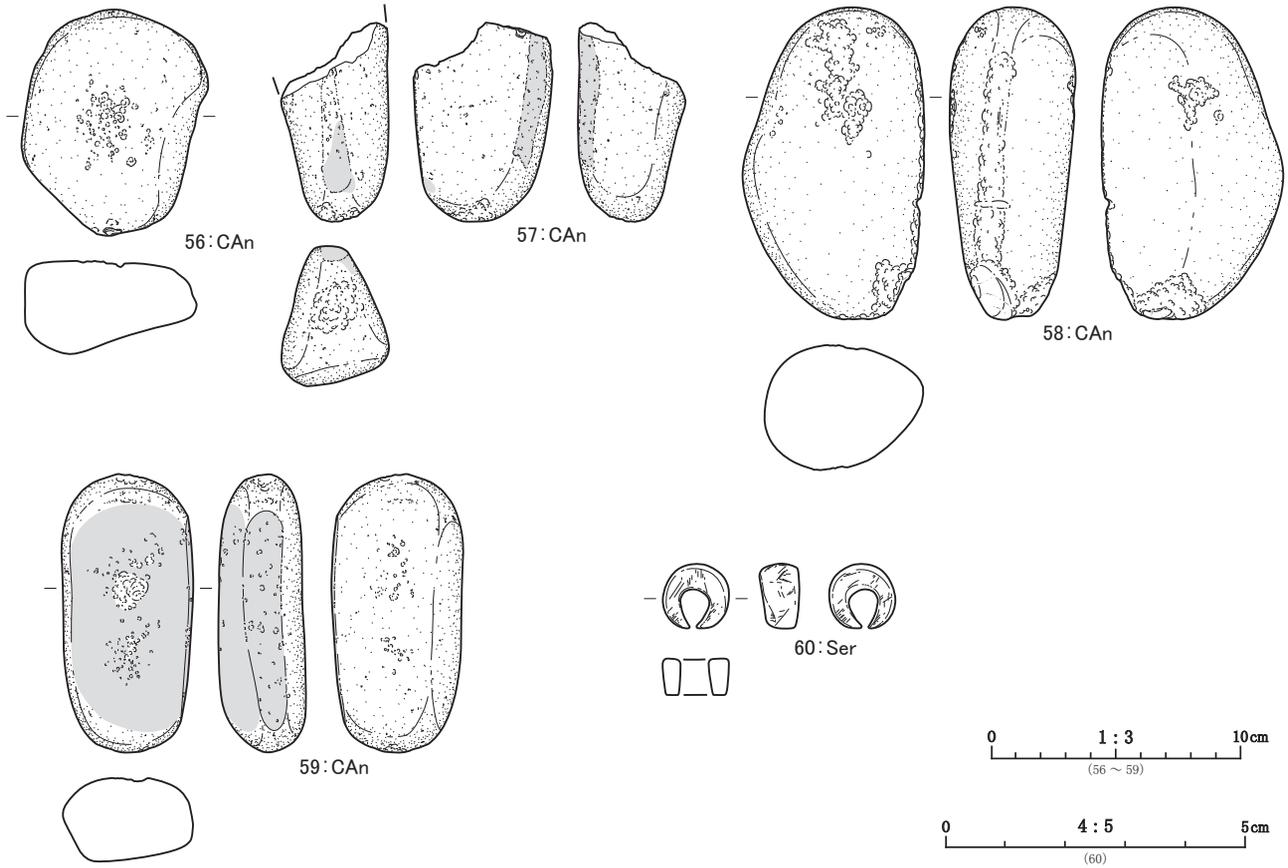
第 83 图 岩陰部出土石器 (3)



第 84 図 岩陰部出土石器 (4)



第 85 图 岩陰部出土石器 (5)



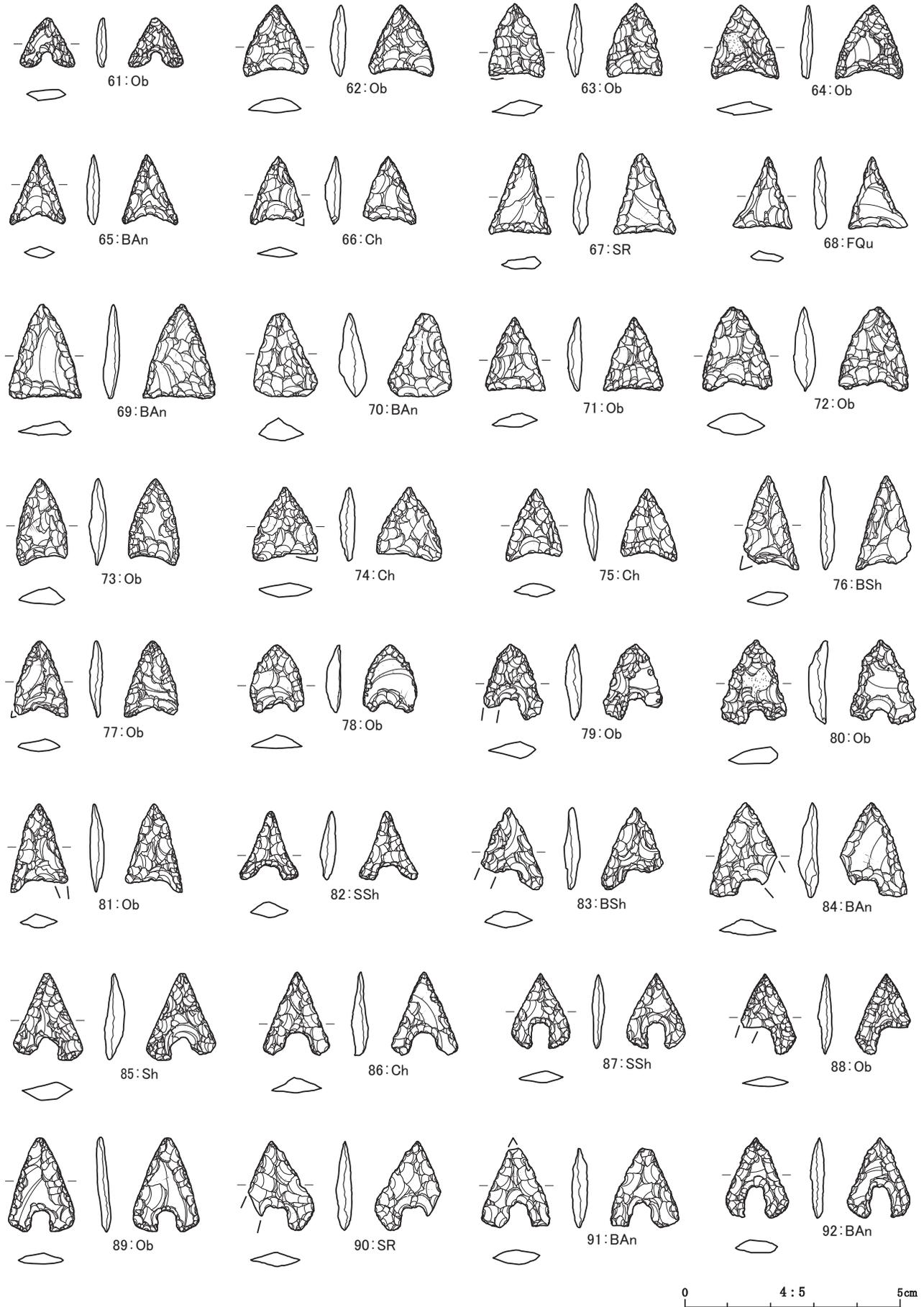
第 86 図 岩陰部出土石器 (6)

第 40 表 岩陰部出土石器 観察表 (1)

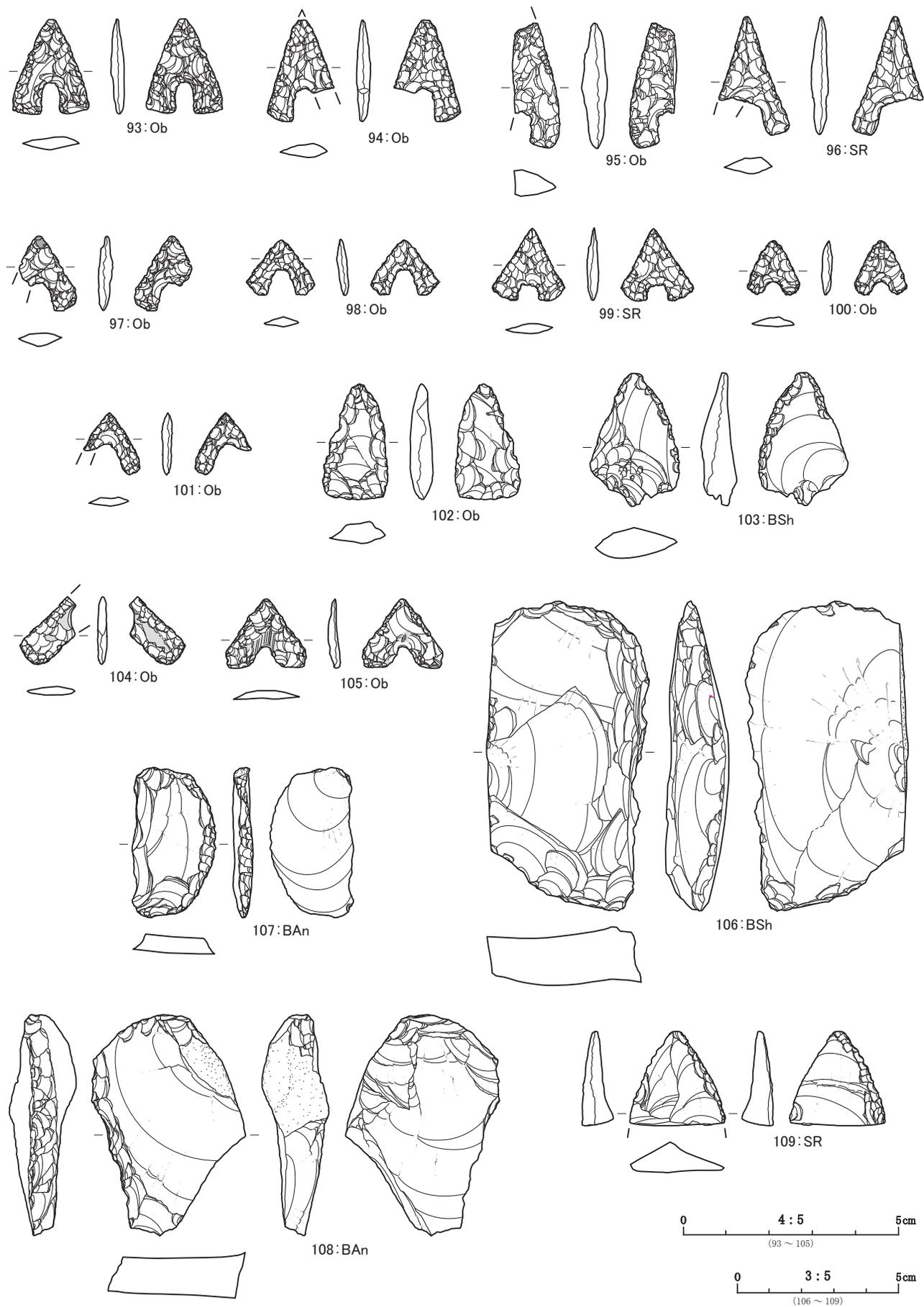
掲載 No.	出土位置	分類	器種	石材	計測値 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
1	ハ9 第I層群③層	A1類	石 鏃	SR	24.2	14.8	6.7	1.7	
2	ハ5 2号集石	A1類	石 鏃	BAn	11.3	13.8	2.3	0.2	
3	ハ5 EL - 120 ~ 125cm	A1類	石 鏃	Ob	19.7	13.5	2.9	0.4	
4	ロ6 EL - 125 ~ 130cm	A1類	石 鏃	BSh	(20.1)	16.3	4.5	1.1	先端部欠損
5	ハ5 EL - 125 ~ 130cm	A1類	石 鏃	Ob	20.2	(13.4)	3.7	0.6	片脚欠損
6	ロ5 SB1 第II層群⑥層	A1類	石 鏃	Ch	15.2	10.4	3.5	0.3	
7	ロ5 SB1 第II層群⑥層	A1類	石 鏃	BSh	20.4	(11.9)	3.1	0.6	片脚欠損
8	ハ5 SB1 第II層群⑥層	A1類	石 鏃	Ob	14.0	13.4	4.9	0.5	
9	イ9 第II層群⑥層	A1類	石 鏃	Ob	(16.8)	16.3	2.7	0.5	先端部欠損
10	ハ8 第II層群⑥層	A1類	石 鏃	Ob	13.5	11.8	3.8	0.4	
11	イ8 第II層群⑥層	A1類	石 鏃	BSh	(22.8)	14.7	4.0	0.9	先端部欠損
12	ハ8 第II層群⑥層	A1類	石 鏃	BSh	(17.4)	13.5	4.0	0.8	先端部欠損
13	イ9 第II層群⑦層	A1類	石 鏃	Ob	21.9	15.1	3.4	0.8	
14	イ8 第II層群⑦層	A1類	石 鏃	BSh	27.0	13.8	3.3	0.8	
15	ハ5 SB1 第II層群⑧層	A1類	石 鏃	SR	14.0	13.3	5.1	0.9	
16	ニ9 第II層群②層	A1類	石 鏃	BAn	19.1	11.6	3.3	0.4	
17	ロ9 第II層群e層	A1類	石 鏃	SR	(19.3)	14.7	5.3	1.2	先端部欠損
18	イ9 8号灰ブロック	A1類	石 鏃	Ob	24.8	(13.5)	4.2	0.8	片脚欠損

第41表 岩陰部出土石器 観察表(2)

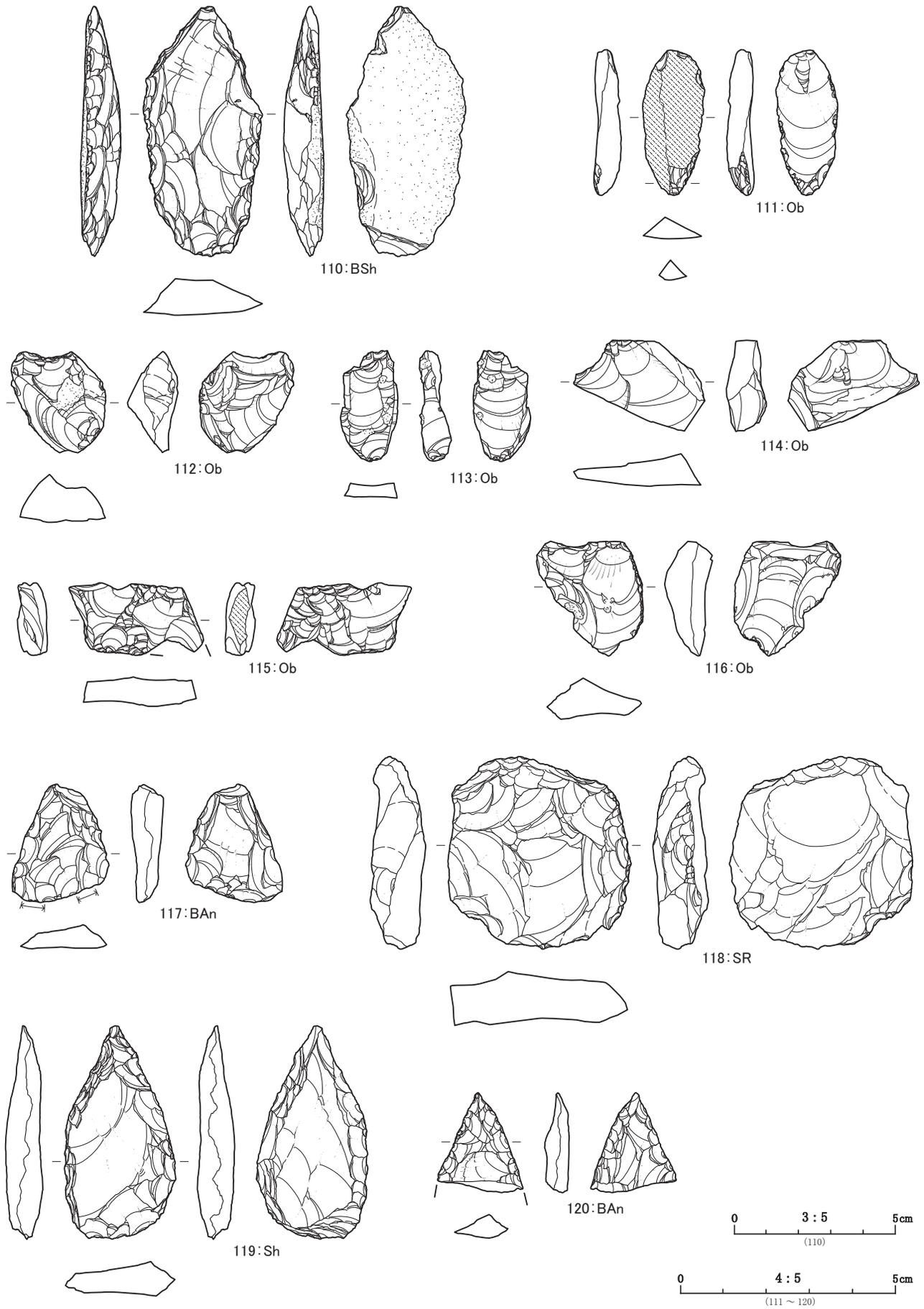
掲載 No.	出土位置	分類	器種	石材	計測値 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
19	イ9 性格不明遺構	A1類	石 鏃	Ch	19.6	13.1	4.4	0.8	
20	ハ7 調査区内一括	A1類	石 鏃	Ob	(15.4)	11.4	3.2	0.3	先端部欠損
21	ニ8 調査区内一括	A1類	石 鏃	BAn	(21.4)	14.9	4.0	0.9	先端部欠損
22	ハ8 調査区内一括	A1類	石 鏃	Ob	17.7	12.0	2.8	0.4	
23	ハ8 調査区内一括	A1類	石 鏃	BSh	17.8	15.6	4.7	0.7	
24	イ8 第II層群⑥層	A1類	スクレイパー	BAn	(23.1)	(50.1)	(13.7)	15.2	
25	ハ9 第II層群⑥層	A1類	スクレイパー	BAn	113.3	48.4	25.5	36.8	
26	ハ5 SB1 第II層群⑥層	A1類	スクレイパー	BSh	93.4	40.3	10.4	34.5	
27	ハ8 第II層群⑦層	A1類	スクレイパー	BAn	82.2	69.3	23.2	138.5	
28	ニ8 第II層群②層	A1類	スクレイパー	BAn	61.4	41.4	18.2	50.4	
29	ハ8 第II層群②層	A1類	スクレイパー	BAn	(98.3)	60.1	13.7	74.9	
30	ハ9 第II層群 h層	A1類	スクレイパー	BSh	86.5	34.4	12.4	38.7	10号人骨寛骨付近出土、 写真図版 11 右下
31	ロ5・ハ5 調査区内一括	A1類	スクレイパー	Sla	90.6	44.2	12.2	35.3	
32	ニ6 SB1 表層①層	A1類	石 匙	SR	27.6	42.5	6.5	5.6	
33	イ9 第II層群 d層	A1類	ヘラ状石器	BSh	43.3	29.9	11.5	14.9	
34	ロ6 EL - 125 ~ 130cm	A1類	石 錐	BSh	(26.3)	10.5	5.7	1.1	基部欠損
35	ハ5 SB1 第II層群⑧層	A1類	石 錐	不明	28.2	11.2	6.2	2.0	
36	ハ5 EL - 125 ~ 130cm	A1類	両面調整石器	BAn	54.2	24.5	12.5	15.9	
37	ハ8 第II層群⑦層	A1類	両面調整石器	BAn	25.1	51.3	8.4	8.0	異形石器
38	ハ9 第II層群②層	A1類	両面調整石器	BSh	36.9	24.9	8.3	6.6	尖頭器?
39	イ9 8号灰ブロック	A1類	両面調整石器	SSh	34.6	25.1	8.7	7.0	尖頭器?
40	イ8 第II層群⑥層	A4類	石 核	Ob	22.0	17.6	9.1	3.3	
41	イ9 第II層群⑥層	A4類	石 核	Ob	13.3	16.1	21.7	3.1	
42	イ9 第II層群⑥層	A4類	石 核	Ob	23.9	16.7	14.9	3.8	
43	イ9 第II層群 d層	A4類	石 核	Ob	22.4	31.5	19.2	11.4	
44	イ9 第II層群 d層	A4類	石 核	Ob	16.7	22.9	13.2	4.5	
45	ロ9 第II層群 e層	A4類	石 核	Ob	38.7	18.9	14.0	7.6	
46	イ9 第II層群 i層	A4類	石 核	Ch	30.0	29.0	15.1	15.5	
47	ハ7 調査区内一括	A4類	石 核	SR	20.7	24.3	15.1	6.3	
48	ロ6 EL - 130 ~ 135cm	A4類	原 石	Ob	32.8	28.8	20.3	17.5	
49	ロ9 第II層群⑥層	A4類	原 石	Ob	41.4	21.1	15.9	9.2	
50	調査区内一括	A4類	原 石	Ob	17.8	20.2	8.7	2.8	
51	ロ5 第II層群	B1類	スクレイパー	CAn	(127.9)	65.0	25.7	161.6	
52	ハ7 EL - 120 ~ 125cm	D1類	礫 器	Ho	78.4	99.2	41.7	367.3	
53	ロ8 第II層群⑦層	D2類	磨 石	CAn	96.9	74.9	44.0	547.4	
54	イ9 性格不明遺構	D2類	磨 石	CAn	116.3	96.6	39.5	663.3	
55	イ9 第II層群⑦層	D2類	特殊磨石	CAn	133.9	50.4	65.0	642.5	
56	ハ6 2号集石	D2類	敲 石	CAn	89.6	74.5	38.2	313.4	
57	イ8 第II層群⑥層	D2類	複合礫石器	CAn	(78.9)	42.9	55.4	236.1	
58	ニ9 第II層群②層	D2類	複合礫石器	CAn	123.8	72.6	50.6	627.1	
59	イ9 性格不明遺構	D2類	複合礫石器	CAn	110.3	52.7	35.0	351.5	
60	ニ9 第II層群②層	E類	石製装身具	Ser	10.6	11.0	6.7	1.0	



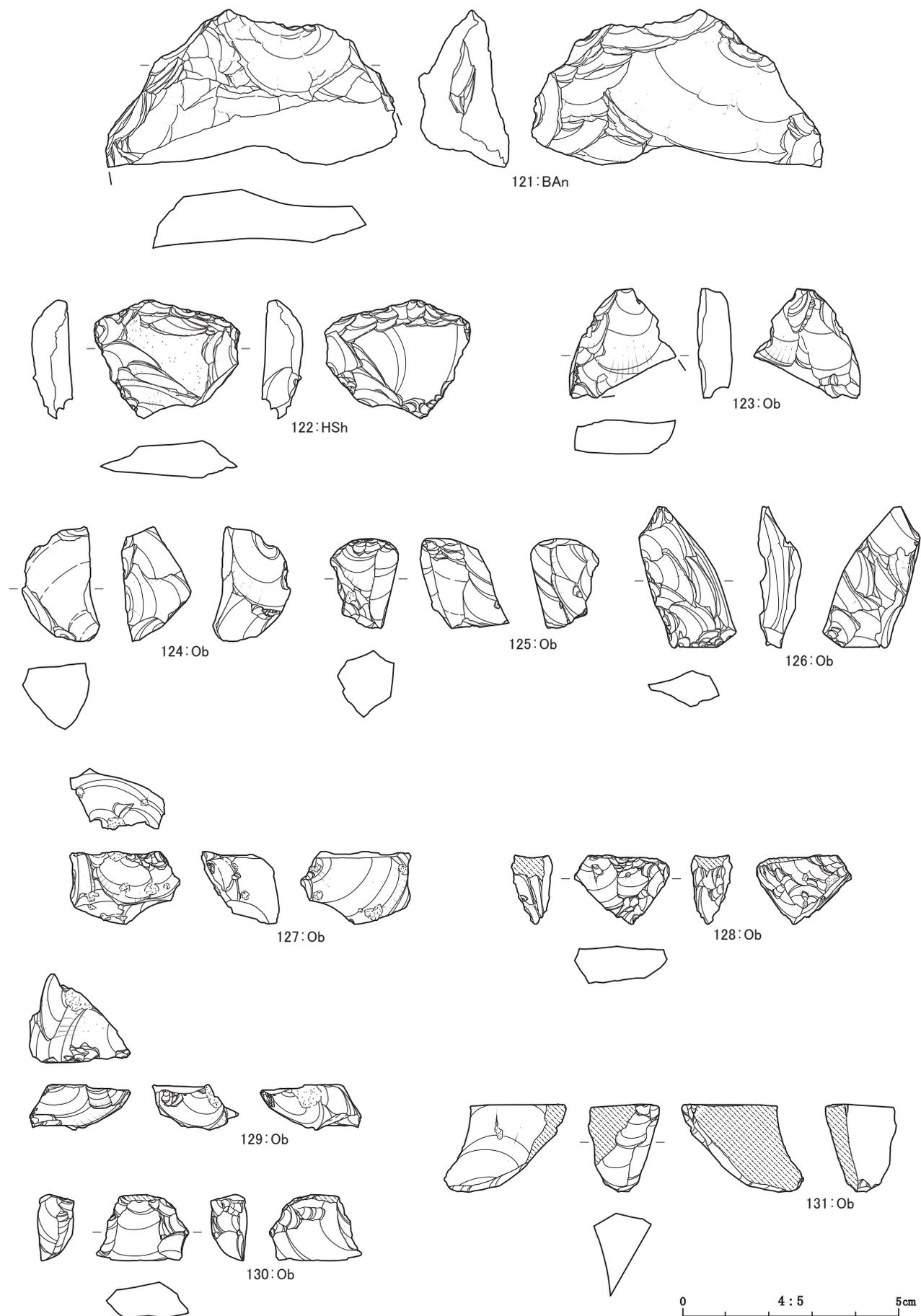
第 87 図 前庭部緩斜面出土石器 (1)



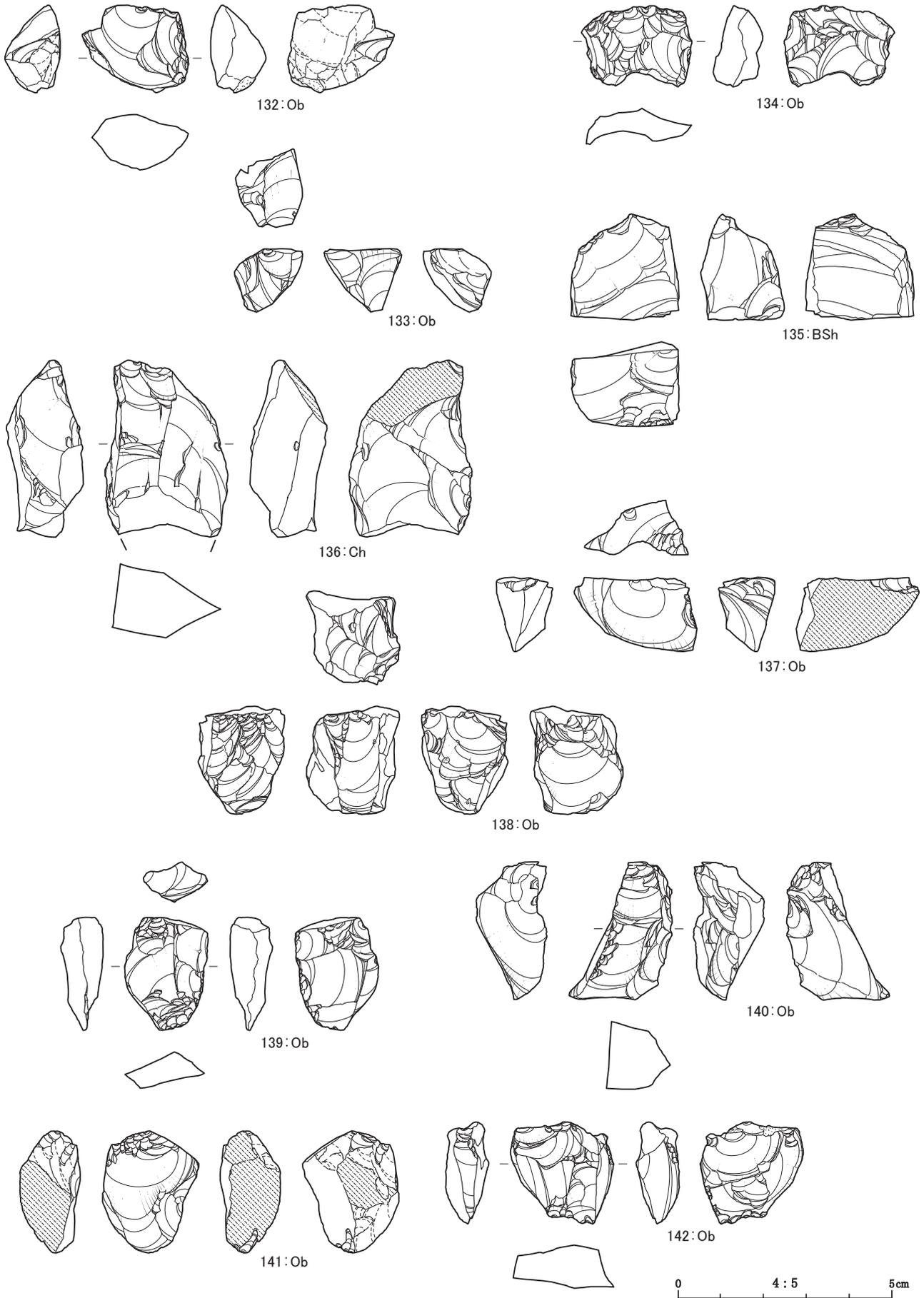
第 88 図 前庭部緩斜面出土石器 (2)



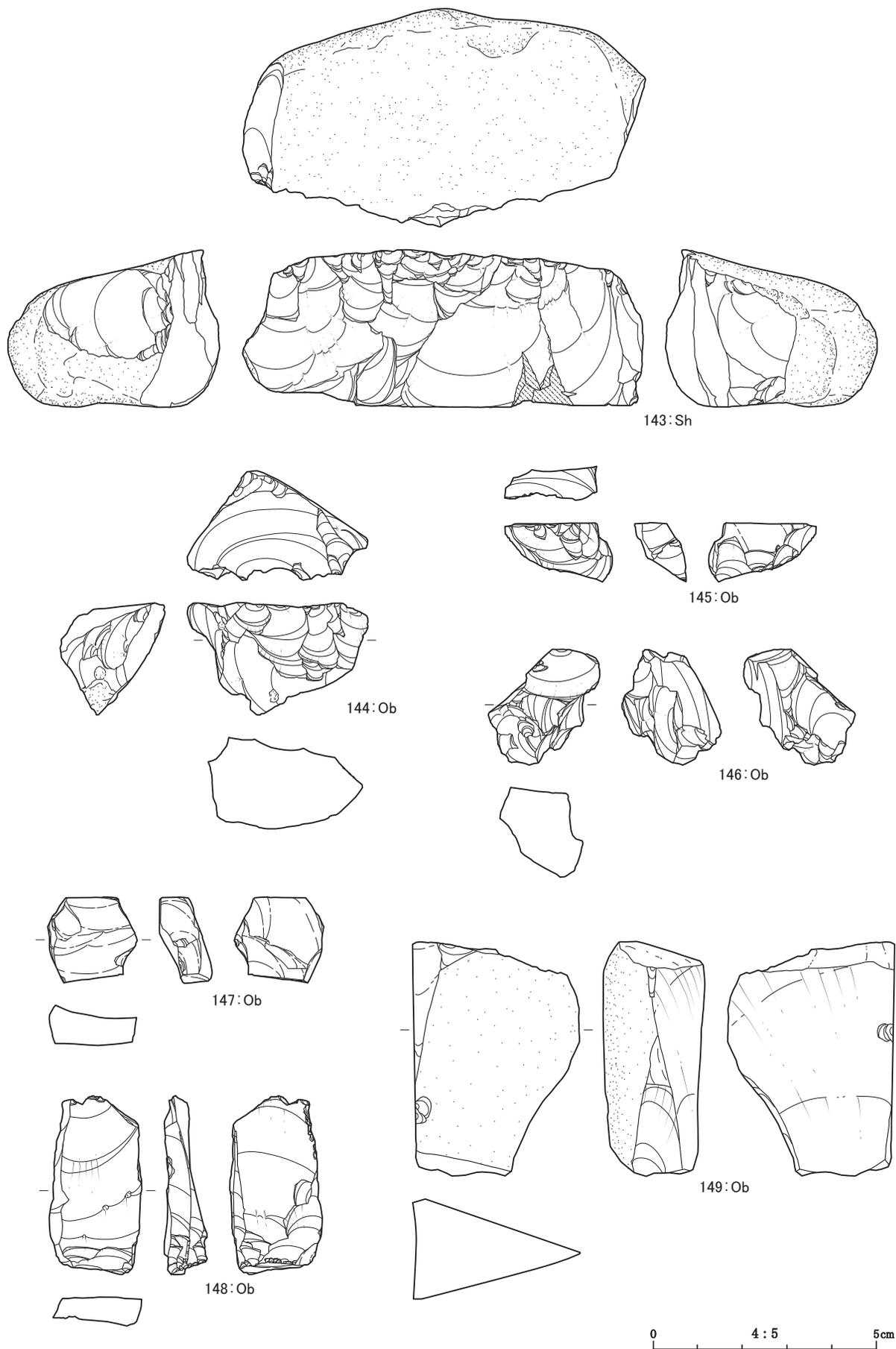
第 89 図 前庭部緩斜面出土石器 (3)



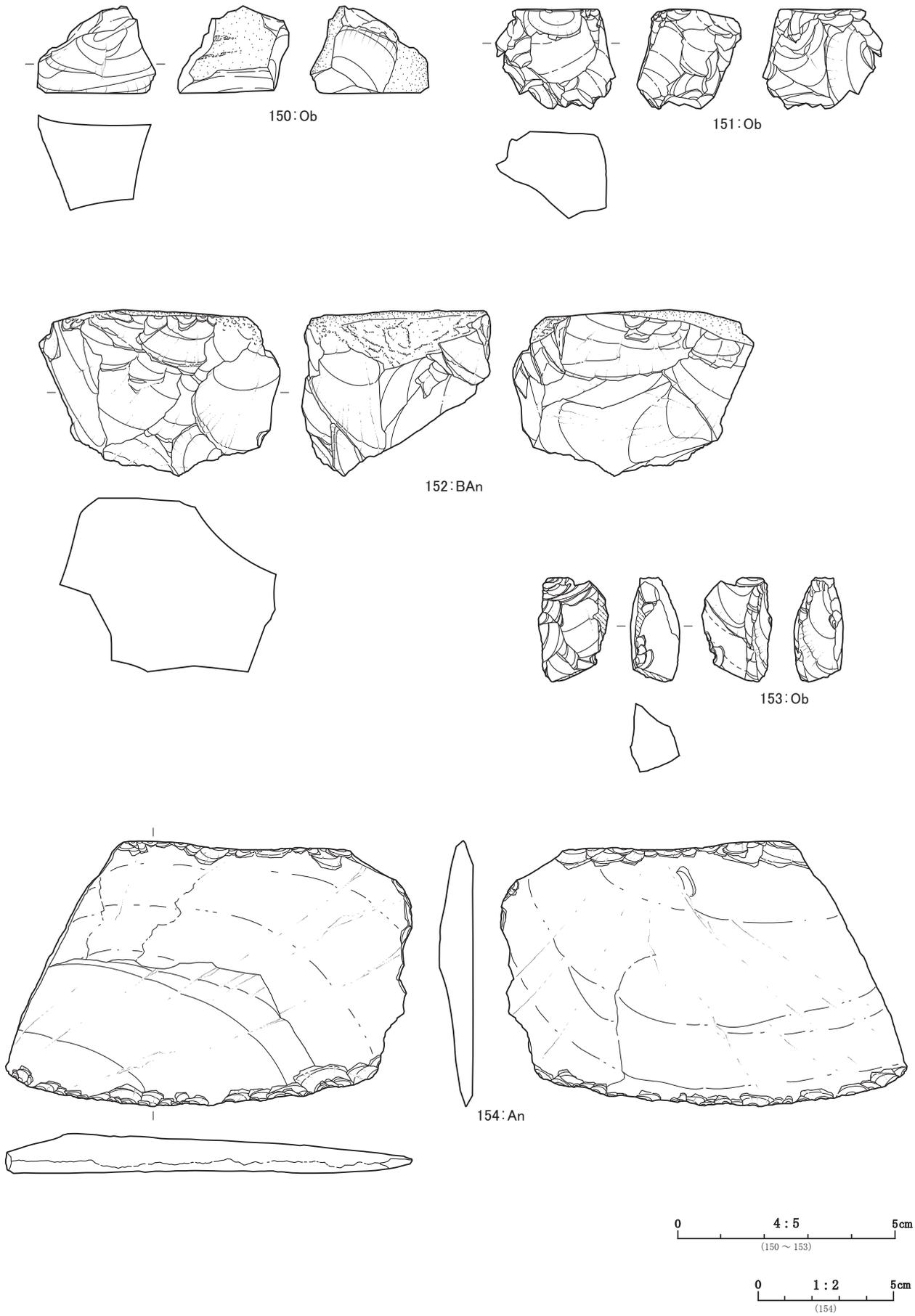
第 90 図 前庭部緩斜面出土石器 (4)



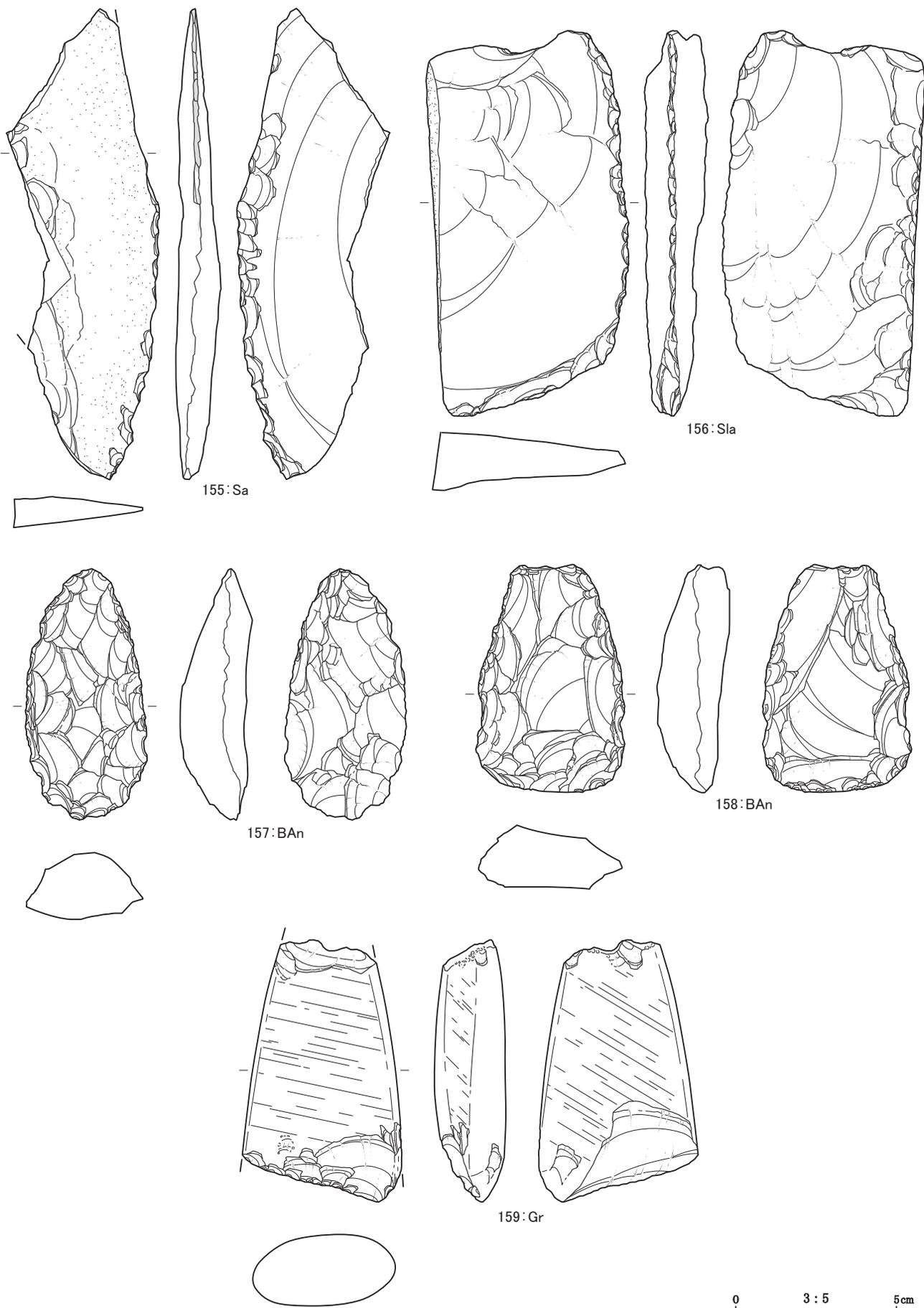
第91図 前庭部緩斜面出土石器(5)



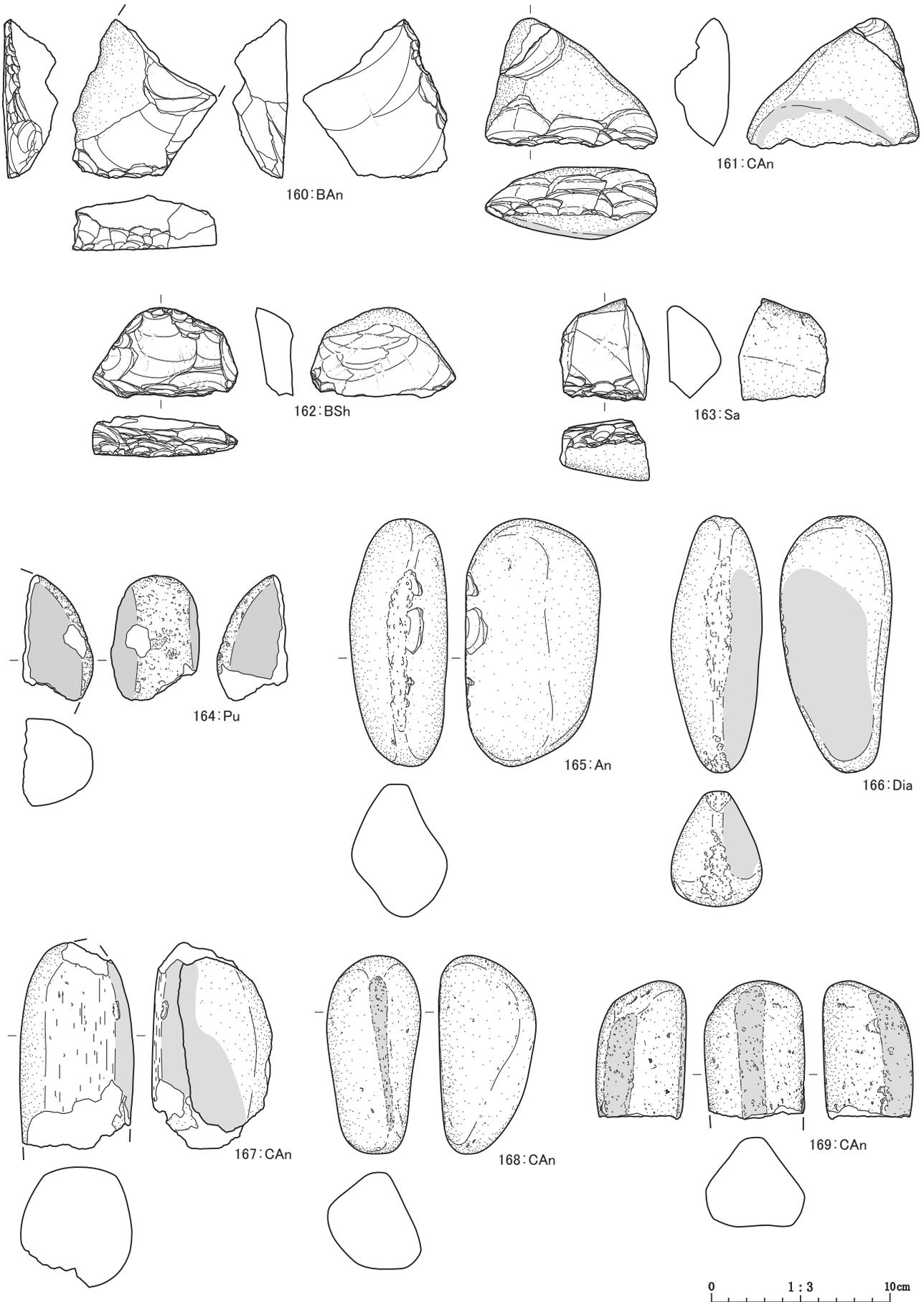
第 92 図 前庭部緩斜面出土石器 (6)



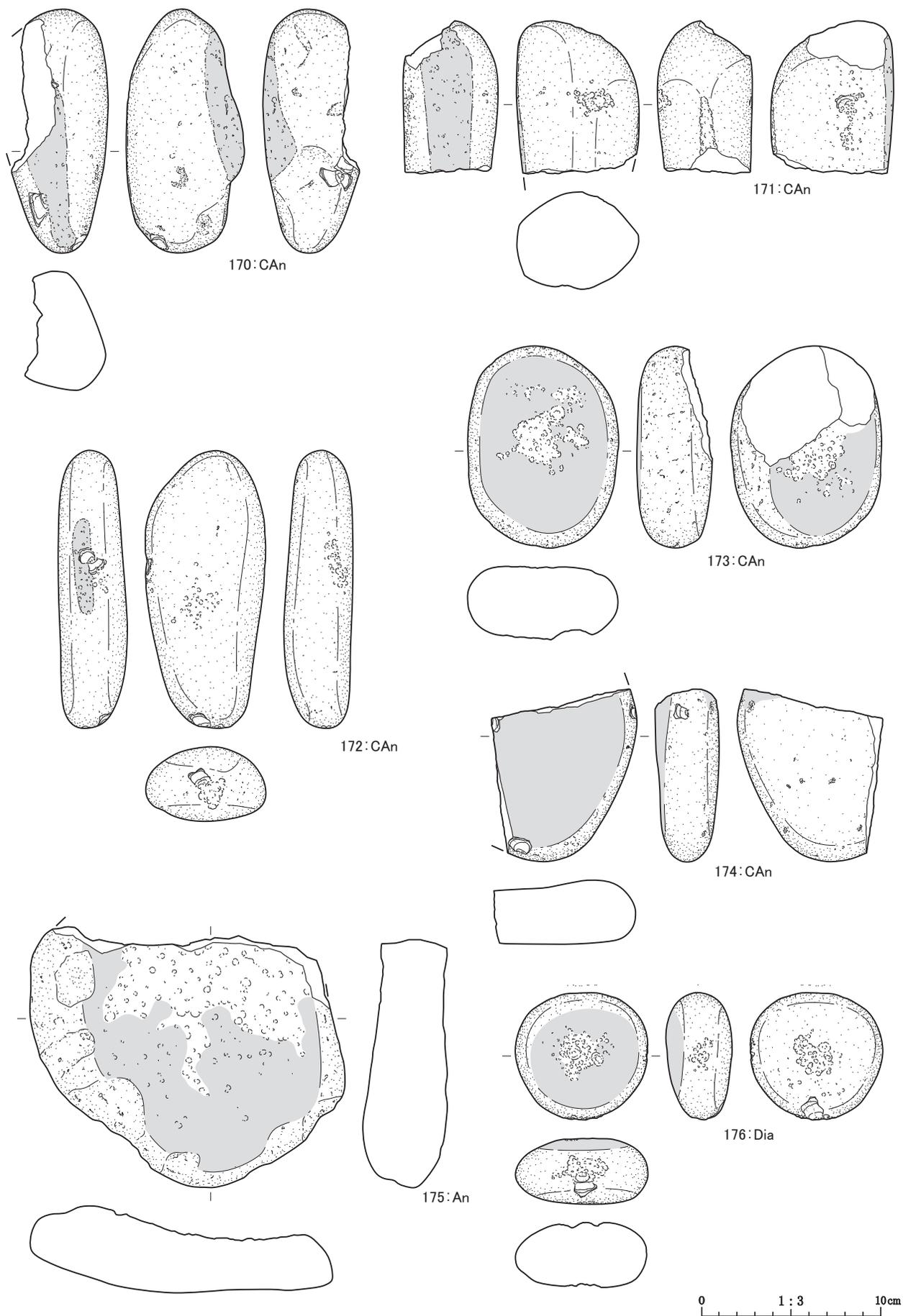
第 93 図 前庭部緩斜面出土石器 (7)



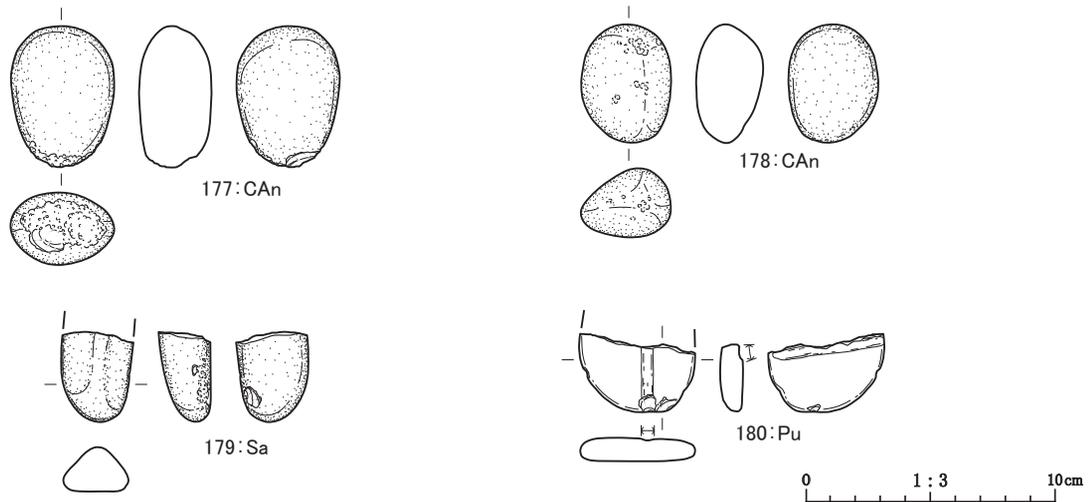
第 94 図 前庭部緩斜面出土石器 (8)



第95図 前庭部緩斜面出土石器(9)



第 96 図 前庭部緩斜面出土石器 (10)



第 97 図 前庭部緩斜面出土石器 (11)

第 42 表 前庭部緩斜面出土石器 観察表 (1)

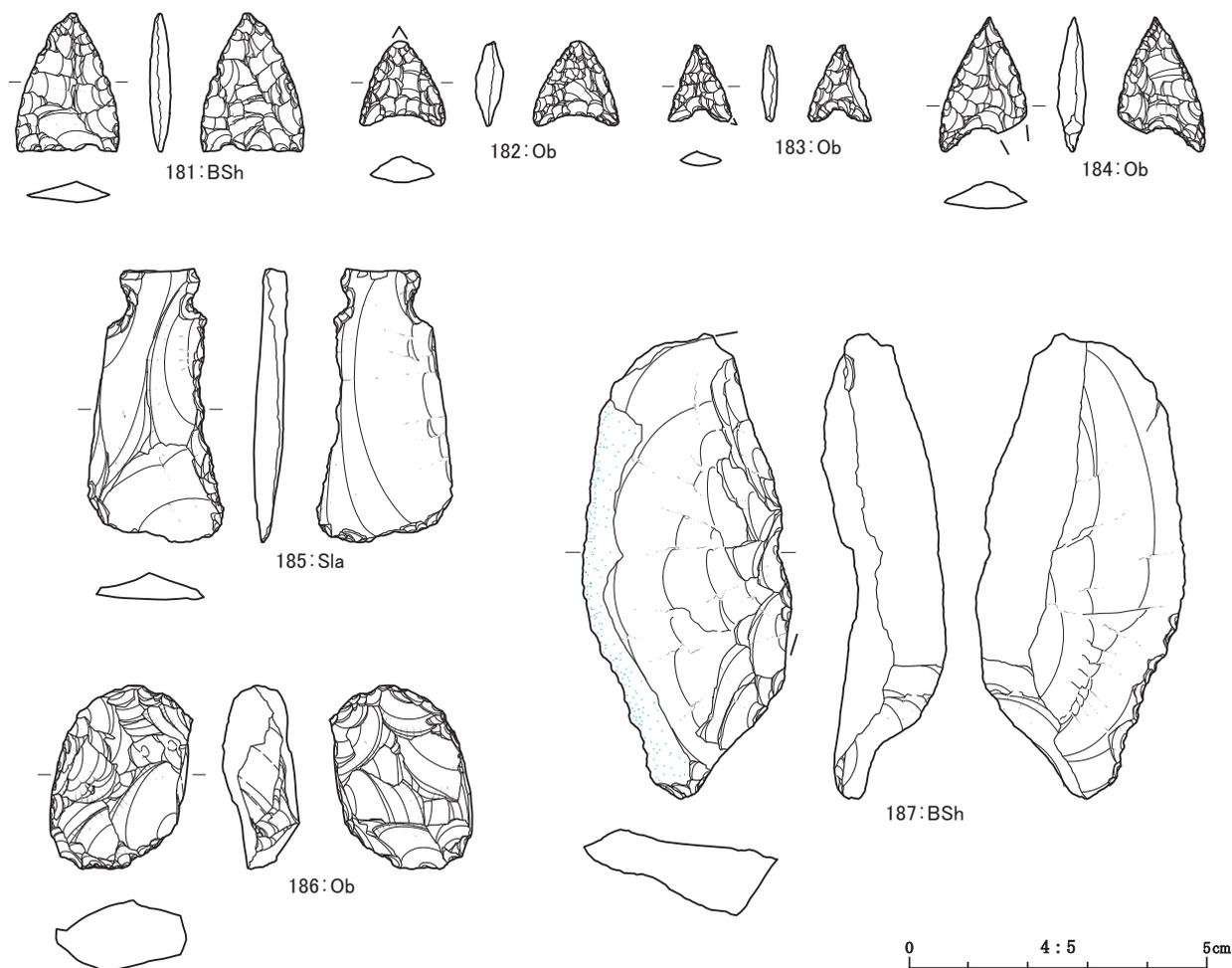
掲載 No.	出土位置	分類	器種	石材	計測値 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
61	A0 7層	A1類	石 鏃	Ob	11.3	12.7	2.3	0.2	
62	A0 8層	A1類	石 鏃	Ob	16.4	15.1	3.7	0.7	
63	A2 8層	A1類	石 鏃	Ob	16.9	13.0	3.7	0.6	
64	A2 8層	A1類	石 鏃	Ob	16.8	15.6	2.9	0.5	
65	A2 8層	A1類	石 鏃	BAn	16.1	12.8	3.0	0.4	
66	A2 8層	A1類	石 鏃	Ch	15.6	12.3	3.7	0.5	
67	A1 9層	A1類	石 鏃	SR	18.6	14.4	4.0	0.9	
68	A2 9層	A1類	石 鏃	FQu	16.6	13.7	3.0	0.5	
69	A0 ~ A2 9層	A1類	石 鏃	BAn	21.6	16.7	3.8	1.1	
70	A2 9層	A1類	石 鏃	BAn	19.2	14.7	6.5	1.6	
71	A2 9層	A1類	石 鏃	Ob	16.8	13.9	3.5	0.6	
72	A1 9層	A1類	石 鏃	Ob	19.3	16.0	5.1	1.2	
73	A2 9層	A1類	石 鏃	Ob	19.8	11.7	4.1	0.7	
74	A2 9層	A1類	石 鏃	Ch	16.8	(15.1)	3.6	0.8	片脚欠損
75	A2 9層	A1類	石 鏃	Ch	16.9	13.2	3.2	0.5	
76	A2 9層	A1類	石 鏃	BSh	21.5	(12.6)	3.2	0.7	片脚欠損
77	A2 9層	A1類	石 鏃	Ob	17.8	(12.3)	3.1	0.4	片脚欠損
78	A0 9層	A1類	石 鏃	Ob	15.6	12.5	3.4	0.6	
79	A0 9層	A1類	石 鏃	Ob	17.4	(13.6)	3.9	0.6	片脚欠損
80	A1 9層	A1類	石 鏃	Ob	19.3	15.3	4.5	1.1	
81	A2 9層	A1類	石 鏃	Ob	20.2	(12.8)	3.2	0.6	片脚欠損
82	A1 9層	A1類	石 鏃	SSh	15.7	13.6	3.8	0.4	
83	A2 9層	A1類	石 鏃	BSh	18.7	(14.2)	3.7	0.6	片脚欠損
84	A0 9層	A1類	石 鏃	BAn	21.8	(15.1)	4.7	1.2	片脚欠損
85	A0 9層	A1類	石 鏃	Sh	19.8	15.9	4.7	0.8	
86	A0 9層	A1類	石 鏃	Ch	19.1	15.4	4.0	0.6	
87	A1 9層	A1類	石 鏃	SSh	17.3	13.6	3.0	0.4	
88	A1 9層	A1類	石 鏃	Ob	18.4	(12.8)	3.4	0.4	片脚欠損
89	A2 9層	A1類	石 鏃	Ob	21.8	15.3	3.5	0.8	

第43表 前庭部緩斜面出土石器 観察表(2)

掲載No.	出土位置	分類	器種	石材	計測値(mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
90	A0 9層	A1類	石 鏃	SR	20.5	(15.3)	3.7	0.8	片脚欠損
91	A1 9層	A1類	石 鏃	BAn	(18.2)	15.9	3.7	0.8	先端部欠損
92	A1 9層	A1類	石 鏃	BAn	18.4	14.5	3.3	0.5	
93	A2 9層	A1類	石 鏃	Ob	21.8	17.7	3.0	0.9	
94	A1 9層	A1類	石 鏃	Ob	(23.5)	(15.7)	3.4	0.8	先端部・片脚欠損
95	A2 9層	A1類	石 鏃	Ob	(28.7)	(10.9)	5.9	1.5	半身欠損
96	A0 9層	A1類	石 鏃	SR	27.1	(16.3)	4.0	1.0	片脚欠損
97	A1 10層	A1類	石 鏃	Ob	17.0	(13.2)	3.3	0.4	片脚欠損
98	A1 10層	A1類	石 鏃	Ob	12.9	15.9	2.9	0.3	
99	A2 10層	A1類	石 鏃	SR	16.7	16.8	2.8	0.5	
100	A1 円形落込み3層	A1類	石 鏃	Ob	12.4	12.1	2.5	0.2	
101	A1 円形落込み3層	A1類	石 鏃	Ob	14.4	(13.0)	2.5	0.2	片脚欠損
102	A0 9a～9d層	A1類	石鏃未成品	Ob	26.6	15.2	5.5	2.0	
103	A0 北西壁土留部分	A1類	石鏃未成品	BSh	30.5	21.0	8.3	3.5	
104	A0 9層	A1類	局部磨製石鏃	Ob	(15.5)	(12.9)	2.2	0.4	脚部破片
105	A0 北西壁土留部分	A1類	局部磨製石鏃	Ob	15.8	18.6	2.8	0.5	
106	A0 9層	A1類	スクレイパー	BSh	94.8	50.2	19.7	117.5	
107	A0 9層	A1類	スクレイパー	BAn	46.0	26.0	6.5	7.9	
108	A2 9層	A1類	スクレイパー	BAn	67.7	47.4	20.8	54.3	
109	A2 9層	A1類	スクレイパー	SR	(28.9)	(29.6)	(9.7)	5.4	
110	A1 10層	A1類	スクレイパー	BSh	76.6	36.9	12.5	38.1	
111	A1 10層	A1類	石 錐	Ob	33.5	14.4	6.3	2.3	
112	A2 8層	A1類	楔形石器	Ob	23.2	22.0	11.7	4.3	
113	A1 9層	A1類	楔形石器	Ob	25.4	13.2	7.5	1.8	
114	A0 9層	A1類	楔形石器	Ob	21.0	30.4	9.3	4.0	
115	A0 9a～9d層	A1類	楔形石器	Ob	16.8	31.2	7.0	3.3	
116	A1 円形落込み3層	A1類	楔形石器	Ob	26.3	25.3	11.1	4.9	
117	A0 8層	A1類	両面調整石器	BAn	27.4	22.4	7.6	4.4	
118	A2 9層	A1類	両面調整石器	SR	44.3	42.5	12.8	26.3	円盤状石核?
119	A2 9層	A1類	両面調整石器	Sh	49.2	25.7	8.8	12.0	尖頭器?
120	A1 9層	A1類	両面調整石器	BAn	(23.1)	(19.8)	5.8	2.2	尖頭器
121	A2 9層	A1類	両面調整石器	BAn	(36.1)	(67.1)	21.0	38.8	
122	A0 9層	A2類	二次加工剥片	HSh	27.2	33.7	9.5	7.3	
123	A1 円形落込み1層	A3類	剥 片	Ob	25.1	24.5	8.0	3.8	
124	A1 9層	A4類	石 核	Ob	26.2	17.9	16.1	5.8	
125	A0 9層	A4類	石 核	Ob	20.6	15.7	20.6	4.9	
126	A1 9層	A4類	石 核	Ob	32.4	22.5	9.9	3.7	
127	A1 9層	A4類	石 核	Ob	16.8	25.4	17.9	5.6	
128	A2 9層	A4類	石 核	Ob	15.9	21.9	10.1	2.6	
129	A1 9層	A4類	石 核	Ob	10.4	23.3	19.9	3.3	
130	A2 9層	A4類	石 核	Ob	15.2	21.3	8.5	3.2	
131	A2 9層	A4類	石 核	Ob	20.2	16.4	28.2	5.4	
132	A2 9層	A4類	石 核	Ob	20.3	24.8	13.0	5.5	
133	A0 9層	A4類	石 核	Ob	14.7	15.9	18.1	3.2	
134	A0 9層	A4類	石 核	Ob	18.7	25.7	11.6	4.1	
135	A1 9層	A4類	石 核	BSh	24.6	25.3	19.5	14.4	

第44表 前庭部緩斜面出土石器 観察表(3)

掲載No.	出土位置	分類	器種	石材	計測値(mm)			重量(g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
136	A2 9層	A4類	石核	Ch	41.0	28.7	18.0	20.3	
137	A0 9a~9d層	A4類	石核	Ob	17.2	28.7	13.2	4.6	
138	A1 10層	A4類	石核	Ob	25.1	21.8	20.3	11.2	
139	A1 10層	A4類	石核	Ob	26.1	19.5	10.0	4.0	
140	A1 10層	A4類	石核	Ob	31.8	24.0	16.4	7.9	
141	A1 10層	A4類	石核	Ob	28.3	22.5	14.1	6.2	
142	A1 10層	A4類	石核	Ob	23.7	24.1	10.0	4.7	
143	A1 10層	A4類	石核	Sh	35.0	89.4	46.3	186.4	
144	A1 円形落込み1層	A4類	石核	Ob	24.8	40.3	23.3	16.0	
145	A1 円形落込み1層	A4類	石核	Ob	13.1	24.0	11.5	2.3	
146	A1 円形落込み3層	A4類	石核	Ob	25.7	24.8	22.1	8.2	
147	A2 8層	A4類	原石	Ob	19.1	20.0	11.8	5.0	
148	A1 9層	A4類	原石	Ob	39.6	20.7	9.6	7.3	
149	A1 10層	A4類	原石	Ob	51.8	37.3	22.9	44.7	写真図版 18-1 段目右
150	A1 10層	A4類	原石	Ob	19.8	27.2	25.4	10.1	
151	A1 円形落込み3層	A4類	原石	Ob	22.8	27.4	23.8	14.8	
152	A0 北西壁土留部分	A4類	原石	BAn	37.9	55.2	43.2	95.5	
153	A1 調査区内一括	A4類	原石	Ob	23.8	11.4	16.1	4.0	
154	A1 9層	B1類	スクレイパー	An	96.6	148.9	15.3	224.0	横刃形石器
155	A1 9層	B1類	スクレイパー	Sa	144.3	47.4	14.5	79.3	
156	A2 9層	B1類	スクレイパー	Sla	118.3	62.8	18.8	141.8	
157	A2 9層	B1類	打製石斧	BAn	77.0	37.6	22.2	62.3	
158	A2 9層	B1類	打製石斧	BAn	69.8	46.2	22.6	77.5	
159	A0 1層	C類	磨製石斧	Gr	(80.4)	(49.4)	22.5	128.8	基部・刃部欠損
160	A2 9層	D1類	礫器	BAn	87.7	80.2	30.7	209.2	
161	A0 9層	D1類	礫器	CAn	72.2	95.7	40.1	320.0	
162	A2 10ab層	D1類	礫器	BSh	49.8	80.5	23.0	104.6	
163	A1 10層	D1類	礫器	Sa	56.6	49.8	33.9	116.6	
164	A0 調査区内一括	D2類	軽石製磨石	Pu	(69.3)	(41.3)	49.1	44.5	
165	A0 8層	D2類	特殊磨石	An	136.8	54.5	75.0	843.1	
166	A0 8層	D2類	特殊磨石	Dia	141.9	50.7	62.3	664.2	
167	A1 9層	D2類	特殊磨石	CAn	(114.0)	63.6	66.9	767.3	
168	A2 9層	D2類	特殊磨石	CAn	109.7	52.4	54.2	443.6	
169	A0 9a~9d層	D2類	特殊磨石	CAn	(76.5)	56.0	50.3	326.9	
170	A0 北西壁土留部分	D2類	特殊磨石	CAn	134.4	(52.6)	65.6	576.1	
171	A2 9層	D2類	複合礫石器	CAn	(84.4)	68.3	52.9	444.7	
172	A2 9層	D2類	複合礫石器	CAn	153.4	66.6	38.6	580.0	
173	A2 9層	D2類	複合礫石器	CAn	111.2	84.1	41.3	569.9	
174	A0 北西壁土留部分	D2類	石皿	CAn	(95.2)	(80.8)	35.6	415.5	
175	A0 北西壁土留部分	D2類	石皿	An	(143.9)	174.8	50.6	1253.9	
176	A0 9a~9d層	D2類	凹石	Dia	70.1	73.5	36.8	268.9	
177	A0 9層	D2類	ハンマー	CAn	56.0	41.4	28.9	103.2	
178	A1 10層	D2類	ハンマー	CAn	47.0	36.0	27.5	58.2	
179	A2 9層	D2類	ハンマー	Sa	(35.7)	28.9	(20.9)	25.8	
180	A0 9層	D2類	砥石	Pu	(31.3)	46.4	10.1	13.2	



第 98 図 表面採集石器

第 45 表 表面採集石器 観察表

掲載 No.	出土位置	分類	器種	石材	計測値 (mm)			重量 (g)	備考
					長さ	幅	厚さ		
181	表採	A1類	石鏃	BSh	23.1	17.4	3.7	1.6	
182	表採	A1類	石鏃	Ob	(14.1)	14.4	4.8	0.7	先端部欠損
183	道路部分表採	A1類	石鏃	Ob	13.0	10.6	2.7	0.2	
184	岩陰周辺表採	A1類	石鏃	Ob	22.3	(14.7)	4.8	1.0	片脚欠損
185	Aトレンチ周辺表採	A1類	石匙	Sla	45.4	22.7	5.7	5.6	
186	Aトレンチ周辺表採	A2類	楔形石器	Ob	30.5	24.0	12.9	8.7	
187	岩陰内表採	A3類	微細剥離のある剥片	BSh	77.3	34.8	21.0	37.3	

### 3. 層位別の出土傾向

第4次・第5次調査の成果を踏まえ、第1次～第5次調査までの出土石器の全体集計を行うとともに、層位別の出土傾向を整理する。第1次～第5次調査の器種・石材別の全体集計を第99図、器種の層位別集計を第100図・第101図、剥片石器石材の層位別集計を第102図・第103図に提示した。なお、土器についても同様の検討を実施している（本章第1節3項参照）。

#### (1) 岩陰部

岩陰部では267点の器種石器を検出した（第100図）。その内訳は石鏃が45.7%を占め、最も多い。これに次ぐのは削器（A類、5.2%）や、二次加工を施した剥片（13.9%）である。ガラス質石材を使用した剥片石器が多い一方、礫石器は相対的に少ない。磨石が5.2%と比較的多く出土している。磨製石器（C類）は第5次調査時点では出土していない。

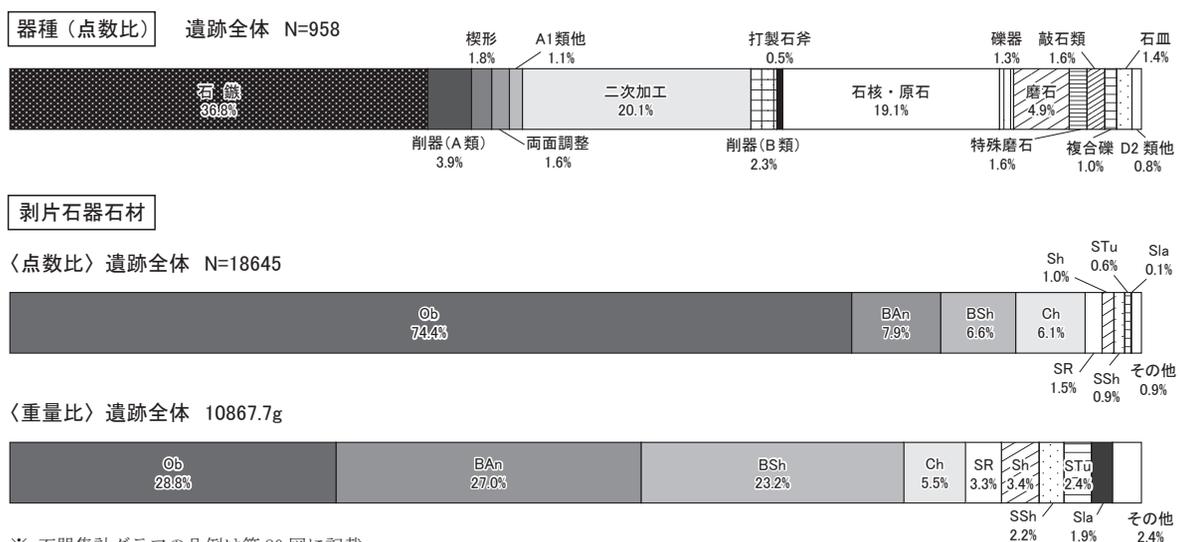
器種石器の出土傾向を大別層群ごとに整理する。表層（N=35）と第I層群（N=47）は百分率で傾向を表すには少ない総量であるが、各層のおおよその傾向は共通している。石鏃は表層～第I層群では半数以上で、第II層群では割合が減る。礫石器（D類）は各層群で10%前後と出土量が安定している。

次に、剥片石器（A類）の石材について石材別に概観する（第102図）。岩陰部では、合計7,102点（3356.0g）の剥片石器を検出している。点数比で見ると、黒曜石が72.8%であり圧倒的多数を占める。これに続くのは黒色安山岩9.1%、黒色頁岩8.5%、チャート5.1%である。点数比を大別層群ごとにみると、第II層群は第I層群に比して、わずかに黒曜石、黒色安山岩、黒色頁岩の割合が大きい。一方でチャートの数は減る。

石材割合を重量比にすると、点数比とは異なる傾向がみえてくる。すなわち、合計3356.0gのうち最も多数を占めるのは黒色安山岩で33.1%、これに次ぐのが黒曜石の30.6%、そして黒色頁岩の21.0%となる。重量比・点数比の著しい傾向差は、黒曜石製石器が小形であること、剥片・チップが多量に検出されていることが要因である。つづいて層位別に傾向を比較する。黒曜石は、第I層群の38.3%に比べ、第II層群は27.1%と割合が低い。一方、黒色頁岩は第I層群が8.1%に対して第II層群が25.2%となり、第II層群の方が3倍ほど多い。黒色安山岩は、第I層群38.0%、第II層群34.0%とほぼ変化はない。

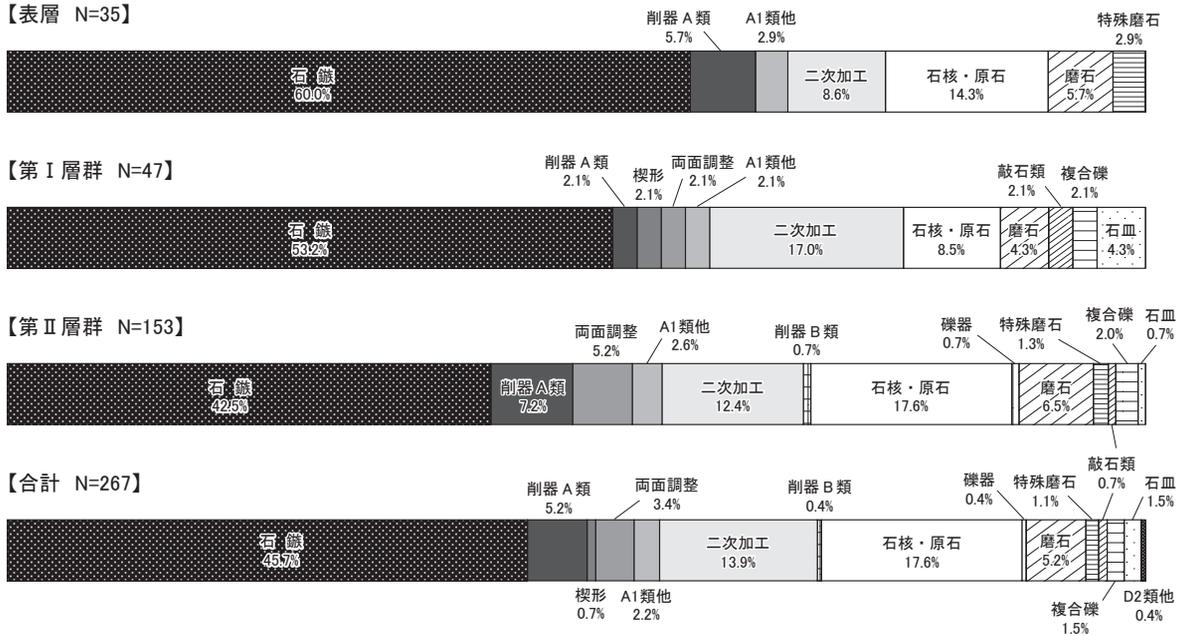
#### (2) 前庭部緩斜面

前庭部緩斜面では691点の器種石器を検出した（第101図）。ガラス質石材の剥片石器が多数であり、なかでも石鏃が33.4%、二次加工剥片石器が22.6%と多い。石核・原石の割合は19.7%である。石鏃、二次加工剥片、石核・原石の順に割合が大きい点は岩陰部と共通するものの、前庭部緩斜面では石鏃の比率が相対的に低い。岩

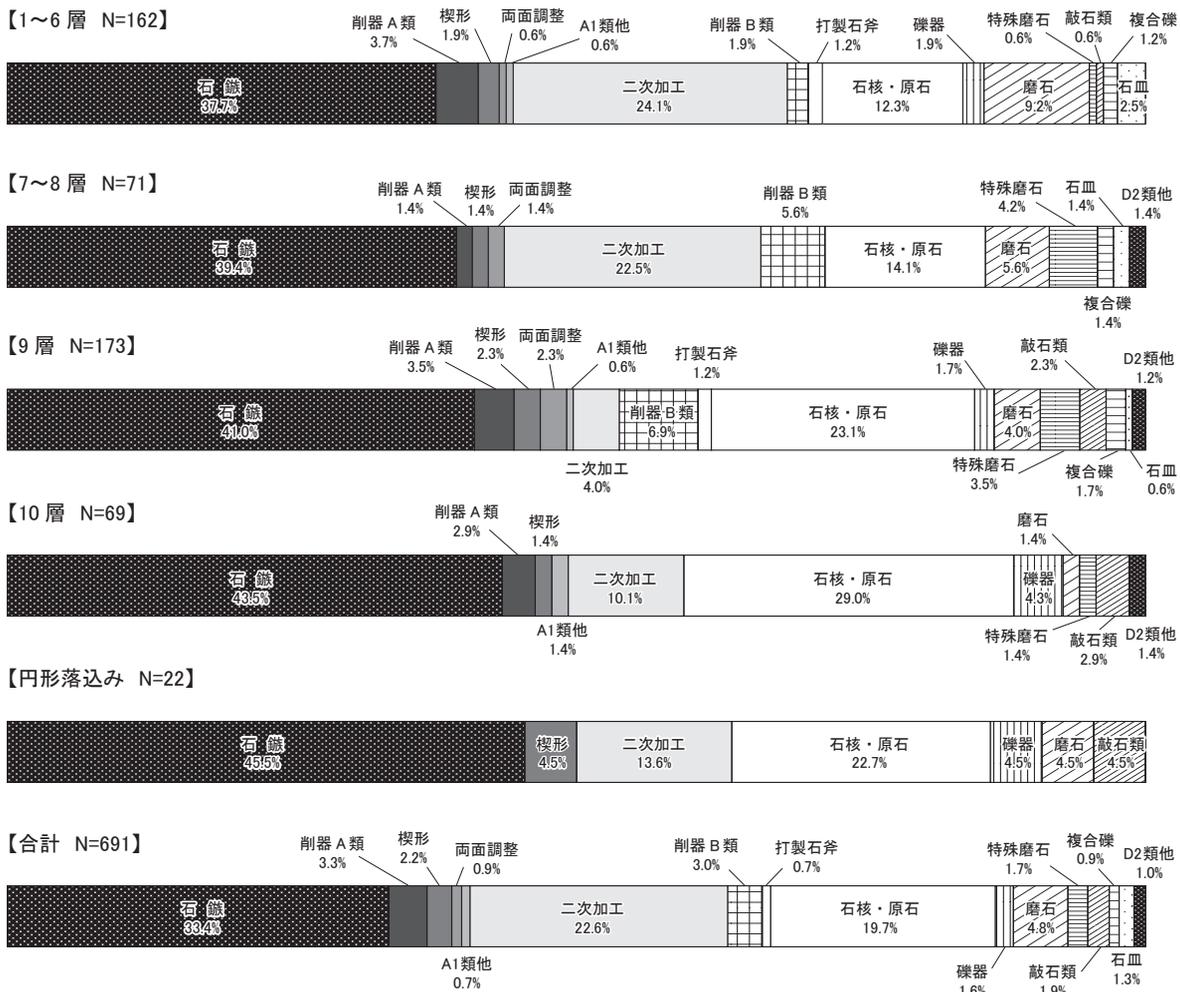


※ 石器集計グラフの凡例は第80図に記載。

第99図 第1次～第5次調査出土石器 器種・石材別割合



第 100 図 第 1 次～第 5 次調査 岩陰部出土石器 器種の層別別割合



第 101 図 第 1 次～第 5 次調査 前底部緩斜面出土石器 器種の層別別割合

点数比

【表層 N=250】



【第I層群 N=510】



【第II層群 N=5,966】



【岩陰部合計 N=7,102】

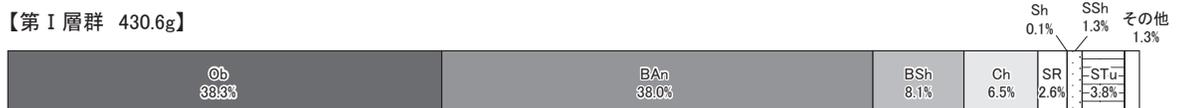


重量比

【表層 286.1g】



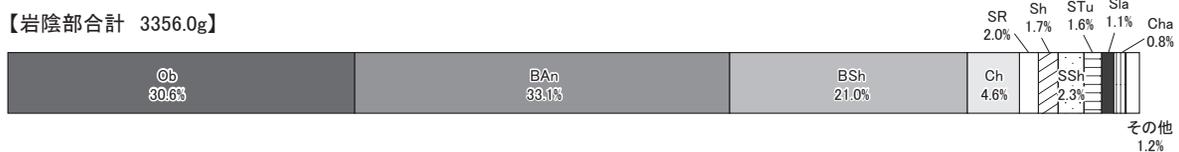
【第I層群 430.6g】



【第II層群 2,446.4g】



【岩陰部合計 3356.0g】



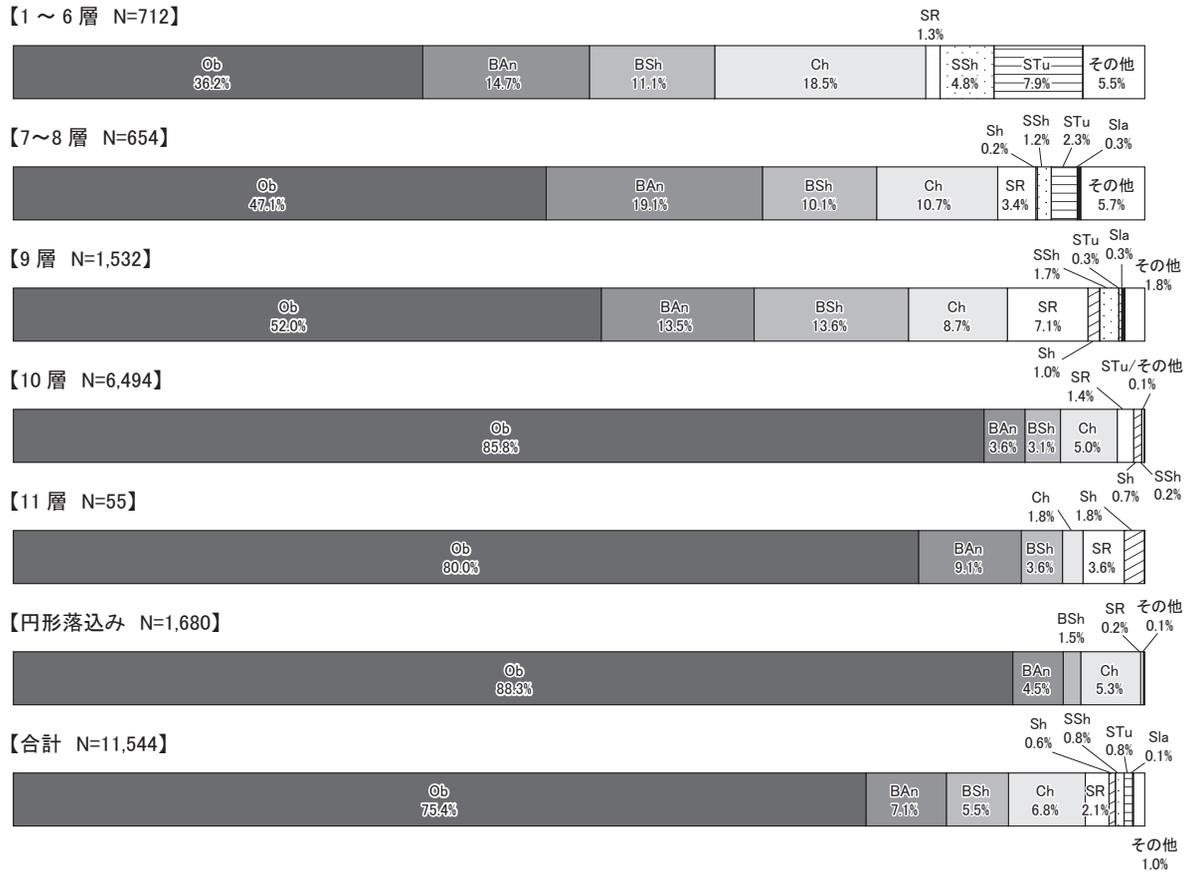
第102図 第1次～第5次調査 岩陰部出土剥片石器 石材の層位別割合

陰部に比べると安山岩などを石材とする粗大な削器の出土数が多く（3.0%）、打製石斧や磨製石斧もごく少数が出土している。

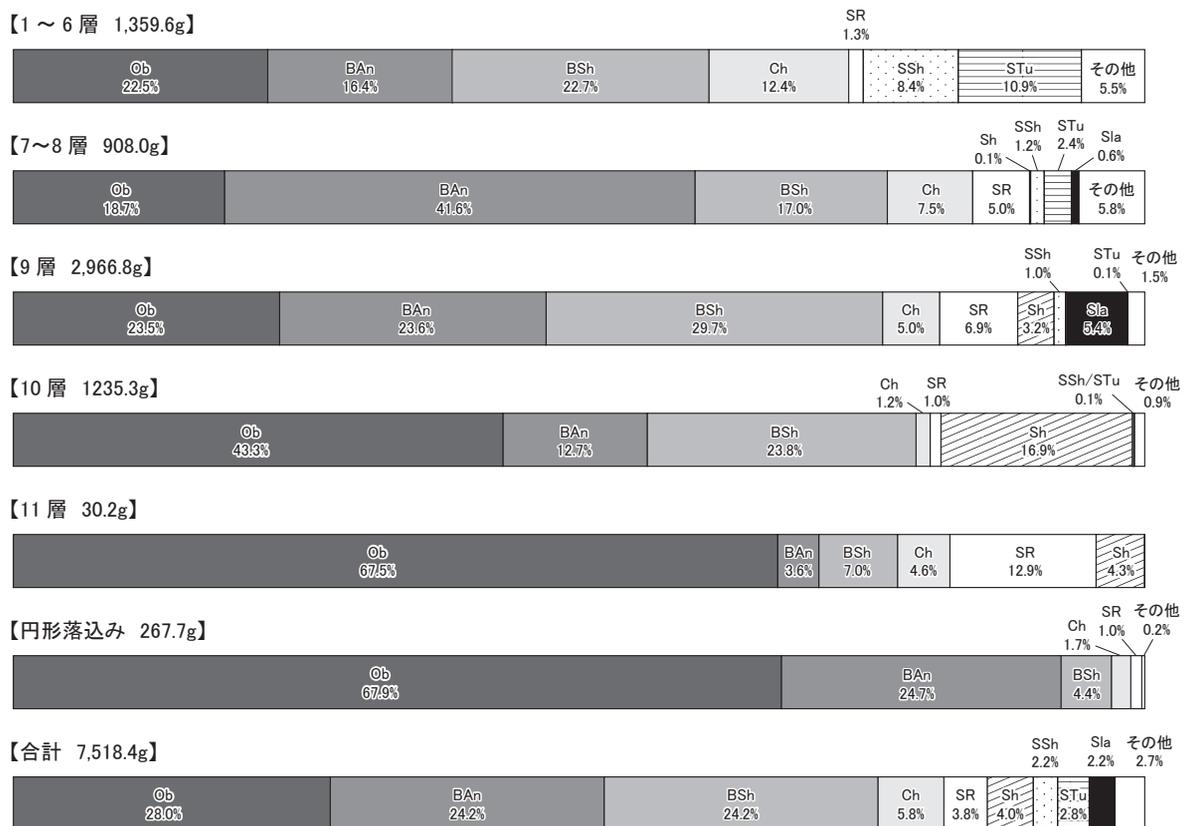
器種別の出土傾向を層位ごとに整理する（第101図）。石鏃は、1層～6層（37.7%）から10層（43.5%）へと下るにしたがって微増するものの大幅な変化はない。一方で、二次加工剥片は1層～6層が24.1%、7層～8層が22.5%であるのに対し、9層が4.0%、10層が10.1%であり、9層を境に急減する。削器（A類）の数はそれほど変わらない。粗大な削器（B類）は7層～9層で5%以上の割合を占めていたが、10層では出土していない。石核・原石は1層が12.3%、10層が29.0%であり、下層ほど比率が増える。礫石器（D類）は各層位で10%をやや上回り、安定して出土する。早期に特徴的な石器である特殊磨石は、1層～6層ではほとんど出土していない（0.6%）が、7層～8層で4.2%となり、9層で3.5%となる。10層中に存在する流水作用によって形成された円形落込みは、傾向をみるには総量が少ないが、10層の内容とおおむね対応している。

次に、剥片石器（A類）の石材を検討する（第103図）。前庭部緩斜面では、A類と分類した石器が11,544点（7,518.4g）出土した。点数の内訳は、黒曜石が75.4%で多数を占める。これに続くのは黒色安山岩7.1%、チャ

点数比



重量比



第103図 第1次～第5次調査 前庭部緩斜面出土剥片石器 石材の層別割合

ート 6.8%、黒色頁岩 5.5% であり、上記 4 石材が組成の大半を占める。重量比では、黒曜石 28.0%、黒色安山岩 24.2%、黒色頁岩 24.2% と三者がほぼ均衡する。

層位別に石材点数比をみても。黒曜石の割合は 1 層～6 層の 36.2% から、7 層～8 層の 47.1%、9 層の 52.0% と下層ほど微増し、10 層では 85.5% と大半を占める。9 層から 10 層への増加は著しく、10 層の形成時期ではとくに黒曜石の利用比重が大きかったことがわかる。なお 11 層は、部分的に掘り下げたのみで本格的な調査の及んでいない土層であり、サンプル数が少なく現状での参考値である。10 層中の円形落込みは、全体の傾向と大きな差が認められないものの 10 層と最も近く、9 層とは大きく異なっている。円形落込みの埋土の成因に関係する可能性が大きい（第 5 章第 3 節参照）。

つづいて石材割合を重量比からみる。黒曜石の比率は、1 層～6 層では 22.5% であり、7 層～8 層で 18.7% とやや減少したのち、9 層で 23.5% となり、10 層で 43.3% と急増する。点数比でみた傾向と同様に、10 層の形成時期では黒曜石の利用が盛んであったといえる。黒色安山岩は、7 層～8 層で 41.6% を占めたものの 10 層では 12.7% となり、明確に減少する。黒色頁岩は 1 層～6 層から 10 層まで 2 割から 3 割程度の割合を占めており、安定的に出土している。10 層では、点数比で 0.7% に過ぎなかった頁岩が、重量比では 16.9% と少なくない割合となっている。これは大形の石核 1 点（第 92 図 143、186.4g）を含んでいるためである。この石核を除いた場合の重量比は、黒曜石 50.9%、黒色安山岩 15.0%、黒色頁岩 27.9% となり、頁岩は 2.2% を占めるのみとなる。円形落込みは、点数比では 10 層と近い内容を示していたが、重量比では黒曜石と黒色安山岩で 9 割以上となっており、やや様相が異なる。円形落込みでは 10g 以上の黒色頁岩の剥片が出土していないことが、傾向差を生んでいる要因である。

### （3）所見

第 1 次～第 5 次調査出土石器の内容から得られた所見をまとめる。

器種別割合では、岩陰部、前庭部緩斜面ともに石鏃が最も多い。狩猟具である石鏃が多い一方で、石皿や磨石などの植物利用に関わる石器は出土量が少ない。本遺跡は狩猟活動と密接に関連した場であった可能性が大きいといえる。多量に出土する動物遺存体も、それを傍証する。

石材は、点数比では黒曜石が 7 割以上を占め、重量比では、黒曜石、黒色安山岩、黒色頁岩がほぼ並ぶ割合となった。黒曜石製の石器、剥片・チップに微細なものが多いことが点数比、重量比の傾向差につながっている。

層位別の検討では、岩陰部ではそれほど明確な傾向差を捉えることができなかった。ただし第 II 層群は調査途中であり、調査の進展により集計結果が変動する可能性がある。前庭部緩斜面では、7 層～9 層における B 類削器の出土や、10 層における黒曜石の急増など、層位別の出土傾向の差異を確認することができた。土器の層位別集計では、1 層～6 層一多時期の混在、7 層～8 層一沈線文土器・条痕文土器主体、9 層一押型文土器・沈線文土器主体、10 層一押型文土器主体と、漸移的ではあるが各層の新旧関係が捉えられている。出土層位によって、早期石器の時期変化を追った調査例はほぼないが、本遺跡ではその分析が可能である。早期遺物包含層の調査は着手したばかりであり、今後の成果を踏まえ、詳細に検討を進めていく。 (吉澤・松本)

### 第3節 貝製品・骨角牙製品

第4次・第5次調査では、生活用具あるいは装身具類など、各種の貝製品・骨角牙製品が出土している。未成品や加工痕のみが認められる資料を含めると294点に及ぶ<sup>1)</sup>。本報告ではそれら全点を観察表で示し、とくに遺存状態の良好な資料について図示・写真掲載し、詳述する。ただし、整理期間の都合ですべてを図化できなかったため、写真掲載のみとした資料もある。実測図中において抜けている番号が、写真掲載のみとした資料となる。なお、観察表冒頭の番号と、実測図・写真図版の掲載番号は対応していない。文中では実測図・写真図版の掲載番号は番号のみで表記し、観察表の番号については「観察表 No.」を付して示す。各資料の実測図、写真の掲載有無は観察表の特記事項の欄に表示した。

貝製品、骨角牙製品それぞれの報告ののち、本節3項にて第1次～第3次調査の出土資料もあわせた集計を示し、現時点での所見を述べる。

#### 1. 貝製品

##### (1) 資料の概要と分類の基準

切断痕、擦痕、研磨痕、塗彩等の人為的な痕跡が認められる資料を貝製品として扱う。第4次・第5次調査ではビーズや貝輪といった装身具類と、その他に用途不明の資料が出土している。資料の観察・分類は、山崎の指導のもと、鈴木・高橋・長崎・大内が行った。素材の種同定については黒住耐二氏の協力を得た。

ビーズは素材の種類別にツノガイ類製ビーズ、イモガイ類製ビーズ、サルボオガイ製ビーズに分類した。ツノガイ類製ビーズにはツノガイ製、ヤスリツノガイ製、ヤカドツノガイ製、マルツノガイ属製がある。種同定が困難なものはツノガイ類製と一括した。

ビーズの形態には管玉状のものと平玉状のものがある。管玉、平玉の分類では、2000点以上のツノガイ類製品が出土した早期の遺跡である千葉県取掛西貝塚の報告において設定された基準（沼野・白崎2021）を用いた。取掛西貝塚では、長さ2.5mm以下のツノガイ製製品がきわめて多く、3.5mm以下の長さのものを0.2mm毎に分けた集計で1.3～1.5mmを頂点とした正規分布が認められ、2.5mm以下にまとまりがあることを確認し、2.5mmを基準に形態分類を行っている。本報告でもそれに従い、長さ2.5mm以下のものを平玉、それ以上のものを管玉とした<sup>2)</sup>。破片資料も多く出土しており、それらは形態分類を行わずビーズ破片として一括した。

用途不明の資料は、赤色顔料が付着したもの、あるいは研磨や穿孔等の加工痕がみられるものなどである。

上記の基準をもとに行った第4次・第5次調査出土貝製品の器種別の分類集計結果は第46表のとおりである。出土した貝製品全点の観察表を第47表～第50表に示す。図示した資料の掲載番号は、観察表の「掲載番号/観察所見」の欄に記した。

##### (2) 岩陰部（第104図・写真図版42-1～62）

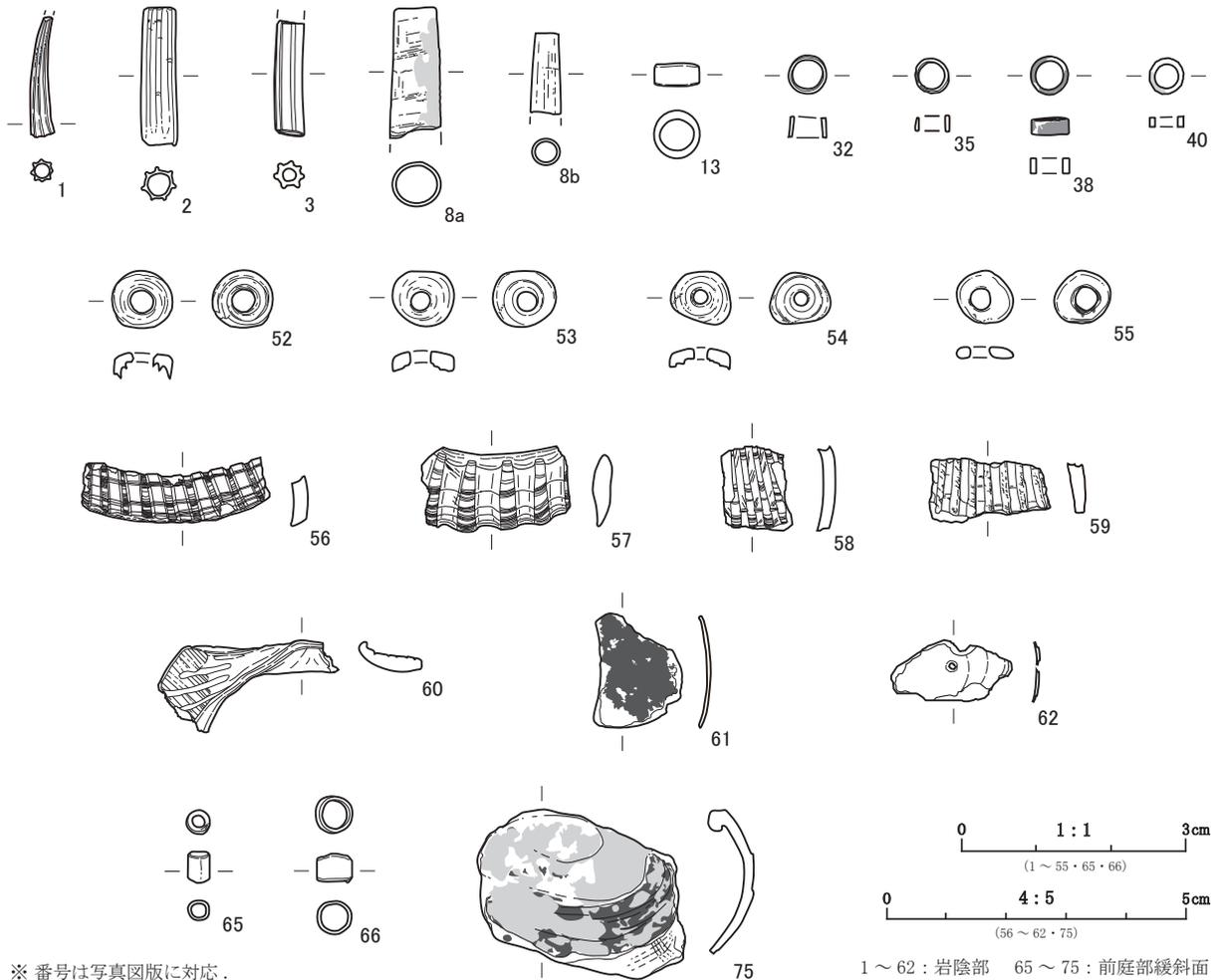
ツノガイ類製ビーズ107点、イモガイ類製ビーズ7点、その他のビーズ2点、ビーズの破片64点、貝輪を6点、装身具類とはみられないその他の資料2点を検出した。

##### a) 装身具類

**ツノガイ類製ビーズ** ツノガイ製37点、ヤカドツノガイ製10点、ヤスリツノガイ製1点、マルツノガイ属製1点、ツノガイ類製58点である。このうち47点を写真掲載し（1～47）、10点を図化した。形態は管玉状と平玉状の両者が認めら

第46表 第4次・第5次調査出土貝製品集計表

器種分類		岩陰部	前庭部	計
装身具類	ツノガイ類管玉	44	10	54
	ツノガイ類平玉	63	6	69
	イモガイ類平玉	7		7
	その他平玉	2		2
	ビーズ破片	64	4	68
	貝輪	6		6
その他	赤色顔料付着資料	1	1	2
	加工痕資料	1		1
計		188	21	209



※ 番号は写真図版に対応.

1 ~ 62 : 岩陰部 65 ~ 75 : 前庭部緩斜面

第104図 岩陰部・前庭部緩斜面出土 貝製品

れ、ほとんどが体層部を加工したものである。

管玉状と分類したビーズは44点である。長さ5mm未満の短いもの(11~21)が30点と多いが、10mmを超えるような長いもの(1~5・8・9)も9点ある。ヤカドツノガイ製のものは9点中6点が10mm以上の長いものだが、ツノガイ製は長いものは13点中3点のみで、ほとんどが長さ5mm未満におさまる。ヤカドツノガイ製は管玉状のものにほぼ限定され、平玉状のものは極小サイズの22のみである。切断面や殻表に研磨を施すものと、これをしないものがある。5は、研磨により殻表の肋が摩滅しており、13は切断面、殻表ともに透明感が出るほど磨かれている。8は4号人骨の肋骨付近で出土したもので、8aの中に8bが入り、入れ子の状態で検出されたものである(写真図版10左下)。1は研磨されていないヤカドツノガイの殻頂部から体層部にかけての破片で、素材の可能性はある。

平玉状のビーズは63点あり、直径4~5mm程度のものが中心である。種同定できた素材には、ツノガイやヤカドツノガイ、マルツノガイ属にくわえて、化石のヤスリツノガイが認められた。直径2mm以下の極小の製品もあり(22~24)、素材の殻頂部を加工したものとみられる。12号人骨の頭蓋骨付近(南西側)では、5点の平玉(43~47)と破片32点(観察表No.140)がまとまって出土している。

切断面・殻表を研磨するものが多く、切断面のみ、あるいは殻表のみを研磨するものもある。管玉状、平玉状いずれの場合でも、殻表よりも切断面がよく加工される傾向にある。

また、管玉状と平玉状のどちらにも被熱した資料がみられる。色調による判断であり確実性を欠くが、管玉状10点、平玉状15点を確認した。意図的なものか、偶発的なものであるかは判断できない。

**イモガイ類製ビーズ** 出土した7点すべてを写真掲載し(48～54)、このうち3点を図化した。すべて完形品であり、イモガイ類の螺塔部分を用いて直径7mm前後の平玉状に加工している。破砕面と殻表をよく研磨し、円形に近い形状に整えている。穿孔のサイズは、製品そのものの大きさに関わらず2～3mm程度となっており一定である。52は表裏両面から穿孔を施している。

**サルボオガイ製ビーズ** 1点出土しており、写真掲載・図化した(55)。形態は平玉状のイモガイ類製ビーズと近似しており、破砕面や表裏面を研磨し、薄い円盤状に整形している。殻表の肋は完全に摩滅しており、腹面とともに光沢のある仕上がりとなっている。

**貝輪** 6点出土しており、そのうち5点を図化した(56～60)。56・57はサトウガイの腹縁部、58・59はサルボオガイ類の殻中央部分を素材としている。60はフネガイ科の右殻を素材としており、殻頂部のみ残存する。すべての資料が被熱しており、全体的に黒色または赤褐色に変色している。いずれも顆粒が消えるほど殻表を研磨しており、肋は光沢を帯びる。とくに60は研磨が丁寧で、破砕面を除く全面に強い光沢がみられる。そのほかのものは、殻表に比べて腹面の研磨が弱い傾向にある。上下端は研磨が加えられているものとそうでないものがある。56は下端を弱く研磨する。57は、上端を放射肋が摩滅するほど研磨して端部を丁寧に整形している。それ以外には上下端の研磨は認められない。また、いずれも左右の破砕面には加工痕は残っていない。

#### b) その他の資料

2点出土しており、すべて写真掲載し図化した(61・62)。両者とも淡水産種二枚貝の破片である。61は殻表に赤色顔料が厚く付着している。人為的な加工痕は確認できない。62は、中央部に殻表側から施されたとみられる直径1mm程度の小さな穿孔が認められる。それ以外の加工痕は認められない。

### (3) 前庭部緩斜面(第104図・写真図版42-63～75)

#### a) 装身具類

ツノガイ類製ビーズが16点出土した。素材別に、ツノガイ製6点、ヤカドツノガイ製1点、マルツノガイ属製1点、ツノガイ類製8点である。このうち12点を写真掲載し(63～74)、2点を図化した。岩陰部の出土資料と同様、管玉状と平玉状の両者が認められた。

管玉状のビーズは10点、平玉状の製品は6点出土している。大きさは、管玉状のもので長さ4mm前後、平玉状のものは直径4mm程度のもので、素材の殻頂部を用いた直径1mmほどの小さいものがある(71)。現状では岩陰部ほどの数量を検出しておらず傾向がつかみにくいが、管玉状・平玉状のどちらも切断面と殻表をよく研磨している。なお、被熱資料は認められなかった。

#### b) その他の資料

赤色顔料が付着した資料を1点検出している(75)。カワシンジュガイの右殻であるが、おそらく殻表全体に顔料が付着していたとみられる。ただし、殻頂付近は表面の劣化が著しく、顔料はあまり残っていない。また、顔料の付着以外の人為的な痕跡は認められない。(長崎・松本)

#### 註

1) 第4次・第5次調査出土動物遺存体のうち、コンテナ4箱分の資料が未同定あるいは未整理の状態となっている。未整理資料のなかに、少数ながら貝製品・骨角牙製品も含まれていることを確認した。したがって、ここで報告した総数は第4次・第5次調査の全資料とはなっていない。ただし、それらは取り上げ時に製品と判断できなかったような破片資料が中心となっており、全体の傾向を変えるような内容ではない。

2) 2.5mmを基準として管玉、平玉を区別すると、管玉としたグループ内に長いものと短いもの、その中間的なもの大きく3つのバリエーションができる。第4次・第5次調査出土資料のうち最大長は20mmほどであり、2.5mm～20mmの幅広い範囲を管玉とグルーピングしている現状にある。短い管玉は、形態的には長い管玉よりも平玉に近い。今回は取掛西貝塚における分類基準を援用したが、今後の資料の増加を受けて本遺跡出土資料の内容により適した基準を設ける必要がある。

第47表 岩陰部・前庭部緩斜面出土貝製品観察表(1)

貝製品観察表 凡例

層位：数字表記のものはEL(650.000m)を基準に設定した人工層位である。

研磨：表裏および断面について観察を行った。観察に際しては以下の4段階の判断基準を設定した。

- ◎一角が丸みを帯び、強い光沢や透明感を有する      ○一角が丸みを帯び、弱い光沢をもつ
- △一弱い研磨痕を有する      ×一研磨痕がほとんど認められない

被熱：被熱による色調の変化を赤褐・黒・青灰・白の4種で表記した。色調変化が被熱によるものか確定ではない場合には「?」を付した。

計測値：最大長・最大幅・最大厚を計測した。計測にはデジタルノギス(Mitutoyo CD-20AX)を用いた。ピーズ類のうち上下端の幅の差の大きいものは上下端を分けて計測し、上/下の順に記載した。計測時に破損する恐れのあるものはスケールによってサイズを計測した。

欠損する資料の測定値は( )付きで表示した。

掲載番号/観察所見：実測図・写真図版の掲載番号および、殻表の肋の有無、風化の状況などの観察所見を記載した。

No.	出土位置	器種 形態	素材		研磨		被熱	計測値(mm)			重量 (g)	取上	掲載番号/観察所見
			貝種	部位	断面	殻表		長さ	幅	厚さ			
<b>岩陰部</b>													
1	イ9 第II層群d層	管玉	ツノガイ	体層部	◎	◎	無	3.0	6.1	1.0	0.4	WS3	掲載13
2	ロ5 調査区内一括	管玉	ツノガイ	体層部	◎	◎	無	4.2	6.0	0.9	0.1	篩3	
3	ロ9 第II層群e層	管玉	ツノガイ	体層部	◎	○	無	2.9	3.2	0.7	0.1<	WS1	
4	ロ5 SB1 第II層群⑥層	管玉	ツノガイ	体層部	○	○	赤褐	2.9	4.7	0.5	0.1<	WS3	肋あり、掲載21
5	イ9 第II層群i層	管玉	ツノガイ?	体層部	○	○	無	2.8	2.7	0.5	0.1<	WS3	肋一部あり、殻頂部側
6	ロ5 第II層群j層	管玉	ツノガイ	体層部	○	○	無	5.1	4.6	0.5	0.1	WS5	下端に磨滅による凹み、掲載10
7	イ9 第II層群⑦層	管玉	ツノガイ	体層部	△	△	無	2.9	5.3	0.7	0.1<	篩3	掲載16
8	イ8 第II層群⑥層	管玉	ツノガイ	体層部	△/×	△	無	10.9	4.2	1.0	0.2	篩3	肋あり、白と茶の斑、縦方向の亀裂、掲載9
9	ハ9 第II層群⑥層	管玉	ツノガイ	殻頂部	△/×	△	無	4.0	2.9/2.2	0.3	0.1<	WS1	肋あり
10	ハ9 第II層群h層	管玉	ツノガイ	体層部	△	×	赤褐?	2.6	5.7	0.7	0.1<	WS1	肋あり、殻表風化、一部に赤褐色の付着物、掲載14
11	イ9 第II層群d層	管玉	ツノガイ	体層部	△/×	×	無	17.3	5.6	0.8	0.5	点	殻表風化、殻口部側、殻表一部に灰付着、4号人骨肋骨付近で観察表No.12と入れ子状で出土、掲載8a
12	イ9 第II層群d層	管玉	ツノガイ	体層部	×	△	赤褐?	10.5	3.2/4.1	0.6	0.1	点	肋あり、殻表やや風化、殻表・破砕面一部赤褐色化、掲載8b
13	ハ8 第II層群	管玉	ツノガイ	体層部	×	△	赤褐?	2.7	5.0	0.8	0.1<	篩3	殻表と破砕面の一部赤褐色化、掲載15
14	ハ8 第II層群f層	管玉	ツノガイ	体層部	×	×	無	2.6	4.9	0.7	0.1<	WS3	殻表・破砕面風化、掲載17
15	ロ9 第II層群f層	管玉	ツノガイ?	体層部	×	×	無	2.6	3.3	0.9	0.1<	WS3	肋あり、殻表風化、殻頂部側、掲載12
16	ハ8 第II層群f層	管玉	ツノガイ?	体層部	×	×	無	4.0	2.9	0.8	0.1<	WS3	肋あり、殻表一部風化、殻頂部側、掲載11
17	ハ5 第II層群j層	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	◎	△	無	7.7	2.9/3.4	0.9	0.1<	WS3	六角形、肋あり、殻頂部側、掲載7
18	ロ6 EL-130-135	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	○	○	赤褐?	18.2	4.4	0.6	0.1	篩3	八角形、肋あり、殻表赤褐色化、掲載2
19	ロ9 第II層群⑥層	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	○	○	黒	19.3	3.0	0.5	0.2	点	六角形、肋あり、殻表・内面一部に灰付着
20	ロ5 第II層群j層	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	○	△	黒	3.3	3.2	0.5	0.1<	WS3	九角形、肋あり、殻表一部に灰付着、肋・破砕面が黒く被熱、殻頂部側
21	ロ6 EL-125-130	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	○/△	○	無	12.8	3.6	0.6	0.2	篩3	肋あり、殻表一部に灰・炭化物付着、掲載5
22	ハ8 第II層群⑥層	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	○/△	△	無	13.8	3.4/3.7	0.6	0.2	点	八角形、肋あり、掲載4
23	ロ8 第II層群⑦層	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	△	△	黒	7.6	3.3	0.4	0.1<	篩3	八角形、肋あり、掲載6
24	イ9 第II層群⑥層	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	△	×	黒	15.1	3.8	0.7	0.2	篩3	七角形、肋あり、掲載3
25	ロ5 第II層群	管玉	ヤカドツノガイ	殻頂部～ 体層部	×	×	赤褐?	15.8	1.4/3.1	0.5	0.1<	篩3	八角形、肋あり、殻表・肋に灰付着、殻頂部付近一部赤褐色化、掲載1
26	ハ5 SB1 第II層群⑥層	管玉	ツノガイ類	体層部	○	○	無	2.7	4.7	0.6	0.1<	WS3	肋あり、掲載20
27	イ9 8号灰ブロック	管玉	ツノガイ類	体層部	○	○	無	4.5	4.7	0.4	0.1<	WS3	
28	ロ5 第II層群j層	管玉	ツノガイ類	体層部	○	○	無	5.3	4.2	0.6	0.1<	WS3	肋あり
29	ロ4 第II層群j層	管玉	ツノガイ類	体層部	○/×	○	無	7.0	3.0/3.5	0.5	0.1<	WS3	肋あり、殻頂部側
30	イ9 第II層群⑦層	管玉	ツノガイ類	殻頂部	△	△	無	3.4	2.7	0.6	0.1<	WS3	肋一部あり
31	ハ8 第II層群f層	管玉	ツノガイ類	体層部	△	△	無	2.6	4.7	0.6	0.1<	WS3	
32	ハ8 第II層群f層	管玉	ツノガイ類	体層部	△	△	赤褐?	2.7	4.2	0.8	0.1<	WS3	肋あり、殻表・破砕面一部赤褐色化、殻表風化
33	ハ8 第II層群f層	管玉	ツノガイ類?	体層部	△	△	無	2.7	4.8	0.5	0.1<	点	肋あり、殻表一部風化、殻表に赤色付着物
34	調査区内一括	管玉	ツノガイ類	体層部	△	△	無	2.9	5.1	0.6	0.1<	不明	
35	ロ5 調査区内一括	管玉	ツノガイ類	体層部	△	×	無	2.9	5.3	0.6	0.1<	篩3	内面に炭化物まじりの灰付着
36	ハ9 第II層群⑥層	管玉	ツノガイ類	体層部	×	×	赤褐?	2.6	5.7	0.8	0.1<	篩3	殻表・破砕面がやや風化、殻表・破砕面・内面赤褐色化、掲載18
37	ハ9 第II層群⑥層	管玉	ツノガイ類	体層部	×	×	赤褐?	2.5	4.6	0.7	0.1<	篩3	殻表風化、破砕面一部赤褐色化、掲載19

第48表 岩陰部・前庭部緩斜面出土具製品 観察表(2)

No.	出土位置	器種 形態	素材		研磨		被熱	計測値(mm)			重量 (g)	取上	掲載番号 / 観察所見
			貝種	部位	断面	殻表		長さ	幅	厚さ			
38	口5 SB1 第II層群⑨層	管玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	3.1	4.7	0.6	0.1<	WS3	
39	イ9 第II層群i層	管玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	3.2	6.4	0.9	0.1<	WS5	
40	ハ8 第II層群f層	管玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	4.6	3.0	0.6	0.1<	WS3	肋あり、殻表風化、殻頂部側、マルツノガイ or ヤスリツノガイ
41	ハ8 第II層群f層	管玉	ツノガイ類	体層部	×	×	赤褐?	4.9	—	0.6	0.1<	WS3	肋あり、殻表やや風化、肋と破砕面が一部赤褐色化、殻頂部側
42	口4 第II層群j層	管玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	2.6	4.6	0.5	0.1<	WS3	
43	ハ8 第II層群⑥層	管玉	ツノガイ類	体層部	×	—	無	3.0	5.5/5.5	0.6	0.1<	篩3	殻表に赤褐色付着物
44	イ9 第II層群⑦層	管玉	ツノガイ類	殻頂部	—	—	無	2.5	2.7/2.8	0.5	0.1<	篩3	肋あり
45	口5 SB1 第II層群⑦層	平玉	ツノガイ	体層部	◎	◎	無	1.8	3.3	0.4	0.1<	WS3	殻頂部側、掲載25
46	ハ5 第II層群j層	平玉	ツノガイ	体層部	◎	◎	無	1.6	3.1	0.5	0.1<	WS3	殻頂部側
47	口5 第II層群j層	平玉	ツノガイ	体層部	○	○	無	1.9	3.7	0.7	0.1<	WS3	肋あり、殻頂部側、掲載26
48	口5 第II層群j層	平玉	ツノガイ	体層部	○	○	黒	1.9	3.6	0.6	0.1<	WS3	肋僅かにあり、掲載27
49	口8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ	体層部	○	○	無?	1.7	4.4	0.6	0.1<	点	掲載28
50	口9 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ	体層部	○	○	赤褐?	2.5	4.6	0.5	0.1<	篩3	殻表・内面に一部灰付着、殻頂部側、殻表・破砕面・内面一部赤褐色化、掲載29
51	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ	体層部	○	△	赤褐?	1.9	4.7	0.8	0.1<	篩3	肋一部あり、殻表一部やや風化、殻表・破砕面一部赤褐色化
52	口5 第II層群j層	平玉	ツノガイ?	殻頂部	○	△	無	2.4	2.5	0.7	0.1<	WS3	殻表やや風化
53	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ	体層部	△	△	無	2.3	5.0	0.4	0.1<	篩3	殻表・破砕面に赤褐色付着物、殻表に小孔、掲載32
54	ハ9 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ	体層部	△	△	無	2.0	5.5	0.7	0.1<	篩3	殻表・破砕面一部に赤褐色付着物・灰付着、掲載31
55	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ	体層部	△	△	無	1.5	4.7	0.8	0.1<	篩3	殻表風化
56	イ8 第II層群c層	平玉	ツノガイ	殻頂部	△	△	無	2.1	2.2	0.4	0.1<	WS1	肋あり、掲載23
57	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ	殻頂部	△	△	無	1.7	2.9	0.5	0.1<	WS3	肋あり
58	口5 第II層群j層	平玉	ツノガイ	体層部	△	△	無	1.5	4.9	0.8	0.1<	WS3	肋一部あり、殻表一部風化、掲載37
59	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ	体層部	○	×	無	1.7	5.2	0.4	0.1<	WS3	殻表風化、掲載34
60	ハ8・9 調査区内一括	平玉	ツノガイ	体層部	○	—	無	1.4	4.6	0.8	0.1<	篩3	肋一部あり
61	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ	体層部	△	×	無	2.1	4.5	0.8	0.1<	WS3	化石か
62	ハ8・9 調査区内一括	平玉	ツノガイ	体層部	×	△	無	2.3	5.1	0.8	0.1<	篩3	肋一部あり、殻表一部風化
63	ハ9 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ	体層部	×	×	無	2.0	5.1	0.8	0.1<	篩3	殻表に赤褐色の付着物、掲載38
64	口9 第II層群e層	平玉	ツノガイ?	体層部	×	×	無	2.0	4.7	0.7	0.1<	WS1	殻表・破砕面一部に赤褐色付着物、殻表・内面に層状の付着物
65	口9 第II層群f層	平玉	ツノガイ	体層部	×	×	赤褐?	2.3	4.6	0.5	0.2	WS3	殻表やや風化、破砕面・殻表一部赤褐色化、掲載30
66	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ	体層部	×	×	無	1.9	5.0	0.7	0.1<	WS3	殻表風化、殻表・内面に赤褐色付着物、掲載39
67	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ	体層部	×	×	無	2.3	5.3	1.0	0.1<	WS3	殻表一部風化、殻表・破砕面・内部に赤褐色付着物、掲載36
68	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ	体層部	×	×	無	1.9	4.5	0.4	0.1<	WS3	殻表一部風化、殻表・内面・破砕面一部に赤褐色付着物、掲載35
69	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ	体層部	×	×	無	2.0	5.1	1.0	0.1<	WS3	肋一部あり、化石か
70	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ?	殻頂部	×	×	黒	1.0	1.4	0.3	0.1<	WS1	殻表風化
71	ハ8 第II層群⑦層	平玉	ツノガイ	体層部	—	—	無	1.7	5.5	—	0.1<	一括	殻表・破砕面・内面に赤褐色付着物、掲載33
72	口8 第II層群⑥層	平玉	ヤスリツノガイ	体層部	△	×	無?	2.0	4.8	0.9	0.1<	点	肋あり、化石、掲載40
73	イ9 第II層群i層	平玉	ヤカドツノガイ?	殻頂部	×	×	黒	1.0	1.2	0.2	0.1<	WS1	掲載22
74	イ9 第II層群d層	平玉	マルツノガイ属?	殻頂部	△	×	無	1.6	2.7	0.5	0.1<	WS1	肋あり、殻表・破砕面一部に灰付着
75	口9 第II層群e層	平玉	ツノガイ類	体層部	○	○	無	1.3	4.7	0.7	0.1<	篩3	
76	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ類	体層部	○	○	無	1.7	3.3	0.4	0.1<	WS3	肋あり、殻表一部風化
77	ハ9 第II層群f層	平玉	ツノガイ類	体層部	○	△	無	2.3	3.4	0.4	0.1<	点	肋あり、殻頂部側
78	ハ5 SB1 第II層群⑦層	平玉	ツノガイ類	体層部	○	△	無	2.0	4.0	0.4	0.1<	WS3	肋あり、殻表一部に灰付着、殻頂部側
79	ハ8 第II層群⑦層	平玉	ツノガイ類	体層部	△	△	無	2.1	5.8	0.7	0.1<	篩3	殻表やや風化
80	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ類	殻頂部	△	△	無	1.7	2.1	0.5	0.1<	WS1	殻表一部に赤褐色付着物、掲載24
81	口5 第II層群j層	平玉	ツノガイ類	体層部	△	△	無	1.7	5.2	0.7	0.1<	WS3	殻表やや風化
82	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類	体層部	△	×	無	2.3	4.6	0.4	0.1<	点	殻表一部風化
83	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類	体層部	△	×	赤褐?	2.5	4.7	0.5	0.1<	篩3	殻表・破砕面・内面一部赤褐色化、殻表・破砕面・内面に灰付着

第49表 岩陰部・前庭部緩斜面出土貝製品観察表(3)

No.	出土位置	器種 形態	素材		研磨		被熱	計測値(mm)			重量 (g)	取上	掲載番号 / 観察所見
			貝種	部位	断面	殻表		長さ	幅	厚さ			
84	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類	体層部	△	×	無	1.3	3.5	0.6	0.1<	点	肋あり、殻表やや風化
85	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類?	体層部	△	×	無	2.2	5.0	0.6	0.1<	篩3	殻表やや風化
86	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類	体層部	△	—	無	1.7	5.4	0.9	0.1<	篩3	
87	ハ9 第II層群h層	平玉	ツノガイ類	体層部	△	—	赤褐?	2.0	4.0	0.6	0.1<	WS3	殻表風化、殻表・破砕面・内面一部赤褐色化
88	イ9 性格不明遺構	平玉	ツノガイ類	体層部	×	△	無	1.8	4.7	0.9	0.1<	WS3	
89	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	△	赤褐?	1.8	4.8	0.7	0.1<	WS3	肋あり、殻表風化、殻表・破砕面一部赤褐色化
90	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	△	無	1.7	5.7	0.6	0.1<	点	12号人骨頭蓋骨付近で集中出土(観察表No.90・91・103~105・140)、掲載43
91	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	△	無	2.3	5.5	1.0	0.1<	点	殻表・破砕面・内面一部赤褐色付着物、掲載44
92	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	1.0	4.7	0.7	0.1<	篩3	
93	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	2.0	5.8	0.7	0.1<	篩3	
94	ハ8 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	2.4	4.9	0.6	0.1<	篩3	
95	ハ9 第II層群⑥層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	1.9	5.1	0.6	0.1<	篩3	殻表風化、掲載42
96	ハ8 第II層群②層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	赤褐	1.9	4.6	0.6	0.1<	篩3	殻表風化、殻表・破砕面・内面一部赤褐色化
97	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	2.2	—	0.6	0.1<	WS3	殻表・破砕面に層状の付着物、付着物上に黒色の付着物
98	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	赤褐?	2.1	4.4	0.6	0.1<	WS3	外表面やや風化、破砕面一部赤褐色化、掲載41
99	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	2.5	5.5	0.7	0.1<	WS3	殻表・破砕面一部風化
100	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	赤褐?	2.0	4.5	0.5	0.1<	WS3	肋一部あり、殻表・破砕面・内面一部赤褐色化、殻表やや風化
101	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	白?	1.8	5.1	0.8	0.1<	点	殻表風化、白色化(被熱or風化)。
102	ハ8 第II層群f層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	赤褐?	2.0	5.4	0.6	0.1<	点	灰付着、殻表・破砕面・内面赤褐色化、殻表やや風化
103	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	1.3	5.3	0.7	0.1<	点	掲載45
104	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	2.3	4.7	0.8	0.1<	点	肋あり、破砕面一部弱い研磨、掲載46
105	イ9 第II層群i層	平玉	ツノガイ類	体層部	×	×	無	1.8	5.2	0.8	0.1<	点	殻表一部に赤褐色付着物、掲載47
106	ハ9 第II層群h層	平玉	ツノガイ類	殻頂部	×	×	黒	0.9	2.7	0.4	0.1<	WS3	肋あり
107	ハ9 第II層群h層	平玉	ツノガイ類	殻頂部	—	—	無	1.1	2.7	—	0.1<	WS3	
108	イ9 第II層群d層	平玉	イモガイ類	螺塔	○	○	無	1.6	4.8	1.4	0.1<	点	螺塔の内面残存、内面に薄い赤褐色付着物、掲載48
109	イ9 第II層群i層	平玉	イモガイ類	螺塔	○	○	無	3.0	8.1	1.5	0.2	WS5	ベッコウイモ or ペニイモ?、打上個体、掲載51
110	ロ8 調査区内一括	平玉	イモガイ類	螺塔	○	○	無	3.2	8.1	2.4	0.3	篩3	種不明、掲載54
111	ロ8 調査区内一括	平玉	イモガイ類	螺塔	○	○	無	2.9	8.2	2.4	0.1<	篩3	種不明、殻表やや風化、掲載53
112	イ9 第II層群⑦層	平玉	イモガイ類	螺塔	△	○	無	2.9	6.8	2.4	0.1<	一括	種不明、殻表やや風化、殻表・破砕面・内面に赤褐色付着物、掲載49
113	ハ9 調査区内一括	平玉	イモガイ類	螺塔	△	△	無	2.8	8.1	1.4	0.1	篩3	殻表やや風化、螺塔の内面残存、掲載52
114	ロ5 SB1 第II層群⑦層	平玉	イモガイ類	螺塔	—	△	黒	4.2	6.9	—	0.1	WS5	破砕面・内面に灰付着、掲載50
115	ロ5 SB1 第II層群⑥層	平玉	サルボオガイ類	不明	—	○	無	1.7	8.2	1.4	0.1	WS3	殻表と内面一部に赤褐色付着物、掲載55
116	ロ8 第II層群f層	平玉	不明	体層部	×	×	無	2.2	5.7	1.0	0.2	点	殻表風化、小巻貝?
117	ロ5 第II層群j層	破片	ツノガイ	—	◎	◎	無	—	—	0.4	0.1<	WS1	
118	イ9 第II層群⑦層	破片	ツノガイ	体層部?	○	○	無	—	—	0.5	0.1<	篩3	
119	ロ5 SB1 第II層群⑦層	破片	ツノガイ	体層部	○	○	黒	—	—	0.7	0.1<	WS3	殻表・内面に灰付着
120	ハ5 第II層群j層	破片	ツノガイ	—	○	○	無	—	—	1.0	0.1<	WS2	殻表一部風化、殻表・内面に灰付着
121	ロ9 第II層群中風化礫	破片	ツノガイ	体層部	△	△	無	—	—	0.6	0.1<	篩3	
122	ハ8 第II層群⑥層	破片	ツノガイ	体層部	△	×	無	—	—	0.7	0.1<	篩3	
123	イ9 第II層群i層	破片	ツノガイ?	—	△	×	黒	—	—	0.5	0.1<	WS1	肋あり、殻表・破砕面一部に灰付着
124	イ9 第II層群i層	破片	ツノガイ	—	×	△	無	—	—	1.0	0.1<	WS3	内面に赤褐色付着物
125	イ9 第II層群i層	破片	ツノガイ?	体層部	×	△	無	—	—	0.5	0.1<	WS1	肋あり
126	ハ8 第II層群⑥層	破片	ツノガイ	体層部	×	×	白	—	—	0.5	0.1<	篩3	肋あり
127	ハ9 第II層群⑥層	破片	ツノガイ	—	×	×	無?	—	—	0.4	0.1<	不明	殻表・内面風化、殻表と内面に赤褐色付着物
128	イ8・ロ8 第II層群c層	破片	ツノガイ	—	×	×	無	—	—	—	0.1<	WS1	殻表風化、内面に赤褐色付着物
129	イ9 第II層群d層	破片	ツノガイ	—	×	×	無	—	—	0.6	0.1<	不明	殻表・破砕面一部に灰付着
130	イ9 第II層群i層	破片	ツノガイ	—	×	×	無	—	—	0.6	0.1<	WS3	殻表一部に赤褐色付着物
131	ハ8 第II層群f層	破片	ツノガイ	—	—	×	黒・青灰	—	—	0.9	0.1<	WS3	

第 50 表 岩陰部・前庭部緩斜面出土製品 観察表 (4)

No.	出土位置	器種 形態	素 材		研 磨		被 熱	計測値 (mm)			重量 (g)	取上	掲載番号 / 観察所見
			貝 種	部 位	断面	殻表		長さ	幅	厚さ			
132	イ9 第II層群i層	破片	ヤカドツノガイ	—	×	△	無	—	—	0.4	0.1<	WS3	
133	ハ8 第II層群⑥層	破片	ツノガイ類	—	◎	○	無	—	—	0.8	0.1<	篩3	
134	ハ5 SB1 第II層群⑥層	破片	ツノガイ類	体層部	○	○	無	—	—	0.6	0.1<	WS3	殻表黒色 (化石化?)
135	ロ5 第II層群j層	破片	ツノガイ類	—	○	△	黒	—	—	0.9	0.1<	WS3	灰色化
136	イ9 性格不明遺構	破片	ツノガイ類?	—	△	△	無?	—	—	0.5	0.1<	篩3	殻表・破砕面・内面一部に灰付着
137	ハ8 第II層群f層	破片	ツノガイ類	体層部	△	△	赤褐?	—	—	0.5	0.1<	WS3	殻表一部風化、殻表・破砕面・内面一部赤褐色化
138	ハ8 第II層群⑥層	破片	ツノガイ類	体層部	△	×	無	—	—	0.7	0.1<	篩3	
139	ハ9 第II層群f層	破片	ツノガイ類	—	△	×	黒	—	—	0.6	0.1<	WS3	殻表一部剥落、灰色化
140	イ9 第II層群i層	破片	ツノガイ類	—	△	×	無	—	—	0.9	0.3	点	破片32点 (同一個体含む)、殻表風化、殻表一部に炭化物付着
141	イ9 第II層群i層	破片	ツノガイ類	—	×	△	無	—	—	0.5	0.1<	WS3	肋あり
142	ロ5 SB1 第II層群⑦層	破片	ツノガイ類	—	×	×	黒	—	—	0.6	0.1<	WS3	肋あり、殻表・内面に灰付着
143	ハ8 第II層群f層	破片	ツノガイ類	—	×	×	無	—	—	0.5	0.1<	WS3	殻表やや風化、殻表・破砕面・内面一部に赤褐色付着物
144	イ9 第II層群i層	破片	ツノガイ類	—	×	×	無	—	—	0.7	0.1<	WS1	灰色化
145	ロ5 第II層群j層	破片	ツノガイ類	—	×	×	無	—	—	0.7	0.1<	WS3	肋あり
146	ハ8 第II層群f層	破片	ツノガイ類	体層部	×	×	無	—	—	0.5	0.1<	WS3	
147	ハ8 第II層群f層	破片	ツノガイ類	—	×	—	赤褐?	—	—	0.4	0.1<	WS3	殻表風化、殻表・破砕面・内面一部赤褐色化、殻表・破砕面・内面に灰付着
148	ハ8 第II層群f層	破片	ツノガイ類	体層部	—	—	無	—	—	—	0.1<	WS3	殻表風化
149	イ9 第II層群i層	破片	イモガイ類	螺塔	—	△	無	—	—	2.2	0.2	WS3	
150	ロ5 第II層群⑧層	貝輪	サルボオガイ類	中央部?	×	○	黒	(14.9)	(11.0)	3.3	0.6	WS5	殻表を研磨、腹面の研磨弱い、灰付着、掲載58
151	ハ6 EL-125-130	貝輪	サルボオガイ類	中央部?	×	○	黒	(10.6)	(20.1)	3.1	0.8	篩3	殻表を研磨、腹面の研磨弱い、灰付着、掲載59
152	ハ7 調査区内一括	貝輪	サトウガイ (左)	腹縁部	×	○	黒	(8.5)	(31.6)	3.7	1.7	一括	殻表・上端を研磨、腹面の研磨弱い、灰付着、掲載56
153	ロ4 第II層群	貝輪	サトウガイ?	腹縁部?	×	△	黒	(12.4)	(24.0)	4.1	2.0	篩3	殻表・腹面を弱く研磨、上端を丁寧に研磨、灰付着顕著、掲載57
154	ロ5 SB1 第II層群⑥層	貝輪	フネガイ科 (右)	殻頂部	×	◎	赤褐	(14.7)	(29.8)	3.5	2.5	点	全面を丁寧に研磨、割れ口は自然、殻頂部・絞歯部が残存、掲載60
155	ハ7 EL-120-125	貝輪	フネガイ科	腹縁部?	×	◎	黒	(6.4)	(10.2)	2.0	0.2	篩2	殻表・腹面を丁寧に研磨、灰付着
156	ハ9 第II層群⑥層	顔料付着	インガイ科 or カワシジュガイ科	—	×	—	無	(16.1)	(20.2)	—	0.4	一括	殻表全体に厚く赤色顔料付着、薄質のカラスガイ・ドブガイ型?、掲載61
157	ハ9 第II層群⑥層	加工痕	淡水産二枚貝	—	×	×	無	(11.5)	(20.5)	—	0.2	一括	穿孔あり、殻頂部欠損、殻皮部分残存、殻皮部分に灰付着、掲載62
前庭部緩斜面													
158	A1 10層	管玉	ツノガイ	体層部	○	○	無	3.6	4.9	0.5	0.1<	WS3	殻表一部風化、殻表一部剥落、掲載66
159	A1 10ab層	管玉	ツノガイ	体層部	△	△	無	5.0	6.4	0.7	0.1<	WS1	掲載67
160	A1 10層	管玉	ツノガイ	体層部	×/△	×	無	4.1	3.1	0.7	0.1<	WS3	殻表・破砕面風化、殻頂部側、掲載65
161	A1 10ab層	管玉	ツノガイ	体層部	△	×	無	2.5	3.8	0.7	0.1<	WS1	破砕面一部に赤褐色付着物、殻頂部側
162	A2 10ab層	管玉	ヤカドツノガイ	体層部	×	×	無	4.1	2.4	0.4	0.1<	WS1	肋あり、十角形、殻頂部側
163	A1 10層	管玉	ツノガイ類	体層部	○	○	無	5.4	2.7	0.7	0.1<	WS3	肋あり、殻頂部側、ツノガイ? or ヤカドツノガイ?、掲載63
164	A1 10層	管玉	ツノガイ類	体層部	○	○	無	3.1	3.1	0.6	0.1<	WS3	肋僅か、破砕面一部剥落、掲載69
165	A1 10層	管玉	ツノガイ類	体層部	○	△	無	3.8	2.6	0.7	0.1<	WS3	上端破砕面の一部剥落、掲載68
166	A1 10層	管玉	ツノガイ類	体層部	△	×	黒	2.8	3.4	0.6	0.1<	WS3	肋あり、灰色化、掲載70
167	A1 10層	管玉	ツノガイ?	体層部	×	×	無	5.1	2.8	0.6	0.1<	WS3	肋あり、殻表やや風化、掲載64
168	A1 10層	平玉	ツノガイ	体層部	△	△	無	1.7	3.4	0.6	0.1<	WS3	肋あり、掲載73
169	A1 10層	平玉	ツノガイ?	体層部	△	△	無	1.4	3.7	0.6	0.1<	WS3	肋一部あり
170	A1 10層	平玉	ツノガイ?	体層部	△	△	無	1.0	3.4	0.8	0.1<	WS3	肋あり、殻表一部に赤褐色付着物、掲載72
171	A1 10ab層	平玉	ツノガイ	殻頂部	×	○	無	0.7	1.0	0.2	0.1<	WS1	掲載71
172	A1 11層	平玉	マルツノガイ類?	体層部	○	○	無	1.5	4.7	0.6	0.1<	WS4	肋あり、掲載74
173	A1 11層	平玉	ツノガイ類	体層部	△	△	無	1.9	4.9	0.7	0.1<	WS3	
174	A1 10ab層	破片	ツノガイ?	—	△	×	無	—	—	—	0.1<	WS1	殻表風化
175	A1 10層	破片	ツノガイ類	—	△	△	無	—	—	—	0.1<	WS3	
176	A1 10層	破片	ツノガイ類	—	×	×	黒	—	—	0.6	0.1<	WS3	灰色化
177	A1 10層	破片	ツノガイ類	—	×	×	無	—	—	0.5	0.1<	WS3	破砕面一部に赤褐色付着物
178	A1 10g層	顔料付着	カワシジュガイ (右)	殻頂部付近	×	×	無	—	—	1.5	4.9	一括	殻高: 25mm・殻長: 42mm、殻表に薄く赤色顔料付着、灰付着、掲載75

## 2. 骨角牙製品

### (1) 分類・同定の基準

本報告では、動物の骨角、歯牙を素材とした製品を骨角牙製品として扱う。明らかな製品のみでなく、切断痕や擦痕、研磨痕などの加工痕跡が明確に認められる資料もこれに含める。

資料は「道具」と「装身具類」に大別し、そのなかで器種分類を行った。このほかに、機能を推定し得ないものもあり、それらは「その他の資料」として一括した。器種分類に際しては、本遺跡と同様に縄文早期における利用が活発な洞窟・岩陰遺跡である長野県湯倉洞窟遺跡、同県栃原岩陰遺跡の分類基準（金子 2001、藤森 2019）を参考にした。

以下に第4次・第5次調査出土資料における器種分類を示す。

**道具類** 食料獲得や道具の製作において用いられたとみられる資料。

釣針 軸部と鉤部が作出された釣針とみられる形態をもつもの。未成品を含む。

骨針 器体を丸棒状に整形し、先端を針状に尖らせたもの。基部に穿孔を施したのものも含む。

全面を研磨した先端を欠損する破片のうち、断面形が正円に近いもの。

へら状製品 表裏面を平坦に整形し、先端を薄手かつ幅広に加工したもの。

刺突具 先端が尖るもの。全面を研磨する入念な作りのものと、自然面を残す省略的なものがある。

尺骨製製品 ニホンジカの尺骨を加工したもの。

四肢骨製有孔製品 表裏面を平坦に整形し、器体上部に穿孔を施したもの。

器種不明の破片 研磨を施し光沢を帯びた両端を欠損する製品。あるいはより細かな破片。

へら状製品ないし刺突具の欠損品、破片とみられる。

加工痕資料 剥離痕をもつ資料や打ち割られた素材など、人為的な加工痕が残るもの。

**装身具類** 身体装飾を目的に製作・使用されたと考えられる資料。

ビーズ 小型鳥獣類の骨を管玉状に加工・整形したもの。いずれも被熱により白色化している。

垂飾品 哺乳類の犬歯歯冠部分に穿孔を施したもの。

**その他の資料** 機能を推定し得ない一群。装飾とみられる加工痕をもつ資料、赤色顔料付着資料など。

素材の部位・種同定が可能な資料についてはこれを行った。同定の基準は動物遺存体と同一である（本章第4節1項を参照）。資料の観察と分類は、山崎の指導のもとに鈴木・松本が行った。なお、骨製ビーズの観察・同定においては、江田真毅氏の協力を得た。

器種別集計表を第51表に、出土資料全点の観察表を第52表・第53表に示す。本文では、実測図、写真を掲載した資料を中心に取り上げる。各資料の実測図、写真の掲載有無は観察表に表示した。

### (2) 岩陰部（第105図・写真図版42）

道具類40点、装身具類3点、機能・用途不明の加工品3点が出土した。

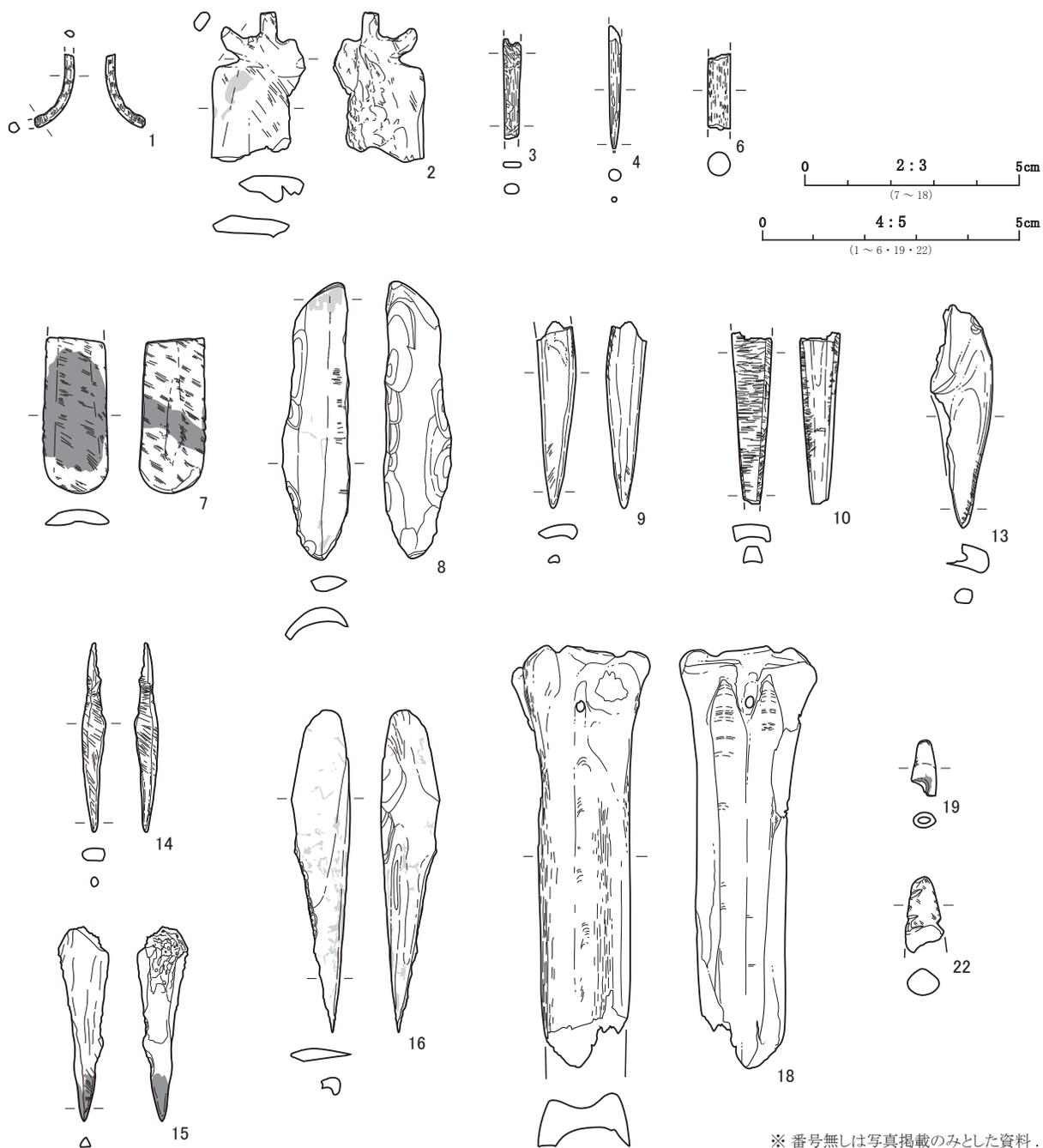
#### a) 道具類

釣針2点、骨針6点、へら状製品2点、刺突具10点、製品破片14点、加工痕を有する資料6点である。

**釣針** 未成品を含めて2点出土した。1は全面が研磨された単式釣針の破片である。上方は丁寧に研磨され断面円形であるが、下方は側面と湾曲部内面に面が残る。胴部に浅い溝が2条施されており、この溝は一見すると軸部（チモト）の糸掛けに見えるが、以下の理由から胴部の破片と判断した。①未成品である2の釣針胴部に溝が認められ、栃原岩陰

第51表 第4次・第5次調査出土骨角牙製品集計表

器種分類		岩陰部	前庭部	計
道具類	釣針	2		2
	骨針	6	1	7
	へら状製品	2	7	9
	刺突具	10	5	15
	その他製品		2	2
	製品破片	14	13	27
	加工痕資料	6	3	9
装身具類	垂飾品	1		1
	骨製ビーズ	2	5	7
その他	加工品	3	2	5
	赤色顔料付着		1	1
計		46	39	85



第105図 岩陰部出土骨角牙製品

※ 番号無しは写真掲載のみとした資料.

遺跡でも同様の未成品例がある点、②溝をもつ部分を軸部とみると釣針として想定しにくい不自然な湾曲となる点。2は薄く成形した四肢骨骨幹から釣針状の部分を作り出した未成品である。釣針部分と素材部分の境界には鋭角な切り込みが入り、釣針部分の胴部には2条の浅い溝が施されている。内外面の緻密質部分には擦痕が顕著に残る。

**骨針** 6点出土し、3点を図示した。先端が残るのは4のみである。3は基部に穿孔を施した縫針状の製品で、栃原岩陰遺跡に類例がある。穿孔は表裏面からあけられている。3～6は全面に研磨を施し、強い光沢がみられる。6は器体がやや太い資料である。

**ヘラ状製品** 図示した7・8が出土した。7は鹿角を素材としたもので、低平なカマボコ状に成形している。骨針に比べると研磨は弱く、斜方向の擦痕が顕著に残る。内面の先端の一部が薄く欠けるが、欠けた部分も含めて面的に摩耗しており、欠損後も使用が続いたものとみられる。8は縦長に打ち割った四肢骨破片の縁辺を打ち

割り、両端を先丸状に加工したものである。器体は研磨されていないが両端の光沢が顕著で、使用により形成された摩耗面とみられる。上端の一部は薄く剥落している。

**刺突具** 10点出土し、6点を図示した。9～11は全面が研磨され光沢が顕著なもので、四肢骨内面の凹凸がわずかに残る以外に素材の形状をほとんど残さない。12は断面四角形状で両端を欠損する。成形は丁寧だが研磨は弱く、長軸と直行する方向の擦痕が顕著に残っている。未成品の可能性はある。13は尺骨をよく研磨した製品で、裏面が剥落している。14～16は、先端を尖らせる一方で自然面を多く残すものである。14・15は先端が研磨されるが、基部の成形・研磨は十分ではなく素材の割れ面がそのまま残る。15は、成形されて尖る先端部分のみ被熱により赤褐色化している。16は、基部が約1mmと非常に薄く作り出され、体部に研磨を施している。先端は鋭利に尖るが自然面のままとしている。

**製品破片** 強い研磨が施された破片資料を製品の破片と判断し、14点を確認した（観察表 No.21～34）。多くはへら状製品、刺突具の破片とみられる。写真掲載した17は、平坦な断面形で両端を欠損する資料である。

**加工痕資料** 上記以外の人為的な加工痕の残る道具類と、製作時に生じた破片とみられる資料をあわせて4点確認した（観察表 No.35～40）。未成品ないしは欠損品とみられる18を図示する。ニホンジカの中足骨を縦に打ち割ったもので、先端は折れている。表面がごくわずかに光沢を帯びる。観察表 No.37は被熱により白色化した先端を欠く細長い器体の資料で、上部に施された幅広の刻みは釣針の糸掛けの可能性はある。

#### b) 装身具類

垂飾品1点、管玉状の骨製ビーズ2点が出土した。19は、イヌ科の下顎犬歯製の垂飾品とみられる製品である。歯冠部先端に穿孔を有する。穿孔周辺は丁寧に研磨されており、強い光沢がみられる。その他の資料に分類した観察表 No.46も哺乳類の歯根部を丁寧に磨いたもので、19と類似する。20・21は鳥類の骨を裁ち割って加工した管玉である。20は切断面の一方を研磨しているが、21は研磨していない。どちらも被熱により白色化している。

#### c) その他の資料

鹿角の先端に刻みを施した資料が2点出土しており、1点を図示した。22は短い刻みが6ヶ所に施され、表面は研磨による光沢が認められる。刻みは長軸方向に直行する方向で施されているが、どれも一周巡らない。観察表 No.45も刻みを有するが、下端の割れ口に器体に直行する方向にV字状の切れ込みが入っている。

### (2) 前庭部緩斜面（第106図・写真図版43）

道具類31点、装身具類5点、用途不明の加工品2点、赤色顔料付着資料1点が出土した。

#### a) 道具類

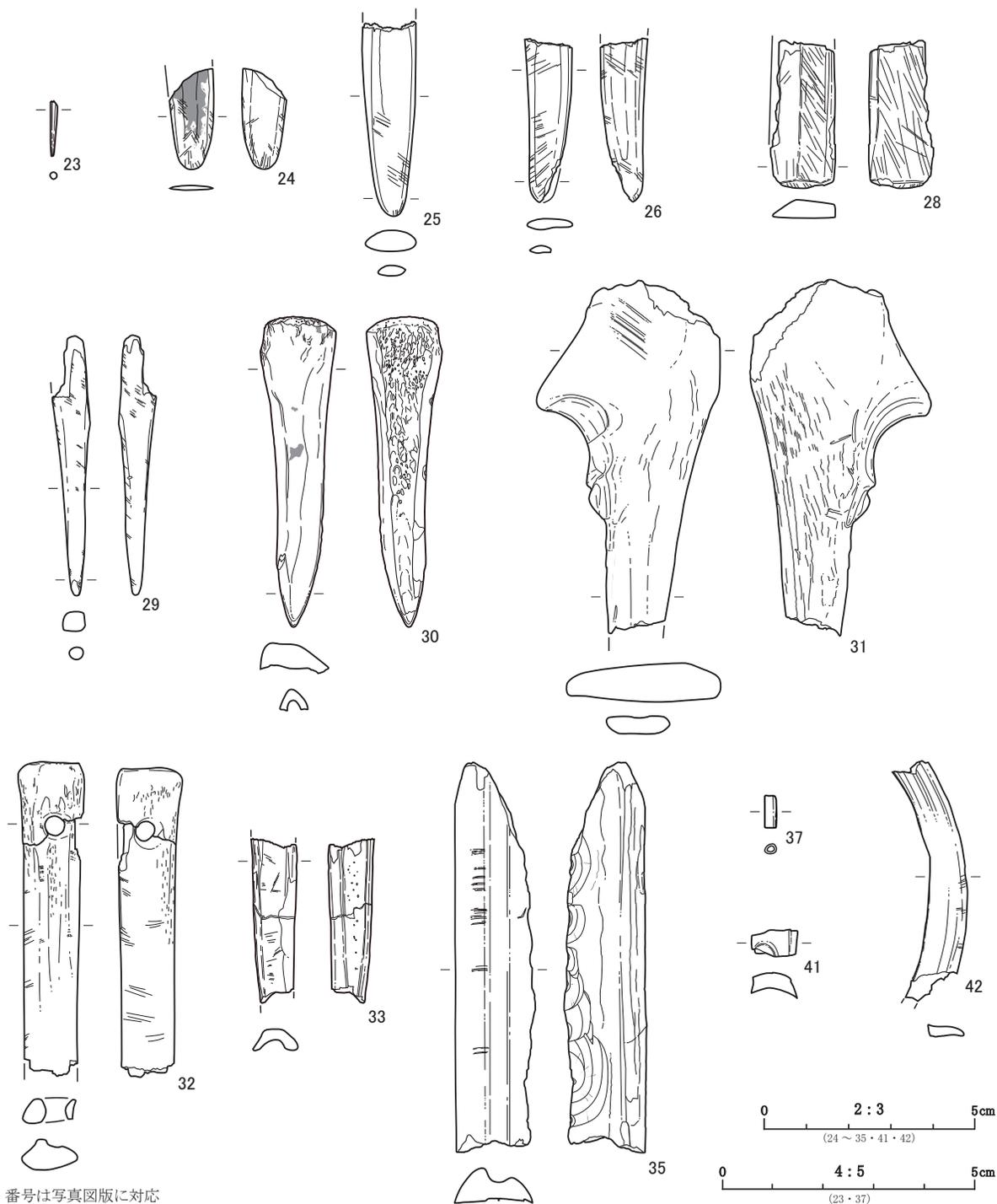
**骨針** 図示した23のみである。かなり細く成形されているが、研磨による光沢は認められない。

**へら状製品** 7点出土し、4点を図示した。扁平なもの（24～26）と、やや厚みを残すもの（27・28）がある。図示していない破片も含め、表裏面をよく研磨している。24～26など小形のもの素材の形状をほとんど残さない。それらより大形である写真掲載の27や観察表 No.51・52は、哺乳類四肢骨の内面の凹凸を残している。28は先端が角張っていて稜を有し厚みのある断面形で、他にみられない形態である。研磨も弱く、表裏面には擦痕が顕著に残る。表面の擦痕は、稜線を挟んで左側に顕著で、右側にはほとんど残っていない。先端には使用によるものとみられる小剥落と摩滅が認められる。

**刺突具** 5点出土し、2点を図示した。全面を研磨するもの（29・観察表 No.56）と、素材の形状をそのまま残して先端のみを加工した30がある。29は、基部の断面は四角形状で、先端に向かうにつれ円形に加工している。先端の一部が剥落している。30はニホンジカと推定される中手骨を縦に打ち割り、研磨によって先端を作出したものである。自然面をほとんどそのまま残しており、研磨による光沢は認められない。

**尺骨製製品** 掲載した31のみである。全体によく研磨されており、光沢を帯びる。近位側が欠けているが、割れ面にも研磨が及んでいるため、欠損ではなく意図的に打ち欠かれたものとみられる。先端付近は扁平に加工されているが、欠損しており形状不明である。栃原岩陰遺跡の出土例では尖頭状、へら状の二つが認められている。

**四肢骨製有孔製品** 1点出土した。32はニホンジカの中手骨もしくは中足骨を素材とした穿孔を有する製品



※ 番号は写真図版に対応

第106図 前庭部緩斜面出土骨角牙製品

である。外面の穿孔付近に海绵質が残るほかは平滑に研磨されていて、光沢を帯びる。穿孔は表裏面から施されている。先端が欠損しており、全体の形状は不明である。四肢骨を素材とした有孔製品は長野県栃原岩陰遺跡、愛媛県上黒岩岩陰遺跡でも出土している。

**製品破片** よく研磨された製品の破片を13点確認した。写真掲載した33は両端を欠損する断面四角形状のものである。扁平なもの(観察表No.62・63)と、厚みのあるもの(観察表No.64～68)がある。

**加工痕資料** 加工痕を有する資料は2点出土した。写真掲載の34はよく研磨されたもので、表裏面に斜角の切り込みが入っている。切り込みは器体から一部分を切り出すように入るが、片面は器体に直行する方向に、もう一面は斜行する方向に入っていて表裏面で交わらない。35はニホンジカの中足骨を半截し、後面側の縁辺に

第52表 岩陰部・前庭部緩斜面出土骨角牙製品 観察表(1)

骨角牙製品観察表凡例

層位：数字表記のものはEL(650.000m)を基準に設定した人工層位である。

研磨：表裏および断面について観察を行った。観察に際しては以下の4段階の判断基準を設定した。

- ◎—表面が平滑で強い光沢を有する      ○—表面が平滑で弱い光沢を有する
- △—研磨痕をもつが光沢はみられない      ×—自然面がそのまま残る

被熱：被熱による色調の変化を赤褐・黒・青灰・白の4種で表記した。グラデーションの色調変化が認められる場合にはそれぞれを併記した。色調変化が被熱によるものか判断できない場合には「？」を付した。

計測値：最大長・最大幅・最大厚を計測した。計測にはデジタルノギス(Mitutoyo CD-20AX)を用いた。欠損品の測定値は( )付きで表示した。掲載番号/観察所見：実測図・写真図版の掲載番号および、遺存状態、使用痕の有無などの観察所見を記載した。

No.	出土位置	器種名	素材		研磨			被熱	計測値(mm)			重量(g)	取上	遺存状態/観察所見
			動物種	部位	表面	裏面	断面		長さ	幅	厚さ			
<b>岩陰部</b>														
1	イ9 第II層群i層	釣針	哺乳類	歯	◎	◎	×	無	(15.2)	2.0	2.1	0.1	WS3	胴部破片,掲載1
2	ハ9 第II層群⑥層	釣針未成品	哺乳類	四肢骨	×	×	×	無	29.7	18.2	3.9	1.5	点	掲載2
3	ハ8 第II層群⑥層	骨針(穿孔)	哺乳類	四肢骨/角	◎	◎	×	赤褐	(18.9)	3.5	1.9	0.2	篩3	両端欠損,穿孔径1.52mm,掲載3
4	イ8 第II層群①層	骨針	哺乳類	四肢骨/角	◎	◎	×	赤褐	(23.4)	2.4	2.1	0.1	点	基部欠損,掲載4
5	ハ5 SB1第II層群⑥層	骨針	哺乳類	四肢骨/角	◎	◎	×	赤褐	(26.4)	3.4	3.4	0.4	WS5	両端欠損,掲載5
6	イ8 第II層群⑥層	骨針	哺乳類	四肢骨/角	◎	◎	×	赤褐/黒	(10.9)	2.6	2.1	0.1 >	篩3	両端欠損
7	ハ9 第II層群⑥層	骨針	哺乳類	四肢骨/角	◎	◎	×	黒/青灰	(14.4)	4.3	4.2	0.4	点	両端欠損,掲載6
8	ハ6 EL-130~135	骨針	哺乳類	四肢骨/角	○	○	×	白	(8.9)	3.3	3.0	0.1	篩3	両端欠損
9	イ8 性格不明遺構	ヘラ状製品	ニホンジカ	鹿角?	○	○	×	赤褐/黒	(35.1)	15.0	3.1	2.3	篩3	基部欠損,内面先端の剥落面摩耗,掲載7
10	ハ5 SB1第II層群⑧層	ヘラ状製品	哺乳類	四肢骨	△	△	×	赤褐	63.5	15.1	4.1	4.4	点	成形省略,両先端摩耗による強い光沢,掲載8
11	イ9 第II層群	刺突具	中型哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	赤褐	(42.7)	8.7	3.7	1.4	点	基部欠損,掲載9
12	ロ5 EL-130~135	刺突具	中型哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	赤褐/黒	(54.6)	12.0	5.7	4.3	点	両端欠損,掲載11
13	ハ6 EL-125~130	刺突具	中型哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	赤褐/黒	(61.2)	9.6	3.8	2.6	一括	両端欠損,掲載12
14	ロ8 第II層群①層	刺突具	哺乳類	不明	○	△	×	赤褐/黒	(17.3)	4.5	2.0	0.2	篩3	基部欠損
15	ロ5 SB1第II層群⑥層	刺突具	哺乳類	四肢骨	×	×	×	赤褐	(33.1)	11.1	(4.3)	0.9	一括	基部欠損,未成品の可能性
16	ロ5 第II層群①層	刺突具	哺乳類	四肢骨	△	△	×	赤褐	(39.6)	9.2	3.8	1.6	一括	両端欠損,未成品の可能性,掲載10
17	ハ9 第I層群⑤層	刺突具	ニホンジカ	尺骨(左)	◎	◎	×	赤褐	(51.0)	(16.6)	(7.3)	3.0	篩3	裏面剥落,掲載13
18	ハ7 EL-125~130	刺突具	ニホンジカ	鹿角?	◎	◎	×	無	44.0	5.9	3.7	0.7	点	成形省略,掲載14
19	イ9 第II層群i層	刺突具	哺乳類	四肢骨	△	△	×	赤褐	45.7	12.4	5.8	1.5	点	成形省略,先端のみ被熱,掲載15
20	ロ5 表層①層	刺突具	哺乳類	四肢骨	×	×	×	無	74.0	12.8	6.0	3.6	一括	成形省略,掲載16
21	ロ5 SB1第II層群⑥層	製品破片	哺乳類	四肢骨	△	◎	×	赤褐/黒	(24.5)	(15.3)	3.5	1.5	点	扁平,両端欠損
22	ハ8 第II層群⑥層	製品破片	ニホンジカ?	中手/中足骨	◎	◎	×	赤褐/黒	(32.8)	8.8	6.1	1.7	点	断面三角形,両端欠損,掲載17
23	イ9 第II層群i層	製品破片	ニホンジカ?	中足骨?	◎	◎	×	赤褐	(31.5)	8.4	4.1	1.6	点	断面三角形,両端欠損
24	ハ8 第II層群⑥層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	黒/青灰	(20.6)	9.0	2.8	0.4	点	扁平,両端欠損
25	ハ9 第II層群②層	製品破片	ニホンジカ	鹿角/四肢骨	○	○	×	白/黒	(15.0)	6.2	4.7	0.4	一括	断面円形,両端欠損
26	ロ5 SB1第II層群⑥層	製品破片	ニホンジカ	鹿角	◎	×	×	赤褐	(25.5)	(9.0)	5.0	1.0	WS5	断面円形,刺突具か
27	ハ5 表層①層	製品破片	哺乳類	四肢骨	△	△	×	白/青灰/黒	(15.8)	7.7	4.6	0.6	篩3	断面長楕円形,両端欠損
28	ロ5 SB1第II層群⑥層・⑦層	製品破片	哺乳類	肋骨	◎	◎	×	赤褐/黒	(21.3)	(14.2)	5.1	0.7	WS5	断面長楕円形,両端・側縁欠損
29	イ8 第II層群①層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	赤褐	(25.0)	(5.3)	(4.3)	0.6	一括	破片
30	イ8 性格不明遺構	製品破片	小型哺乳類	不明	◎	◎	×	赤褐/黒	(17.8)	(6.3)	3.1	0.2	篩3	破片
31	イ9 第II層群①層	製品破片	小型哺乳類	不明	◎	△	×	赤褐	(10.1)	(3.6)	(1.8)	0.1 >	一括	破片
32	ロ5 SB1第II層群⑥層	製品破片	小型哺乳類	不明	◎	△	×	黒	(13.9)	(3.4)	(1.9)	0.1	WS3	破片
33	イ9 第II層群①層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	○	×	赤褐	(14.8)	(8.9)	3.0	0.5	篩3	破片
34	イ9 第II層群①層	製品破片	哺乳類	不明	◎	×	×	赤褐	(23.1)	(8.5)	(1.1)	0.5	篩3	破片
35	イ8・イ9 性格不明遺構	加工痕資料	ニホンジカ	中足骨 後面部分	×	×	×	赤褐/黒	(97.2)	32.2	18.8	28.5	点	表面摩耗による僅かな光沢,先端欠損,掲載18
36	ハ8 調査区内一括	加工痕資料	哺乳類	四肢骨	×	×	×	無	(13.5)	(13.9)	(6.6)	0.5	篩3	線状の加工痕
37	イ9 性格不明遺構最下部	加工痕資料	哺乳類	不明	△	△	×	白	(16.1)	(4.0)	(2.2)	0.3	篩3	幅広の刻み,釣針軸部の可能性
38	イ9 第II層群i層	加工痕資料	哺乳類	不明	◎	○	×	黒/赤褐	(9.5)	(30.0)	4.6	1.7	WS5	断面不整形

第 53 表 岩陰部・前庭部緩斜面出土骨角牙製品 観察表 (2)

No.	出土位置	器種名	素材		研磨			被熱	計測値 (mm)			重さ (g)	取上	遺存状態 / 観察所見
			動物種	部位	表面	裏面	断面		長さ	幅	厚さ			
39	イ9 第II層群⑥層	加工痕資料	哺乳類	四肢骨	×	×	×	赤褐	44.3	15.5	4.7	3.2	点	剥離痕
40	イ9 第II層群⑥層	加工痕資料	哺乳類	四肢骨	△	×	×	黒 / 青灰 / 白	26.6	19.2	5.9	2.2	篩3	剥離痕
41	イ9 性格不明遺構下部	垂飾品	イヌ科	下顎犬歯	◎	◎	×	赤褐 / 黒	(10.5)	4.9	3.7	0.1	篩3	穿孔径 1.97mm, 掲載 19
42	ハ8 第II層群⑥層	管玉	鳥類	骨幹	×	—	△	白	10.0	4.0	3.9	0.1	篩3	灰付着, 掲載 20
43	イ9 性格不明遺構	管玉	鳥類	尺骨	×	—	×	白	14.7	4.2	2.9	0.2	篩3	亀裂, 掲載 21
44	ロ9 第II層群 e 層	鹿角加工品	ニホンジカ	鹿角	○	○	×	赤褐	(12.8)	7.4	5.5	0.4	一括	先端部破片, 掲載 22
45	ロ5 EL-125 ~ 130	鹿角加工品	ニホンジカ	鹿角	◎	◎	×	赤褐 / 黒	(11.1)	6.4	6.2	0.5	一括	先端部破片
46	イ9 第II層群 i 層	歯根加工品	哺乳類	歯根	◎	◎	×	黒	(8.0)	3.5	2.1	0.1	WS3	強い光沢
前庭部緩斜面														
47	A1 10層	骨針	哺乳類	不明	△	△	×	無	(10.8)	1.5	1.5	0.1	WS5	基部欠損, 掲載 23
48	A1 10層	ヘラ状製品	哺乳類	四肢骨 (緻密質部分)	◎	◎	×	無	(37.8)	10.0	2.8	1.0	一括	先端付近の一部剥落, 基部欠損, 掲載 26
49	A2 9層	ヘラ状製品	哺乳類	不明	◎	◎	×	赤褐 / 黒	(24.2)	10.6	2.9	0.6	一括	基部欠損, 掲載 24
50	A2 9層	ヘラ状製品	中型哺乳類	不明	◎	◎	×	無	(44.8)	12.4	5.9	2.4	一括	基部欠損, 掲載 25
51	A1 10層	ヘラ状製品	中型哺乳類	脛骨 (前縁部分)	◎	○	×	無	(63.0)	21.7	9.1	6.9	点	先端使用による摩滅, 基部欠損, 掲載 27
52	A0 9層	ヘラ状製品	哺乳類	四肢骨	◎	○	×	無	(100 ~)	19.1	7.9	8.2	点	体部 2 片, 先端 1 片, 他破片に破砕
53	A2 9層	ヘラ状製品	哺乳類	四肢骨	◎	○	△	赤褐 / 黒	22.6	10.1	2.5	1.1	篩10	基部欠損, 破断面研磨, 先端摩耗
54	A0 9a ~ 9d 層	ヘラ状製品	ニホンジカ	鹿角	△	△	×	無	(34.6)	15.6	5.7	2.3	一括	先端使用による摩滅・剥落, 側面剥落, 掲載 28
55	A2 9層	刺突具	哺乳類	不明	◎	◎	×	無	(60.9)	8.6	4.8	2.3	点	先端薄く剥落, 基部欠損, 掲載 29
56	A0 9a ~ 9d 層	刺突具	ニホンジカ	鹿角?	◎	◎	×	無	(25.1)	5.7	5.3	0.7	一括	先端小さく折れる, 基部欠損
57	A1 9層	刺突具	ニホンジカ	鹿角	◎	◎	×	赤褐 / 黒	(22.5)	10.0	10.0	1.6	一括	先端部分破片, 先端剥落
58	A1 円形落込み 1 層	刺突具	ニホンジカ	鹿角 / 四肢骨	△	△	×	白	(21.4)	6.2	4.3	0.4	WS1	先端部分破片
59	A1 10層	刺突具	ニホンジカ?	中手骨 (左) 外側面	△	△	×	無	72.4	18.6	8.9	5.3	点	骨端未癒合, 掲載 30
60	A1 10層	尺骨製品	ニホンジカ	尺骨 (左)	◎	◎	×	無	(78.0)	42.3	20.1	13.6	点	先端欠損, 骨端癒合, 掲載 31
61	A2 9層	四肢骨製 有孔製品	ニホンジカ	中手 / 中足骨	◎	◎	×	無	(72.8)	13.0	7.6	6.7	点	先端欠損, 穿孔径 6.25mm, 掲載 32
62	A1 9層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	無	(23.4)	12.0	1.8	0.5	篩10	扁平, 両端欠損, スス状物質付着
63	A1 円形落込み 3 層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	赤褐 / 黒	(21.9)	18.5	3.7	1.9	WS1	扁平, 両端欠損
64	A1 10層	製品破片	中型哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	赤褐 / 黒	(43.0)	10.1	5.0	2.5	点	両端欠損, 掲載 33
65	A1 10層	製品破片	ニホンジカ	中足骨?	◎	◎	○	赤褐 / 黒	(23.9)	7.4	7.1	1.4	一括	両端欠損, 表裏面のほか側面の破断面を研磨, スス状物質付着
66	A1 9層	製品破片	ニホンジカ	中足骨	◎	◎	×	黒 / 赤褐	(13.8)	8.3	5.7	0.5	篩3	両端欠損
67	A1 9層	製品破片	哺乳類	不明	◎	◎	×	黒 / 赤褐	(27.3)	7.2	5.3	1.2	篩10	断面円形~楕円形, 両端欠損
68	A0 9層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	赤褐 / 黒	(15.1)	10.5	6.0	1.3	篩10	断面楕円形, 両端欠損
69	A0 9層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	黒 / 赤褐	(21.1)	(12.6)	(5.1)	0.8	篩10	破片
70	A0 9層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	◎	×	黒 / 赤褐	(23.6)	(8.9)	(1.1)	0.5	篩10	破片
71	A0 9層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	○	×	黒	(19.5)	(7.0)	(1.1)	0.3	篩10	破片
72	A1 9層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	○	×	黒	(13.5)	(1.6)	(1.5)	0.2	一括	破片
73	Aトレ 清掃土	製品破片	哺乳類	不明	◎	◎	×	無	(13.2)	(3.7)	(4.0)	0.2	篩10	破片, 刺突具先端か
74	A1 9層	製品破片	哺乳類	四肢骨	◎	○	×	赤褐 / 黒	(19.3)	(10.1)	(3.9)	0.8	篩10	破片
75	A1 9層	加工痕資料	哺乳類	不明	◎	○	○	黒	18.9	3.5	3.0	1.0	一括	扁平, 割れ口研磨
76	A2 9層	加工痕資料	哺乳類	不明	◎	◎	×	無	17.8	4.0	2.7	0.3	一括	素材の切り出し途中か, 掲載 34
77	A1 円形落込み 1 層	加工痕資料	ニホンジカ	中足骨	×	×	×	無	91.3	19.1	11.1	12.2	点	前面部分, スパイラル状, 掲載 35
78	A0 9層	管玉	小型動物	骨幹	○	—	◎ / ○	白	6.3	2.4	2.2	0.1 >	一括	灰付着, 掲載 36
80	A1 10ab 層	管玉	鳥獣類	骨幹	×	—	○ / ×	白	9.1	2.8	2.2	0.1 >	WS1	灰付着, 掲載 37
79	A1 10ab 層	管玉	鳥獣類	骨幹	×	—	△ / ×	白	16.2	4.6	0.5	0.3	一括	灰付着, 掲載 38
81	A1 円形落込み 3 層	管玉	鳥獣類	骨幹	○	—	○ / ×	白	6.2	2.4	1.9	0.1 >	WS1	掲載 39
82	A0 9層	管玉	鳥類?	骨幹	×	—	×	白	10.8	—	0.4	0.1 >	WS1	掲載 40
83	A2 9層	加工品破片	哺乳類	不明	△	△	×	白?	(5.2)	(8.3)	3.3	0.2	篩10	二重の弧状加工, 掲載 41
84	A2 9層	犬歯加工品	イノシシ	下顎犬歯 (♂)	○	○	○	無	56.4	10.3	4.6	2.7	点	掲載 42
85	A2 9層	赤色顔料 付着資料	クマ	中手 / 中足骨	×	×	×	無	—	—	—	3.7	一括	GL:58.4mm, Bd:14.8mm (計測法は Driesch 1976 による), 掲載 43

連続的な剥離を施した素材である。剥離は遠位側から近位側に向かって施されている。外面側には長軸に直行する方向で短い擦痕が連続的に残る。使用痕は認められない。

#### b) 装身具類

小型鳥獣類の骨を加工したビーズが5点出土した(36～40)。いずれも管玉タイプで、被熱により白色化している。切断面の研磨の状況は資料によって異なる。36は両端、37～39は片方のみに施されている。40は直線的に裁ち割っているが、両端ともに研磨されていない。

#### c) その他の資料

道具類、装身具類に含められない資料は3点ある。41は被熱により白色化した骨片に、弧状の陰刻を二重に施したものである。人為的につけられたものとみられるが、断片的な資料で全体形などは不明である。42はイノシシの犬歯を縦に打ち割り、全面を研磨したものである。上下端の割れ面は研磨されており欠損ではない。ただし、下端の一部はわずかに折れている。写真掲載した43は、クマの中手骨ないしは中足骨の遠位骨端中央部分に、わずかに赤色顔料が付着した資料である。意図的なものか否かは判断できない。(松本・鈴木)

### 3. 層位別の出土傾向

縄文早期の遺物包含層の本格的な調査に着手した第4次・第5次調査では、貝製品209点、骨角牙製品85点と多くの資料を得た。第1次～第5次調査の総計は、骨角牙製品98点、貝製品216点となる。早期遺物包含層の調査は現在も継続中であるが、ここでは現時点での集計を行い、岩陰部・前庭部緩斜面それぞれの器種別、層位別の出土傾向を整理する。

#### (1) 岩陰部

貝製品195点、骨角牙製品51点が出土した(第54表)。貝製品はビーズ類が186点と圧倒的多数である。なかでも多いのがツノガイ類の製品で、管玉45点、平玉66点が出土している。骨角牙製品は刺突具が13点と最多で、全体の約3割を占める。骨針も6点とまとまっている。垂飾品、骨製ビーズといった装身具類は4点のみである。

層位別にみると、貝製品・骨角牙製品のどちらも第II層群の出土数がきわめて多い。貝製品は全体の9割以上、骨角牙製品は8割以上が第II層群からの出土となっている<sup>1)</sup>。第II層群は土器、石器、動物遺存体の出土量も多く、その形成時期に遺跡利用が活発であったことは明確である。第II層群の出土土器は早期、前期のものにほぼ限定され、そのなかでも早期後葉の条痕文土器が半数、前期前半の土器が約2割となっている(第6章第1節3項(1)参照)。各資料を時期的に位置づけるには慎重な検討が必要だが、第II層群から出土した資料については早期後葉～前期前半に帰属するものが多いとみられる。

第II層群出土資料のなかでも、とくに注目されるのがビーズ類の出土数の多さである。第II層群では第5次調査時点で約20個体の埋葬人骨を検出しており(第8章参照)、これらとの関連が想起される。埋葬人骨各個体の土壌覆土から出土した貝製品と、第II層群のその他の土層中および、遺構覆土から出土したものを区別した集計データが第55表である。なお土壌覆土のほか、参考として堆積土量の多いSB2⑥層のみ分けて表示した。

集計の結果、第II層群出土の貝製ビーズ類178点中、117点と6割以上が土壌覆土から出土していることがわかった。同じ操作を骨角牙製品で行うと、土壌覆土から出土した点数は7点と全体の約15%となる。こちらは器種にまとまりもなく、破片資料も含まれるため混入物の可能性が高い。また、土器でも同様の集計を行ったところ土壌覆土出土は約2割であった。貝製ビーズ類の土壌覆土における出土数の多さには注目できる<sup>2)3)</sup>。なお、貝製ビーズ類と同じく装身具と推定される貝輪や骨製ビーズは、土壌覆土から出土していない。

ビーズ類はすべての土壌において多いわけではなく、10点以下の少数にとどまる場合や、b層のように1点も検出していない場合もある。一方で、f層では27点、i層では57点と多数を検出しており、土壌によって出土数に差がある。i層では、12号人骨の頭蓋骨付近で平玉5点と同一個体を含む破片32点が集中して出土しており、篩掛けから散発的に見つかることの多い他の土壌とは異なった出土状況を確認している。

形態に視点を移すと、f層では管玉8点に対して平玉11点、i層では管玉2点に対して平玉14点と、ここで

第54表 第1次～第5次調査 岩陰部出土骨角牙製品・貝製品 層位別集計

層位/器種	ツノガイ類 管玉	ツノガイ類 平玉	イモガイ類 平玉	その他 平玉	ビーズ破片	貝輪	赤色顔料 付着資料	加工痕 資料	計
表層									0
第I層群								1	1
第II層群	42	64	6	2	64	5	1	1	185
調査区内一括	3	2	3			1			9
計	45	66	9	2	64	6	1	2	195

層位/器種	釣針	骨針	ヘラ状	刺突具	その他 破片	加工痕	垂飾品	骨製 ビーズ	その他	計
表層				1	1					2
第I層群				2	1		1			4
第II層群	2	6	2	10	13	5	1	2	3	44
調査区内一括						1				1
計	2	6	2	13	15	6	2	2	3	51

第55表 第1次～第5次調査出土貝製品 第II層群層位別集計

層位/器種	ツノガイ類 管玉	ツノガイ類 平玉	イモガイ類 平玉	その他 平玉	ビーズ破片	貝輪	赤色顔料 付着資料	加工痕 資料	計
土 壙 覆 土	b層								0
	c層		1			1			2
	d層	4	2	1		1			8
	e層	1	2						3
	f層	8	11		1	7			27
	h層	1	3						4
	i層	2	14	1		40			57
	j層	6	6			4			16
SB2 ⑥層	8	17			5		1	1	32
第II層群	12	8	4	1	6	5			36
計	42	64	6	2	64	5	1	1	185

- 1) 層位別集計に表示していない第II層群の各層および、第II層群中の遺構覆土から出土した資料は、「第II層群」として一括集計した。  
 2) 埋葬人骨の土壙覆土名称と個体番号の対応。  
 b層：1号人骨，c層：3号人骨，d層：4号人骨，e層：8号・9号人骨，f層：2+15号人骨，h層：10号人骨，i層：12号人骨，j層：人骨集積A

第56表 第1次～第5次調査 前庭部緩斜面出土骨角牙製品・貝製品 層位別集計

層位/器種	ツノガイ類 管玉	ツノガイ類 平玉	イモガイ類 平玉	その他 平玉	ビーズ破片	貝輪	赤色顔料 付着資料	加工痕 資料	計
1～9層									0
10層	7	7			4		1		19
11層		2							2
円形落込み									0
計	7	9	0	0	4	0	1	0	21

層位/器種	釣針	骨針	ヘラ状	刺突具	その他 破片	加工痕	垂飾品	骨製 ビーズ	その他	計
1～6層										0
7～9層					3					3
9層		1	7	3	9	1		2	3	26
10層		1	2	2	3			2		10
11層										0
円形落込み				1	2	1		1		5
調査区内一括					2					2
計	0	2	9	6	19	2	0	5	3	46

も傾向差を指摘できる。j層<sup>4)</sup>でも16点と比較的多数を確認したが、第6次～第8次調査において本格的な調査を行ったため、この段階の集計は暫定的なものとなる。

岩陰部出土の骨角牙製品・貝製品は、第II層群からの出土が多いことを確認した。とくにビーズ類は、土壌覆土から第II層群全体の6割以上の資料を検出している。埋葬との関連を示唆する現象ではあるが、ここでは事実を提示するのみとしておく。今回は集計結果の提示に終始してしまったが、その後の調査における出土資料もあわせつつ、ミクロな出土位置の検討も踏まえて分析を進めていきたい。

## (2) 前庭部緩斜面

貝製品21点、骨角牙製品46点が出土した(第56表)。貝製品は赤色顔料が付着したカワシンジュガイ1点を除き、すべてビーズ類である。骨角牙製品はへら状製品が9点と多く、刺突具が多い岩陰部とは傾向を異にする。

層位別に出土傾向を整理する。貝製品は褐色土層の1～9層では未検出で、灰質褐色土層の10層で多数を確認している。対して骨角牙製品は9層において資料数が増大し、10層でも多く検出している。なお、水流の作用によって形成されたとみられる10層の円形落込みでは貝製品が認められない。土器、石器の集計では円形落込みと10層の内容は近似しており、それとは異なる様相にある(第6章第1節3項・第2節3項参照)。

貝製品と骨角牙製品の間および、層位間でも傾向差が明確であるが、1～9層と10層以下では遺物の取上法が異なるため、出土量の比較には注意が必要である。1～9層は10mmメッシュの乾式篩で土壌を篩掛けており、10層以下は最小1mmメッシュの水洗選別を導入している。貝製品、とりわけビーズ類が1～9層で見つからないことは、サンプリング法の差異に起因している可能性がある。一方、骨角牙製品が9層に多く、9層とサンプリング法を同じくする7層より上の層で確認されていないことは有意といえそうである。ただし、1～6層は動物遺存体の出土量も少ないため、元々含まれていた製品が土壌中に分解されてしまった可能性もある。

9層の出土土器は、沈線文土器が4割、押型文土器が3割を占め、早期中葉期のものが中心である(第6章第1節3項(2)参照)。10層においては押型文土器が8割以上となっている。早期後葉から前期前半期のものが多くとみられる岩陰部第II層群の貝製品・骨角牙製品と比べ、前庭部緩斜面の出土品は相対的に古い資料群とみてよいだろう。一方、製品そのものの比較から時期差を指摘できるような違いは見出せていない。先述したように、へら状製品と刺突具の出土数に差はあるものの、両者の分類自体が先端・断面形態から便宜的にカテゴライズした単位であることと、出土総数そのものの少なさを念頭に置けば、現時点では有意な違いとして強調はできない。第6次調査から、多数の動物遺存体を包含して厚く堆積する10層の調査に本格的に着手した。製品自体の比較検討は、さらなる資料の蓄積をまっとうすることとする。(松本)

## 註

1) 表層・第I層群の土のほとんどは5mmメッシュで篩掛けており、大半を最小1mmないし3mmメッシュで篩掛けた第II層群と比べて微細な製品を拾い切れていない可能性はある。

2) 土層・遺構別に各遺物の出現頻度を比較する際には、堆積土量を基準にするのがより効果的であろう。第4次・第5次調査では、篩った土量を記録していた水洗選別を部分的にしか導入していなかったこと、残した記録にも不備があったことが弊害となり、そのような操作を行うことができなかった。サンプリング法に関わる詳細は第3章第2節を参照。

3) 土壌の篩掛け方法が調査次、土層によって違っているためサンプリングエラーに留意する必要があるが、土壌覆土のみでビーズ類ほかの微細遺物を多く発見している状況にはないと考える。以下にその判断の根拠となるサンプリング法に関わる事項を記載しておく。①土壌覆土はb層を除き最小1mmの水洗選別を実施している。b層の篩掛けは3mmの乾式篩による。②それ以外の各層・遺構では、第II層群の調査に着手した第3次調査では5mm、第4次・第5次調査では3mmの乾式篩を基本としつつ、部分的に最小1mmの水洗選別を行った。③第5次調査では、5・3・1mmの三段で水洗選別を実施したが、1mmで洗い出した土壌からは遺物の抽出作業を行っていない。それにもかかわらず、第5次調査で調査したf層、i層で多数の貝製ビーズ類を確認している。

4) j層は多数の個体を集積した人骨集積Aの覆土。第55表に掲げたj層以外の土壌は個体埋葬である(第8章参照)。

## 第4節 動物遺存体

### 1. 資料と方法

#### (1) 調査時のサンプリング方法

本遺跡では、掘削時の目視による遺物取り上げのみでなく、掘り上げた土壌の篩掛けを実施している。第4次・第5次調査では、水洗選別法を導入したこともあり、魚類や両生類、小動物など微細な遺存体を多数検出した。調査時の遺物取り上げ方法の詳細は第3章第1節2項(3)に記載したが、以下に概要を記す。

目視による取り上げには、トータルステーションを用いて出土位置の点情報を記録する方法、グリッド・層位一括で取り上げた方法の二つがある。動物遺存体の場合は、同定可能とみられる資料や、破片であっても5cmを超えるような比較的大型のものについてはできる限り点情報を記録して取り上げた。

土壌の篩掛けは乾式および水洗による。乾式篩は、岩陰部では3mmメッシュを、前庭部緩斜面では10mmメッシュを基本とした。水洗選別は灰質土や埋葬人骨の土壌覆土など重要度の高い土層について実施し、最小1mmメッシュを用いた。第5次調査では5・3・1mmメッシュを三段重ねにして水洗選別を行ったものの、整理期間の都合上、1mmメッシュに残った土壌中からの遺物抽出は行うことができなかった。したがって、第5次調査の報告資料は最小3mmメッシュで回収した遺物となる。また、第5次調査には前庭部緩斜面の10層および11層について定量サンプリングを行った。10a層～10g層、11層の各層から1ℓずつ土壌を採取し、水洗選別を実施した。このサンプリングから回収した微小貝類を定量データとして提示する。 (大内・松本)

#### (2) 資料と方法

##### a) 資料

上述したように、本遺跡においてはピックアップ法や乾燥・水洗篩法、フローテーション法により動物遺存体を採取する方針が採られている。そのため、サンプリングエラーが回避された小型動物を含む動物遺存体が豊富に採取された。また、本遺跡の動物遺存体の多くは灰質土層に埋存したため良好に保存されており、タフオノミーや動物解体法、骨資源の利用法の検討に適していると考えられた。そこで、破片であっても現生骨格標本との比較を行い、可能な限り目以下まで同定する方針を立てて行った。しかし、最終的には同定に至らなかった資料も多く残された。第2次・第3次調査では同定の対象外となった資料について、分類群で綱以下の同定が難しい「同定不可」や「同定対象外」と、時間的制約により同定に至らなかった「未同定」の二つの用語が示された(谷口編2020)。今回の報告では前例を参考に、原則として①綱の同定はできたが目以下の同定ができなかった資料は「種不明」、②破損の度合いが大きく同定が困難な資料は「同定不可(不能)」、③分類群や部位別に分類したが時間的な制約から同定に至らなかった資料や、現生骨格標本との比較ができず同定保留とした資料は「未同定」として扱うことにした。

本遺跡から回収できた動物遺存体は、同定標本数(NISP)および未同定・同定不能、「不明・表採」を合わせて40,923点であった。そのうち、岩陰部の総出土点数18,164点(9,934.0g)の中で同定できたNISPは1,550点(3,420.7g)で同定率は8.5%、前庭部緩斜面の総出土点数22,759点(18,691.5g)のうちNISPは合計2,322点(6,919.3g)で同定率は10.2%である(第57表)。また、不明を含むNISPの総数3,883点に占める岩陰部および前庭部緩斜面の比率は、第107図のようになる。

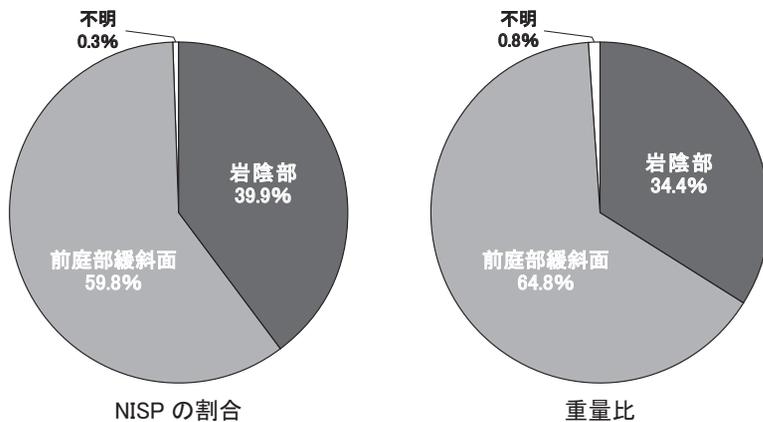
##### b) 同定方法

同定作業では、まず考古学研究室において大学院生および学部生によって動物分類群ごとに仕分け、簡易同定が行われた。その後、貝類については千葉県立中央博物館の黒住耐二氏に、鳥類については北海道大学総合博物館の江田真毅氏に専門的な同定を依頼した。両氏からは、同定結果やコメントを頂いたが、黒住・江田両氏の同定を経ないままの一部資料については筆者が同定を行った。貝類・鳥類以外については、動物遺存体担当の大学院生・学部生および筆者が國學院大學考古学研究室(西本豊弘氏ご寄贈標本を含む)、東京大学総合研究博物館

第57表 第4次・第5次調査出土動物遺存体の総数と重量

	同定標本数 (NISP) と重量										同定対象外 未同定の点数と重量				同定対象外 同定不可の破片数と重量				全合計 点数	全合計 重量			
	貝類*	甲殻類	魚類	両生類	爬虫類	鳥類	哺乳類	脊椎動物	貝類 除く 点数	全動物 合計 点数	合計 重量	IV4	IV5	合計 点数	合計 重量	IV4	IV5	合計 点数			合計 重量		
岩陰部	表層	2			1				10		11	13	21.2		6	6	11.6	12	13	25	13.3	44	46.1
	第I層群	27			1		5	18	1	25	52	45.7	6	25	31	26.8	98	13	111	66.1	194	138.6	
	第II層群	1,017		3	17	3	125	292		440	1,457	3,353.5	612	299	911	1299.2	10,425	3,805	14,230	4,491.5	16,598	9,144.2	
	調査区内一括	24	1		1		2			4	28	0.3	49	20	69	122.5	1,172	59	1,231	482.3	1,328	605.1	
	小計	1,070	1	3	20	3	132	320	1	480	1,550	3,420.7	667	350	1,017	1460.1	11,707	3,890	15,597	5,053.2	18,164	9,934.0	
前庭部緩斜面	1層											0.0	6		6	18.2	215		215	170.8	221	189.0	
	7層							11		11	11	57.0	1		1	11.6	127		127	43.3	139	111.9	
	8層							112		112	112	434.0	29	2	31	71.1	1,933	9	1,942	607.8	2,085	1,112.9	
	9層	7		1	101		117	982	8	1209	1,216	4,502.3	435	583	1,018	2104.4	4,599	6,423	11,022	5,538.5	13,256	12,145.2	
	10層	67		3	281	1	194	294	19	792	859	1,629.8	85	299	384	591.3	1,205	3,043	4,248	1,363	5,491	3,584.1	
	11層						1	10		11	11	30.9	5	5	10	7.6	52	7	59	40	80	78.5	
	土留め部分				16		30	26		72	72	190.6		92	92	267.0		581	581	440.3	745	897.9	
	調査区内一括				2		7	32		41	41	74.3	7	73	80	135.7	198	423	621	361.6	742	571.6	
		小計	74		4	400	1	349	1,467	27	2,248	2,322	6,919.3	568	1,054	1,622	3206.9	8,329	10,486	18,815	8,565.3	22,759	18,691.5
		不明・表採計							11			11	47.0	35	23	58	194.3					69	241.3
																					40,923	28,625.6	

- 1) 9層には「円形落込み」の点数を含む。
- 2) 貝類は細片を含む点数を示したが、他の動物よりも劣化による割れが激しい資料も多く、参考程度の数字であることから\*印で示した。
- 3) 「同定対象外 未同定」資料では層ごとに収納されたチャックボリ袋の数をカウントしたものであり、破片数ではない（テンパコにておおよそ4箱分が未同定（未報告）資料）。
- 4) 重量の単位は「g」。 5) 調査区内一括は出土層位不明の資料。



第107図 第4次・第5次調査出土動物遺存体のNISPと重量比

(遠藤秀紀氏によるご協力)、国立科学博物館筑波研究施設(真鍋真氏・川田伸一郎氏によるご協力)収蔵の現生骨格標本、および筆者個人所有の現生骨格標本と比較して行った。なお、魚類の同定では樋泉岳二氏から、イヌの同定では茂原信生氏からそれぞれご教示を得た。

c) 観察・計測方法

動物遺存体は灰質土層に埋存しているものが多く、保存状態がきわめて良好であり、骨に残る人為的・自然的痕跡を観察することで動物資源の利用法の検討に適していると考えられた。そこで、観察方法では歯の萌出交換状況、四肢骨の骨端癒合状況とともに、被熱の有無と色調、解体痕(カットマーク、打撃痕など)、道具加工痕、埋存前後に受けた侵蝕(動物咬痕、植物などによる侵蝕痕など)を可能な限り記録することにした。ただし、観察項目は一貫した基準で記録化するまでは至らず、観察表に記載するのみとなった。

計測では、Driesch (1976) に従い、計測誤差に配慮するため筆者のみで行った(鳥類は江田氏による)。また、歯の萌出交換の記載と観察では、ニホンジカは大泰司 (1980)、佐藤 (2021)、新美 (1997) に、イノシシは林ほか (1977) に従った。最小個体数 (MNI) の算定では、貝類は殻口部や殻頂部が保存されているものを、脊椎動物では関節などが保存されているものを原則とした。

なお、上記方法で作成した動物種ごとの観察表は、補足の形で別途公表する予定である。写真図版に掲載した資料の詳細も、そこで記載する。

2. 同定結果と調査区ごとの出土概要

(1) 同定結果 (第58表)

本遺跡で同定できた動物種としては、腹足綱(巻貝類)が9科16種、二枚貝綱(二枚貝類)が5科6種、掘

足綱（ツノガイ類）が1科3種（化石を含む）、甲殻綱（カニ類）が1科1種、魚綱が3科4種、両生綱（カエル類）が1科3種以上、爬虫綱（ヘビ類）が1科1種、鳥綱が6科7種、哺乳綱が13科22種の合計63種以上である（第58表、1科も1種と計算）。これらの中には、動物利用を考察する観点から、本章第3節で報告されているイモガイ科、サルボオガイ属、フネガイ科、ツノガイ科といった製品も含んでいる。

第1次～第3次調査で同定された動物種は、貝類11種、魚類1種、両生類1種、爬虫類1種、鳥類2種、哺乳類13種であったが、出土量も増加した第4次・第5次調査においては貝類25種、甲殻類1種、魚類4種、両生類3種、爬虫類1種、鳥類7種、哺乳類22種と多くの種が同定できた。

## （2）生息環境別にみた本遺跡の動物相

同定された動物種について、学名で参照した文献（奥谷2017、中坊編2013・2018、小宮2002など図鑑類）および、黒住・江田両氏の文献（黒住・金子2001、黒住2009・2015・2021a,b,c、江田2015、江田・渡辺2019など）を参照して生息環境から分類してみる（第59表）。なお、文献探査に不十分な部分も残るため、ここの分類はおおよその傾向となる。

まず貝類では陸産の林縁生息種、林内生息種、開放地生息種に3分類できるが、林縁生息種（6種）と開放地生息種（5種）が多く、林内生息種（2種）は少なかった。淡水産種はカワニナ、カワシンジュガイ、イシガイ科の3種、汽水産種がヤマトシジミ1種、海産種がメダカラ？、イモガイ科、サルボオガイ属、フネガイ科、ハマグリ、ツノガイ、ヤスリツノガイ？、ヤカドツノガイの8種であった。なお、第2次・第3次調査では淡水産種のタニシ科が同定されたが、今回の調査では確認できなかった。甲殻類では淡水産種のサワガニ？の1種のみ、魚類では淡水産種のコイ科とサケ属の一種、サクラマス（ヤマメ）？の3種、海産種ではカマス科の1種のみである。また、両生爬虫類ではヒキガエル属、アカガエル科、科以下不明のカエル類の3種以上が、ヘビ亜目では1種がある。鳥類では、河川湖沼から亜高山帯まで幅広く分布するスズメ目、海岸から森林まで分布するタカ科・チドリ目、森林・草地・里地に生息するキジを含むキジ科、フクロウ科がある。また河川や湖沼に冬季に飛来する種も含むカモ亜科もある。哺乳類では森林・山に生息するツキノワグマ、ニホンカモシカ？、ムササビなど5種、森林・山・草地に生息するニホンジカ、イノシシ、ニホンノウサギなど5種、森林・山・草地・里地に生息するハタネズミ、ミズハタネズミ亜科、アズマモグラなど6種、森林・山・里地に生息するニホンザル、アカネズミ属など3種、森林・山・草地・川に生息するニホンイタチ、川に生息するカワネズミ、また破片資料のため家畜として認定できるか不明であるがイヌもある。

同定できた動物種のうち、海産種はメダカラ？、イモガイ科、ツノガイ、ヤスリツノガイ？、ヤカドツノガイ、ハマグリ、サルボオガイ属、フネガイ科、カマス科の9種（約14%；9/63種）、淡水産種はカワニナ、カワシンジュガイ、イシガイ科、サワガニ？、コイ科、サクラマス（ヤマメ）？、サケ属の一種、カモ亜科、カワネズミの9種（約14%；9/63種）であるが、他の45種（約71%；45/63種）は主に陸上動物種で構成されている。

このように、本遺跡の主たる動物相は遺跡周辺の環境に由来する陸産種が優占するが、海産種も14%を占めるといった特徴をもつことから、本遺跡を利用した縄文人にとっては海産動物種の存在がとりわけ重要であったことが示唆される。

## （3）岩陰部出土動物遺存体の概要

以下では、調査区別に動物分類群ごとの主な形態的特徴や生息環境、出土状況を述べる。

岩陰部からは上述のように、同定標本数（NISP）は1,550点であるが、層位別の内訳としては第II層群が全体の94%と圧倒的に多く、次いで第I層群（3%）、表層・調査区内一括（3%）であった（第108図（A））。動物分類群別にみると、劣化して細片の多い貝類が多くなるが（第108図（B））、貝類を除く動物群で見ると哺乳類が最も多くなり、次に鳥類が多い（第108図（C））。各層の出土点数にばらつきが多いため第II層群との単純比較は難しいが、第II層群では魚類から哺乳類まで幅広く出土し、なかでも哺乳類が優占となっている。これに対し、他の層では哺乳類や鳥類の出土は多いものの、検出された動物種に偏りがあることが指摘できる。岩陰部では未同定や同定不可となった同定対象外資料数は16,614点あるが（水洗資料を除く）、このうちの同定不可

第58表 第4次・第5次調査出土動物遺存体の同定結果

軟体動物門	Phylum Mollusca
腹足綱	Class Gastropoda
原始紐舌目	Order Architaenioglossa
ゴマガイ科	Family Diplommatinidae
1 オシマヒダリマキゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) paucicostata</i> (Pilsbry & Hirase 1905)
クチミゾガイ科?	Family Stobilopsidae?
2 マツシマクチミゾガイ?	<i>Eostrobilops nipponica nipponica</i> (Pilsbry 1927) ?
吸腔目	Order Sorbeoconcha
カワニナ科	Family Semisulcospiridae
3 カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i> (Gould 1859)
タカラガイ科	Family Cypraeidae
4 メダカラ?	<i>Cypraea gracilis</i> (Gaskoin 1840) ?
5 イモガイ科	Conidae gen et sp.indet (加工品のみ)
有肺目	Order Pulmonata
キセルガイ科	Family Clausiliidea
6 ツムガタモドキキセル	<i>Megalophaedusa (Pinguiphaedusa) pinguis platyauche</i> (von Martens 1877)
オカクチキレガイ科	Family Subulinidae
7 オカチョウジガイ	<i>Allopeas kyotoense</i> (Pilsbry & Hirase 1904)
8 オカチョウジガイ (巨大型)	<i>Allopeas kyotoense</i> (Pilsbry & Hirase 1904) [large type]
9 ホソオカチョウジガイ?	<i>Allopeas pyrgula</i> (Schmacker & Böttger 1891) ?
ベッコウマイマイ科	Family Helicarionidae
10 ハリマキビ	<i>Parakaliella harimensis</i> (Pilsbry 1901)
11 ヒメベッコウ	<i>Discoconulus sinapidium</i> (Reinhardt 1877)
12 ヒメベッコウ類似属	<i>Discoconulus?</i> sp.
13 ウラジロベッコウ	<i>Urazirochlamys doenitzii</i> (Reinhardt 1877)
エゾエンザ科	Pristilomatidae
14 ヒメコハクガイ類似種	<i>Hawaiia</i> sp. cf. <i>minuscule</i> (Binney 1840)
ナンバンマイマイ科	Family Camaenidae
15 ニッポンマイマイ	<i>Satsuma (Satsuma) japonica japonica</i> (Pfeiffer 1847)
16 ヒダリマキマイマイ	<i>Euhadra quaesita quaesita</i> (Deshayes 1850)
二枚貝綱	Class Bivalvia
フネガイ目	Order Arcoida
フネガイ科	Family Arcidae
1 サルボオガイ属	<i>Anadara (Scapharca)</i> sp. (加工品のみ)
2 フネガイ科の一種	Arcidae gen et sp.indet (加工品のみ)
イシガイ目	Order Unionoida
カワシンジュガイ科	Family Margaritiferidae
3 カワシンジュガイ	<i>Margaritifera laevis</i> (Haas 1910)
イシガイ科	Family Unionidae
4 イシガイ科	Unionidae gen et sp.indet
マルスダレガイ目	Order Veneroida
シジミ科	Family Cyreneidae
5 ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i> (Prime 1864)
マルスダレガイ科	Order Veneridae
6 ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i> (Röding 1798)
掘足綱	Class Scaphopoda
ツノガイ目	Order Dentalioida
ツノガイ科	Family Dentaliidae
1 ツノガイ	<i>Antalis weinkauffi</i> (Dunker 1877) (化石) (加工品のみ)

- 2 ヤスリツノガイ? *Fissidentalium yokoyamai* (Makiyama 1931)? (化石) (加工品のみ)  
 3 ヤカドツノガイ *Dentalium (Paraadentalium) octangulatum* Donovan, 1804 (化石?) (加工品のみ)

**節足動物門** Arthropoda

**甲殻綱** Crustacea

エビ目 (十脚類) Order Decapoda

サワガニ科 Family Potamidae

- 1 サワガニ? *Geothelphusa dehaani* (White 1847)?

**脊索動物門** Phylum Chordata

**脊椎動物亜門** Subphylum Vertebrata

**魚綱** Class Pisces

**条鰭亜綱** Actinopterygii

コイ目 Order Cypriniformes

コイ科 Family Cyprinidae

- 1 属種不明 Gen. et spp. indet

サケ目 Order Salmoniformes

サケ科 Family Salmonidae

- 2 サクラマス (ヤマメ)? *Oncorhynchus masou masou* (Brevoort 1856)?  
 3 サケ属の一種 *Oncorhynchus* sp.

スズキ目 Order Perciformes

- 4 カマス科の一種 Sphyraenidae gen et sp. indet (超大型種)

**両生綱** Class Amphibia

無尾目 Class Anura

ヒキガエル科 Family Bufonidae

- 1 ヒキガエル属 *Bufo* sp.  
 2 アカガエル科? Ranidae gen. et sp. Indet?  
 3 科属不明 Fam et spp. indet. (複数種)

**爬虫綱** Class Reptile

有鱗目 Class Squamata

へび亜目 Suborder Serpentes

- 1 科属不明 Fam. et sp. indet.

**鳥綱** Class Aves

キジ目 Order GALLIFORMES

キジ科 Family Phasianidae

- 1 キジ *Phasianus colchicus* (Linnaeus 1758)  
 2 キジ属種不明 Phasianidae sp.

カモ目 Oder ANSERIFORMES

カモ亜科 Anatinae

- 3 属種不明 Anatinae sp.

スズメ目 Oder PASSERIFORMES

- 4 科属種不明 Passeriformes gen et sp. indet

タカ科 Family Accipitridae

- 5 属種不明 Accipitridae sp.

チドリ目 Oder CHARADRIIFORMES

- 6 科属種不明 Charadriiformes gen et sp. indet

フクロウ科 Family Strigidae

- 7 属種不明 Strigidae sp.

**哺乳綱** Class Mammalia真無盲腸目 Order EULIPOTYPHLA

トガリネズミ科 Family Soricidae

1 カワネズミ *Chimarrogale platycephalus* (Temminck 1842)

モグラ科 Family Talpinae

2 アズマモグラ *Mogera imaizumii* (Kuroda 1957)

3 ヒミズ族 Tribe Urotrichini

4 属種不明 Gen.et sp.indet

霊長目 Order PRIMATES

オナガザル科 Family Cercopitheidae

5 ニホンザル *Macaca fuscata* (Blyth 1875)齧歯目 Order RODENTIA

ネズミ形亜目 Suborder MYOMORPHA

キヌゲネズミ科 Family Cricetidae

ミズハタネズミ亜科 Subfamily Arvicolinae

6 ハタネズミ *Alexandromys montebelli* (Milne-Edwards 1872)

7 属種不明 Gen.et sp.indet

ネズミ科 Family Muridae

8 アカネズミ属 *Apodemus* sp.

9 科属不明 Fam. et sp.indet.

リス形亜目 Suborder SCIUROMORPHA

リス科 Family Sciuridae

10 ムササビ *Petaurista leucogenys* (Temminck 1827)兔形目 Order LAGOMORPHA

ウサギ科 Family Leporidae

11 ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* (Temminck 1844)食肉目 Order CARNIVORA

イヌ型亜目 Suborder CANIFORMIA

イヌ科 Family Canidae

12 アカギツネ *Vulpes vulpes* (Linnaeus 1758)13 タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (Gray 1834)14 イヌ *Canis lupus familiaris*

15 属種不明 Gen.et sp.indet

クマ科 Family Ursidae

16 ツキノワグマ *Ursus thibetanus* (G.Cuvier 1823)

イタチ科 Family Mustelidae

17 ニホンイタチ *Mustela itatsi* (Temminck 1844)18 ニホンテン *Martes melampus* (Wagner 1840)19 ニホンアナグマ *Males anakuma* (Temminck 1842)偶蹄目 Order ARTIODACTYLA

シカ科 Family Cervidae

20 ニホンジカ *Cervus nippon* (Temminck 1836)

イノシシ科 Family Suidae

21 イノシシ *Sus scrofa* (Linnaeus 1758)

ウシ科 Family Bovidae

22 ニホンカモシカ? *Capricornis crispus* (Temminck 1836) ?

第 59 表 生息環境別にみた第 1 次～第 5 次における動物相

	生息環境	動物種名
貝類	陸 / 林縁	オシマヒダリマキゴマガイ、オカチヨウジガイ <sup>*</sup> 、オカチヨウジガイ (巨大型)、ヒメベッコウ、ニッポンマイマイ、ヒダリマキマイマイ
	陸 / 林内	マツシマクチミゾガイ <sup>?</sup> 、ツムガタモドキギセル [キセルガイ科 <sup>**</sup> ]
	陸 / 開放地	ハリマキビ、ヒメベッコウ類似属、ウラジロベッコウ、ヒメコハクガイ類似種、ホソオカチヨウジガイ <sup>?</sup> <sup>*</sup>
	淡水	カワニナ [カワニナ科 <sup>**</sup> ]、カワシンジュガイ <sup>**</sup> 、イシガイ科 <sup>*</sup> [カラスガイ <sup>?</sup> 、トブガイ <sup>?</sup> <sup>*</sup> ]、[タニシ科 <sup>**</sup> ]
	汽水	ヤマトシジミ [シジミ科 <sup>**</sup> ]
	海水	メダカラ <sup>?</sup> 、イモガイ科 <sup>**</sup> 、サルボオガイ属、フネガイ科、ハマグリ、ツノガイ、ヤスリツノガイ <sup>?</sup> 、ヤカドツノガイ <sup>**</sup>
甲殻類・魚類	淡水	サワガニ <sup>?</sup>
	淡水 or 降海タイプ <sup>?</sup>	コイ科、サケ属の一種
	淡水 (河川残留型)	サクラマス (ヤマメ) <sup>?</sup>
	海水	[イタチザメ属 <sup>?</sup> <sup>**</sup> ]、カマス科
両生爬虫類・鳥類	海岸付近～高山	ヒキガエル属、アカガエル科、無尾目 (カエル類) <sup>**</sup>
	海岸付近～高山	ヘビ亜目 [有鱗目 <sup>**</sup> ]
	河川湖沼・平地・低山・亜高山帯	スズメ目
	海岸・河川・農耕地・低地・森林	タカ科、チドリ目
	森林・草地・里地 河川・湖沼 (冬季飛来)	キジ、キジ科 <sup>**</sup> 、フクロウ科、[ヒヨドリ科 <sup>**</sup> ] カモ亜科
哺乳類	森林・山	ツキノワグマ、ニホンカモシカ <sup>?</sup> 、ムササビ <sup>**</sup> 、ニホンアナグマ [アナグマ属 <sup>**</sup> ]、ニホンテン <sup>**</sup>
	森林・山・草地	ニホンジカ <sup>**</sup> 、イノシシ <sup>**</sup> 、ニホンノウサギ [ノウサギ属 <sup>**</sup> ウサギ科 <sup>**</sup> ]、ヒミズ族、アカギツネ [キツネ属 <sup>**</sup> ]
	森林・山・草地・里地	ハタネズミ、ミズハタネズミ亜科、アズマモグラ、モグラ科 <sup>**</sup> 、タヌキ <sup>**</sup> 、イヌ科 <sup>*</sup>
	森林・山・里地	ニホンザル <sup>**</sup> 、アカネズミ属、ネズミ科 <sup>**</sup>
	森林・山・草地・川	ニホンイタチ [イタチ科 <sup>*</sup> ]
	川 家畜 <sup>?</sup>	カワネズミ イヌ

1) 表中の\*は第1次調査で、\*\*は第2次・第3次調査でも同定された種を示す。[ ] 付きの場合は、第1次もしくは第2次・第3次調査でのみ同定された種を示す。

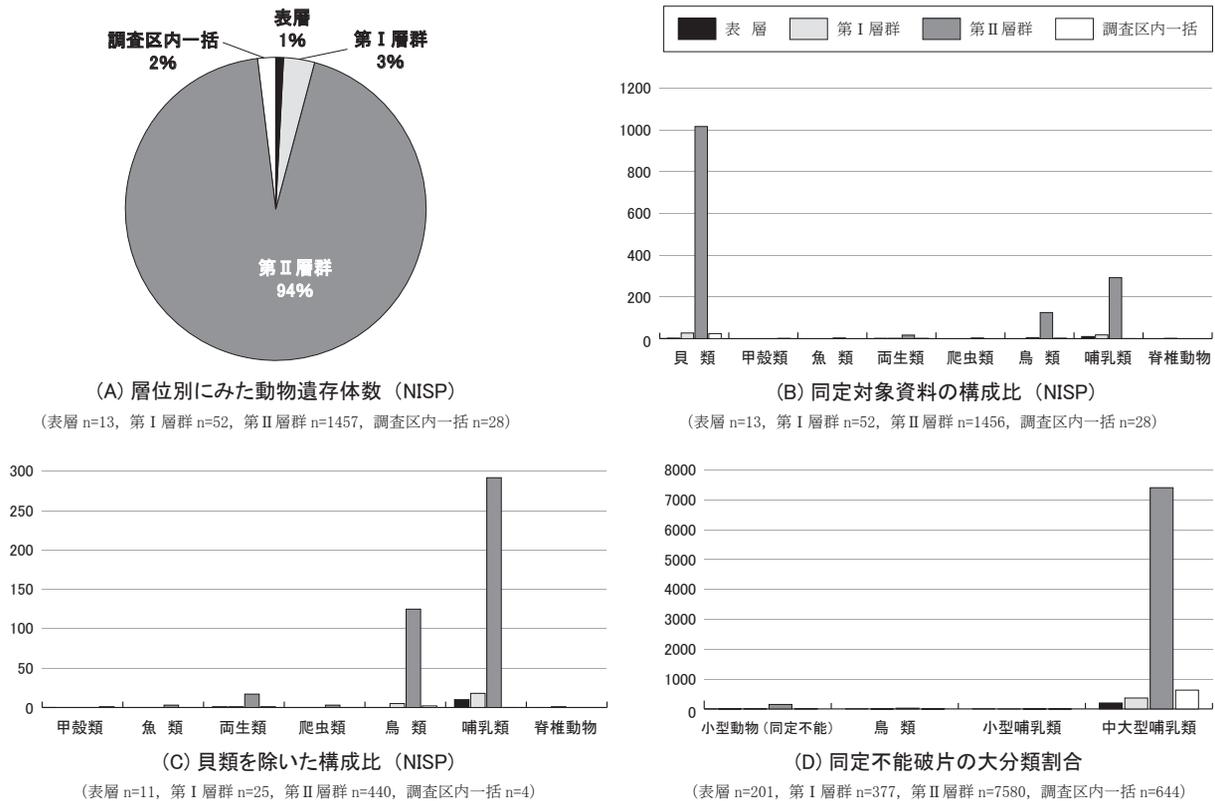
(15,597 点) のうち、8,802 点 (56.4%) を対象にサイズ差や骨質の特徴をもとに動物群を分類したところ、小型動物 (両生類・鳥類・小型哺乳類の同定不能)、小型哺乳類 (形態・サイズで分別)、中大型哺乳類の 3 分類が可能であった。そのうちの出土割合は、各層とも中大型哺乳類が圧倒的多数であった (第 108 図(D))。すなわち、同定不可の資料には貝類や小型動物の抽出漏れはきわめて少なく (同定対象外の小型動物合計 2.3% (201/8,802 点))、今回同定に至らなかった哺乳類は同定困難な破片資料 (8,601/8,802 点) であると評価される。

a) 貝類 (第 60 表・第 61 表)

**マツシマクチミゾガイ?** (写真図版 43-1) 山地帯・草原・その他 (高木林) の林内から草地に生息する。山形県・福島県・長野県・新潟県に分布の記録がある。現在は絶滅危惧Ⅱ類である (清水 2022)。岩陰部の第Ⅱ層群 j 層から破片が 1 点のみ出土している。

**カワニナ** (写真図版 43-2 ~ 5) 殻高 3cm 程度の紡錘形で、体層底面に細かい螺肋が密に存在する。河川・沼池の淡水域に生息する。本遺跡では第 2 次・第 3 次調査の岩陰部から 9 点出土しているが、第 4 次・第 5 次調査では岩陰部で最も多く検出された淡水産貝類である。完形で出土する数は少ないが、殻口部 (軸唇) が残存している資料を基準に MNI を算定すると、第Ⅰ層群 3 点、第Ⅱ層群 48 点の合計 51 点である (第 61 表)。カワニナには幼貝 (写真図版 43-5) も含むことから、当時の人々はカワニナが繁殖している水域で採集したと推定される。

**メダカラ?** 海産で太平洋岸では主に福島県以南、日本海側では男鹿半島以南に分布し、外洋の岩礁域に生息する。本遺跡では初めてタカラガイ類と考えられる破片が第Ⅱ層群から 1 点出土した。破片は長さ 3mm、最大幅 2.3mm を測り、背面の一部分と考えられる。殻表はやや光沢があり、色調は暗褐色を呈し凹凸も目立つ。被熱の可能性も考えられる。



第108図 岩陰部におけるNISP比および同定対象外資料の出土割合

**イモガイ科** 海産で、外洋に生息し、この属の北限の記録は福島県および男鹿半島である。第II層群から、破片1点が検出された。加工された螺塔の破片であり、本章第3節に示したようなビーズ類の破片の可能性がある。

**ツムガタモドキゼセル** 殻高28mm程度の塔型。左巻き。成貝は殻口が反転、肥厚する。殻口の上板は強く、下板は奥に位置し、稜をもたない。岩陰部では第II層群から2点のみ検出された。

**オカチョウジガイ** (写真図版43-8~12) 北海道・本州・四国・九州に分布する。殻径3mm、殻表は平滑で光沢がある。庭園田圃の草や石の下に棲む。岩陰部ではオカチョウジガイとオカチョウジガイ類を含めて106点出土したが、第II層群に集中していた。オカチョウジガイの卵は第I層群から1点検出されたことから、同層形成期に岩陰内で繁殖していたと想定される。

**オカチョウジガイ (巨大型)** (写真図版43-13) 巨大型と同定されたオカチョウジガイは林縁生息種である。岩陰部では第I層群と第II層群から3点出土した。

**ホソオカチョウジガイ?** (写真図版43-6・7) 殻高6mm程度の右巻きで、細長い塔型。殻頂部は丸い。陸産種で、草地・灌木などの開放地に生息する。本種は開放地生息種であり、岩陰部では第II層群と調査区内一括から5点と、オカチョウジガイと区別できなかったものが第II層群から1点の計6点が出土した。

**ウラジロベッコウ** 殻径6.5mm程度の円盤型で、螺層は少し高く、周縁は丸い。殻表は平滑。臍孔は狭いが明らかに開く。開放地生息種である。岩陰部では第II層群のみから6点が検出された。

**ヒメコハクガイ類似種** (写真図版43-14・15) 殻径2.6mm程度の円盤型で、ナタネガイ類によく似るが、殻表が平滑なことと、臍孔が大きなこととで識別できる。岩陰部では第II層群から14点検出された。

**ニッポンマイマイ** (写真図版43-16) 殻径26mm程度の低い円錐形で、螺層数は多く、周縁に弱い稜をもち、体層底面は広く、平坦。臍孔は開く。岩陰部では第I層群から1点と第II層群から10点の計11点が検出された。

**ヒダリマキマイマイ** (写真図版43-17) 殻径40~50mmで左巻きであり、最終層の螺管は太い。東北から中部地方に生息する。岩陰部では第II層群から53点検出されたが、殻が薄いことから破損例が多く、軸周辺が保存されているものや、殻表に色帯が残されているものを算定した。

第 60 表 岩陰部における貝類の層位別出土数

貝種名 層名	淡水産					汽水	海産					陸産										同定不能貝類破片	貝類破片総数							
	カワニナ	同定不能巻貝(カワニナ?)	※カワシンジュガイ	※イシガイ科	イシガイ科 or カワシンジュガイ科	イシガイ目・イシガイ科	※淡水産二枚貝同定不能	ヤマトシジミ	ハマグリ	ツノガイ	ヤカドツノガイ	イモガイ類	メダカラ?	海産巻貝同定不能	マツシマクチミノガイ?	ツムガタモドキギセル?	オカチヨウジガイ	オカチヨウジガイ(巨大型)	卵/オカチヨウジガイ?	※オカチヨウジガイ類(?含む)	※ホソオカチヨウジガイ			※オカチヨウジガイ?	ウラジロベッコウ	ヒメコハクガイ類似種	ニッポンマイマイ	ヒダリマキマイマイ	マイマイ類(不明)	微小貝破片
表層			1																	1										2
第I層群	3		4		2	11										1	2	1	1						1				1	27
第II層群	91	11	364	6	12	157	30	1	1	11	1	1	1	9	1	2	73	1		26	4	1	6	14	10	53	4	19	107	1,017
調査区内一括	1	1	12			1														4	1					1	3		24	
計	95	12	381	6	14	169	30	1	1	11	1	1	1	9	1	2	74	3	1	32	5	1	6	14	11	53	5	22	108	1,070
生息域別総数	707 (66.1%)						1 (0.1%)	24 (2.2%)					230 (21.5%)										108 (10.1%)							

1) 集計には細片も含む。 2) 種名の頭に「※」の付く貝種は、同定不明確の資料も含んでいる。

**マイマイ類** 破損した殻の形状からマイマイ類と判断できた破片が、第II層群から4点と調査区内一括から1点の計5点が検出された。これらには左巻きと右巻きの種がある。

**サルボオガイ属** 海産種で多歯型である。サルボオガイ属には、肋の本数によりハイガイ(17本程度)、サルボオガイ(32本程度)、クイチガイサルボオ基準型・外海型・西日本内湾型(32本程度)、サトウガイ(38~40本程度)、アカガイ(42本程度)に分けられるが、出土資料はハイガイよりも本数が多く、形状からサルボオガイ属と同定された。本種は加工品(第3節参照)のみであり、他に破片などは発見されなかった。

**フネガイ科の一種** 海産で、多歯型である。フネガイ科の特徴を有する製品が1点出土した(第3節参照)。殻頂部の破片であるため科以上の同定は難しいが、大型であることや形状からハイガイ以外と考えられる。

**カワシンジュガイ**(写真図版 43-18~21) 淡水産種で、北海道から山口県以东の本州に分布し、主に河川に生息する。マス科の魚と共生し、本種の幼生はグロキジウムで魚の鰓や鰭に着生する。現在は環境省により絶滅危惧I B類(EN)に選定されている。岩陰部では表層から第II層群、調査区内一括と満遍なく検出された。とくに第II層群が364点と圧倒的に多い。ただし、カワシンジュガイは保存状態が良好な殻が少ないことから、劣化した細片数を多く含んでいる。カワシンジュガイには殻表に赤色顔料が付着した個体もあった(第3節参照)。

**イシガイ目・イシガイ科**(写真図版 43-34~37) イシガイ科のうち、イシガイは北海道から九州に分布し、主に低地の緩やかな流れの水路や池の止水に生息する。ドブガイは日本各地の池や川の砂底中に埋もれて棲み、カラスガイは泥深い池や沼の水底に棲む大型の淡水産種で北海道から九州に生息する。岩陰部で同定されたイシガイ科には、大型で薄質の殻の破片や側歯部分が同定できたが、殻内面に真珠光沢をもつカワシンジュガイ、マツカサガイ、ドブガイ、カラスガイとの区別が難しい破片が多いため、イシガイ科もしくはイシガイ目と同定した。なお、殻の中には明らかに大型で薄質タイプとやや厚みのあるタイプがある。薄質タイプの殻には断面が直線的(34・35)、あるいは尖った状態に加工したような破片(36)もあることから、これらは人為的な加工の可能性もある(黒住氏ご教示)。

**淡水産二枚貝** 破片で出土したもので、カワシンジュガイ科とイシガイ科、もしくはイシガイ目を含むと考えられる。

**ヤマトシジミ**(写真図版 43-26) 殻は完形ではなく一部欠損しているため、ヤマトシジミと確実に同定することは難しいが、形状からヤマトシジミと同定した。近似種のマシジミは縄文貝塚からは出土せず、それ以降に持ち込まれたと指摘されている(黒住 2021c)。ヤマトシジミは汽水産種で、北海道から九州の河口汽水域の潮下帯・砂礫底に生息する。第II層群から1点のみ検出された。

**ハマグリ**(写真図版 43-27) 海産で、国内産としてはハマグリとチョウセンハマグリがあるが、岩陰部資料

は破片だが腹縁が丸みを帯びること、套線湾入の深まりが弱く下端は突出しないことからハマグリと類似している。第Ⅱ層群から被熱していると考えられる破片が1点のみ検出された。ハマグリは北海道南部から本州両岸、九州の内湾の潮間帯下部・砂泥底に生息する。

**ツノガイ** 海産で、東北地方以南の外洋の下部浅海帯の砂底に分布する。殻頂には9本の稜があるが、殻口へ向かって消え、殻口は丸い。北海道を除く日本各地の水深30～500mの細砂底に生息する。出土資料については本章第3節にて報告されている。黒住氏により化石と同定された。

**ヤスリツノガイ?** あまり反らず灰色で厚い。殻表には35～40本の鋭い縦肋が走り、それが成長脈で切られ粗造で殻頂に切れ込みがある。殻口は丸い。本州中部から四国の水深100～200mの砂底に棲む。出土資料は化石で、産地としては神奈川県三浦半島と推定されている（黒住氏のご教示、第3節参照）。

**ヤカドツノガイ** 海産で、北海道南部以南の主に内湾の上部浅海帯の砂泥底に生息する。殻は白く堅牢で通常5～9本の縦肋と弱い間肋がある。殻口は縦肋の数によるが8本のものが多いので、普通八角形である。北海道南部以南・熱帯インド-西太平洋域に広く分布する。潮間帯下部～水深100mまでの細砂底に棲む。出土資料は加工品であり、第3節にて報告している。本種も化石の可能性もある（黒住氏ご教示）。

**貝類の最小個体数** 次に、岩陰部の各層位から出土した淡水産・汽水産・海産貝類の最小個体数を算定すると、第61表のようになった。算定に際しては、黒住氏よりご提供頂いた同定データをもとに、山崎らが別に同定した結果を加えた。なお、記述に誤りがある場合は筆者の責任である。

しかし、巻貝、二枚貝ともに個体数を基準とする巻貝殻口部や二枚貝殻頂部が完存した個体が少なく、基準を満たしたのはカワニナとカワシンジュガイの2種のみであった。なお、算定が難しかった種については、その存在を示すため\*印で表示した。その結果、カワニナは岩陰部で51個体(76.1%)と最も多く、カワシンジュガイは16個体(23.9%)を含むことが明らかとなった。ただし、カワシンジュガイの殻は脆弱で出土後の乾燥により破片化が進むことも多く、個体数が過小評価されている可能性も否めない。

カワニナは第Ⅰ層群から3点、第Ⅱ層群から48点と第Ⅱ層群の出土が多かった(第61表)。第Ⅱ層群のなかでは⑥層で19点、⑦層で6点(いずれの層もSB1を含む)となり、また人骨覆土であるd・e・f・i・j層からも15点と多く出土した。現生のカワニナは螺塔が侵食されることも多いというが(黒住2021c)、出土資料でも侵食された個体が多かった。また、被熱を受けて灰黒色に変色したと推測される個体も観察できた。

カワシンジュガイも第Ⅰ層群から1点、第Ⅱ層群から15点と第Ⅱ層群の出土が多かった(第61表)。第Ⅱ層群では7号灰ブロックから1点、⑥層から4点、人骨覆土のe・i層から6点が検出されたが、破片で出土した層位も合わせればカワニナと同様の層位から出土している。カワシンジュガイの中には、被熱して灰色や灰黒色化したり大型殻の内面に灰が付着するものや、殻頂部に擦り切ったような痕跡が観察されるものもあった(黒住氏ご教示)。また、カワシンジュガイ科あるいはイシガイ科の破片には、殻表に赤色の付着物と割れ口2片に研磨痕が観察される破片もあった。被熱した個体については食利用の可能性もあろうが、人為的に加工されたと思われる痕跡や第6章第3節で報告した赤色塗彩破片(図版42-65)も出土することから、カワシンジュガイは食利用以外にも利用された可能性が考えられる。破片の観察からは殻の大きい個体が多い印象があるので、埋葬人骨との関係性などの検討が必要と考えられる。

カワニナとカワシンジュガイ以外の貝種の出土状況をみると(第61表)、汽水産と海産貝類は第Ⅱ層群以外では出土しておらず、また、ツノガイ類は人骨覆土のf・i・j層から出土することで埋葬人骨との相関が強い可能性がある。ヤマトシジミはロ4の第Ⅱ層群から被熱して灰黒色化した右の破片が1点のみ出土したが、第2次・第3次調査では隣接するロ5の第Ⅱ層群から黒く被熱した左の完形殻1点が出土している。この左右殻が同一個体に帰属するかは断定できないが、外見的にはよく似ていた。また、ハマグリや焼けた破片およびツノガイも第Ⅱ層群から出土している。現時点では、ヤマトシジミやハマグリといった、本遺跡周辺に生息しない貝種の個体数は1点(1個体?)のみである。ツノガイ類および海産二枚貝もしくは骨と思われる破片以外は、現時点では前庭部緩斜面で出土していない。このようなことから考えると、汽水産・海産貝類の希少性は埋葬地である岩

第 61 表 岩陰部における淡水・汽水・海産貝類の層別出土数

貝種名 層名	淡水産					汽水産		海産					不明		
	カワニナ MNI	巻貝	カワシンジュガイ MNI	イシガイ科	イシガイ科 or カワシンジュガイ科	イシガイ目・イシガイ科	淡水産二枚貝	ヤマトシジミ	ハマグリ	ツノガイ	ヤカドツノガイ	イモガイ類	メダカラ?	海産巻貝	貝類破片
第 I 層群	第 I 層群	1													*
	SB1 ③層	1		1		*	*								
	SB1 ⑤層	1													
	計	3(75%)		1(25%)		*	*								*
第 II 層群	7号灰ブロック			1											
	8号灰ブロック						*								
	⑨層	1													
	第 II 層群	7		3	*	*	*	*							*
	SB1 ⑥層	7		*			*		*	*					*
	⑥層	12		4		*	*	*							*
	SB1 ⑦層	1	*	*										*	
	⑦層	5		*			*	*		*					
	d層	1													
	e層	2		2											*
	f層	2		*			*	*		*					
	i層	3		4	*	*	*			*	*	*		*	*
	j層	7	*	*			*			*			*	*	
	性格不明遺構			1											
計	48 (76.2%)	*	15 (23.8%)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
不明	不明	*	*	*		*									*
	計	*	*	*		*									*
合計	51 (76.1%)		16 (23.9%)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	

1) 「\*」は破片有りを示す。

陰部と強く関係していることが示唆される。

次に、陸産微小貝類の層別 MNI をみると (第 62 表)、第 I 層群は個体数が少ないため信頼性は低い、林縁生息種の 5 種、開放地生息種の 1 種が出土し、最も多いのはオカチョウジガイであった。第 II 層群は林内・林縁・開放地生息種と幅広く出土したが、最も多かったのはオカチョウジガイやヒダリマキマイマイなどの林縁生息種 (74.2%) であるが、ホソオカチョウジガイやヒメコハクガイ類などの開放地生息種もやや多かった (22.7%)。第 II 層群の各層出土状況をみると、林内生息種のマツシマクチミゾガイ? およびツムガタモドキギセル? は人骨覆土の j 層のみから検出されたが、林縁生息種と開放地生息種は SB1 ⑥層や人骨覆土 e・f・i・j 層に

多く含まれていた。また、被熱した個体はニッポンマイマイが 1 点、オカチョウジガイが 7 点出土した。

岩陰部の第 I 層群と第 II 層群出土の陸産貝類を生息環境別に示すならば第 109 図 (A) のようになり、生息環境ごとに一括して示すと第 109 図 (B) のようになる。第 I 層群はわずか 5 点による割合であるため参考程度であるが、縄文時代早期後葉の条痕文期の第 II 層群は林内生息種もわずかにあるが (3.1%)、林縁生息種が 74.2%、開放地生息種が 22.7% という構成になった。現在も岩陰開口部の上方や周囲に林が広がっているが、当時も同様に森林に囲まれ、開口部には草地や灌木があるような開けた空間であった可能性がある。

b) 甲殻類 (第 63 表、写真図版 43-40)

本遺跡で初めてロ 5 の SB1 第 II 層群⑥層から、ピックアップ法によりハサミ脚の破片 1 点が検出された。ハサミ脚の先端および基部は欠損しているが、保存状態は良好である。被熱痕があり、先端部は暗黒色で下半部は白色を呈する。ハサミ脚の外側面には長軸に平行して断続的に続く溝が 3 条あるが、中央の溝が最も目立つ。内側面にも同様の溝がある。咬合縁には顆粒の大きな歯の間に小さな歯が 1~2 歯ある。これらの特徴や外形は、現生サワガニのハサミ脚不動指の特徴に一致した。サワガニ属には鹿児島県の大隅半島にのみ分布するミカゲサワガニも知られているが (和田 2017)、地理的位置から判断してサワガニ? と同定した。

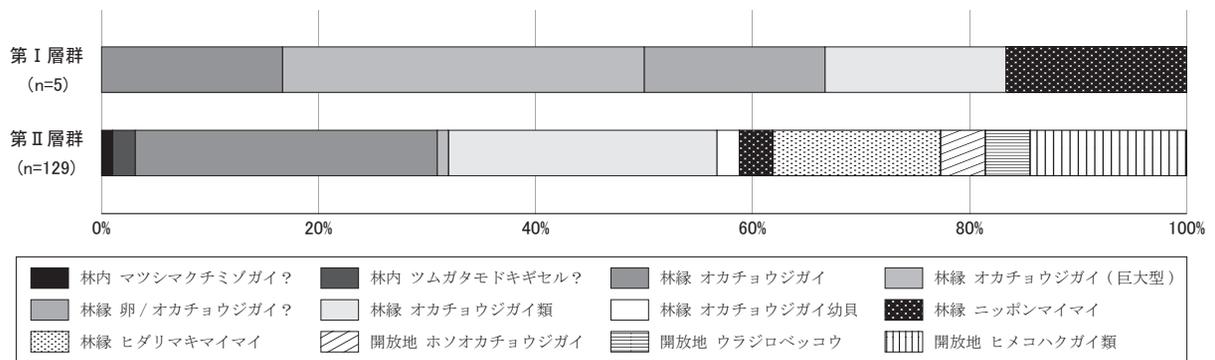
サワガニは、河川の流水域から水際環境、土手から森林林床部まで幅広い生息域をもつ。出現するのは春から秋までで、冬季は水際の土手などで越冬する。陸上部では甲幅 10mm 以上の成体・亜成体が生息し、小型の幼ガニは侵出しにくい。水際環境では幼ガニから成ガニまで幅広くみられる (和田 2017)。食用にされるが、肺吸虫の第 2 中間宿主となることがあるため熱処理が必要である (内田監修・北隆館編 1981)。

第62表 岩陰部における生息域別陸産貝類の層位別出土数

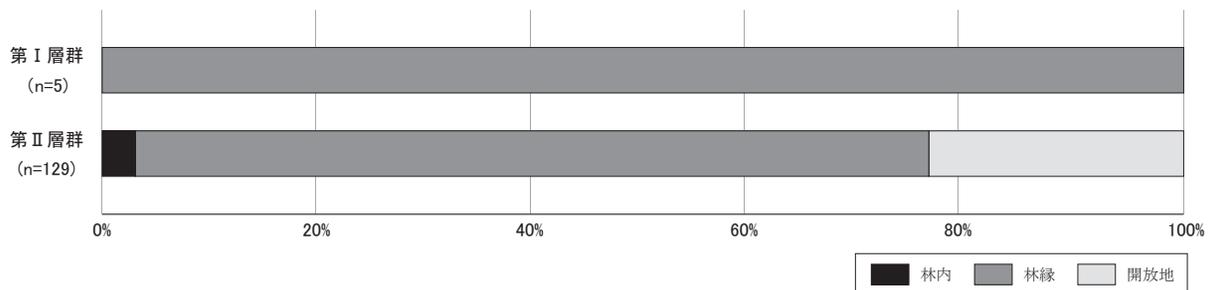
層名	貝種名	林内		林縁					開放地			林縁開放地	微小貝破片	合計	
		マツシマクチミノガイ？	ツムガタモドキギセル？	オカチョウジガイ	オカチョウジガイ（巨大型）	卵/オカチョウジガイ？	ニッポンマイマイ	ヒダリマキマイマイ	マイマイ類（不明）	※ホソオカチョウジガイ	※ホソオカチョウジガイ類（含む）	ウラジロベッコウ			ヒメコハクガイ類
表層	表層			1						1					1
	小計			1(100%)						1(100%)					1(100%)
第I層群	SB1 ③層			1	2	1									4
	第I層群									1					1
	小計			1(20%)	2(40%)	1(20%)				1(20%)					5(100%)
第II層群	SB1 ⑥層			12	1		2	3	1		3	2	1		25
	SB1 ⑦層			1						1		2			5
	SB1 ⑧層			1							1	1			3
	⑥層								1		3				4
	⑦層								1						1
	⑨層			1							1				2
	d層			3						2			2		7
	e層									1	3		1		5
	f層			4							2				7
	i層						1	4				3	3		11
	j層	1	2	23			1	6			4		4		41
	性格不明遺構									1					1
	第II層群			8						1		8			17
	小計	1(1%)	2(2%)	53(41%)	1(1%)		4(3%)	15(12%)	4(4%)	4(3%)	26(20%)	4(3%)	14(11%)	1(1%)	129(100%)
調査区内一括	調査区内一括									1	3		1		5
	小計									1(20%)	3(60%)		1(20%)		5(100%)
合計		1	2	55	3	1	4	15	4	5	30	4	15	1	140(100%)

1) 貝種名に付けた※は同定不明確であることを示す。

(A) 第I層群と第II層群の種別比較



(B) 第I層群と第II層群の生息環境別比較



第109図 岩陰部における陸産貝類の生息域別にみた構成比

本遺跡の調査中、深沢から移動したサワガニが調査区に侵入することが日常的であったことから、遺跡形成当時に自然堆積した可能性も想定できる。しかし、被熱していることから、食用対象か、あるいは偶然に被熱した可能性が推測される。

c) 魚類 (第 63 表)

**コイ科** (写真図版 43-41) ロ 8 第 II 層群からコイ科と思われる椎体が 1 点出土した。神経棘および血管棘が欠損した尾椎である。本資料はコイ科の特徴を有する椎体であるが、椎体中央には明瞭な横方向の隆起帯が 1 列あり、神経突起後方には小さな突起を有する点で現生ウグイ属に近似する。しかし、本資料の神経棘周辺が欠損していることから、ここではコイ科として同定する。被熱の痕跡は認められない。

**サケ属** (写真図版 43-42) ハ 8 第 II 層群からサケ属の椎体側面の破片 1 点が出土した。本資料は椎体内部の網目状模様を残す小破片であり、最大長が約 3.42mm、関節面の最大高が 3.27mm を測る。本資料の網目模様は密でほぼ同一のサイズであることから、現生のサツキマス (アマゴ) (科博 POF-433)、ヤマメ (科博 POF-11)、サケ (山崎所有) のサケ属に近似する。一方で、小穴の大きさが不均質で横方向に隆起帯が目立つイワナ (山崎所有) とは異なっていたことから、本資料はサケ属と同定した。同定に際しては、樋泉岳二氏に出土資料を同氏所蔵の現生骨格標本と比較観察して頂いた上で、サケ属であり、破片サイズからはサケまたは大型のヤマメの可能性があるとご教示頂いた。サケ属とイワナの椎体模様の違いについては、樋泉 (2020) でも指摘されている。全体に暗黒色に被熱しており、網目状模様の空隙には灰が詰まっている。

**カマス科** (写真図版 43-43) ハ 8 第 II 層群から、超大型のカマス科の左歯骨破片 1 点が発見された。同定に際しては、破片の大きさからスズキ目で魚体長が 1m を超える種類と予想されたため、現生のマグロ属 (クロマグロ; 科博 POF-213、メバチ; 科博 POF-746)、サワラ (科博 POF-659)、カマスサワラ (科博 POF-659)、クロタチカマス科 (ナガタチカマス; 科博 POF-774)、カマス属 (山崎所有)、タチウオ (科博 POF-165) など数種と比較した結果、三角形の歯を有すること、歯と歯の間に間隙があること、歯の湾曲度合と自然面 (舌側面) の特徴が、カマス属やクロタチカマス科に近似していた。しかし、クロタチカマス科は水深 100m 以深の深海性であり (ナガタチカマスの場合は大陸棚縁辺域や海山における水深 400m 以深の中深層~低層遊泳性)、夜間は表層に生息する (中坊編・監修 2018)。縄文時代の漁撈技術では考えにくいと、本資料はカマス科の超大型種であると判断した。同定に際しては、樋泉岳二氏より縄文時代の技術面を考慮してカマス科 (超大型) の可能性が高いとご教示頂いた。なお、カマス科で 1m を超える種としては、オニカマスがある。成魚は内湾やサンゴ礁

第 63 表 岩陰部における甲殻類および脊椎動物の層位別出土数

層名	種名	サワガニ?	サケ属	コイ科	カマス科	ヒキガエル属	アカガエル科?	カエル類	ヘビ類	キジ科	カモ亜科	スズメ目	タカ科	チドリ目	フクロウ科	鳥類種不明	鳥類同定不能	アカネズミ属	ネズミ形亜目	ヒミズ族	アズマモグラ	ムササビ	齧歯目	ニホンノウサギ	ニホンアナグマ	イヌ	タヌキ	アカギツネ	イヌ科	ツキノワグマ	ニホンジカ	イノシシ	ニホンジカ or イノシシ	ニホンジカ or ニホンカモシカ?	哺乳類種不明	総計
		表層							1												1	1		1								3				
第 I 層群							14.3												14.3	14.3		14.3								42.9						100
第 II 層群							1	4									1		1				2				1			6	2				2	20
第 II 層群							5.0	20.0									5.0		5.0				10.0					5.0		30.0	10.0				10.0	100
第 II 層群		1	1	1	5	1	11	3	53	2	7	1	1	22	22	38	2	22	1	1		1	2	1	1	1	6	5	2	303	143	31	1	15	685	
第 II 層群		0.1	0.1	0.1	0.7	0.1	1.6	0.4	7.7	0.3	1.0	0.1	0.1	3.2	3.2	5.6	0.3	3.2	0.1	0.1		0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.9	0.7	0.3	44.3	20.9	4.5	0.1	2.2	100	
調査区内一括	1							1								1	1																		4	
調査区内一括		25.0						25.0								25.0	25.0																			100
総計	1	1	1	1	6	1	13	3	58	2	7	1	1	1	23	39	2	24	2	1	1	3	1	1	1	1	7	5	2	312	145	31	1	17	715	
総計		0.1	0.1	0.1	0.1	0.8	0.1	1.8	0.4	8.1	0.3	1.0	0.1	0.1	0.1	3.2	12.9	0.3	3.4	0.3	0.1	0.1	0.4	0.1	0.1	0.1	1.0	0.7	0.3	43.6	20.3	4.3	0.1	2.3	100	
動物群別総数	1	3		20		3																													715	
動物群別総数	(0.1)	(0.4)		(2.8)		(0.4)																													(100)	

1) 上段は点数、下段はパーセンテージ (%) 2) 哺乳類種不明には脊椎動物以上に同定できなかった資料も含めた。

域の浅所に生息し、人を襲うことがある。日本列島では小笠原諸島、硫黄島、相模湾～トカラ列島の太平洋沿岸・若狭湾・長崎県・琉球列島に分布。大型個体はシガテラ毒をもつことがあり、一般には食用にされない（中坊編・監修 2018）。

破片はほぼ四角形を呈しており、上端最大長 28.83mm で、三角形の鋭利な歯が 2 本植立する歯列帯を残している。歯に隣接する側の割れ口は、歯列带上端から底部までの最大高は 16.49mm であり、他方の歯が欠落する側の割れ口最大高は 12.98mm である。また、底面部割れ口の最大長は 32.58mm である。歯に隣接する側の割れ口には、打撃が加えられたような複数の剥離痕が観察される。他方の割れ口は直線的で平坦である。歯列直下の自然面から剥離痕のある割れ口周辺、および底面の割れ口縁辺に暗黒色の被熱痕が認められる。歯列帯および 2 本の歯の周辺は、灰性物質を含む細粒で覆われている。2 本の歯の間には小穴があり、逆三角形の固形物が逆位で挟まっている。実体顕微鏡で観察すると、固形物の上面は割れており、穴に向かって三角形であることから、折れた歯が逆向きに挟まっているように見える。破片の内外面には、植物根による U 字形の溝をもつ有機線状痕（Fernández-Jalvo *et al.* 2016）が多数観察される。

**d) 両生類**（第 63 表・第 64 表）

無尾目カエル類の遺存体が、同定対象資料として岩陰部から 20 点が出土している。そのため、国立科学博物館所蔵の現生骨格標本と対比し、また岡村（1964）、野苺家・長谷川（1979）、河村・樽野（1993）、松井（2008）などを参考に同定作業を行った。しかし、筆者はカエル類の同定能力が乏しく、また専門的知識を持ち合わせていないため、現生骨格標本と比較をしても正確な同定を行うことができなかった。現時点では暫定的な同定結果として報告するが、本遺跡では多量のカエル類が出土していることを考えると、将来的には専門的研究者の協力を得ることが必要となろう。

**ヒキガエル属** ヒキガエル属として同定したものは、現生骨格標本や上記文献を参照し、形態的特徴のある部位や比較的大型のサイズである資料が中心となった。なお、筆者には左右の同定は難しく、不明や保留とした資料が多く残った。出土する部位はほぼ全身であるが、頭部の骨は未同定もしくは同定不可資料に含まれている可能性はあるが、分析対象とした資料にはなかった。同定できた部位は、烏口骨、脊椎骨、上腕骨、橈尺骨、寛骨、腸骨、大腿骨、脛腓骨、指趾骨である。上腕骨は、内側翼の発達で雌雄差が明瞭とされているので（野苺家・長谷川 1979）、雌雄の区別については内側翼の発達程度を基準にした。

ヒキガエル属は日本にはニホンヒキガエル、アズマヒキガエル、ナガレヒキガエル、ミヤコヒキガエルの 3 種 1 亜種があるが、本州に生息するのは前 3 者である。いずれも♂よりも♀の方が大きい。ニホンヒキガエルは本州西南部から九州に生息し、分子系統学的に東北日本産のアズマヒキガエルと大きく分化するだけでなく亜種内にもナガレヒキガエルと側系統をなす点で分類学的再検討が必要な種である。また、アズマヒキガエルはニホンヒキガエルの東北日本産亜種で形態は非常に似るが、ニホンヒキガエルとの分布境界ではより山地に分布し、ナガレヒキガエルと同地的に分布することもある。また、ニホンヒキガエルやナガレヒキガエルと遺伝的に大きく分化するが、亜種内にも遺伝的

**第 64 表 岩陰部における両生類の構成**

大別層名	層名	動物種名	点数計 (%)	MNI (部位名)	被熱色・点数
表層	表層①層	カエル類	1 (5%)		
第 I 層群	SB1 第⑤層	カエル類	1 (5%)		
第 II 層群	SB1 ⑥層	ヒキガエル属	5 (25%)	1 (寛骨)	
	⑥層	ヒキガエル属			
	⑦層	ヒキガエル属			
	⑦層	ヒキガエル属?			
	e 層	ヒキガエル属			
	e 層	アカガエル科?	1 (5%)	1 (右腸骨)	
	7 号灰ブロック	カエル類	11 (55%)	2 (左上腕骨)	黒 1
	EL - 115-120	カエル類			
	EL - 125-130	カエル類			
	SB1 ⑥層	カエル類			
⑥層	カエル類	白 1			
⑦層	カエル類				
i 層	カエル類?				
j 層	カエル類			黒 1	
調査区内一括		ヒキガエル	1 (5%)		
総計			20 (100%)	4 個体	3 点

分化の進んだ2系統があり、東北高地産の小型の個体群（ヤマヒキガエル）の分類学的再検討が必要である。ナガレヒキガエルは中部地方と近畿地方に分布し、アズマヒキガエルと同地的に生息し稀に自然交雑する。遺伝的にはニホンヒキガエルに近い種である（松井 2016）。

このようにヒキガエル属は分類学的な位置づけに課題も指摘されるが、出土資料については地理的にみてアズマヒキガエルの可能性が高いと判断し、ヒキガエル属と同定した。第II層群の⑥・⑦層と人骨覆土のe層から5点、調査区内一括から1点の計6点が出土した。第II層群から出土したヒキガエル属のMNIは、左寛骨から1個体である。

**アカガエル科?** 現生骨格標本のヒキガエルおよびアカガエル属と比較し、アカガエル属に近似する資料をアカガエル科と同定したが、アカガエル科以外との区別が明瞭にできていないため「?」を付した。岩陰部では第II層群の人骨覆土e層から右腸骨が1点出土した。

**科属不明（カエル類）**（写真図版 43-45）カエル類は、ヒキガエル属やアカガエル科と明確に同定できなかった資料を一括したものである。ヒキガエルと近似するタイプや異なるタイプ、細身タイプ、大型や超小型タイプを含んでいる。表層と第I層群から各1点、第II層群から11点の計14点が出土した。第II層群では7号灰ブロック、⑥層、人骨覆土j層から黒色や白色に変化した被熱資料も確認した。

**e) 爬虫類（ヘビ類）**（第63表）

ロ4の第II層群j層から椎体が2点（図版 43-44）、ハ9の第II層群h層から椎体が1点検出された。椎体はいずれもほぼ完形であり、保存状態は良好である。椎体の後面にはヘビ類特有の球状顆を有するが、詳細な同定は行っていないのでヘビ類とした。被熱の痕跡はない。

**f) 鳥類**（第63表・第65表）

鳥類は132点を同定した。なお、江田氏にすべての資料を同定して頂くことができなかったため、同定対象外とした中に未同定の鳥類遺存体が多く残っている。ここでは江田氏作成のデータに基づき報告するが、記述に誤りがある場合はすべて筆者の責任である。

岩陰部ではキジ科、カモ亜科、スズメ目、タカ科、チドリ目、フクロウ科が同定できた（第65表）。

**キジ科**（写真図版 44-39・40・42～47）キジ科は第I層群から第II層群までを通して、最も多く検出された。第I層群、同③層、SB1③層から上腕骨、尺骨、大腿骨、足根中足骨の4点が出土した。左大腿骨から最小個体数は1個体と推定した。なかには、黒色の被熱痕をもつもの1点、骨幹に小動物の咬痕をもつもの1点、骨髓骨があるもの1点が含まれている。また、現生標本のヤマドリ（江田氏標本 No.EP-144）よりもやや小さい個体1個体と、ほぼ同大の個体3個体が含まれている。

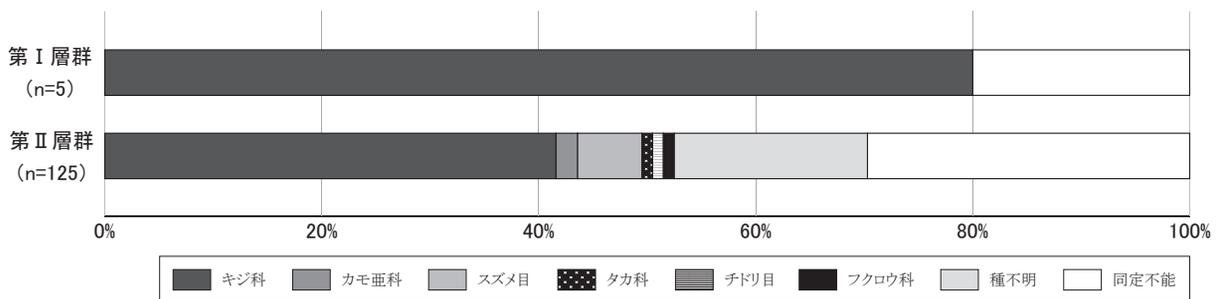
第II層群では53点と最も多く検出しており、部位も上下顎骨・上腕骨・手根中手骨・橈骨・尺骨・叉骨・足根中足骨・鳥口骨・大腿骨・趾骨など、全身各部位が同定された。遺構からは、性格不明遺構からキジ科が3点、人骨覆土のc・d・e・f・h・i・j層においては14点が出土された。これら遺構覆土の鳥類の構成比と他の第II層群各堆積層における鳥類の構成比を比較すると、前者ではキジ科のみ、あるいはキジ科と種不明・同定不能個体で構成されているのに対し、⑥・⑦・⑳層、SB1⑥・⑦層ではキジ科とともにカモ亜科、スズメ目、チドリ目、タカ科など複数種が含まれている点が異なっている。ただし、EL-115～130や㉒層ではキジ科やフクロウ科、スズメ目が単独で検出されている例もあるので、遺構との違いがあるかどうかは今後の課題である。第II層群では左脛足根骨遠位部から最小個体数は4個体と推定した。

痕跡に関しては被熱を受けた痕として、被熱あり1点、褐色3点、黒色1点、灰色4点、白色11点の合計20点に変色を確認された。また、鳥口骨から切り外した際に付いたと思われる切断痕が、上腕骨1点（上腕骨頭から腹結節）に観察された。ほかに骨学的特徴としては、過伸展痕の可能性のある上腕骨の遠位端1点と、消化痕の可能性のある脛足根骨遠位端1点を確認された。江田氏標本を基準としたサイズでは、キジ（EP-143）とほぼ同大のもの11点、キジ（EP-143）より少し大きいもの1点、キジ（EP-143）より少し小さいもの1点、ヤマドリ（EP-144）とほぼ同大のもの27点、ヤマドリ（EP-144）よりかなり小さいもの2点、ヤマドリ（EP-144）

第65表 岩陰部における鳥類の構成

層名		動物種名	部位	NISP	層名	動物種名	部位	NISP		
第I層群	③層	キジ科	足根中足骨 p	4	第II層群	⑦層	キジ科	鳥口骨 d、鳥口骨 f	6	
	SB1 ③層	キジ科	尺骨 s				キジ科	肩甲骨 p		
	第I層群	キジ科	大腿骨 d				キジ科	足根中足骨 p、足根中足骨 s		
	SB1 ③層	同定不能	上腕骨 p				キジ科	脛足根骨 d		
SB1 ③層	同定不能	四肢骨	1	スズメ目			鳥口骨 s	1		
第II層群	EL - 115-120	フクロウ科	脛足根骨 d	1		種不明・同定不能	趾骨、尺骨など	7		
	EL - 120-125	スズメ目	足根中足骨 p	1		SB1 ⑦層	キジ科	橈骨 s	1	
		種不明	趾骨	1		チドリ目	脛足根骨 d	1		
	EL - 125-130	キジ科	上腕骨 d	2		⑨層	種不明・同定不能	橈骨	2	
			手根中手骨 p			⑩層	キジ科	足根中足骨 s	2	
	同定不能	四肢骨など	3	スズメ目	手根中手骨 w			2		
	EL - 130-135	キジ科	カモ亜科	手根中手骨 d	1			タカ科	足根中足骨 p	
			下顎骨 t	6	種不明・同定不能			趾骨	7	
			上腕骨 s		⑪層			キジ科	脛足根骨 s	1
			橈骨 p			c 層	キジ科		上腕骨 w	1
			尺骨 s		d 層	キジ科 (?含む)	上腕骨 s	3		
			叉骨				叉骨 m			
			足根中足骨 s				叉骨			
	種不明・同定不能	趾骨、寛骨など	6	e 層	キジ科	上腕骨 w	1			
	7号灰ブロック	キジ科	上腕骨 d	1	種不明・同定不能	四肢骨、趾骨	2			
	性格不明遺構	キジ科	橈骨 s	3	f 層	種不明	肋骨	1		
			鳥口骨 d		h 層	キジ科	脛足根骨 Ld	3		
			手根中手骨 d				種不明・同定不能	趾骨、四肢骨	3	
	種不明・同定不能	肋骨、四肢骨	3	i 層	キジ科	上顎骨 t	3			
	⑥層	キジ科	鳥口骨 Rd、鳥口骨 Rw			11	手根中手骨 d			
上腕骨 s、上腕骨 d				連合寛骨 d						
橈骨 d				種不明・同定不能	趾骨	4				
手根中手骨 Rw、手根中手骨 Rp				j 層	キジ科	上腕骨 s	3			
大腿骨 s						脛足根骨 Ld、脛足根骨 s				
脛足根骨 d、脛足根骨 s				第II層群	キジ科	橈骨 d、橈骨 s	3			
カモ亜科			叉骨			1	尺骨 d			
スズメ目	尺骨 d	1	種不明・同定不能			趾骨、脛足根骨	2			
種不明・同定不能	趾骨	17	調査区内一括			キジ科	叉骨	1		
SB1 ⑥層	キジ科	鳥口骨 Rd	3	種不明	椎骨	1				
		上腕骨 d		大別層別 MNI	層名	キジ科 (最小個体数)	その他の鳥類 (最小個体数)	NISP		
		足根中足骨 s				第I層群	1 (大腿 L)		1	
	スズメ目	足根中足骨 p	2	第II層群	4 (脛足根 Ld)	スズメ目 2 (足根中足骨)、カモ亜科 1 (手根中手骨)、タカ科 1 (足根中足骨)、チドリ目 1 (脛足根骨)、フクロウ科 1 (脛足根骨)		10		
	種不明・同定不能	趾骨、四肢骨	2							

- 1) 残存状態は w : 完存、p : 近位端・近位端～中間部 (鳥口骨では胸端)、d : 遠位端・遠位端～中間部 (鳥口骨では肩端、寛骨では臼部)、s : 中間部 (破片含む)、m : 左右中央部 (叉骨)、t : 下顎骨先端
- 2) MNI が複数個体になる種の場合、基準にした部位名に R (右) と L (左) で左右を表示した。
- 3) 種不明と同定不能は「不明」として一括集計した。



第110図 岩陰部における鳥類の層別構成比

よりやや小さいもの1点、ヤマドリ (EP-144) より少し小さいもの7点、ヤマドリ (EP-144) より小さいもの3点、ヤマドリ (EP-144) より小さいがライチョウ (KP157-01; 実際にはおそらくエゾライチョウ) より大きいもの3点があった。キジ科には大小複数サイズの種が含まれていることが明らかとなった。

**カモ亜科** (写真図版 44-37・38) 第II層群の EL - 130 ~ 135 からカモ亜科の手根中手骨が1点、⑥層より叉骨1点の計2点が検出された。手根中手骨はホシハジロ (EP-83) とほぼ同大であり、叉骨はオナガガモ (EP-4) より少し小さいサイズであった。

**スズメ目** (写真図版 44-48 ~ 50) 第II層群の EL - 120 ~ 125 から足根中足骨1点、⑥層より尺骨1点、⑦層より鳥口骨1点、SB1 ⑥層より鳥口骨と足根中足骨が各1点、②層より手根中手骨と足根中足骨が各1点の計7点が検出された。最小個体数は足根中足骨から2個体と推定した。痕跡としては、尺骨遠位端1点に白色の被熱痕が認められた。現生骨格標本とのサイズ比較では、アカハラ (KP425-01) とトラツグミ (KP419-28) の中間のもの2点、オナガ (KP535-11) とカケス (FRIJ-10738) の中間のもの1点、カケス (FRIJ-10738) とほぼ同大のもの1点、カケス (FRIJ-10738) より少し小さいもの1点、シロハラ (KP427-22) とほぼ同大のもの1点、トラツグミ (KP419-28) とほぼ同大のもの1点であった。スズメ目にも大小のサイズを含めて複数の種が含まれていることが確認された。

**タカ科** 第II層群②層から、タカ科の足根中足骨1点が検出された。トビ (EP-3) とほぼ同大のサイズである。最小個体数は1個体である。

**チドリ目** (写真図版 44-51) SB1 ⑦層から、脛足根骨が1点検出された。近位端よりに被熱痕が認められる。形態からはヤマシギに近い可能性があり、サイズでは現生骨格標本のタシギ (KP245-1) とタゲリ (KP198-1) の中間と推定されている。最小個体数は1個体である。

**フクロウ科** (写真図版 44-52) EL - 115 ~ 120 より脛足根骨1点が検出された。サイズはフクロウ (EP-36) よりかなり小さく、オオコノハズク (EP-16) より大きい個体である。最小個体数は1個体である。

#### g) 哺乳類 (第63表・第66表)

第1次調査以降、哺乳類は本遺跡から大量に出土する動物群であり、第4次・第5次調査においても全層を通して優勢であった。同定できた点数は表層から6点、第I層群から12点、第II層群から521点の計539点である。同定できた動物種は、アカネズミ属、ネズミ形亜目、ヒミズ族、アズマモグラ、ムササビ、齧歯目、ニホンノウサギ、ニホンアナグマ、イヌ、タヌキ、キツネ、イヌ科、ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシの15種類である。なお、真無盲腸目や齧歯目の中には化石度が低く、他の哺乳類よりも新しい時代の所産と思われる遺存体も含まれている。

**アズマモグラ・ヒミズ族** アズマモグラは、SB1 第II層群⑧層から大腿骨が1点出土したのみである (写真図版 44-62)。ヒミズ族は表層①層から上腕骨が1点、SB1 第II層群⑧層から肩甲骨1点の計2点が出土した (写真図版 44-63・64)。上腕骨は新しい時代の所産と思われる。また、肩甲骨は形態的に現生のヒミズやヒメヒミズに似ていた。

**アカネズミ属** (写真図版 44-54・55) 第II層群⑦層から下顎骨が1点と、第II層群から腸骨-坐骨-恥骨が1点の計2点が出土した。下顎骨 (左) は化石化しておらず、新しい時代の可能性もある。腸骨-坐骨-恥骨は、現生ハタネズミとは坐骨の形態が異なり、アカネズミ属に近似していた。

**ネズミ形亜目** (写真図版 44-56 ~ 60) 表層①層から第II層群にわたり、上下顎骨・上腕骨・尺骨・寛骨・大腿骨・脛腓骨・指趾骨など全身にわたる部位が計24点出土した。層位では第II層群に集中し、とくに⑥層とSB1 ⑥層から多く出土した。また、人骨覆土のj層からも出土したが、i層では7点と最も多かった。ただし、表層・第II層群・h層出土の遺存体は、新しい時代の所産と考えられた。また、人骨覆土のj層からは被熱して赤茶色に変色したと思われる左脛骨も検出された。SB1 第II層群⑥層の上腕骨は、現生のヤチネズミもしくはアカネズミに近似していた。

**ムササビ・齧歯目** ムササビは、表層①層からM2とM3が植立する上顎骨が1点出土した (写真図版 44-

53)。下顎骨は赤茶色に変色していることから被熱の可能性がある。なお、同一個体かは不明であるが、同時に取り上げられた破片1点は黒色に変色していた。齧歯目は、ネズミ形垂目もしくはリス形垂目と同定できなかった下顎切歯や大白歯が確認されている。SB1 第I層群⑤層、第II層群i層から出土したが、SB1 第I層群⑤層の下顎切歯はリスよりも大きいサイズである。

**ニホンノウサギ・ニホンアナグマ** ニホンノウサギは、第II層群h層から上腕骨が1点、同j層より基節骨が1点出土した（写真図版44-65・66）。ニホンアナグマは、8号灰ブロックから下顎骨1点が出土した（写真図版44-71）。

**イヌ**（写真図版44-69）イヌは、SB1 第II層群⑦層から左脛骨1点が出土した。近位端から骨幹中間部まで残存するが、全体的に茶褐色から黒色に被熱し、骨幹中央の割れ口はニホンジカやイノシシと同様に人為的に割られたような様相を呈している。筆者所有のシバイヌ、タヌキ、アカギツネや、国立科学博物館所蔵のタイリクオオカミの脛骨（M69726）と比較したところ、キツネと類似するが、関節形状やサイズからはシバイヌおよびタイリクオオカミに最も似ていた。また、脛骨近位端最大幅（Bp）は24.95mmであり、愛媛県上黒岩岩陰遺跡出土の1号犬（Bp=27.0mm）（Komiya *et al.* 2015）や宮城県田柄貝塚出土のイヌ（♂平均 Bp=28.9mm、♀平均 Bp=28.0mm）（茂原ほか1984）よりも小さかった。本資料は焼けているために縮小していると考えられるが、同定を決定づけるには至らなかったため、イヌの研究者である茂原信生氏に写真をお送りしご助言をお願いした。茂原氏は写真をもとに獨協医科大学所蔵の現生骨格標本などと比較検討して頂いた結果、イヌと考えられるが最終判断は実物を見ている筆者が決定してほしいとご教示頂いた。以上の段階を経て、最終的には形態やサイズからイヌと同定した。

最古の埋葬犬は、早期末から前期初頭の上黒岩岩陰遺跡から出土しているので（Komiya *et al.* 2015）、第II層群の時期（早期後葉から前期前半主体）においても飼育イヌが存在していた可能性は高いが、本遺跡においては人為的に割られ、被熱した状態で検出された。

**タヌキ・イヌ科・ツキノワグマ** タヌキは第I層群③層から黒色に被熱した右下顎骨が1点、第II層群⑥層から赤黒色に被熱した左下顎骨と遊離下顎P4など計7点出土した（写真図版44-67・68）。イヌ科では第II層群EL-120～125、EL-130～135からIや下顎I？が各1点、性格不明遺構下部から上顎I1？が1点、⑥・②層から下顎IやIが各1点の計5点が同定された。これらはイヌよりも小型であり、アカギツネやタヌキに相当するサイズと思われるが、種の同定には至らなかった。なお、種不明の中型哺乳類とした遺存体の中に、イヌ科が含まれている可能性は高い。ツキノワグマは、第II層群EL-125～130から下顎犬歯1点が出土した（写真図版44-70）。大型であり、歯冠の尖頭部分が咬耗によりすり減っているが、人為的な加工はないと思われる。

**ニホンジカ**（写真図版45-88～90・92～101）本遺跡で最も多いニホンジカは、全層から満遍なく出土した。表層では3点、第I層群では6点と少ないが、第II層群では303点と圧倒的に多くなる。層位別でみるならば、⑥層から77点と最も多く、次いで②層から43点、⑦層から37点、SB1 第II層群⑥層から32点、第II層群から21点となる。また、人骨覆土のb・d・f・h・i・j層からも出土するが、j層の23点が最も多かった。なお、第II層群h層からはニホンジカかニホンカモシカの可能性がある中手骨あるいは中足骨が1点出土した。

同定された部位は、頭部から指趾骨、種子骨に至るまで全身に及ぶ。このことから、ニホンジカは本遺跡に全身状態で持ち込まれ、解体されたと推定される。第66表に各層ごとの同定破片点数と最小個体数を示したが、層位と帰属時期との関係はまだ確定していないため、最小個体数については大別層群でまとめて算定した。ニホンジカは表層で1個体、第I層群で1個体、第II層群で6個体と推定したが、将来、調査の進展に伴って層群と時期の対応関係が明らかになった場合には数が修正される可能性がある。また、ニホンジカかイノシシかの判別ができなかった資料も多いため、同定の精度を上げることにより増える可能性もある。

ニホンジカについては第1次調査から破砕資料が多いと指摘されているが、第4次・第5次調査出土資料においても同様であり、頭部から指趾骨まで破砕されていることが明らかとなった。また、破片には解体・調理に伴うカットマークやスパイラル・フラクチャー、打点を伴う打ち割り痕、被熱痕、道具素材を作る過程を示す加

第66表 岩陰部における哺乳類の構成

層名	動物種名	部位	NISP	MNI	層名	動物種名	部位	NISP	MNI	
表層	①層	ネズミ形亜目	下顎骨 RM-1	1	1	SB1 ⑥層	ネズミ形亜目	下顎遊離 1-2、上腕 d2	4	76
		ヒミズ族	上腕骨 Lw1	1	1		ニホンジカ	Mf-1、脛骨 p1、上顎 LM-1、下顎切歯部 L-2、下顎角 R1.L1、3/4 基節 d1、胸椎 w1、f1、腰椎 f1、頸椎 f1、上腕 f1、踵 p1、側頭 f1、第1肋 R1、第2+3 手根 w1、中手 f1、3/4 中 d2、中手足 d1、角 f2、頭部(頭頂、底蝶形) f2、機 Rd1、2/5 末 w1、中足 p1	32	
		ムササビ	上顎骨 RM-1	1	1		ニホンジカ or イノシシ	胸椎 f1、腰椎 f1	2	
		ニホンジカ	中心第4 足根骨 1、中足骨 s1、3/4 基 d1	3	1		イノシシ	2/5 基 1、3/4 基 d1、2/5 中手足 d1、第4 足根 w1、機側手根 w1、2/5 末 p1、3/4 末 w1、第3 中手 Lp1、頸椎 f1、機 Lp1	10	
	不明一括	-	-	4				28		
第1層群	③層	ニホンジカ	3/4 基 d1、第2 肋 1	2	1	⑦層	アカネズミ属	下顎骨	1	100
		タヌキ	下顎骨	1	5		ニホンジカ	下顎 LP4-1、下顎 L3/c-1、環椎 f1、基 p1、3/4 基 d1、p1、脛骨 Rp1、頸椎 f2、尺骨 Lp1、上腕 Lp1、踵 Rd1、第2+3 手根 Lw1、第4 手根 Lw1、中手 Rp1.f2、中心足根第4 足根 Rw1、3/4 中 p1、中 p1、中足 f1、角 f2、機 Rf1、副手根 Lw1、3/4 末 w2.p2、腰椎 f3、基 / 中 d1、上腕骨 Lp1、肋 f1、上腕 Up1、舌 f1	37	
	ニホンジカ	上顎 i1-1	1	1	ニホンジカ or イノシシ?	下顎 Uf1、肩甲 Rp1	2			
	ニホンジカ	中手 Rf1	1	1	イノシシ	下顎 Uf1、Cf1、膝蓋 Lw2、上顎 RM1-1、第2 中足 Lw1、第3 中手 Rp1、第4 手根 Rw1、中心足根 f1、3/4 中 p1、頭 Lf1、胸椎 f2、2/5 中手足 d1、Mf1、腰椎 f1、基 pf1	17			
	イノシシ	第2 中足 Rw1、下顎 i2-1	2	1	不明一括	-	43			
	不明一括	-	-	6						
	SB1 ③層	ニホンジカ	上顎 M1-1	1	1	SB1 ⑦層	イヌ	脛骨	1	26
	SB1 ④層	齧歯目	下顎 1-1	1	3		イノシシ	3/4 中節 p1、上顎 LP-1	1	
	SB1 ⑤層	ニホンジカ	機 Rp1、3/4 末 w1	2	2		ニホンジカ	中手 s1、中心第4 足 w1、機 df1、上腕 ds1、	21	
	7号 灰ブロック	イノシシ	3/4 中手足	1	1		不明一括	-	3	
8号 灰ブロック	ニホンアナグマ	下顎骨	1	1	ネズミ形亜目	寛 f1、尺 p1	11			
	イノシシ	鼻骨	1	5	ヒミズ族	肩甲骨	15			
	不明一括	-	-	3	アズマモグラ	大腿骨	1			
	不明一括	-	-	2	ニホンジカ	機骨 Rp1、3/4 末 w1、頭 f1、大腿 pf1	1			
EL - 115-120	ニホンジカ	下顎 R11、大腿 s1	2	5	ニホンジカ or イノシシ?	機骨 Rp1	26			
	ニホンジカ or イノシシ?	耳小 1	1	1	イノシシ	中 w1	8			
EL - 120-125	イヌ科	1	1	1	不明一括	-	6			
		ニホンジカ	下顎骨? 1、手根 1、種子 2、3 中 f1、3/4 基 p1、3/4 基 d4、中 w1d1、大腿 Rp1、中足 d1、機側手根 R1、3/4 末 w1	16	28	⑧層	ニホンジカ	大腿 Up1、中手足 df1、	2	
		イノシシ	2/5 基節 w2、後頭 Rf1、大腿 Rp1、中手足 d1、3/4 中 w1、第5 中手 Lp1	7	3 (上顎 i2)	不明一括	-	1		
		不明一括	-	-	4					
EL - 125-130	ツキノワグマ	下顎犬歯	1	1	SB1 ⑧層	ニホンジカ	機骨 Rp1、3/4 末 w1、頭 f1、大腿 pf1	1		
		ニホンジカ	距骨 h1、中心第4 足 w1、機骨 Rp1、足根 w1	4		26	ニホンジカ or イノシシ?	機骨 Rp1	26	
		ニホンジカ or イノシシ?	口蓋底 f1、後頭顆 L2、耳小骨 2、上腕 Rs1	6		26	イノシシ	中 w1	8	
		イノシシ	下顎 RC1、下顎 i1-1、下顎角 R1.2/5 中 Uw、上顎 I-1、	5		10	不明一括	-	6	
	不明一括	-	-	10	⑨層	ニホンジカ	大腿 Up1、中手足 df1、	2		
第II層群	EL - 130-135	ネズミ形亜目	下顎切歯	1	第II層群	SB1 ⑨層	中型哺乳類	肋骨 f1	1	190
		イヌ科	下顎 I?	1		イヌ科	遊離歯 (0)	4		
	ニホンジカ	上顎 M1、下顎 I1、下顎 M1、脛骨 Ld1、Rp1、第2+3 手根 w1、3/4 中 d1、第4 手根 Lw1、中足 s1、角 1、M-1、末 p1、中 d1	13	34		⑩層	ニホンジカ	上顎 RM-11、下顎 Li ~ P-1、LM-1、踵 d1、脛 Lp1、d1、Rf1、種子 w1、下顎 P4-1、3/4 末 w1、大腿 Rd1、Lp1、3/4 中手足 d、中心第4 足 Lw1、3/4 中 p1、角 f1、機側手根 Rw1 (Y0360 と同-カ)、2/5 末 w1、角座 R1、2/5 基 df1、3/4 基節 w1、3/4 末 f1、胸椎 f1、脛 Ud1、種子 w1、中手足 d1	43	
	ニホンジカ or イノシシ	下顎 LM3f-1、上顎歯槽 1	2	イノシシ		上顎 Rf-1、上顎 RM2-1、3/4 基 d1、3/4 中手足 d1、第3 中手 Rp1、3/4 中 w2、2/5 中 pf1、	65			
	イノシシ	上顎 RM1、第4 中手 Rp1、指趾 w1.f1、3/4 中 w1、2/5 末 1	6	不明一括		-	1			
	不明一括	-	-	11		アカネズミ属	腸坐恥 Rw1	37		
	性格不明遺構	ニホンジカ	頸椎 f1、中足、中手 Up1、Rd1、中手足 Ud1.f1、中足 Ld1、角 f2、機骨 Ld1	9		27	ネズミ形亜目	下顎 LM-1	2	
		ニホンジカ or イノシシ?	上顎 f	4		ニホンジカ	寛 L1、脛 Lp1、上顎 LM1-1、第1 肋 f1、大腿 Rd1.Ld1、中手 s1、2/5 中 w1、中 p2、中手足 df1、中足 Rp1.Lp1.f2、角 f1、3/4 末 w1.p1、基 pf1、脛 Rp1、1、仙椎 f1	17		
		イノシシ	頭蓋 f1、眼窩 f1、基 Uw1、距 Ld1、第2 中足 Rp1、中手足 Ud1	6		26	ニホンジカ or イノシシ	脊椎 f1、中 or 末 pf1、f1	43	
		不明一括	-	-		8	イノシシ	下顎 i2-1、下顎 Cf1、下顎角 f1、上顎 If-1、頭 f1、第5 中手 Rf1、2/5 中 w1、3/4 中手足 d1、3/4 末 w1、耳小骨 Rw1	2	
性格不明遺構下部	イヌ科	上顎第1 切歯?	1	不明一括	-	1				
	ニホンジカ	基節 p1、距 w1、中 f1、中足 f1、3/4 基 p1	5	b 層	ニホンジカ	下顎枝 L1	1			
	ニホンジカ or イノシシ	大腿 Up1、腰椎 f2	3	c 層	イノシシ	基節 d1	1			
	イノシシ	踵 Ld1、第3 足根 Rw1、Mf-1、中間手根 Rw1、中 d1、	5	d 層	ニホンジカ	手根 Rw1、末 w1	2			
	不明一括	-	-	12	e 層	ニホンジカ or イノシシ	頸椎	1		
⑥層	ネズミ形亜目	下顎 lw-1、大腿 Lw1、Uw1	3	195	不明一括	-	1			
		タヌキ	下顎 Lp1-3 部 -2、LP4-1		2	2	f 層	ニホンジカ	上顎 LM 部 -1 (幼)、下顎 Rf1、3/4 中節骨 pf1、中足 Lp1、角 f1、3/4 末 w1、中手 Rp1、脛 Lp1、大腿 Lp1、	9
	イヌ科	下顎 lw-1	1		イノシシ	LM2-1、下顎 LPM 部 1、3/4 基 1、膝蓋 w1、中手足 df1、中 d1、腰椎 f1、前頭 L1	8			
	ニホンジカ	下顎 i2w-1、下顎 M1-1、下顎 RM 部 1、踵 Rp1、p1、Rp1、脛 Up1、U1、手根 Rw1、種子 w3、上顎 Lm3、上腕 Uf1、3/4 基 p3、3/4 基 d2、3/4 基 p1、pf1、大腿 d2.f1、Ld1、3/4 中手足 d1、中手足 d1.f1、3/4 中手 Ld1、中心手根 Lw2、中足 Lp1、Ud1、s2、Rp1、腸 Rd1、角 f2、3/4 末 w2、基 d1、df1、上腕 Ld1、中 f1、機 Lf1、果 Rw2、臼歯 f1、脛骨 Ld1、頸椎 f1、尺間手根 Lw1、上腕 Rd1、Ld1、第2+3 足根 Rw1、第6 環椎 f1、大腿 Rf1、Lp1、中間手根 Rw1、中 p1、3/4 中 d1、df1、p1、p1、中手足 d1、中間手根 Rw1 (Y0361 と同-カ)、2/5 末 w1、3/4 末 w1、3/4 基 df1、寛骨白 f1、頭骨 f1、尺 Rp1、Up1、大腿 Lp1、末 f1	77		ニホンジカ or イノシシ	胸椎 f1、腰椎 f1、基 d1、上腕 Ud1	4			
		不明一括	-		-	12	不明一括	-	5	
		イノシシ	下顎 i1-1、下顎 Li 部 (幼) 1、寛 R1、基 w1、距 Lw1、脛 Ld1、上腕 R1 部 1、上顎 LM 部 1、前頭 L1、3/4 中手足 Ud1、第3 手根 R1、第4 中手 Lp1、Uf1、第4 中足 Up1、3/4 中手足 d1、第5 中手 Rp1、3/4 中 w3.p1、? f1、3/4 末 w2、2/5 基 f1、2/5 末 f1、2/5 基 p1、2/5 末 f1、下顎 f1、脛 Rd1、3/4 末 p1、中手足 f1、下顎 I 部 L1、R13-1、下顎 I3-1、上顎 M1-1、上顎 R1 部 1、上顎 RM 部 (m3) 1、上腕 Ld2、踵骨 Lp1、頭骨 L1、tf1、大腿 Ld1		43	ニホンノウサギ	上腕骨	1		
		不明一括	-		-	65	ニホンジカ	手根 Rw1、3/4 中手足 d1、中心手根 Rw1、機側手根 Lw1、3/4 末 w1、中 p-d1、	6	
						ニホンジカ? カモシカ?	3/4 中手足 df1	1		
						イノシシ	上顎 R1 部 -1、基 d1	2		
						不明一括	-	3		



#### (4) 前庭部緩斜面出土動物遺存体の概要

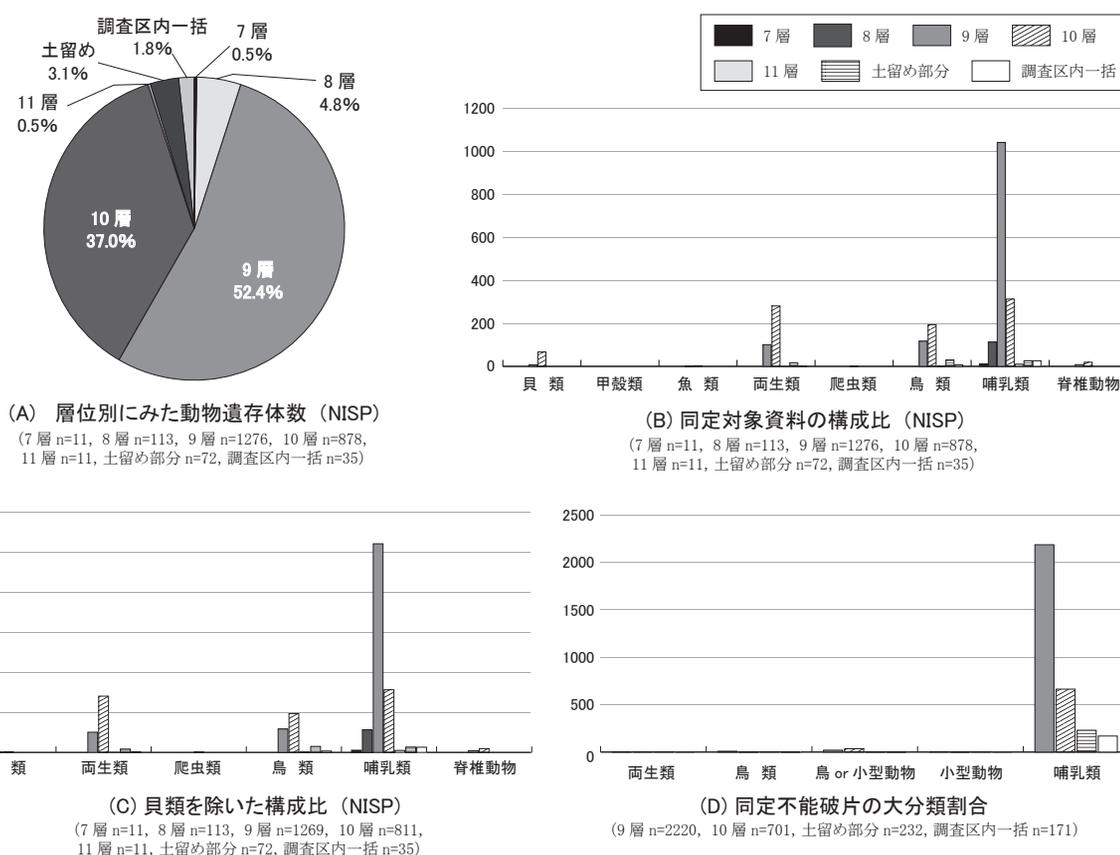
前庭部緩斜面における同定標本数 (NISP) は貝類を含み 2,322 点であるが、層位別の内訳としては 9 層が全体の 52.4% と過半数を占め、次いで 10 層 (37.0%)、8 層 (4.8%)、土留め部分 (3.1%)、調査区内一括 (1.8%)、7 層 (0.5%)、11 層 (0.5%) であった (第 112 図 (A))。動物分類群別にみると、岩陰部と異なり貝類は少なくなり (第 112 図 (B))、貝類を除く動物群でみると哺乳類が最も多くなり、次に両生類が多くなる (第 112 図 (C))。岩陰部では鳥類が第 2 位を占めていたが、前庭部緩斜面では両生類に代わっている。

各層の出土点数をみると 7 層から増加し、9 層と 10 層では点数と動物種も貝類から哺乳類まで幅広く出土する。なお、11 層は上面をわずかに掘削したのみで、今後の変動が大きい。動物群のうち哺乳類が優占する点は、岩陰部と同様である。前庭部緩斜面では同定対象外資料数の全部は把握できなかったが、3,324 点を調べたところ、各層とも哺乳類が大半であり、とくに 9 層が突出した。また、貝類や小型動物の抽出漏れがきわめて少ないことも同様であった (第 112 図 (D))。同定不可の資料数の増減も同定できた資料数の増減と相関することから、第 4 次・第 5 次調査出土資料においては 9 層に大量の動物遺存体が含まれていることが明らかとなった。ただし、今回の出土傾向は 9 層を全面的に調査し、灰質褐色土層の 10 層は小範囲のサブトレンチを完掘したのみである。そのため、各層の出土傾向を把握するには今後の調査成果も含めて検討しなければならない。

以下に前庭部緩斜面における概要を述べるが、すでに岩陰部で動物種ごとの記述を行ったので、ここでは動物分類群ごとの大まかな傾向を述べる。

##### a) 貝類 (第 67 表～第 70 表、第 113 図、写真図版 45)

前庭部緩斜面のみで検出された貝種は、陸産の林縁生息種であるオシマヒダリマキゴマガイ (102・103)、ヒメベッコウ (106・108) と、開放地生息種のハリマキビ (107)、ヒメベッコウ類似属 (109・110) である。生息域ごとに層位的変化をみると (細片を含む)、陸産貝類が全体の 62% を占め、淡水産種は 21.6%、海産種は 0.3% となった (第 67 表)。岩陰部では淡水産種が 61.7% で第一位であったのに対し、前庭部緩斜面では淡水産



第 112 図 前庭部緩斜面における NISP 比および同定対象外資料の出土割合

第67表 前庭部緩斜面における貝類の層位別出土数

貝種名 層名	淡水産				海産			陸産													同定不能貝類破片	貝類破片総数								
	カワニナ	同定不能巻貝	カワシシユガイ？ マカサガイ？ カワシシユガイ？	カワシシユガイ？ or マカサガイ？	淡水産二枚貝	ツノガイ	ヤスリツノガイ？	海産二枚貝？	オシマヒダリマキゴマガイ	マツシマクチミノガイ？	ツムガタモドキギセル属	オカチヨウジガイ	オカチヨウジガイ(巨大型)	卵ノオカチヨウジガイ？	※オカチヨウジガイ類(？含む)	※オカチヨウジガイ	※オカチヨウジガイ？ or オカチヨウジガイ？	※オカチヨウジガイ？ or オカチヨウジガイ？	ハリマキビ	ヒメゴコウ			ヒメゴコウ類似種	ウラジロベッコウ	ヒメコハクガイ類似種	ヒメコハクガイ類似種幼貝？	ニラボンマイ	ヒダリマキマイ	マイマイ類(不明・幼貝含む)	
10ab層	10以上	5	2以上	1	多				5						1	4								18	1	1		15	119	182以上
10g層			1																											1
10層	15	26	128			6	2	14		4								18	10	1	63	121			140	106	1	多	655以上	
円形落込み3層																							6	1			1	5	13	
土留め部分					2																									2
10c層(灰サ)																					1				1					2
10e層(灰サ)																		2			6									8
10f層(灰サ)									1												3									4
10g層(灰サ)									2													3								5
11層(灰サ)									2													4								6
生息域別総数	190以上(21.6%)					22(2.5%)			542(61.7%)													124以上(14.1%)	878以上(100%)							

1) 貝類の点数は出土記録を残すために細片となった破片数も示した。計数に際しては、略号で記載された数字を集計したが、「多」の略号のある場合は「以上」で表記した。  
 2) 同定不能巻貝にはカワニナ成貝および幼貝の破片や、マイマイ類の破片も混在する。海産二枚貝には骨の可能性のある破片も含む。  
 3) 「灰サ」は灰層の定量サンプリング資料から抽出された資料を示す。 4) カワシシユガイの10g層出土資料には赤色顔料の付着がある。

第68表 前庭部緩斜面における淡水・海産貝類の層位別出土数

貝種名 層名	淡水産				海産			
	カワニナMNI	カワシシユガイMNI	マカサガイ？ カワシシユガイ？ or	同定不能巻貝	淡水産二枚貝	ツノガイ	ヤスリツノガイ？	海産二枚貝？/骨？
10ab層	2	*	*	*	*			
10g層		1						
10層	*	1		*		*	*	*
円形落込み3層								
土留め部分					*			

1) 印は破片の出土を示す。

貝類が減少し、陸産貝類が第一位となった。

MNIで見ると(第68表)、カワニナ、カワシシユガイともに2個体であった。海産貝類としては、ビーズ製品もしくはその素材となったツノガイやヤスリツノガイ？、海産二枚貝(骨の可能性も残る)の破片が10層から検出された。相対的に前庭部緩斜面では淡水産・海産貝類は少ない結果となった。一方、陸産微小貝類における出土数を示すと(第69表、第113図)、10層から270点、円形落込みから7点、11層から6点、定量サンプルの10c・e・f・g層・11層から25点と、計550点が同定できた。前庭部緩斜面

全体としては開放地生息種のヒメコハクガイ類似種が46.8%を占め、ウラジロベッコウが32.2%とこれに次ぐ。円形落込みは7点のみであるが、すべて開放地生息種であった。また、定量サンプルの10c・e・f・g層は開放地生息種ウラジロベッコウが優占した。サンプル中では10f・g層・11層には林縁生息種で現在北海道で確認の多いオシマヒダリマキゴマガイが出現するが、それより上層には認められていないので環境の変化を示すとも考えられる。しかし、その前提としては本遺跡における水洗資料抽出作業の精度や今後の出土動向を踏まえての検証が必要なことから慎重な判断を要する(黒住氏ご教示)。将来、サンプル数が増加することによって明らかにできると期待される。前庭部緩斜面から出土した微小貝類の被熱状況の分析には現段階では着手できていない。

**b) 魚類** (第71表、写真図版45)

岩陰部の出土傾向と同様に、前庭部緩斜面においても第4次調査出土資料で2点、第5次調査出土資料で2点の計4点と僅少であった。遺存体の保存状態は良好である。

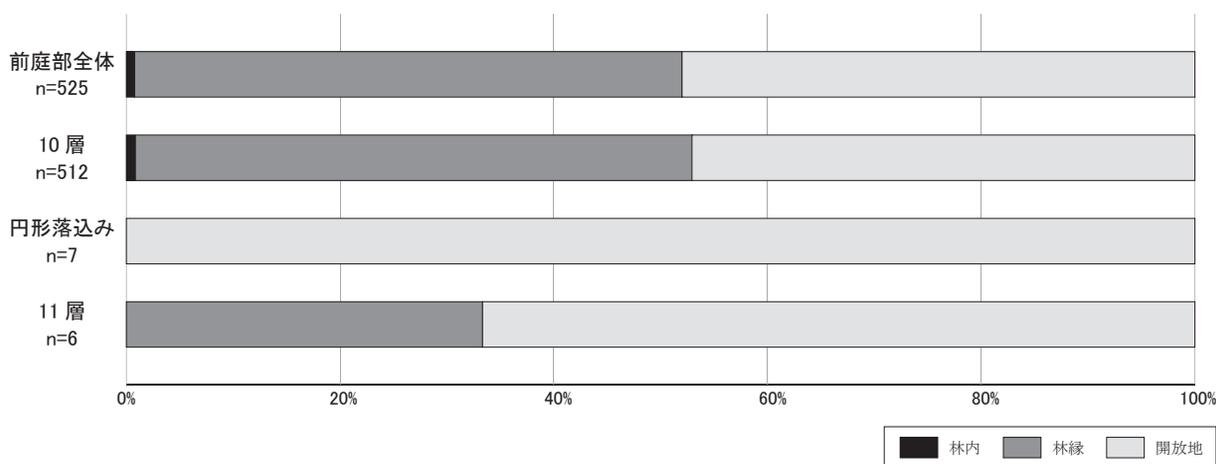
10層からコイ科の椎体が1点出土した(114)。神経棘および血管棘が欠損するが、椎体中央に1列の隆起帯をもつコイ科の特徴を有する尾椎である。円形落込みからもコイ科の椎体が1点出土した(116)。腹椎であり、椎体模様は2列の直立する隆起帯とそれに直交する1列の隆起帯で構成される。筆者所有の現生コイ科(イワナ、

第 69 表 前庭部緩斜面における生息域別陸産貝類の層位別出土割合

貝種名 層名	林内		林縁						開放地						
	ツムガタモドキギセル属	オシマヒダリマキゴマガイ	マツシマクチミノガイ?	オカチヨウジガイ	オカチヨウジガイ(巨大型)	卵/オカチヨウジガイ?	※オカチヨウジガイ類(9含む)	ヒメベッコウ	ニッホンマイマイ	ヒダリマキマイマイ	ハリマキビ	※ホソオカチヨウジガイ	ヒメベッコウ類似種	ウラジロベッコウ	ヒメコハクガイ類似種
10層 (n=512)	0.8%	1.6%				0.2%	2.0%	27.7%	20.7%	3.9%	0.8%	0.2%	14.8%	27.1%	0.2%
円形落込み (n=7)														85.7%	14.3%
11層 (n=6)		33.3%											66.7%		
前庭部全体 (n=525)	0.8%	1.9%				0.2%	1.9%	27.0%	20.2%	3.8%	0.8%	0.2%	15.2%	27.6%	0.4%

第 70 表 10層・11層の定量サンプルにおける陸産貝類の層位別出土数

No.	オシマヒダリマキゴマガイ MNI	ハリマキビ MNI	ウラジロベッコウ MNI	ニッホンマイマイ MNI
A1 10c層			1	1
A1 10e層		2		6
A1 10f層	1		3	
A1 10g層	2		3	
A1 11層	2		4	
合計	5	2	17	1



第 113 図 前庭部緩斜面における陸産貝類の生息域別にみた構成比

ヤマメ、ウグイ、コイ属、フナ属)と比較した結果、ウグイの特徴に近似したが、他のコイ科と比較ができていないためコイ科と同定した。また、サクラマス(ヤマメ)と思われる椎体が1点出土した(115)。椎体は前庭と神経棘・血管棘を欠損する。椎体にはサケ科特有の網目状模様をもち、密で均質であることから、イワナ属ではなくサケ属の特徴に近似する。筆者所有の現生サケ属(サケ、ヤマメ、サツキマス(アマゴ))と比較したところ、椎体は小型で中央部が凹む形状や網目状模様の特徴はサクラマス(ヤマメ)と一致していた(樋泉氏ご教示)。しかし、破片であることや、他のすべてのサケ属と比較ができていないことからヤマメ?と同定した。10層からは魚類の鱗棘と思われる破片1点も出土した(117)。先端に黒色の被熱痕が認められ、側面には先端から割れ口にかけて垂下する溝が観察される。人為的な研磨痕がみられないことから硬骨魚類の背鰭や臀鰭の前方にある硬い棘条と考えられる。ただし、本遺跡で同定できたコイ科を含むコイ目の鱗は棘条・軟条で、サケ目は軟条で構成されるので(中坊編 2013)、本資料はコイ目やサケ目以外と考えられるが、さらなる同定は困難である。

c) 両生類 (第 72 表、写真図版 45・46)

前庭部緩斜面では、400点検出されておりニホンジカに次いで多い。ヒキガエル属(118~132・134・135)、アカガエル科、カエル類(133・136)の3種類が同定できたが、保存状態はきわめて良好であるので同定の精度を上げることにより、さらに多くの種が同定できる可能性が高い。層位別では9層からヒキガエル属40点、カエル類12点、円形落込みからヒキガエル属13点、カエル類36点、10層全体からはヒキガエル属114点、アカガエル科6点、カエル類161点となった。カエル類全体では、9層(円形落込み含む)101点、10層281



f) 哺乳類 (第 74 表、写真図版 46～49)

前庭部緩斜面においても、哺乳類はニホンジカを主体とした多くの種が含まれていることが明らかとなった。同定された動物種は、カワネズミ (154・158)、アズマモグラ (159)、ハタネズミ (153・157)、ミズハタネズミ亜科 (151・152)、ネズミ形亜目 (155・156)、ムササビ (148・149)、齧歯目 (150)、ニホンザル (146・147)、ニホンノウサギ (160～162)、ニホンテン (173・174)、タヌキ (163～166)、ツキノワグマ (170～

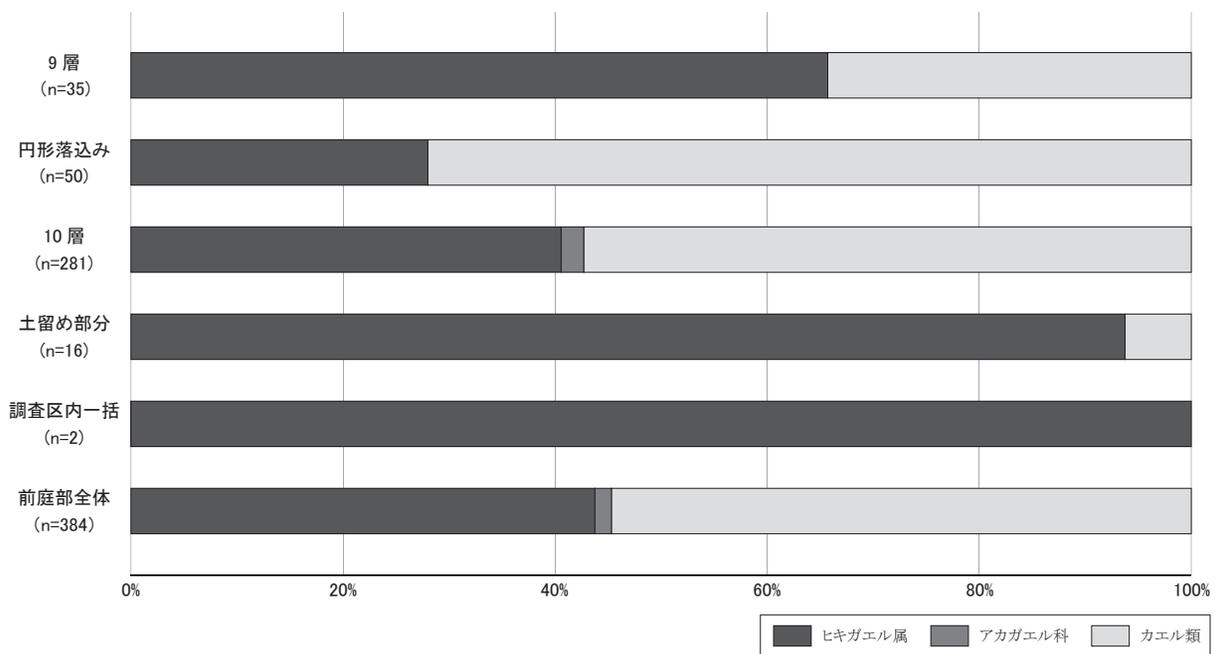
172)、アカギツネ (167～169)、ニホンイタチ、ニホンアナグマ、ニホンジカ (192～217)、イノシシ (175～191)、ニホンカモシカ? (218) の 18 種類と多彩である。最も多く出土したのは 9 層で 850 点であり (円形落込みの 186 点を含めると 1036 点)、次いで 10 層全体が 313 点である。

前庭部緩斜面全体の最小個体数では、ニホンジカが 15 個体 (幼獣 3 個体と成獣 8 個体を含む) と最も多く、イノシシ 12 個体 (幼獣 2 個体、成獣 6 個体)、タヌキ・ムササビ・ニホンノウサギ・ニホンテンが各 3 個体、ツキノワグマ・ハタネズミ・ミズハタネズミ亜科・ネズミ形亜目・ニホンカモシカ・アカギツネが各 2 個体、カワネズミ・ニホンザル・アズマモグラ・齧歯目・ニホンイタチ・ニホンアナグマが各 1 個体と推定された。なお、同定の精度を高めることにより、さらに個体数は増える可能性が高い。

遺存体にはニホンジカやイノシシ以外にも被熱痕を有するものが多く、調査区内一括ではあるがトガリネズミ亜科 (カワネズミに近似) にも黒色

第 72 表 前庭部緩斜面における両生類の構成

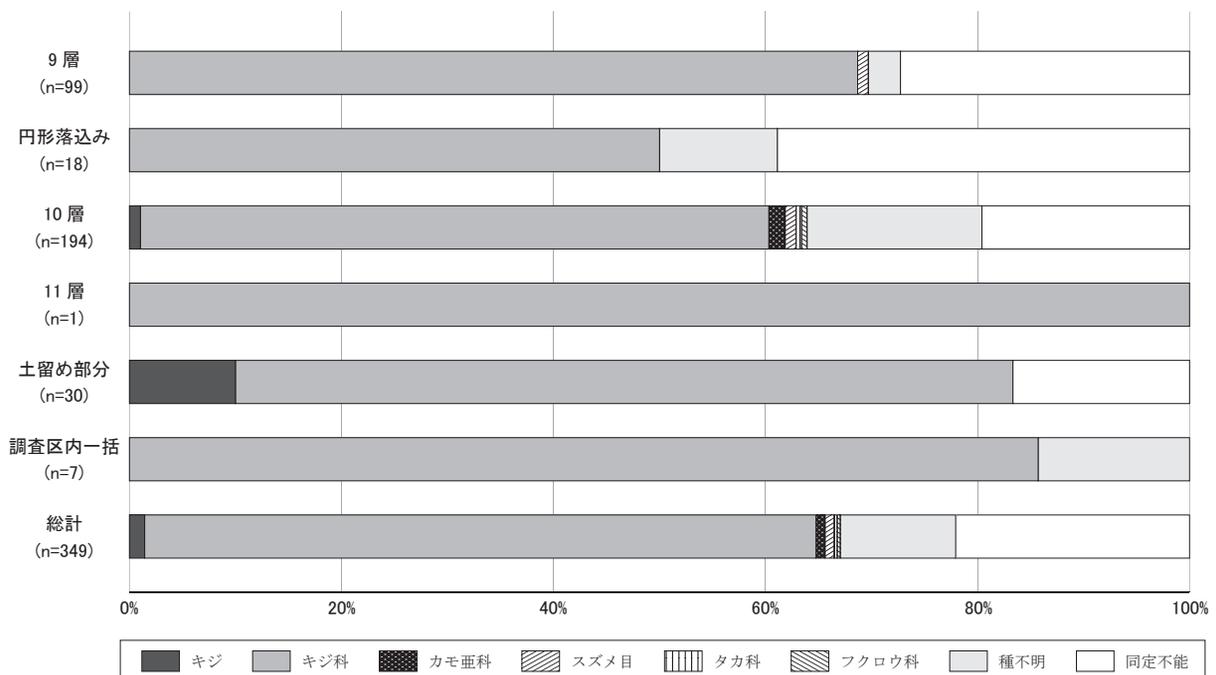
層名	動物種名	NISP	MNI (部位)	性	被熱色・点数
9 層	ヒキガエル属	23	4 (上腕 Rd)	♂ 1, ♀ 1	
9 層	カエル類	12	2 (上腕 Ld)		
円形落込み 1 層	カエル類	36	4 (寛 R)		茶 1, 黒 2, 青灰 2, 白 2
円形落込み 3 層	ヒキガエル属	14	2 (鳥口 Rw)	♂ 1	黒 1
10 層	アカガエル科	6	4 (寛 R)		
	ヒキガエル属	105	8 (機尺 Lp)	♂ 3 ♀ 2	一部茶? 1
	カエル類	157	16 (寛 R)		変色? 1, 茶黒 1, 白 1
10ab 層	ヒキガエル属	7			
	カエル類	1			
10e 層	ヒキガエル属?	1			
10f 層	ヒキガエル属	1			
	カエル類	1			
10g 層	カエル類	1			
	カエル類	1			
土留め部分	ヒキガエル属	15	2 (大腿 Rd)	♀ 1	
	カエル類	1	—		
調査区内一括	ヒキガエル属	2	2 (上腕 Rd)		
総計		384	ヒキガエル属 18 個体, アカガエル科 4 個体, カエル類 22 個体	♂ 5, ♀ 4	12



第 114 図 前庭部緩斜面における両生類の層別構成比

第73表 前庭部緩斜面における鳥類の構成

層名	動物種名	NISP	大別層別 NISP	MNI (部位)	被熱色・点数	
9層	キジ科	68	99	8 (脛足根 Rd)	被熱 1, 黒 1, 白 7	
	スズメ目	1		1		
	種不明	3			被熱 1	
	同定不能	27			褐 1, 黒 1, 灰 1, 白 5	
円形落込み	1層	キジ科	1	18	1	黒 1
		同定不能	2			
	3層	キジ科	7		2 (上腕 Ld)	灰 1, 白 1
		種不明	2			
		同定不能	5			黒 1, 灰 1
	4層	キジ科	1			白 1
	10ab層	キジ科	4		9	
種不明		1				
同定不能		4		白 1		
10g層	キジ科	1	2			
	同定不能	1				
10層	カモ亜科	3	183	1 (肩甲 Rp)		
	キジ	2		1 (大腿 Lp)		
	キジ科	110		6 (脛足根 Rd6)	被熱 2, 黒 3, 灰 3, 白 2	
	スズメ目	2		1 (足根中足 Ld)		
	タカ科	1		1		
	フクロウ科	1		1		
	種不明	31			黒 1, 白 2	
	同定不能	33			黒 3, 白 1	
11層	キジ科	1	1	1		
土留め部分	キジ	3	30	2 (大腿 Rp)		
	キジ科	22		2 (肩甲 Rp)		
	同定不能	5			灰 1, 白 1	
調査区内一括	キジ科	6	7			
	種不明	1				
総計		349	349	キジ 3 個体, キジ科 17 個体, スズメ目 2 個体, タカ科 1 個体, フクロウ科 1 個体	被熱 46 点	



第115図 前庭部緩斜面における鳥類の層位別構成比

第74表 前庭部緩斜面における哺乳類の構成

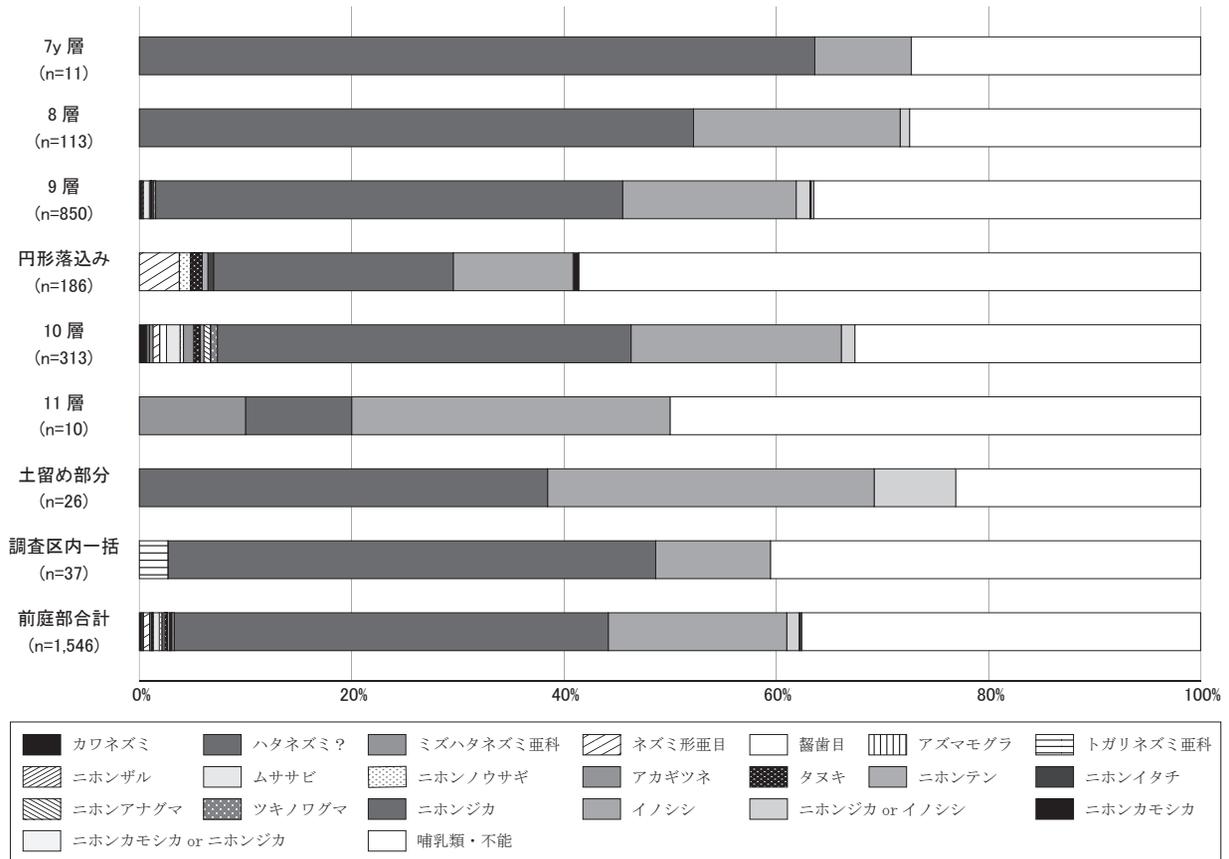
層名	動物種名	NISP	層別 NISP	MNI	被熱色・点数付着物	層名	動物種名	NISP	層別 NISP	MNI	被熱色・点数付着物			
7y層	ニホンジカ	7	11	1 (中手足 d)	茶 1, 黒 3	10ab層	ニホンジカ	1	10					
	イノシシ	1		1			黒 1, 灰 2							
	哺乳類	3												
8層	ニホンジカ	59	113	1 (中足 Rp)	被熱 1, 黒 2, 青 1, 白 1	10g層	ニホンジカ	1	2					
	ニホンジカ or イノシシ	1			白 1									
	イノシシ	22		1 (耳小 R)	白 3									
	哺乳類	31			被熱 1									
	タヌキ	1												
9層	ニホンザル	1	850	1		10層	カワネズミ	2	301	1 (下顎 L)				
	ムササビ	5		1 (上顎 R)										
	ツキノワグマ	2		1 (尺 R)	手足骨遠位端中央に赤色顔料									
	アズマモグラ	1												
	ハタネズミ?	1												
	ニホンノウサギ	1												
	ニホンテン	1												
	ニホンジカ	374		6 (下顎 LP3)	被熱 3, 赤茶 4, 黒 21, 青灰 2, 白 1									
	ニホンジカ or イノシシ	11			被熱 1									
	ニホンカモシカ or ニホンジカ	2			黒 1									
	イノシシ	139		2 (下顎 RP4)	黒 7, 青灰 1, 白 1									
	ニホンカモシカ	1												
	哺乳類, 脊椎動物	310												
	1層	タヌキ		2	83		1 (下顎 R)		11層	ミズハタネズミ亜科	1	10	1	
ニホンジカ		24	1 (上腕 Rd)	茶 1, 黒 2										
イノシシ		11	1 (頭骨 L)											
ニホンカモシカ?		1												
哺乳類		45		茶 2, 黒 1, 白 1										
2層		ネズミ形亜目?	1	23		1		土留め部分		ニホンジカ	10	26		
		ニホンジカ?	9											
		イノシシ	3											
		哺乳類	10											
3層		ネズミ形亜目?	6	71		1 (脛 L)		調査区内一括		トガリネズミ亜科	1	32		黒 1
	ニホンノウサギ	2	1 (機 Lp)		黒 1									
	ニホンイタチ?	1												
	ニホンテン?	1												
	ニホンジカ	9												
	イノシシ	1												
	哺乳類	48			茶 1, 黒 7, 青灰 2									
同定不能	3		黒 1											
4層	小型哺乳類	2	2			表面採集	ニホンジカ	3	5		黒 2			
1~4層	イノシシ	6	7				中大型哺乳類	2			茶 1			
中大型哺乳類	1													
							前庭部緩斜面合計	1,546		ニホンジカ 15 (幼 3, 成 8 含む)、イノシシ 12 (幼 2, 成 6)、タヌキ・ムササビ・ニホンノウサギ・ニホンテン各 3、ツキノワグマ・ハタネズミ類・ミズハタネズミ科・ネズミ形亜目・ニホンカモシカ・アカギツネ各 2、ニホンザル・アズマモグラ・ニホンイタチ・カワネズミ・齧歯目・ニホンアナグマ各 1	被熱 123 点, 赤色顔料付着 1 点			

1) 円形落込みと10層は層全体でMNIを算定した。  
2) MNIの総計では時期が不明な土留め部分、調査区内一括、表採は除外した。

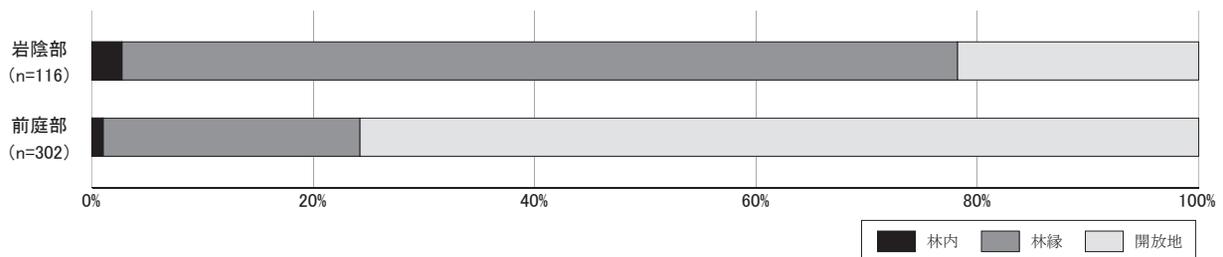
に変色したものがあった。種不明の小型哺乳類にも黒色や白色に変色する遺存体があることから、小型哺乳類も食用の対象になったのかもしれない。今後の検討課題である。ニホンジカやイノシシには岩陰部と同様に被熱痕や加工痕などの人為的な痕跡 (図版 49-224・225) や、堆積過程で受けた動植物による蝕害の痕跡が観察された。今回は観察が中心となったため、年齢査定などの分析と合わせて今後の課題としたい。

(5) まとめ

第4次・第5次調査で同定された動物遺存体は、第1次～第3次調査で報告された29種の約2倍の63種となり、NISPの3,883点は後者(2,187点)の約1.8倍となった。出土動物相は、陸産動物45種(約71%)、淡水産動物9種(約14%)、海産動物9種(約14%)から成り、多種多様な動物を利用しつつもニホンジカ、イノシシ、キジ科、カエル類、カワニナ、カワシンジュガイなどの特定種を選択的に利用した可能性も示唆された。もっとも多く利用された動物はニホンジカとイノシシであり、頭部から指趾骨まで解体・調理痕や道具製作痕などが確認できた。これら2種は遺跡に全身が持ち込まれ、徹底的に利用されたと推定できる。岩陰部と前庭部緩斜面は類似する動物相をもつが、前者では淡水産貝類や海産貝類が多く、また体長が1m近い超大型カマス科の歯骨破片が出土したことは注目される。第3次調査では海産魚類のイタチザメ属?の歯も出土したが(谷口編2020)、海産魚貝類のほとんどが埋葬地を主とする岩陰部から出土する点で埋葬との関連が強く示唆される。なお、海産魚では長野県の栃原岩陰遺跡ではアオザメ歯の加工品が(藤森2019)、湯倉洞窟遺跡ではヒラメ(金子



第 116 図 前庭部緩斜面における哺乳類の層位別構成比



第 117 図 生息域別にみた岩陰部と前庭部緩斜面の陸産微小貝類の割合比較

2001) が出土している。

岩陰部と前庭部緩斜面で 2 番目に多かったのは、前者では鳥類、後者ではカエル類と違いがあった。栃原岩陰遺跡では早期初頭から前半にヒキガエル属が圧倒的で食用と推定されたが（樋泉 2019）、本遺跡でも被熱した骨が多く確認された。また、トガリネズミ亜科などの小型哺乳類にも被熱痕があることから食利用の可能性が想定できるが、後世の混入と思われる遺存体もあるので自然死との両面からの検討が必要となる。その一方、魚類遺存体は極端に少なく、人骨の安定同位体分析による食性分析の結果（谷口編 2021：米田穰氏報告）と調和的であった。骨角製品として釣針や同未成品は存在するが、魚類の利用は低調だったと考えられる。

陸産貝類の生息環境からみた景観復元の試みでは、岩陰部では林縁生息種が卓越するのに対し、前庭部緩斜面では開放地生息種が卓越する点に差が認められた（第 117 図）。調査した土量や時期差を反映している可能性もあるので予察ではあるが、貝類組成に差があるとすれば、前庭部緩斜面では草原的な開けた景観が存在した可能性も想定できる（黒住氏ご教示）。

以上は今回の概要であるが、層位や時期が確定できた段階であらためて検討し、近隣の栃原岩陰遺跡、湯倉洞窟遺跡、不動穴洞穴（不動穴洞穴団体研究会編 2022）などとの比較も進めていく予定である。